

男女共同参画社会に関する意識調査  
報告書

平成31年2月

那須塩原市

## 目次

I	調査概要	1
1.	調査目的	1
2.	調査項目	1
3.	調査設計	1
4.	回収結果	1
5.	報告書の見方	1
II	調査結果	2
1.	回答者の属性	2
(1)	性別	2
(2)	年代	2
(3)	結婚の状況	2
(4)	働き方	3
(5)	世帯構成	3
(6)	乳幼児・高齢者との同居	4
(7)	職業	4
2.	男女平等について	5
(1)	男女の地位の平等観	5
(2)	職場における男女平等	14
(3)	男は仕事、女は家庭という考え方	19
3.	結婚・家庭生活・子育て介護について	21
(1)	結婚・家庭・離婚についての考え	21
(2)	夫婦の役割分担	29
(3)	夫婦の役割分担の満足度	40
(4)	自分の子どもの育て方	41
(5)	父親の育児参加に対する考え	42
(6)	男性が育児休業や介護休業を取得することについての考え	43
4.	女性と仕事について	45
(1)	女性が仕事を持つことについての考え	45
(1-1)	女性が結婚後や出産後も退職せずに働き続けるために重要なこと	47
(1-2)	結婚や出産のために退職した女性が再就職するために重要なこと	51
5.	男女の地域・社会参画について	55
(1)	地域・社会活動への参加状況	55
(1-1)	地域・社会活動に参加していない理由	57

6. 男女共同参画の視点からの防災について	59
(1) 防災等の分野における性別に配慮した対応	59
7. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について	61
(1) 「家庭生活」、「仕事」、「地域活動」等への時間配分の満足度	61
(2) 「家庭生活」、「仕事」、「地域活動」等への時間配分の理想	67
(3) 男女が仕事と家庭を両立するために必要なこと	73
8. パートナー間での暴力（DV）やセクハラについて	75
(1) 配偶者・パートナー間の暴力	75
(2) 配偶者・パートナー間の暴力の相談先	81
(2-1) 暴力について相談しなかった理由	83
(3) セクシャル・ハラスメントと感ずること	85
9. 男女共同参画社会づくりのための取組について	91
(1) 市が力を入れるべき取組	91
(2) 企業や職場での必要な取組	93
(3) 私たち自身が必要な取組	95
(4) 市の施策の認知度	97
(5) 男女共同参画に関する言葉の認知度	99
10. 男女共同参画社会づくりについてのご意見ご要望など	103
※ 各設問における「その他」の意見	111
III 資料	117
調査票	117

## I 調査の概要

### 1. 調査目的

那須塩原市における男女共同参画社会の形成状況や市民の意識を明らかにするとともに、平成29年に策定した「第3次那須塩原市男女共同参画行動計画」の評価目標値のうち、市民意識に関する項目について、基準年次（平成27年）からの意識変化の状況を把握し、今後の事業展開の参考とすることを目的に実施しました。

### 2. 調査項目

- (1) 属性（性別、年代、結婚の状況、働き方、世帯構成、乳幼児・高齢者との同居、職業）
- (2) 男女平等について
- (3) 結婚・家庭生活・子育て・介護について
- (4) 女性と仕事について
- (5) 男女の地域・社会参画について
- (6) 男女共同参画の視点からの防災について
- (7) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について
- (8) パートナー間での暴力（DV）やセクハラについて
- (9) 男女共同参画社会づくりのための取組について

### 3. 調査設計

- (1) 調査地域 市内全域
- (2) 調査対象 20歳以上の男女
- (3) 標本数 2,000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳に基づき性別・年代別・地区別無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送配布・郵送回収及びインターネット回答（礼状兼督促状1回送付）
- (6) 調査期間 平成30年10月15日（月）～10月31日（水）

### 4. 回収結果

性別	配布数	回収数	回収率
男性	1,000	351	35.1%
女性	1,000	448	44.8%
不明		58	
合計	2,000	857	42.9%

### 5. 報告書の見方

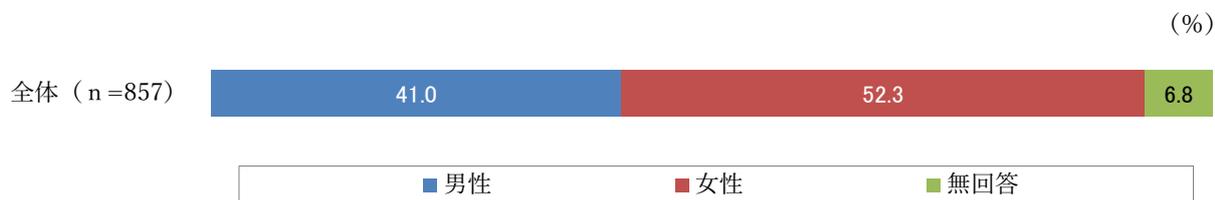
集計結果で示す数値は、百分率（%）で表示しました。小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計値は100%とならない場合があります。

## II 調査結果

### 1. 回答者の属性

#### (1) 性別

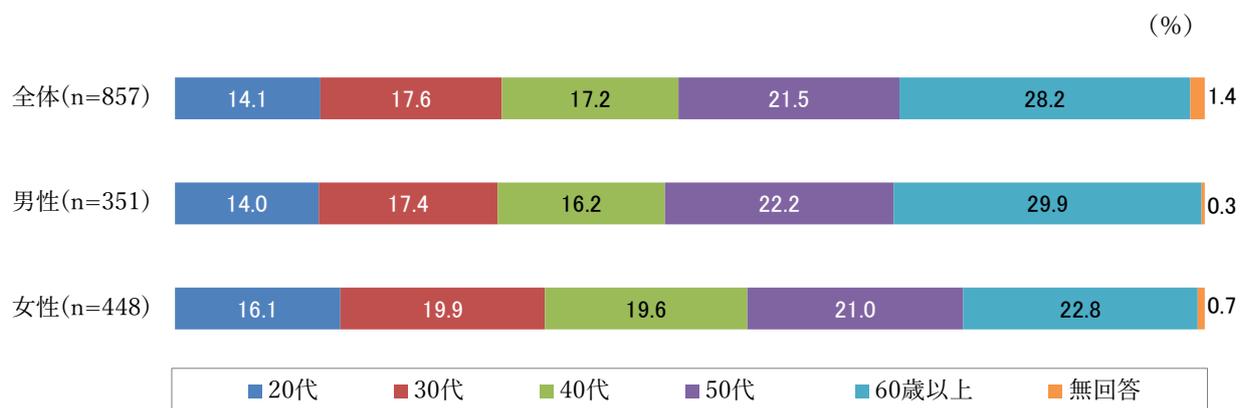
性別は、「男性」は41.0%、「女性」が52.3%となっている。



#### (2) 年代

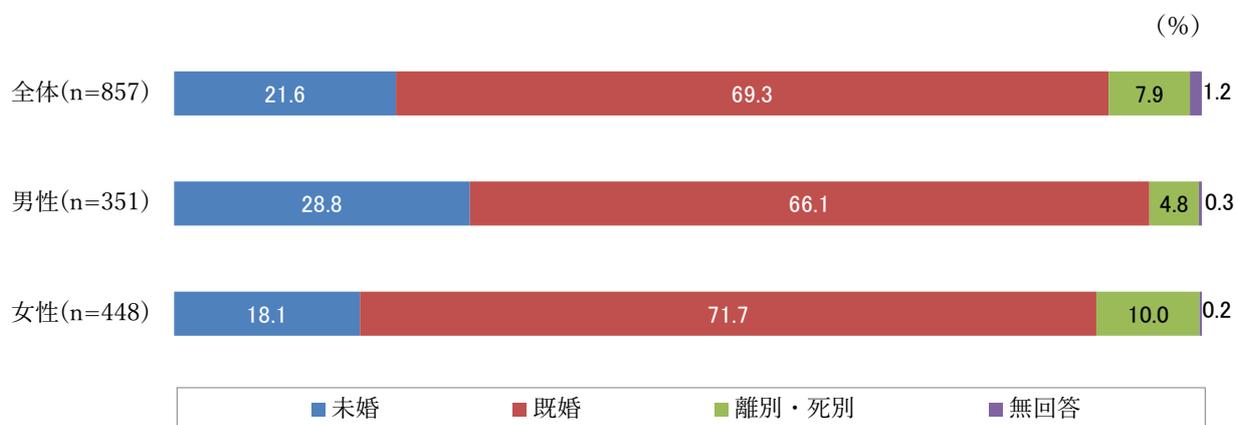
年齢は、「20代」が14.1%、「30代」が17.6%、「40代」が17.2%、「50代」が21.6%、「60歳以上」が28.2%となっている。

調査対象者は、各年代200名ずつ抽出しており、年代別の回答率は、高い年代ほど高い傾向となっている。



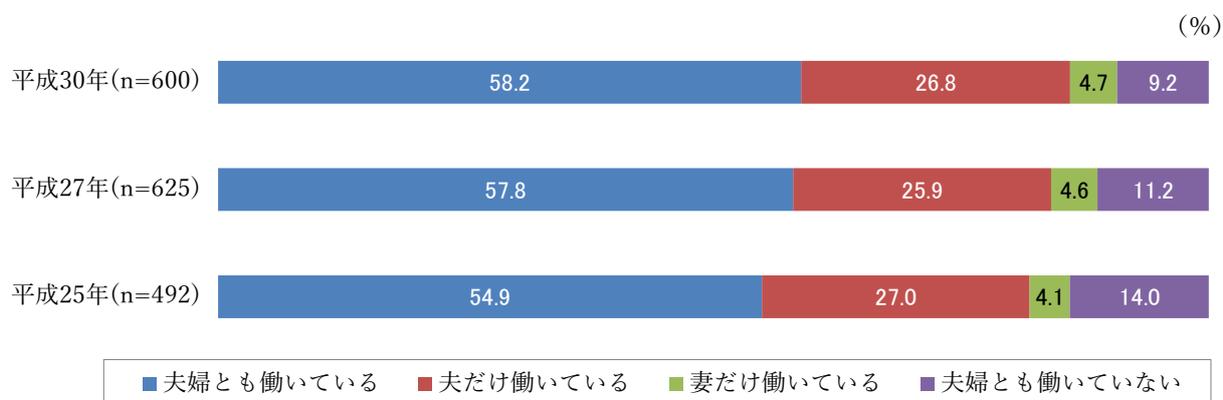
#### (3) 結婚の状況

結婚の状況は、「既婚」の割合が69.3%と最も高く、次いで「未婚」21.6%、「離別・死別」7.9%となっている。



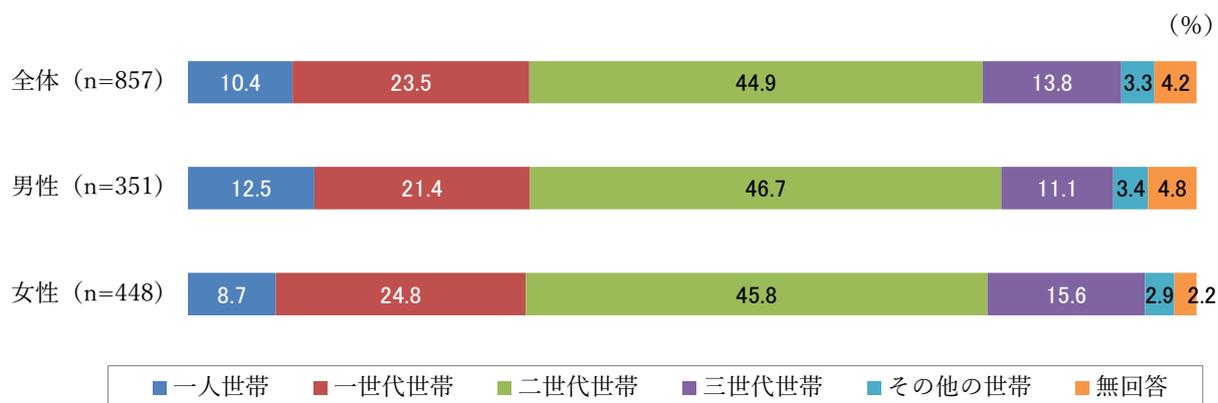
#### (4) 働き方

共働きの状況は、「夫婦とも働いている」が58.2%で最も高く、経年比較をみても夫婦の共働きの増加している。



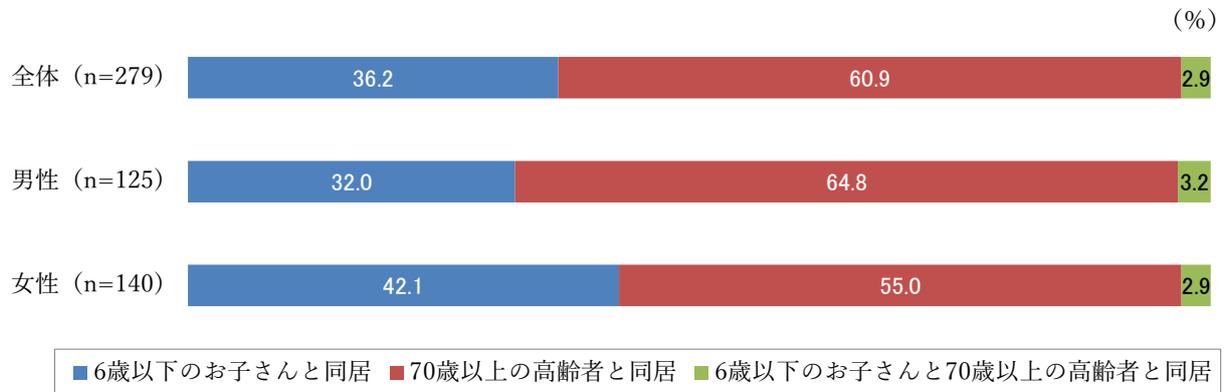
#### (5) 世帯構成

世帯構成は、全体で「二世帯世帯（親と子）」が44.9%で最も高く、次いで「一世帯世帯（夫婦のみ）」が23.5%、「三世帯世帯（親と子と孫）」が13.8%、「一人世帯」が10.4%とそれぞれ続いている。



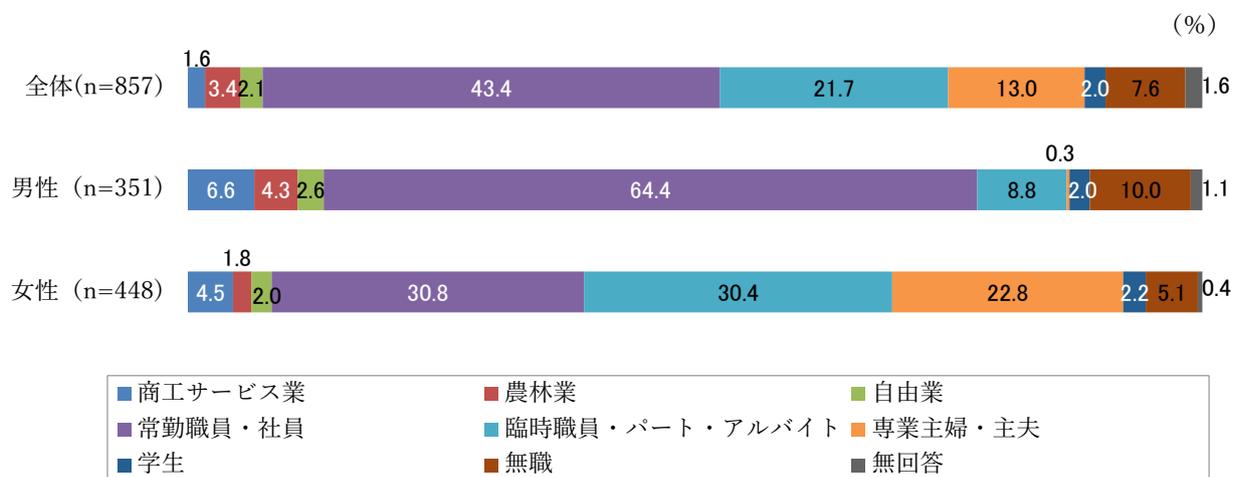
## (6) 乳幼児・高齢者との同居

一人世帯以外の世帯で、乳幼児や高齢者との同居の状況は、「70歳以上の高齢者と同居」が60.9%、「6歳以下のお子さんと同居」が36.2%、「6歳以下のお子さんと70歳以上の高齢者と同居」が2.9%となっている。



## (7) 職業

男性の職業は、「常勤職員・社員」が64.4%と6割を超えており、次いで「臨時職員・パート・アルバイト」が8.8%と続いている。一方、女性の職業も「常勤職員・社員」が30.8%と最も高く、次いで「臨時職員・パート・アルバイト」が30.4%、「専業主婦」が22.8%と続いている。



## 2. 男女平等について

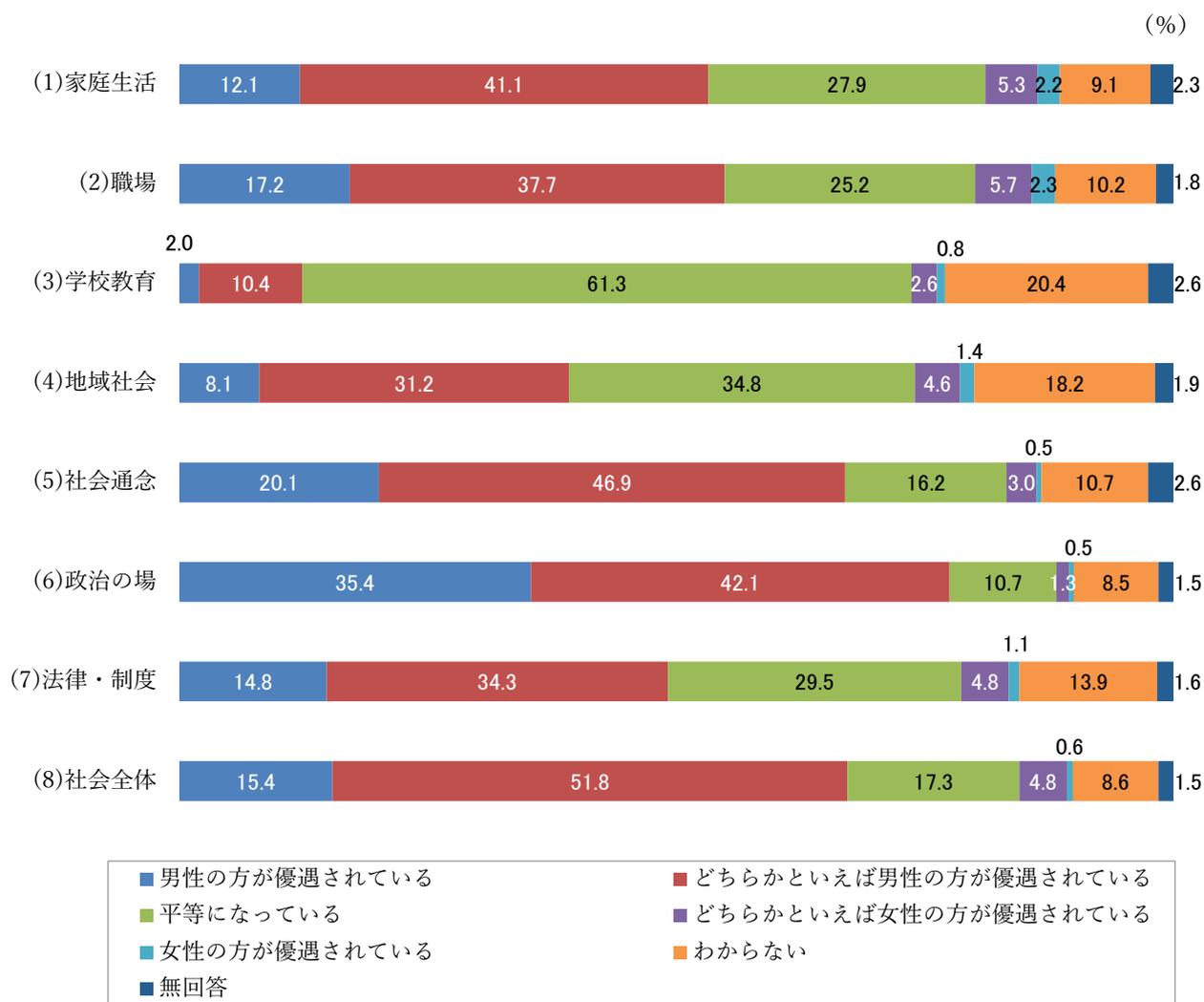
### (1) 男女の地位の平等観

【問1】 あなたは、現在、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。

【全体】

「学校教育」を除く全ての項目で「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合が高くなっており、「政治の場」の項目は7割以上、「社会通念・慣習・しきたり」、「社会全体」の項目でも6割以上の回答となっている。

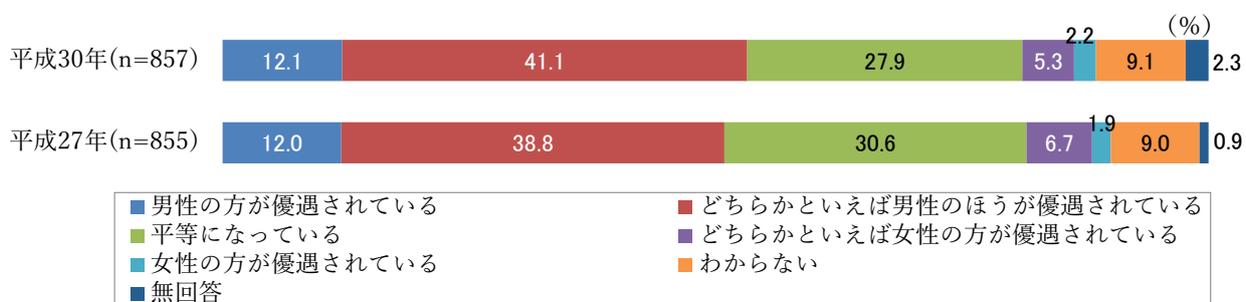
また、「平等になっている」では、「学校教育」の項目のみが6割を超えている状況である。



## ① 家庭生活

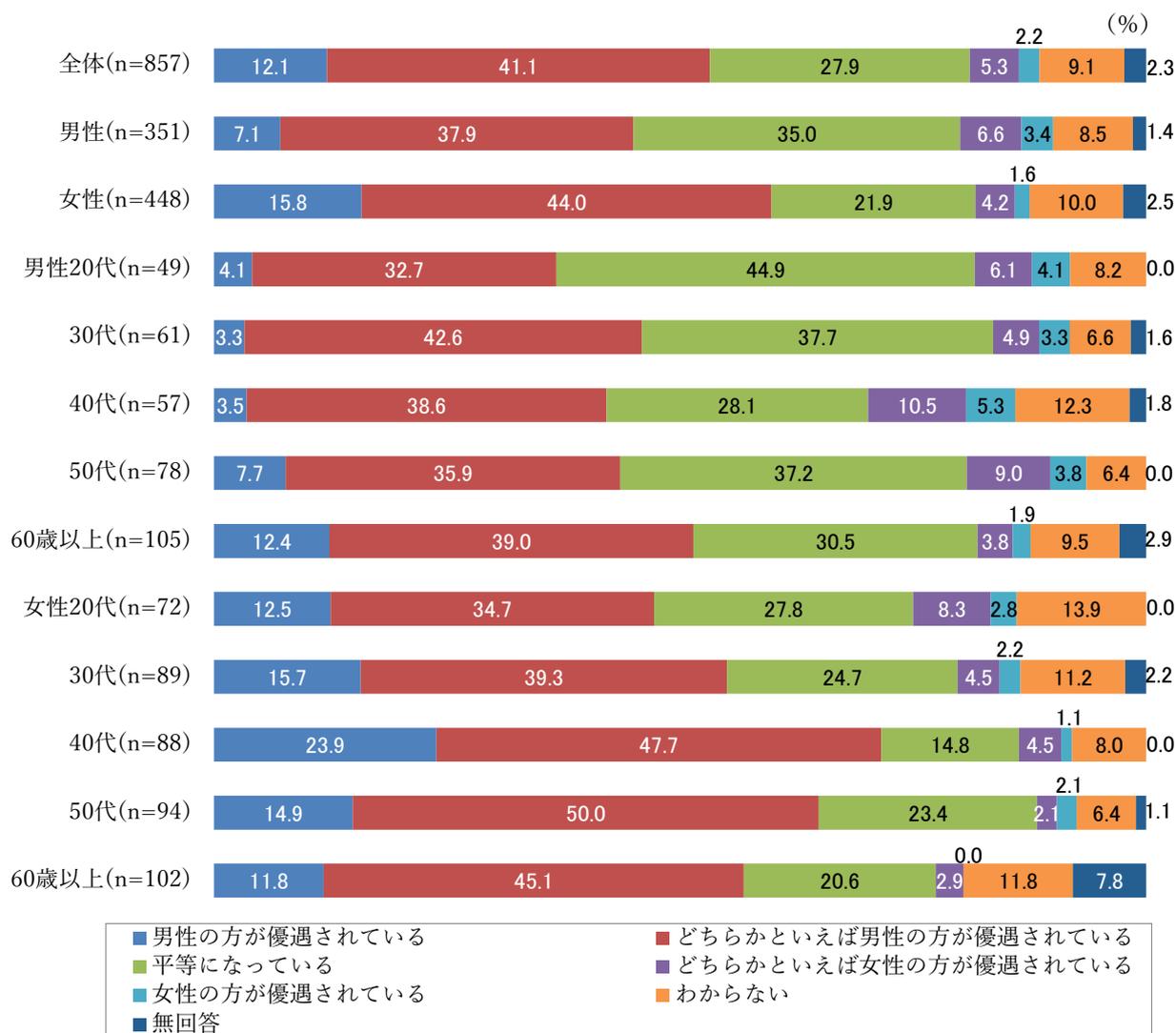
### 【全体】

家庭生活において、「平等」と感じている人の割合は、27.9%と前回調査（平成27年調査を言う。以下同じ）から2.7ポイント減少している。依然として「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含め「男性の方が優遇されている」と感じている人の割合（以下『男性が優遇（計）』という）は、53.2%で半数以上となっている。



### 【性・年代別】

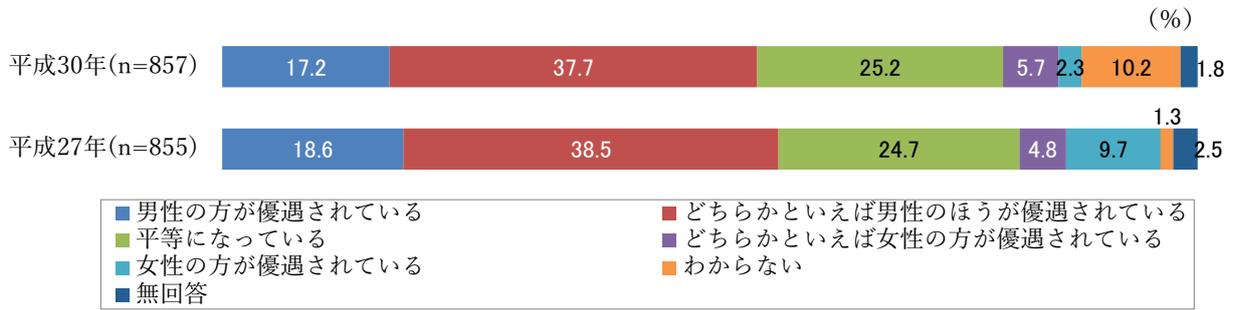
男女別で見ると、「平等」と感じている人の割合は、男性が35.0%であるのに対し、女性は13.1ポイント低い21.9%となっており、対照的に「男性の方が優遇されている」と感じている人は、男性の7.1%に対し女性は8.7ポイント高い15.8%となっている。



## ② 職場

### 【全体】

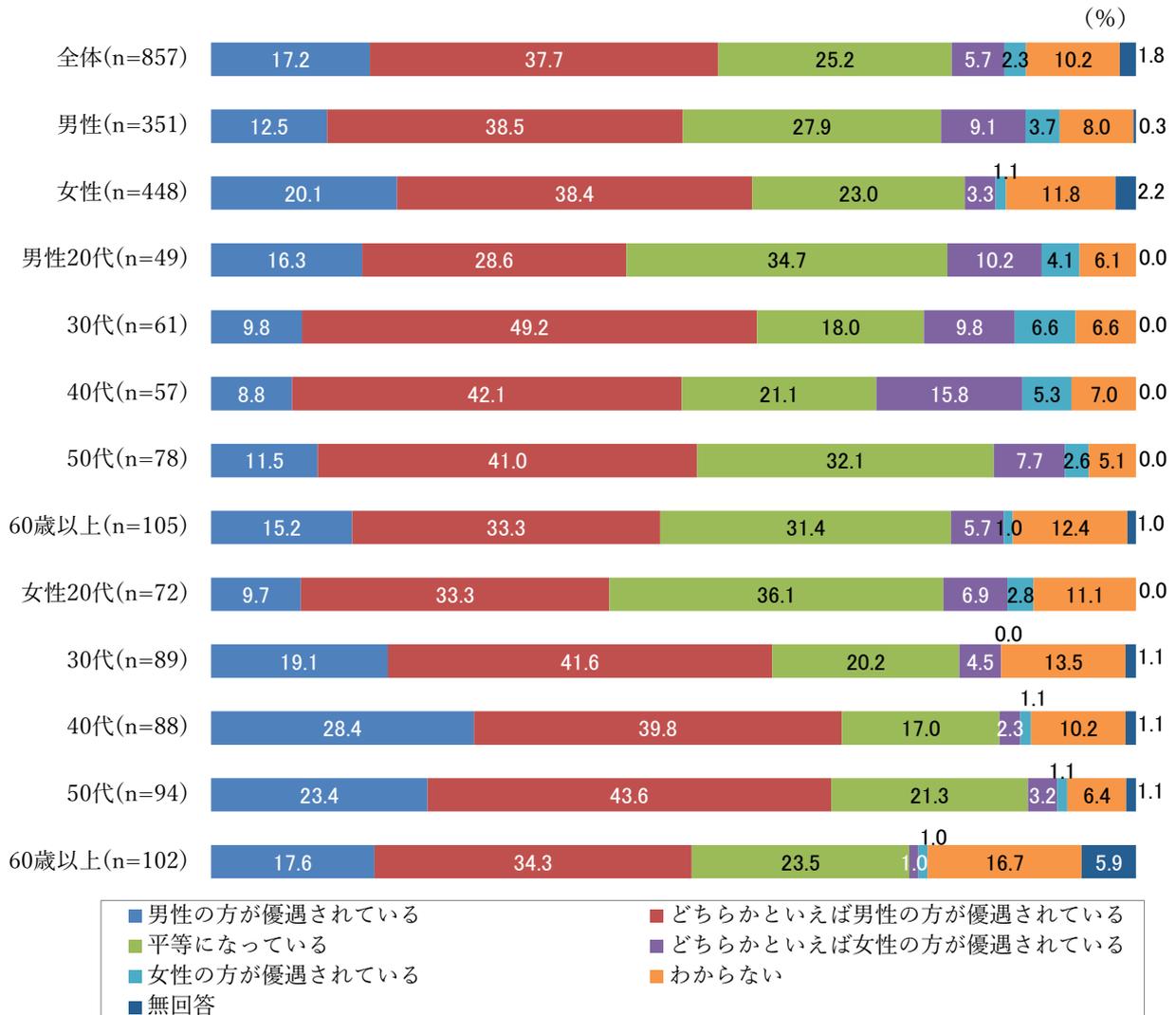
職場において、『男性が優遇（計）』と感じている人の割合は、54.9%で前回調査から2.2ポイント減少し、「平等」と感じている人の割合は徐々に増加している。



### 【性・年代別】

男女別で見ると、「平等」と感じている人の割合は、女性が23.0%であるのに対し、男性は4.9ポイント高い27.9%となり、男女とも増加している。

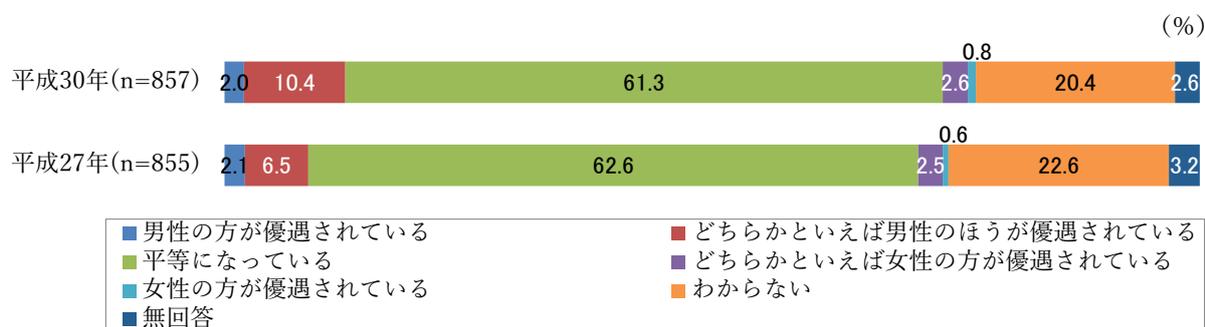
職場において、『男性が優遇（計）』と感じている人の割合は、女性は20歳代を除く全年代で、男性は20歳代・60歳以上を除く全ての年代で5割を超えている。20歳代女性では、「平等」と感じている人の割合が最も高い。



### ③ 学校教育

#### 【全体】

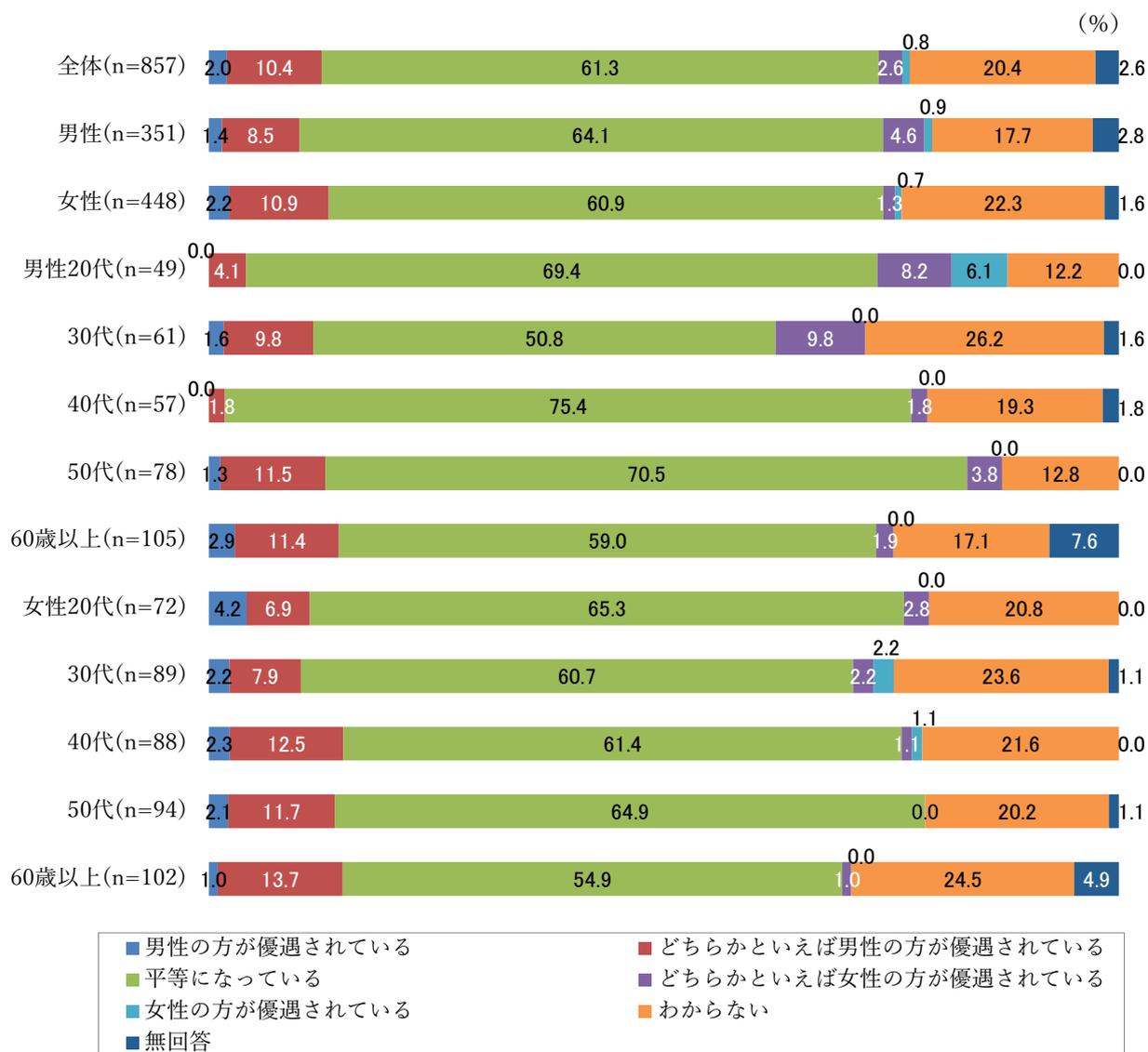
学校教育において、「平等」と感じている人の割合は、61.3%で前回調査に比べ 1.3 ポイント低く、平成 22 年調査以降減少傾向にある。



#### 【性・年代別】

男女別で見ると、「平等」と感じている人の割合は、男性が 64.1%であるのに対し、女性は 3.2 ポイント低い 60.9%となっている。

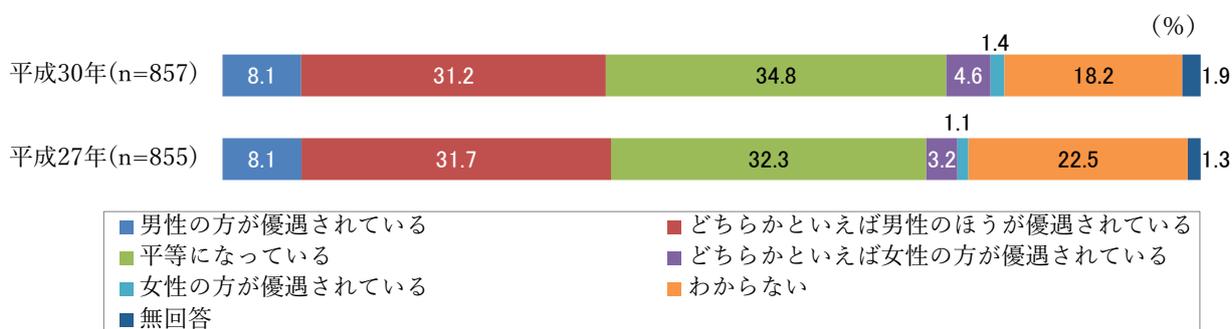
性・年代別で見ると、『男性が優遇（計）』と感じている人の割合は、男性では 60 歳以上が 14.3%で最も高く、女性では 40 代の 14.8%、次いで 60 代の 14.7%となっている。



#### ④ 町内会や自治会などの地域社会

##### 【全体】

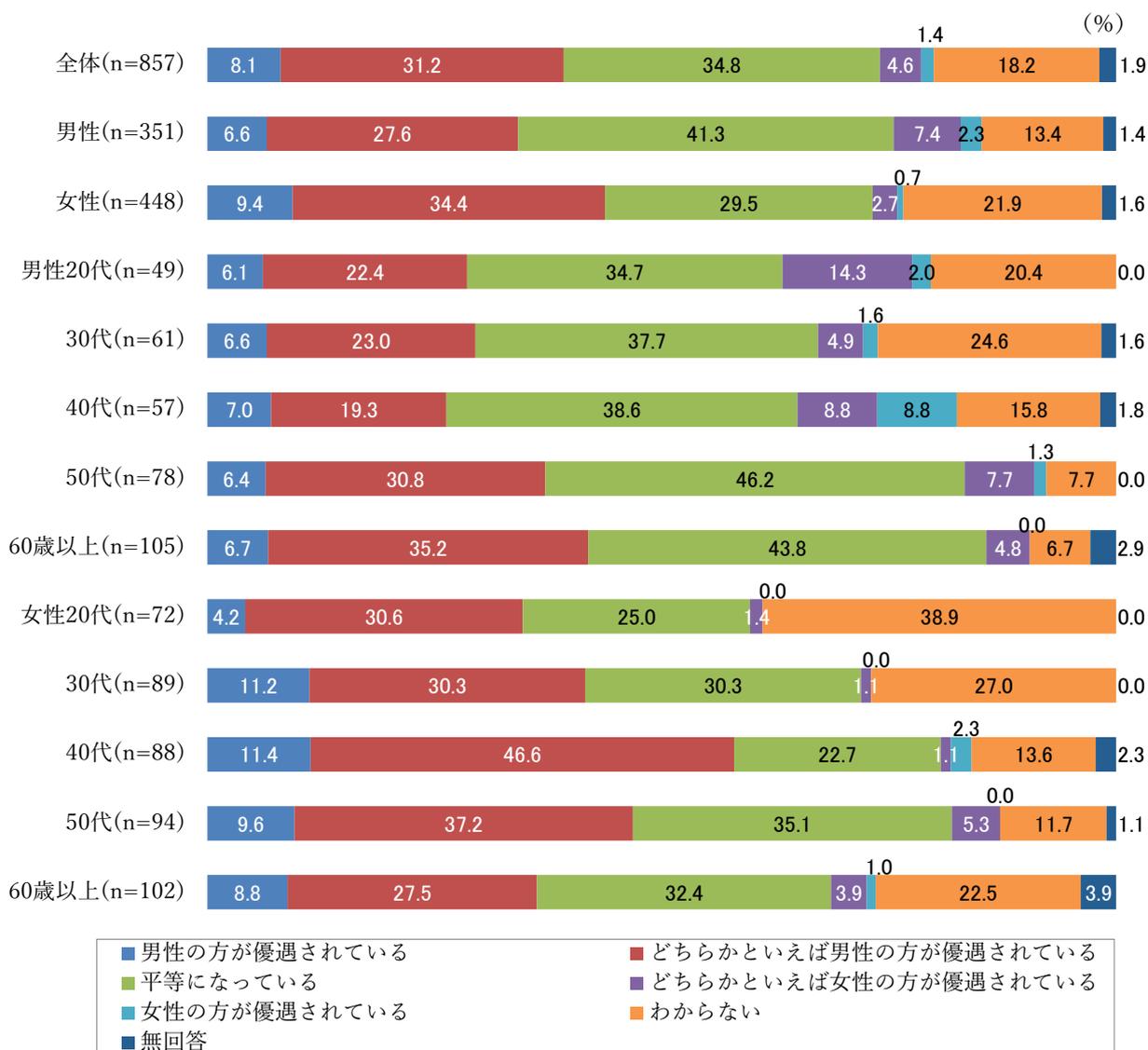
地域社会において、「平等」と感じている人の割合は、34.8%で前回調査に比べ2.5ポイント増加している。



##### 【性・年代別】

男女別で見ると、「平等」と感じている人の割合は女性が29.5%であるのに対し、男性は11.8ポイント高い41.3%となっている。

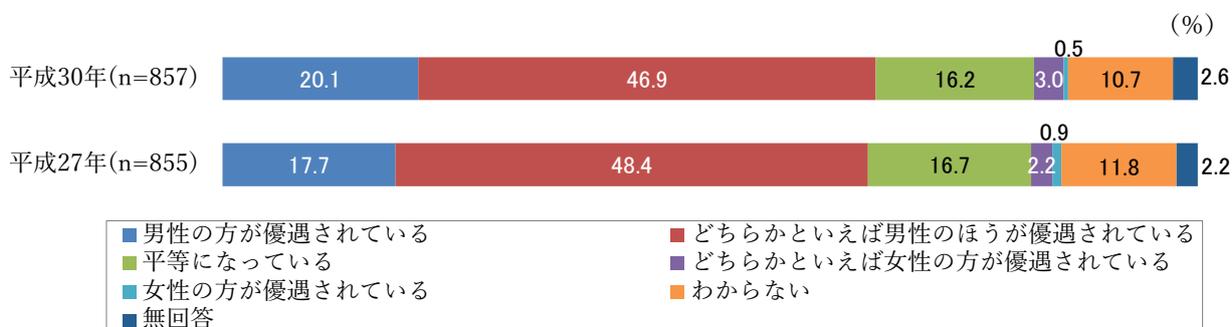
性・年代別で見ると、『男性が優遇（計）』と感じている人の割合は、男性では60歳以上が41.9%で最も高く、女性では40代の58.0%、次いで50代の46.8%となっている。



## ⑤ 社会通念・慣習・しきたり

### 【全体】

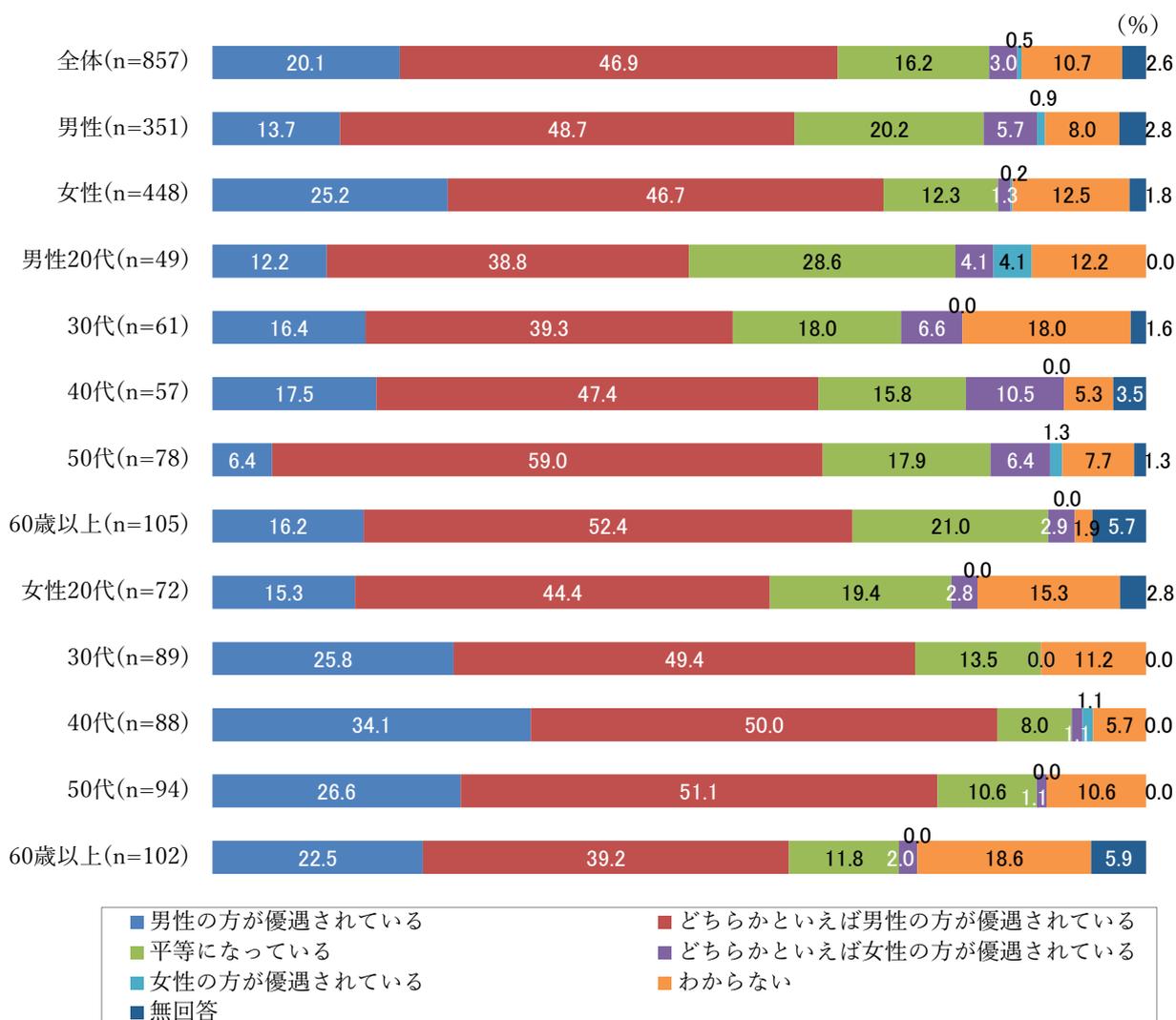
社会通念・慣習・しきたりにおいて、「平等」と感じている人の割合は、16.2%で前回調査に比べ0.5ポイント減少し、『男性が優遇（計）』は67.0%と前回調査から0.9ポイント増加している。



### 【性・年代別】

男女別でみると、「平等」と感じている人の割合は女性が12.3%であるのに対し、男性は7.9ポイント高い20.2%となっている。

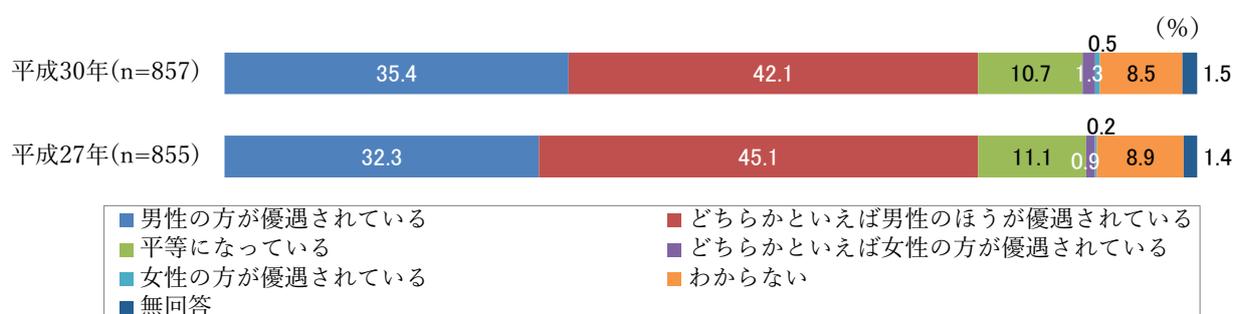
性・年代別でみると、『男性が優遇（計）』と感じている人の割合は、男性では60歳以上が68.6%で最も高く、女性では40代の84.1%、次いで50代の77.7%となっている。



## ⑥ 政治の場

### 【全体】

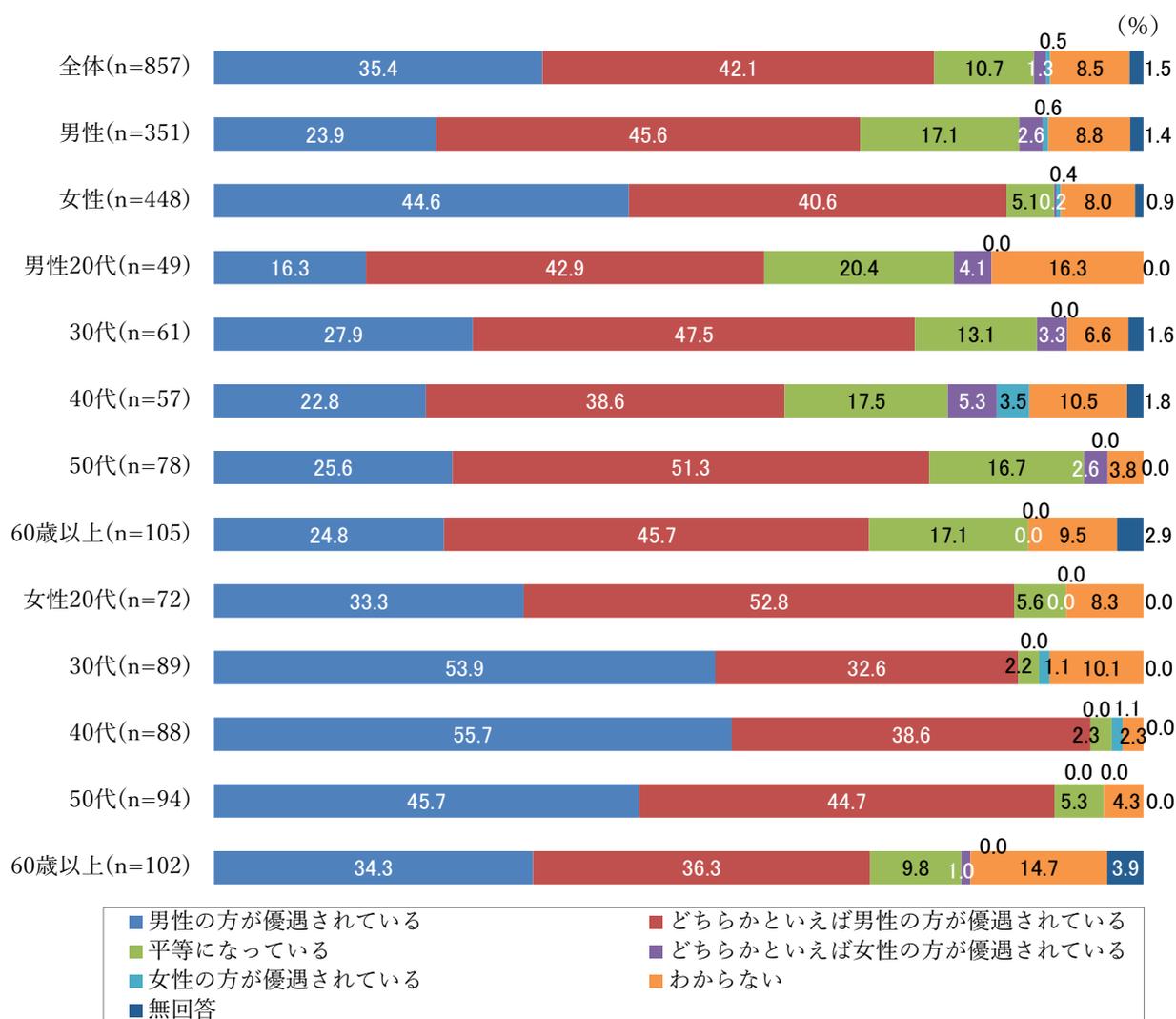
政治の場において、「平等」と感じている人の割合は、10.7%で前回調査に比べ0.4ポイント減少している。一方で「男性の方が優遇されている」と感じている人の割合は、前回調査から3.1ポイント増加している。



### 【性・年代別】

男女別で見ると、『男性が優遇（計）』は女性が85.2%であるのに対し、男性は15.7ポイント低い69.5%となっている。

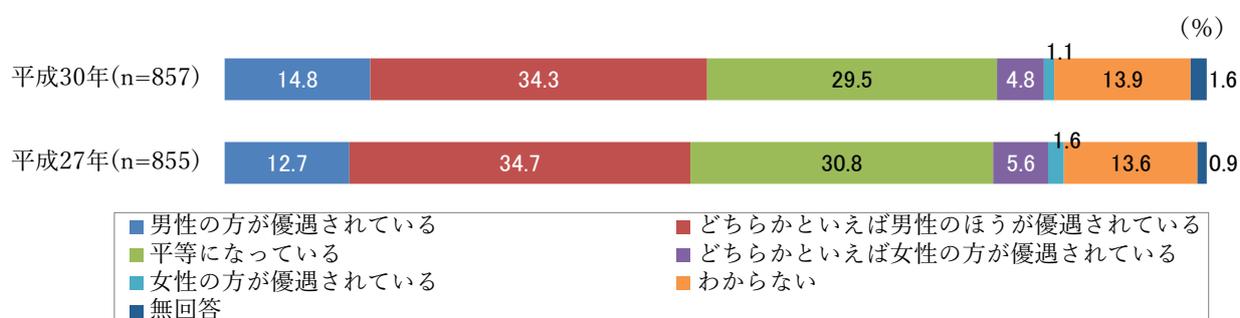
性・年代別で見ると、『男性が優遇（計）』と感じている人の割合は、男性では50歳代が76.9%で最も高く、女性では40代の94.3%、次いで50代の90.4%となっている。



## ⑦ 法律や制度の上

### 【全体】

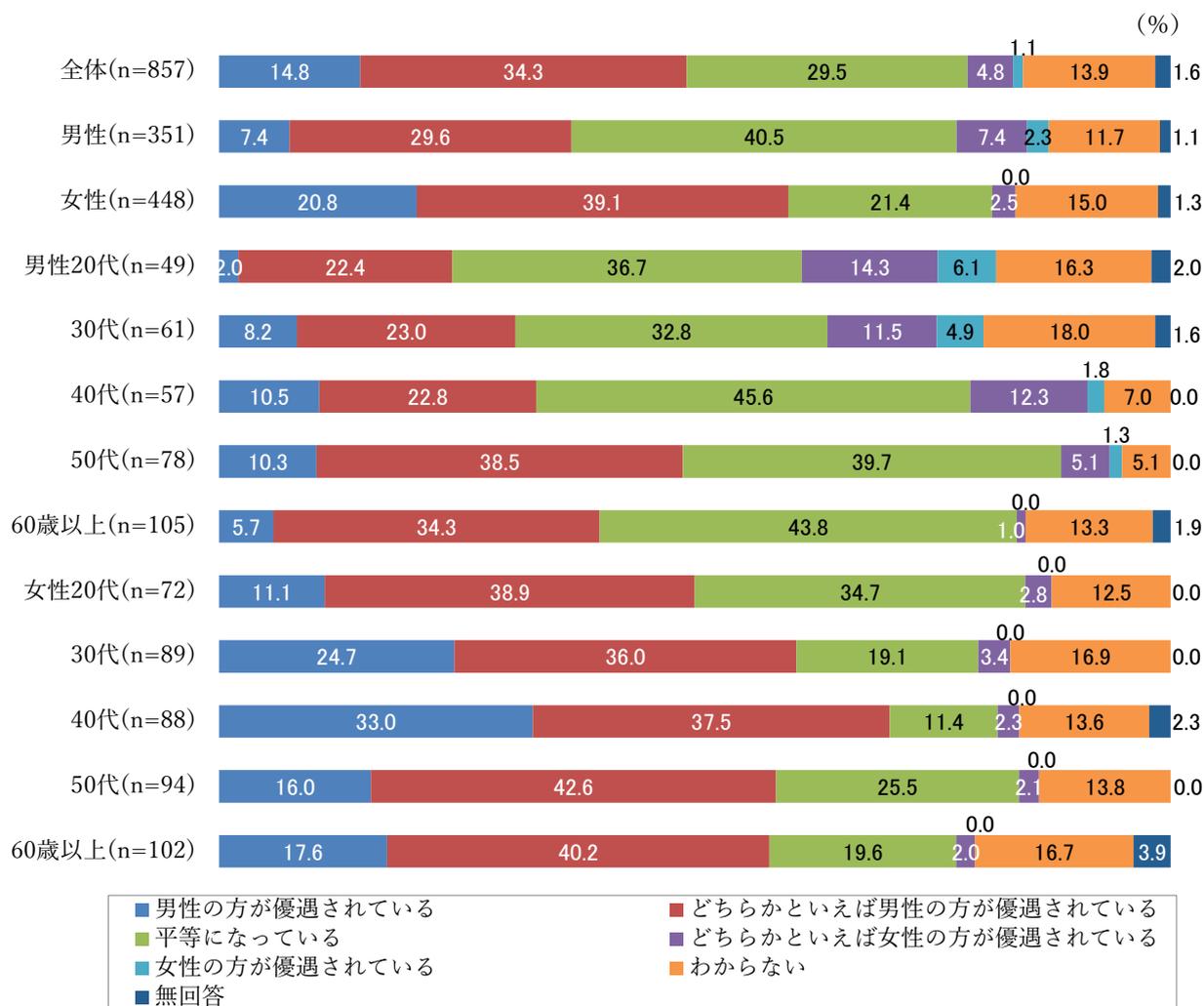
法律や制度において、「平等」と感じている人の割合は、29.5%で前回調査からから1.3ポイント減少している。これに対し、『男性が優遇（計）』は、49.1%と前回調査に比べて1.7ポイント増加している。



### 【性・年代別】

男女別で見ると、『男性が優遇（計）』と感じている人の割合は、男性が37.0%であるのに対し、女性は22.9ポイント高い59.9%となっている。

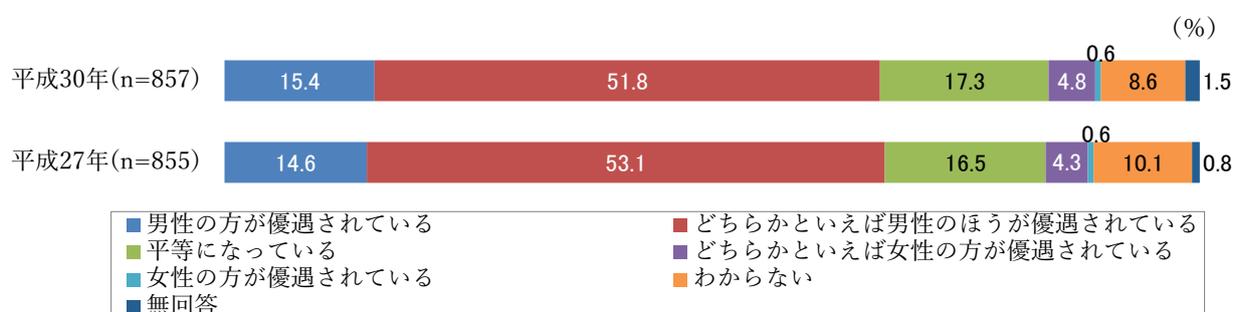
性・年代別で見ると、『男性が優遇（計）』と感じている人の割合は、男性では50代が48.8%で最も高く、女性では40代の70.5%、次いで30代の60.7%となっている。



## ⑧ 社会全体

### 【全体】

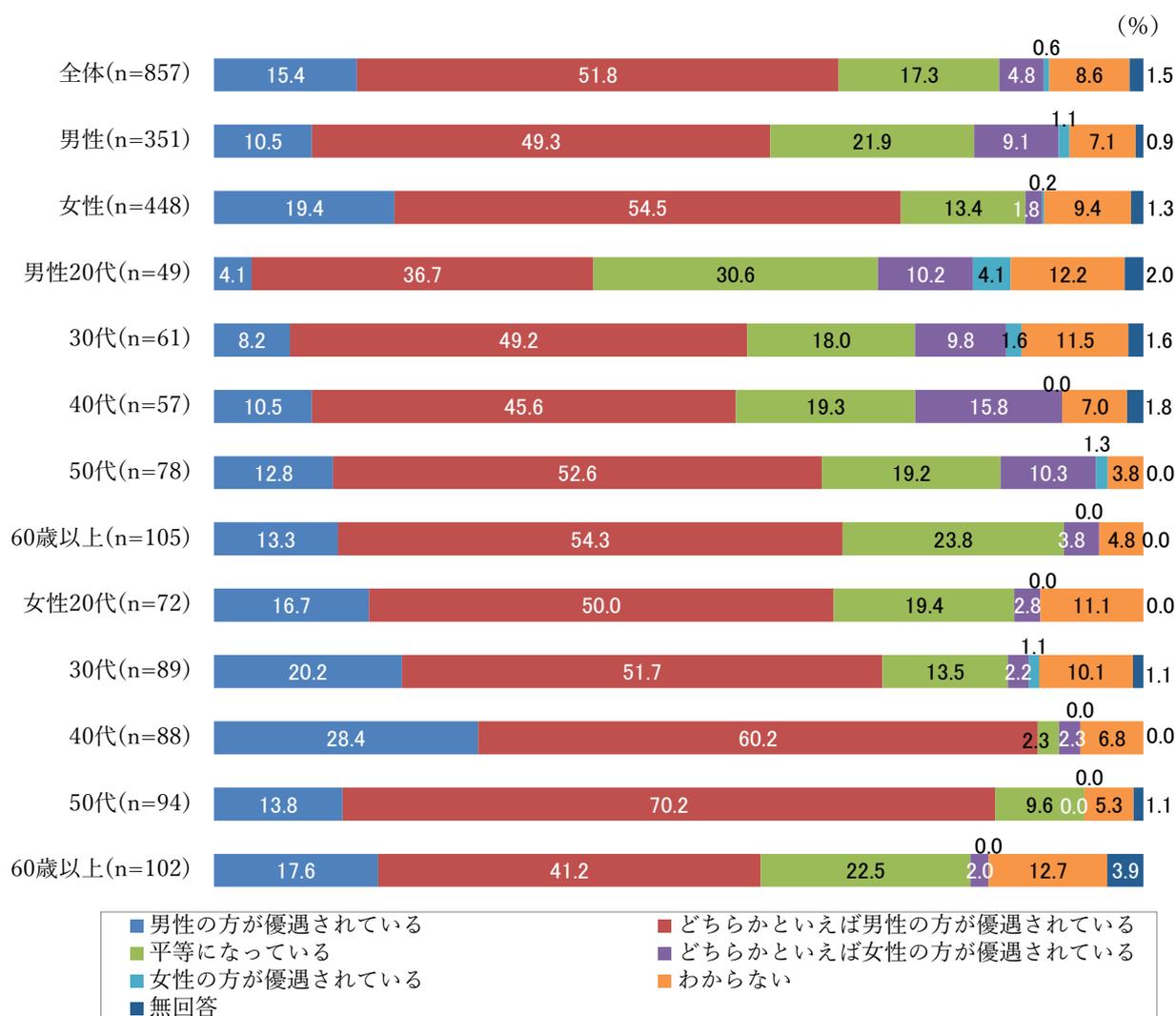
社会全体において、「平等」と感じている人の割合は、17.3%で前回調査に比べ0.8ポイント増加しているが、『男性が優遇（計）』と感じている人の割合は、67.2%と依然として高い割合で推移している。



### 【性・年代別】

男女別でみると、「平等」と感じている人の割合は、男性が21.9%であるのに対し、女性は8.5ポイント低い13.4%となっている。

性・年代別でみると、『男性が優遇（計）』と感じている人の割合は、男性では60歳以上が67.6%で最も高く、女性では40代の88.6%、次いで50代の84.0%となっている。



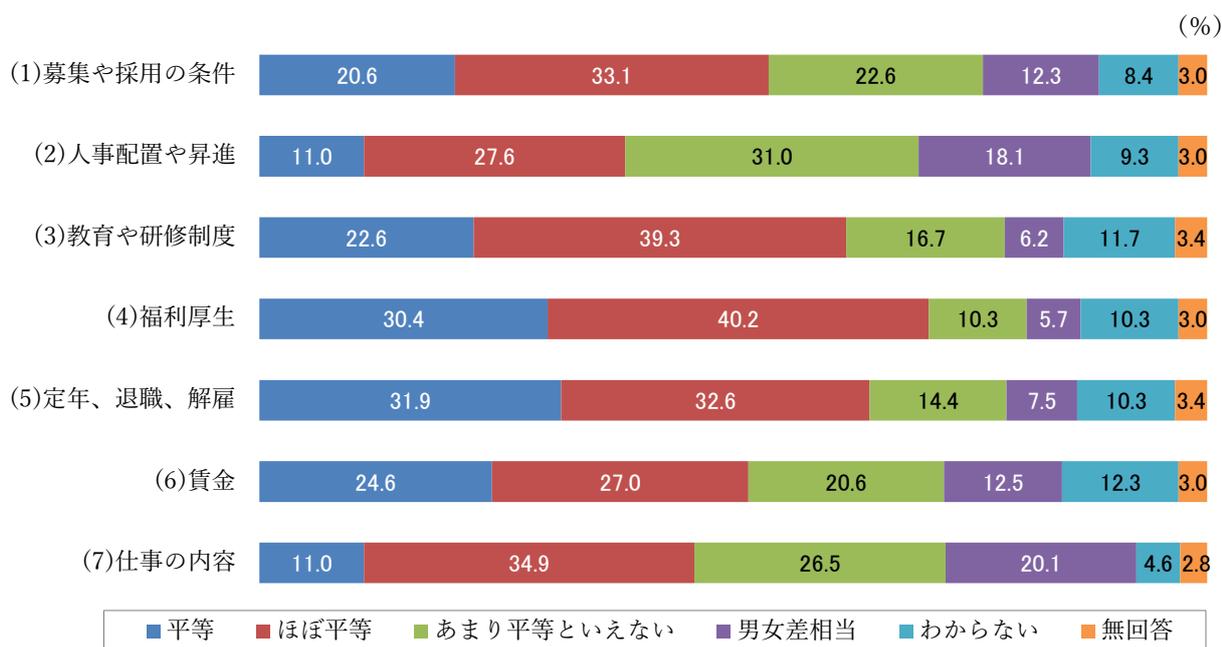
## (2) 職場における男女平等

### 【問2】 あなたの職場では、どの程度男女平等になっていると思いますか。

#### 【全体】

職場での男女平等について、「平等」と「ほぼ平等」と感じている人を合わせた『平等（計）』は、「人事配置や昇進」「仕事の内容」以外の項目で5割を超えている。

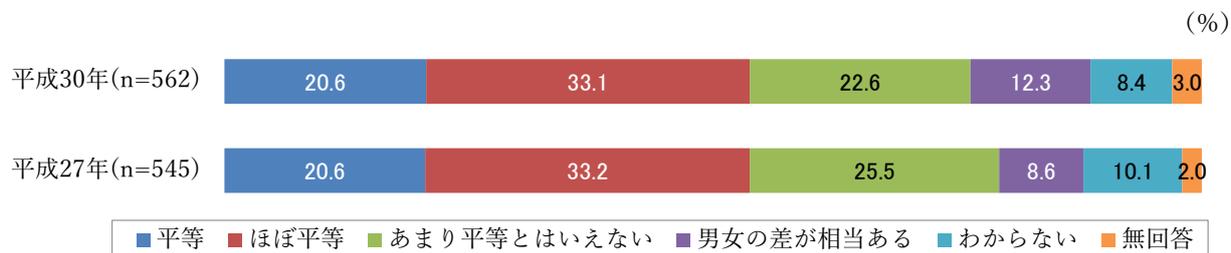
一方、「あまり平等とはいえない」と「男女の差が相当ある」と感じている人を合わせた『平等ではない（計）』の最も高い項目は、「人事配置や昇進」の49.1%で、次いで「仕事の内容」の46.6%となっている。



## ① 募集や採用の条件

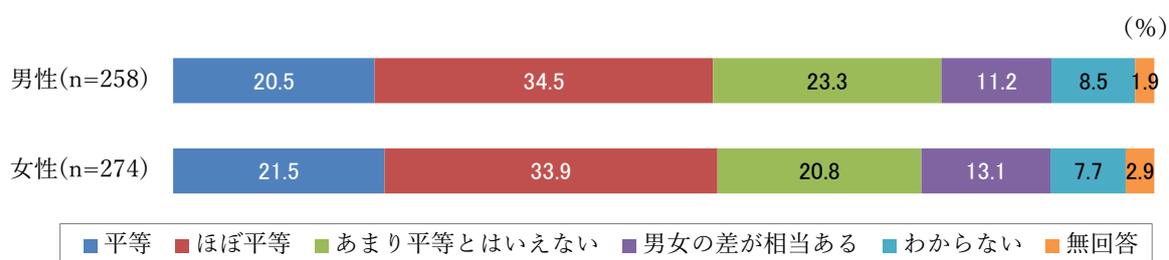
### 【全体】

募集や採用の条件において、『平等（計）』と感じている人の割合は、53.7%で前回調査に比べ0.1ポイント減少しているが、『平等ではない（計）』と感じている人の割合は、34.9%で前回調査に比べると0.8ポイント増加している。



### 【性別】

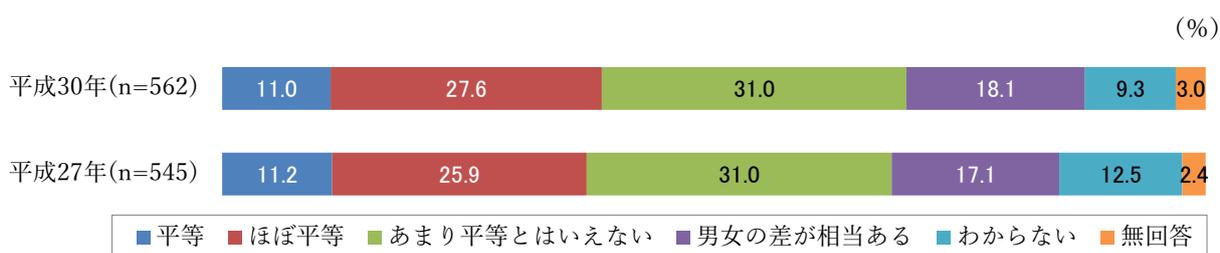
男女別で見ると、『平等（計）』と感じている人の割合は、男性より女性が0.4ポイント高くなっている。



## ② 人事配置や昇進

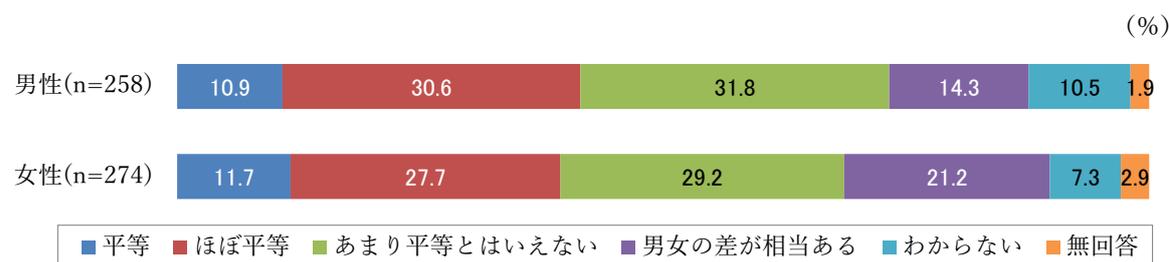
### 【全体】

人事配置や昇進において、『平等（計）』と感じている人の割合は、38.6%で前回調査に比べ1.5ポイント増加しているが、『平等ではない（計）』と感じている人の割合も49.1%で前回調査に比べると1.0ポイント増加している。



### 【性別】

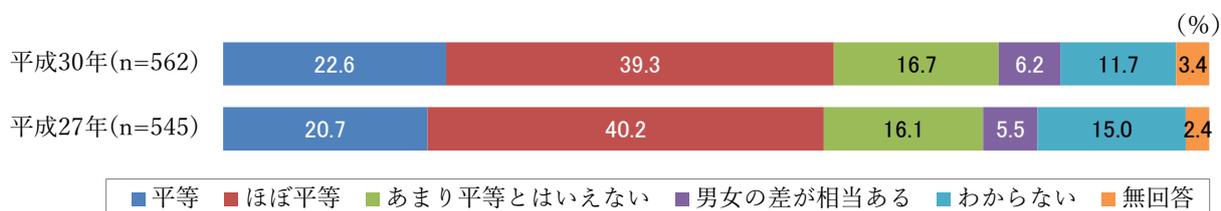
男女別で見ると、『平等（計）』と感じている人の割合は、男性より女性が2.1ポイント低くなっている。



### ③ 教育や研修制度

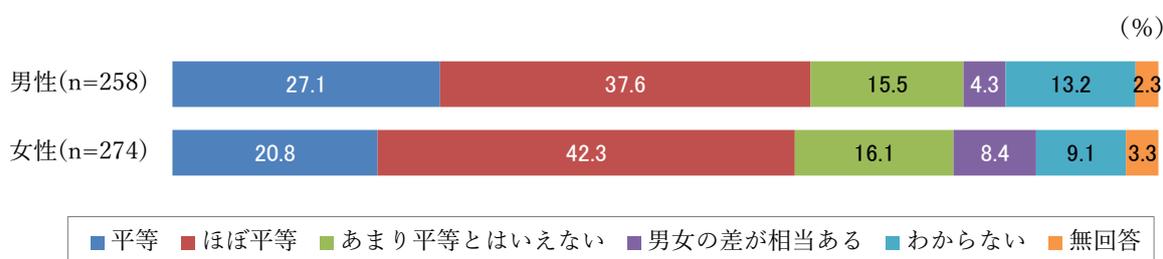
#### 【全体】

教育や研修制度において、『平等（計）』と感じている人の割合は、61.9%で前回調査に比べ1.0ポイント増加しているが、『平等ではない（計）』と感じている人の割合も22.9%で前回調査に比べると1.3ポイント増加している。



#### 【性別】

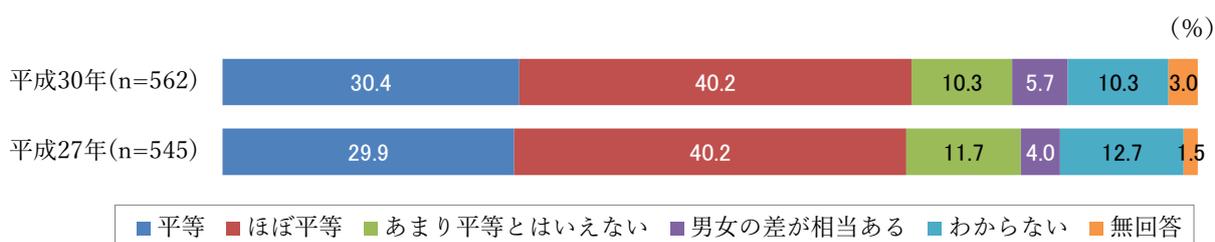
男女別でみると、『平等（計）』と感じている人の割合は、男性より女性が1.6ポイント低くなっている。



### ④ 福利厚生

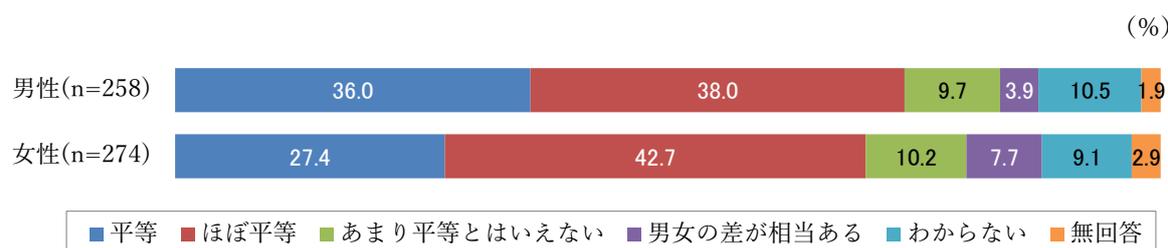
#### 【全体】

福利厚生において、『平等（計）』と感じている人の割合は、70.6%で前回調査に比べ0.5ポイント増加しているが、『平等ではない（計）』と感じている人の割合も16%で前回調査に比べると0.3ポイント増加している。



#### 【性別】

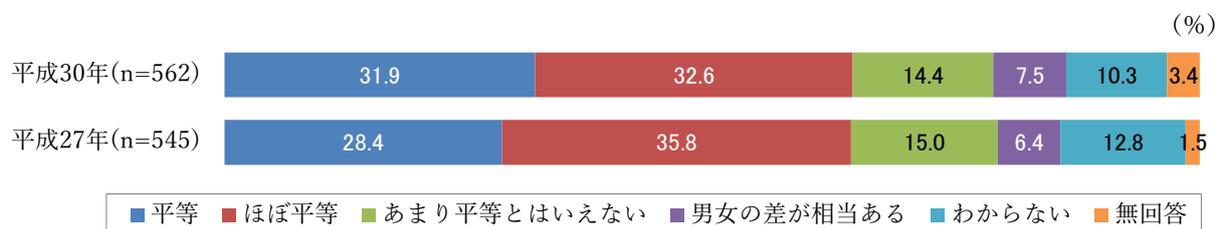
男女別でみると、『平等（計）』と感じている人の割合は、男性より女性が3.9ポイント低くなっている。



## ⑤ 定年、退職、解雇

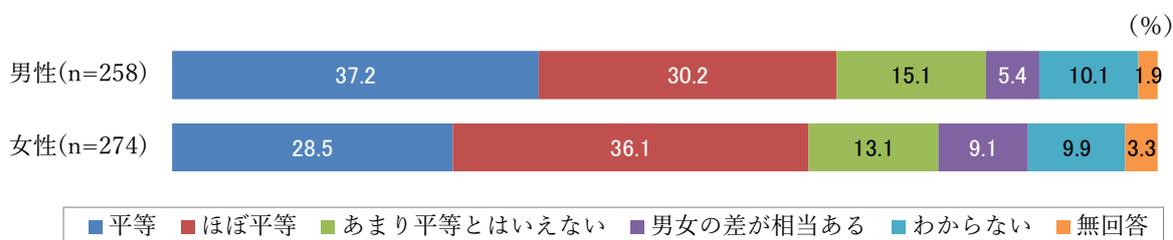
### 【全体】

定年、退職、雇用において、『平等（計）』と感じている人の割合は、64.5%で前回調査に比べ0.3ポイント増加しているが、『平等ではない（計）』と感じている人の割合も21.9%で前回調査に比べると0.5ポイント増加している。



### 【性別】

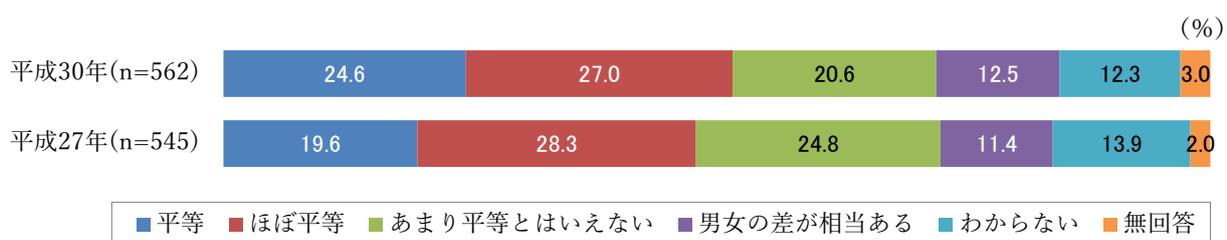
男女別でみると、『平等（計）』と感じている人の割合は、男性より女性が2.8ポイント低くなっている。



## ⑥ 賃金

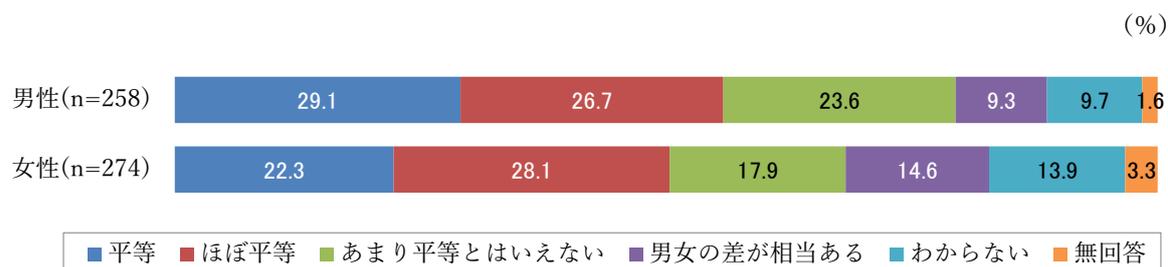
### 【全体】

賃金において、『平等（計）』と感じている人の割合は、51.6%で前回調査に比べ3.7ポイント増加しているが、『平等ではない（計）』と感じている人の割合は、33.1%で前回調査に比べると3.1ポイント減少している。



### 【性別】

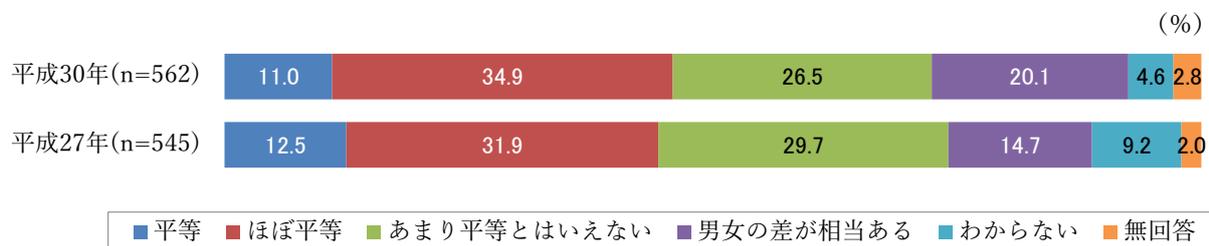
男女別でみると、『平等（計）』と感じている人の割合は、男性より女性が5.4ポイント低くなっている。



## ⑦ 仕事の内容

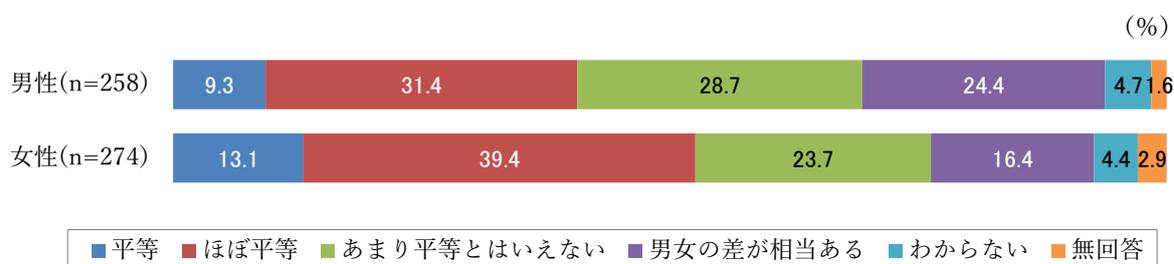
### 【全体】

仕事の内容において、『平等（計）』と感じている人の割合は、45.9%で前回調査に比べ1.5ポイント増加しているが、『平等ではない（計）』と感じている人の割合も46.6%で前回調査に比べると2.2ポイント増加している。



### 【性別】

男女別で見ると、『平等（計）』と感じている人の割合は、男性より女性が11.8ポイント高くなっている。



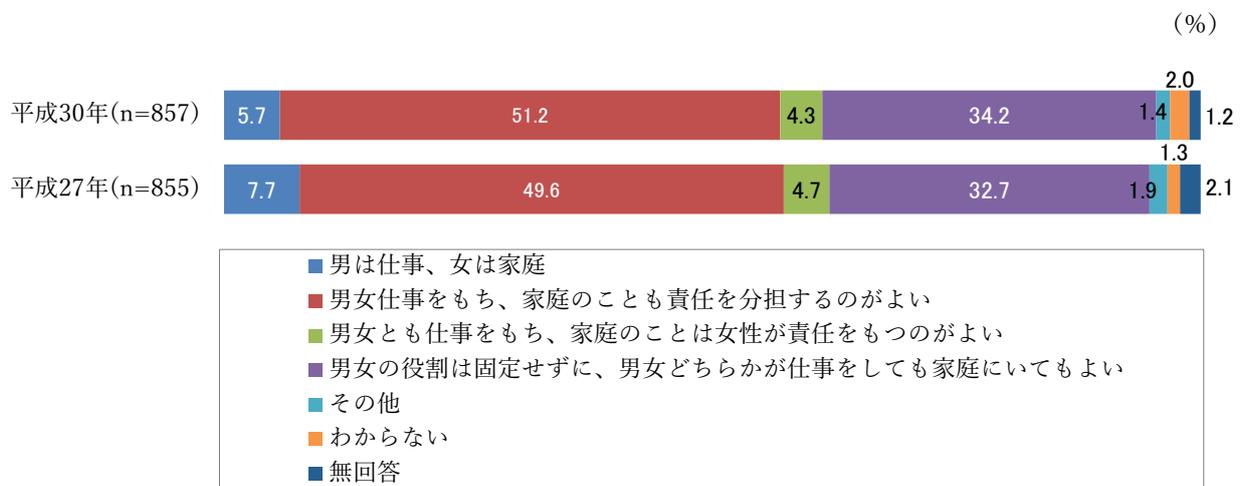
### (3) 男は仕事、女は家庭という考え方

【問3】 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。

【全体】

「男は仕事、女は家庭」という考え方について聞いたところ、「男女とも仕事をもち家庭のことも分担」が51.2%で最も高く、次いで、「男女どちらが仕事をしていても家庭にいてもよい」が34.2%、「男は仕事、女は家庭」が5.7%、「男女仕事をもち家庭のことは女性」が4.3%などの順となっている。

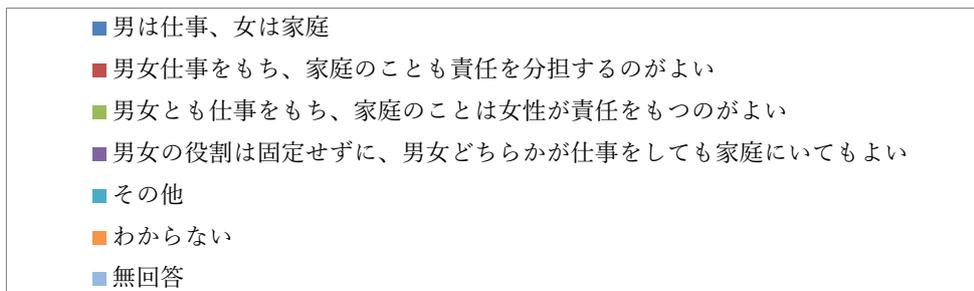
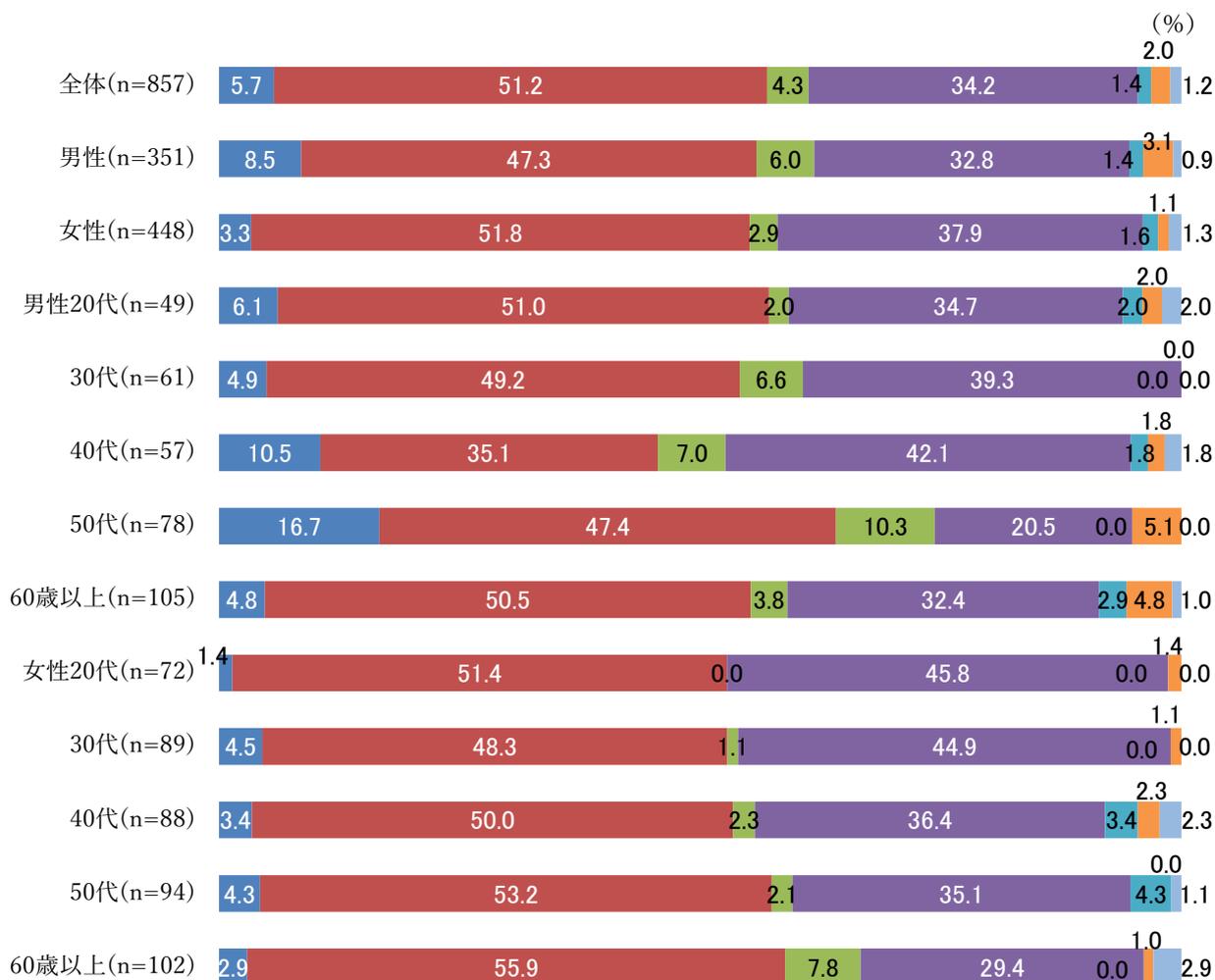
「男は仕事、女は家庭」と考える人の割合は減少している。一方で「男女どちらが仕事をしていても家庭にいてもよい」と考える人が増加している。



【性・年代別】

男女別でみると、「男女とも仕事をもち家庭のことも分担」は、女性が51.8%で男性の47.3%より4.5ポイント高くなっている。一方、「男は仕事、女は家庭」は、男性が8.5%で女性の3.3%より5.2ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「男女とも仕事をもち家庭のことも分担」は、男性では20代、60歳以上、女性では30代以外の全年代で半数を超える割合となっている。また、「男女どちらが仕事をしても家庭にいてもよい」は、男性・女性共に半数を超える年代はなく、男性は40代が42.1%、女性は20代で45.8%となっている。



### 3. 結婚・家庭生活・子育て介護について

#### (1) 結婚・家庭・離婚についての考え

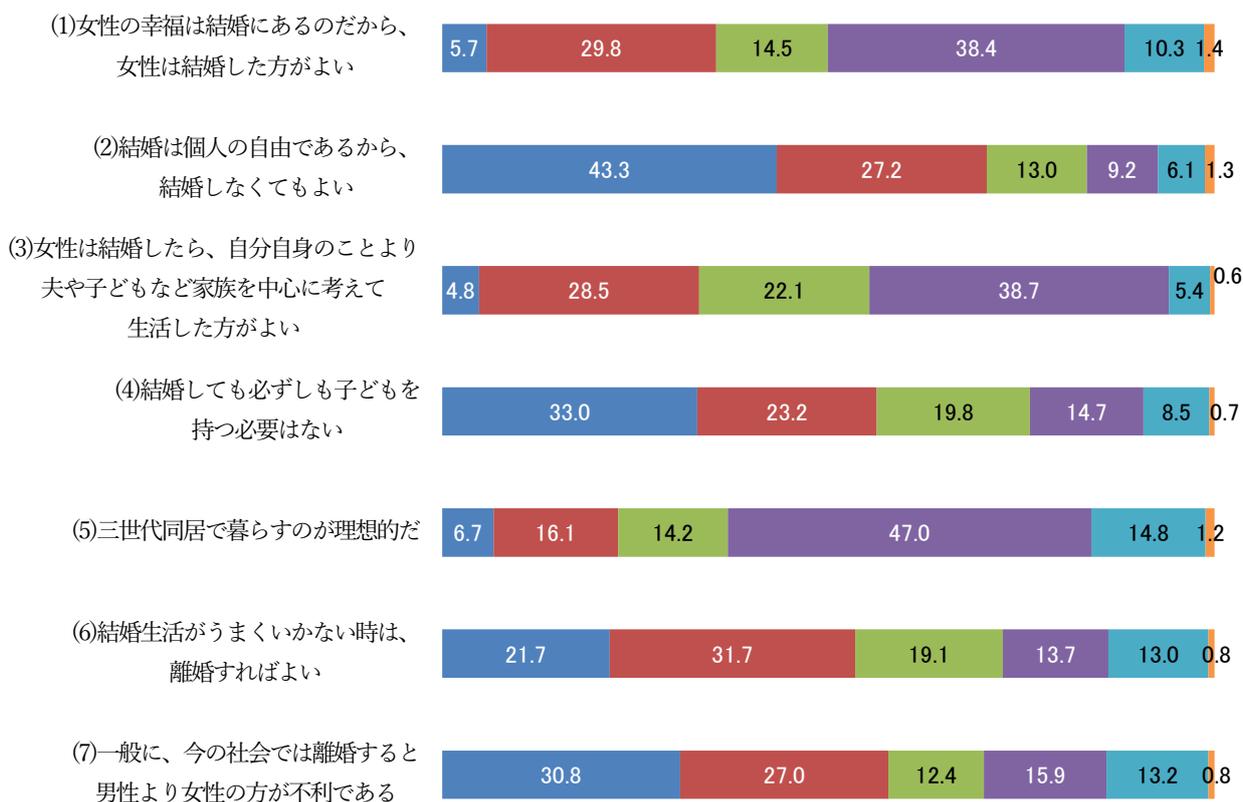
【問4】 結婚や家庭、離婚についての考え方について、あなたはどのように思いますか。

【全体】

結婚や家庭、離婚については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(計)』は、「結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもよい」が70.5%と最も高く、次いで、「一般に、今の社会では離婚すると男性よりも女性の方が不利である」が57.8%、「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」が56.2%などの順になっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない(計)』は、「三世代同居で暮らすのが理想的だ」が61.2%で最も高く、次いで、「女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい」が60.8%などの順になっている。

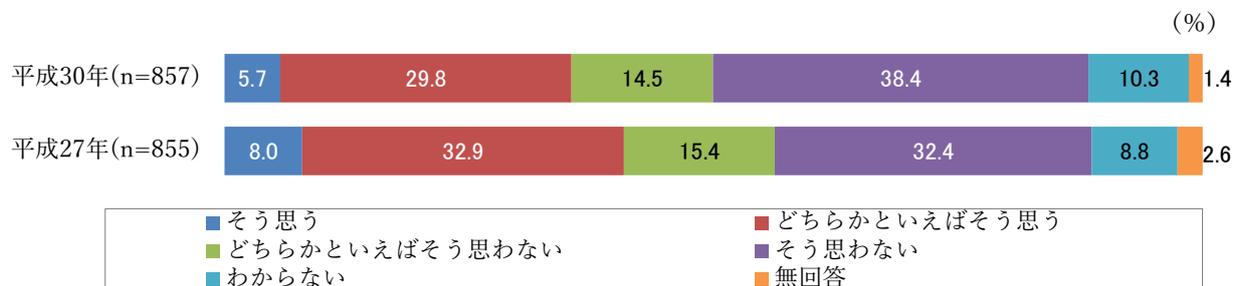
(%)



## ① 女性の幸福は結婚にあるのだから、女性は結婚した方がよい

### 【全体】

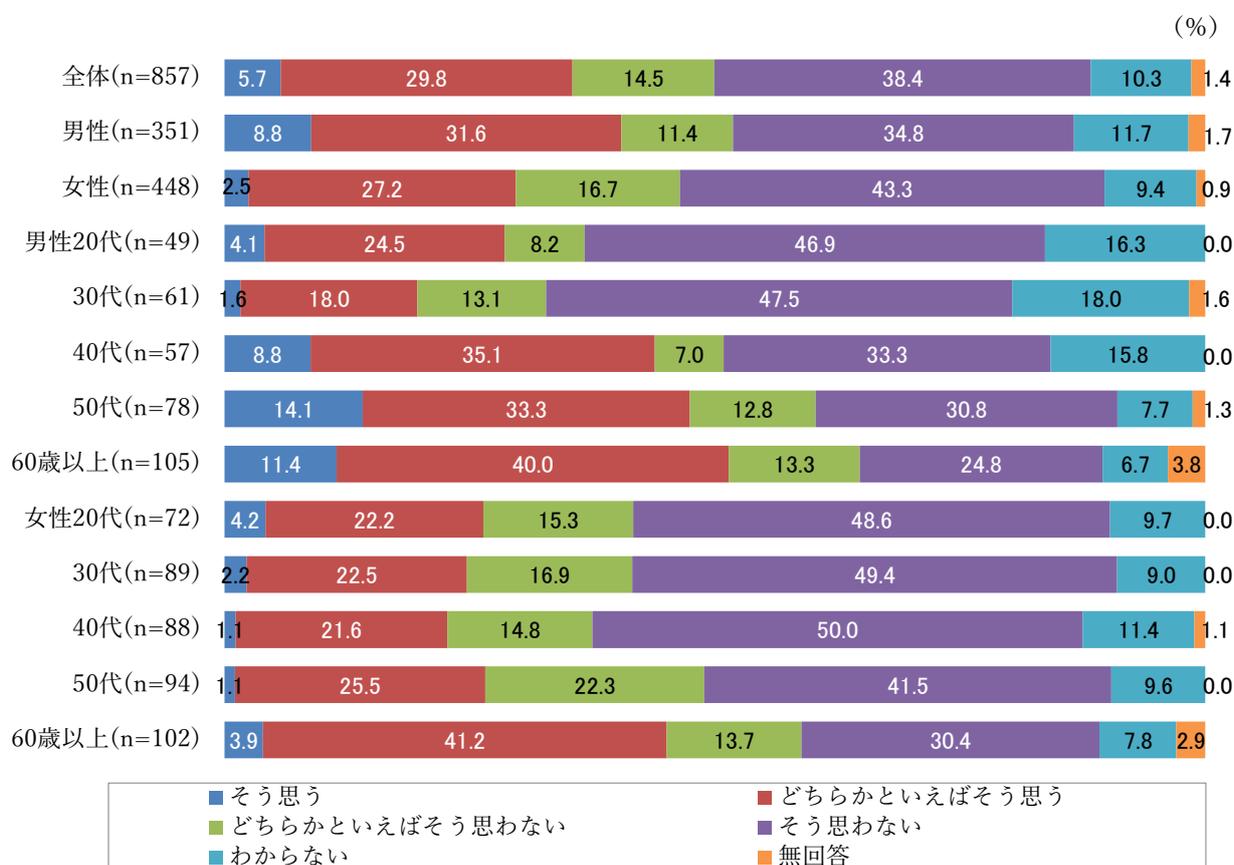
「女性の幸福は結婚にあるのだから、女性は結婚した方がよい」という考え方について聞いたところ、『そう思う（計）』は35.5%で前回調査に比べ5.4ポイント減少しているが、『そう思わない（計）』は52.9%で前回調査に比べると5.1ポイント増加している。



### 【性・年代別】

男女別で見ると、『そう思う（計）』は男性が40.4%で女性の29.7%より10.7ポイント高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は女性が60.0%で男性の46.2%より13.8ポイント高くなっている。

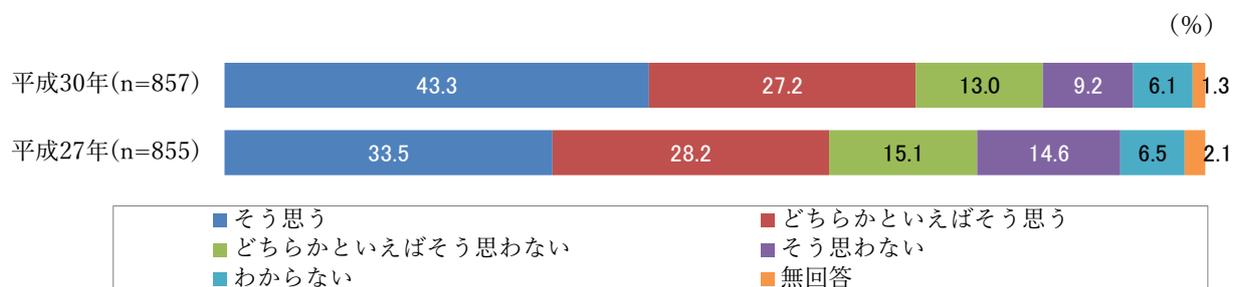
性・年代別で見ると、『そう思う（計）』は男性ではおおよそ年代が高くなるほど割合が高く、女性では40代が低い割合になっている。一方、『そう思わない（計）』は男性の30代が60.6%、20代が55.1%、女性では30代が66.3%、40代が64.8%、20代が63.9%などで高くなっている。



## ② 結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもよい

### 【全体】

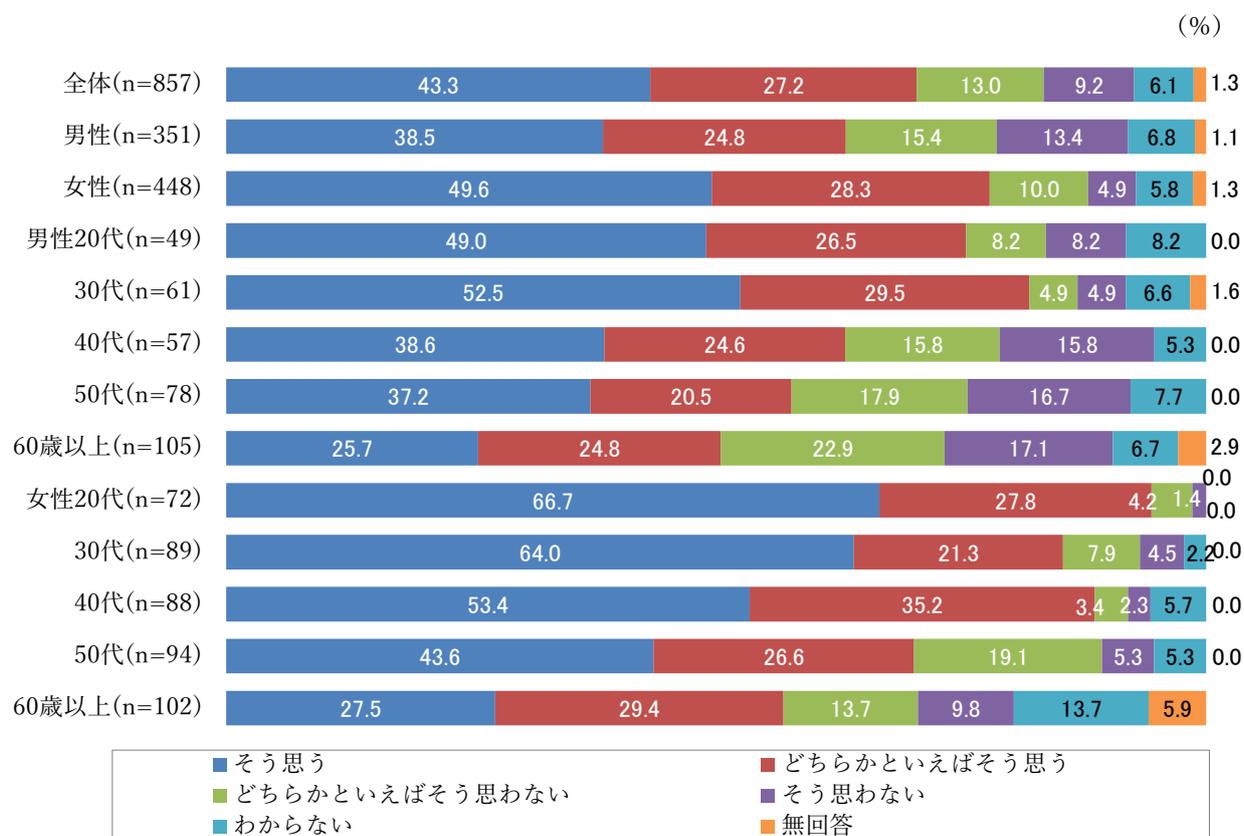
「結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもよい」という考え方について聞いたところ、『そう思う(計)』は70.5%で前回調査に比べ8.8ポイント増加しているが、『そう思わない(計)』は22.2%で前回調査に比べると7.5ポイント減少している。



### 【性・年代別】

男女別で見ると、『そう思う(計)』は女性が77.9%で男性の63.3%より14.6ポイント高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男性が28.8%で女性の14.9%より13.9ポイント高くなっている。

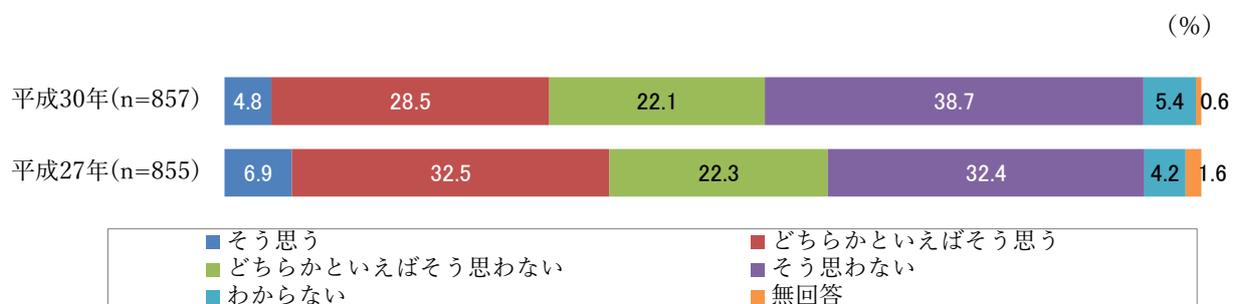
性・年代別で見ると、『そう思う(計)』は男女ともおおむね年代が低くなるほど割合が高く、女性の20代で94.5%、30代で85.3%、男性では30代が82.0%、20代が75.5%で高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男性の60歳以上が40.0%、50代が34.6%、女性では50歳以上が24.4%、60代が23.5%で高くなっている。



### ③ 女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい

#### 【全体】

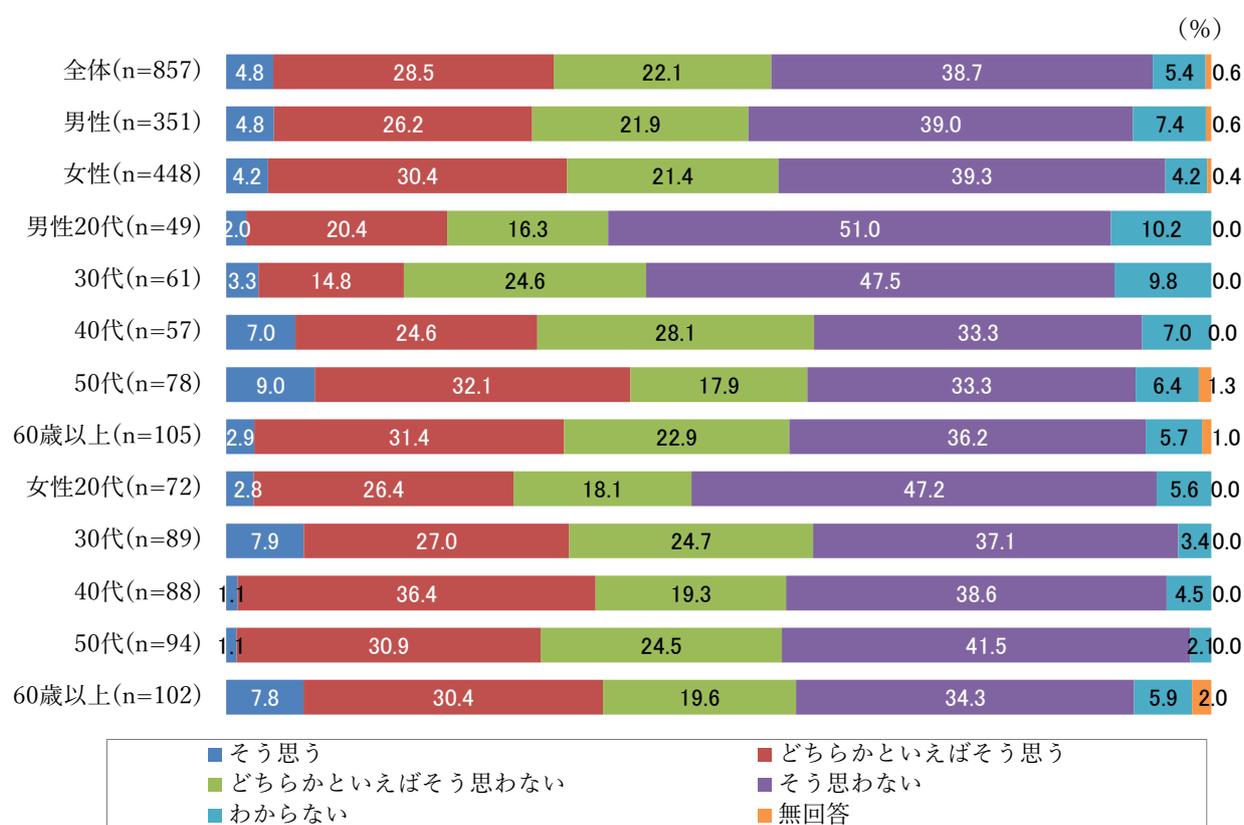
「女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい」という考え方について聞いたところ、『そう思う（計）』は33.3%で前回調査に比べ6.1ポイント減少しているが、『そう思わない（計）』は60.8%で前回調査に比べると6.1ポイント増加している。



#### 【性・年代別】

男女別で見ると、『そう思う（計）』は女性が34.6%で男性の31.0%より3.6ポイント高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は男性が60.9%で女性の60.7%より0.2ポイント高くなっている。

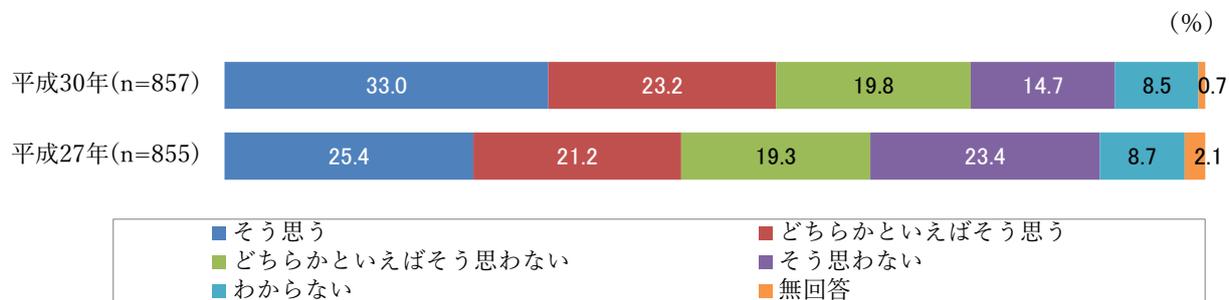
性・年代別で見ると、『そう思う（計）』は女性の60歳以上で38.2%、40代で37.5%、男性では50代が41.1%、60歳以上が34.3%で高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は男性の30代で72.1%、20代で67.3%、40代で61.4%、女性では50代が66.0%、20代が65.3%、30代が61.%で高くなっている。



#### ④ 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

##### 【全体】

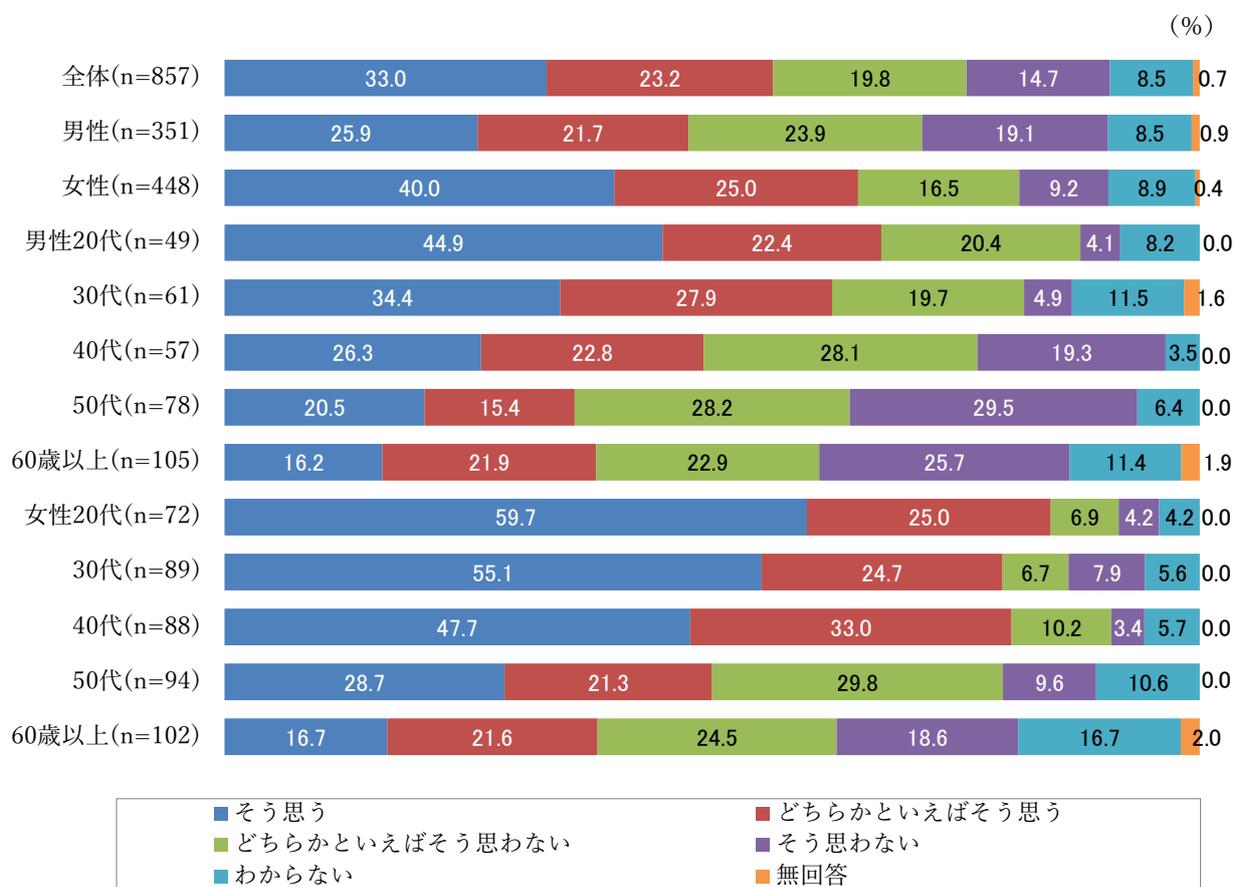
「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」という考え方について聞いたところ、『そう思う（計）』は56.2%で前回調査に比べ9.6ポイント増加しているが、『そう思わない（計）』は34.5%で前回調査に比べると8.2ポイント減少している。



##### 【性・年代別】

男女別で見ると、『そう思う（計）』は女性が65.0%で男性の47.6%より17.4ポイント高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は男性が43.0%で女性の25.7%より17.3ポイント高くなっている。

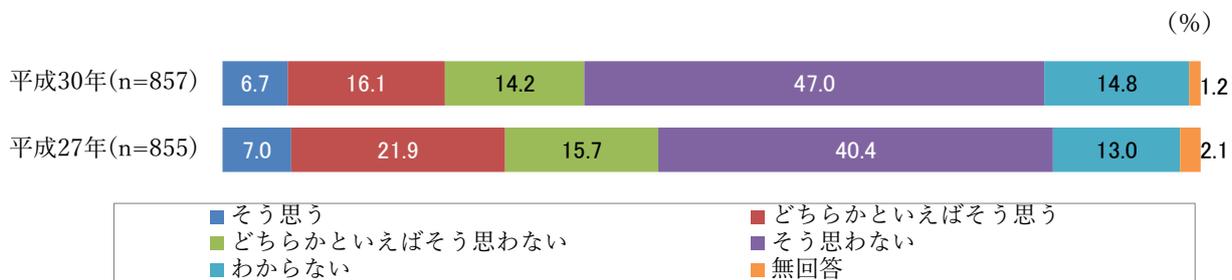
性・年代別で見ると、『そう思う（計）』は女性の20代で84.7%、40代で80.7%、男性では20代が67.3%、30代が62.3%で高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は男性の50代で57.7%、60歳以上で48.6%、女性では60歳以上が43.1%、50代が39.4%で高くなっている。



### ⑤ 三世代同居で暮らすのが理想的だ

#### 【全体】

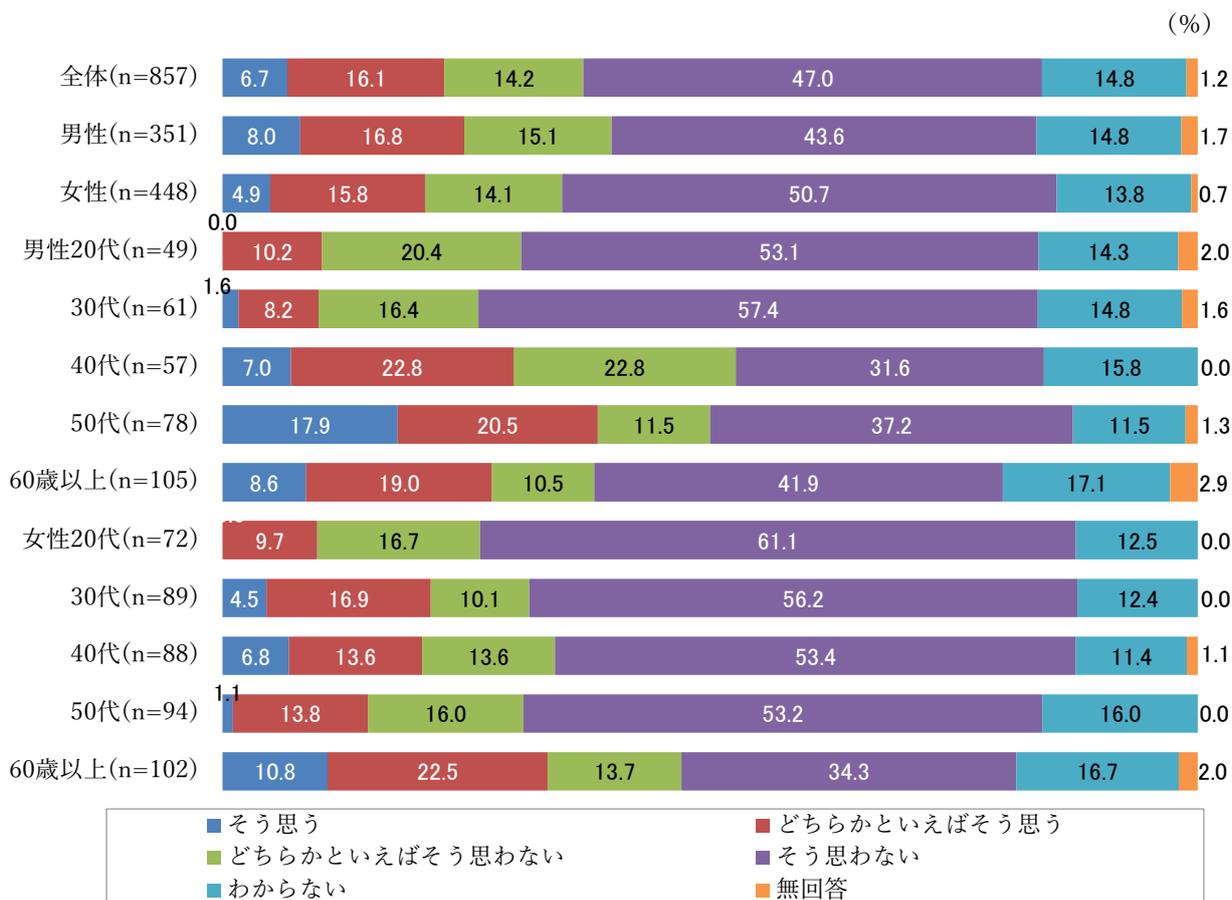
「三世代同居で暮らすのが理想的だ」という考え方について聞いたところ、『そう思う（計）』は22.8%で前回調査に比べ6.1ポイント減少しているが、『そう思わない（計）』は61.2%で前回調査に比べると5.1ポイント増加している。



#### 【性・年代別】

男女別で見ると、『そう思う（計）』は男性が24.8%で女性の20.7%より4.1ポイント高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は女性が64.8%で男性の58.7%より6.1ポイント高くなっている。

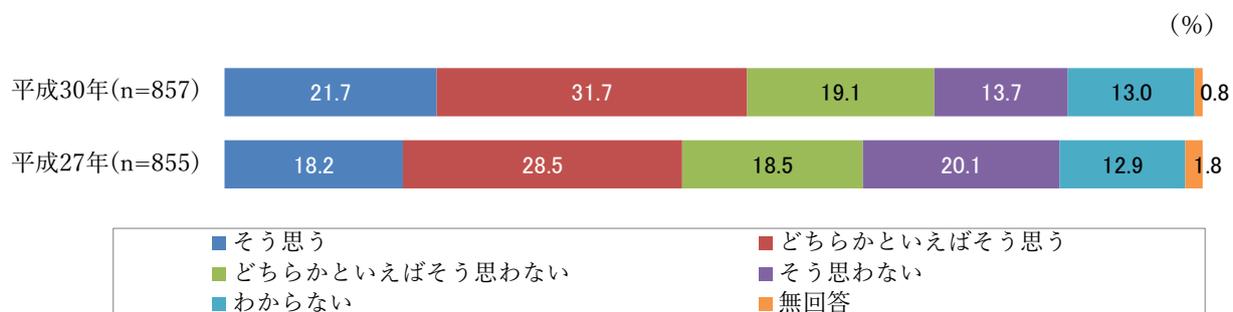
性・年代別で見ると、『そう思う（計）』は男性の50歳以上で38.4%、40代で29.8%、女性では60歳以上が33.3%、30代が21.4%で高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は男性の30代が73.8%、20代が73.5%、40代が54.4%、女性では20代が77.8%、50代が69.2%、40代が67.0%で高くなっている。



## ⑥ 結婚生活がうまくいかない時は、離婚すればよい

### 【全体】

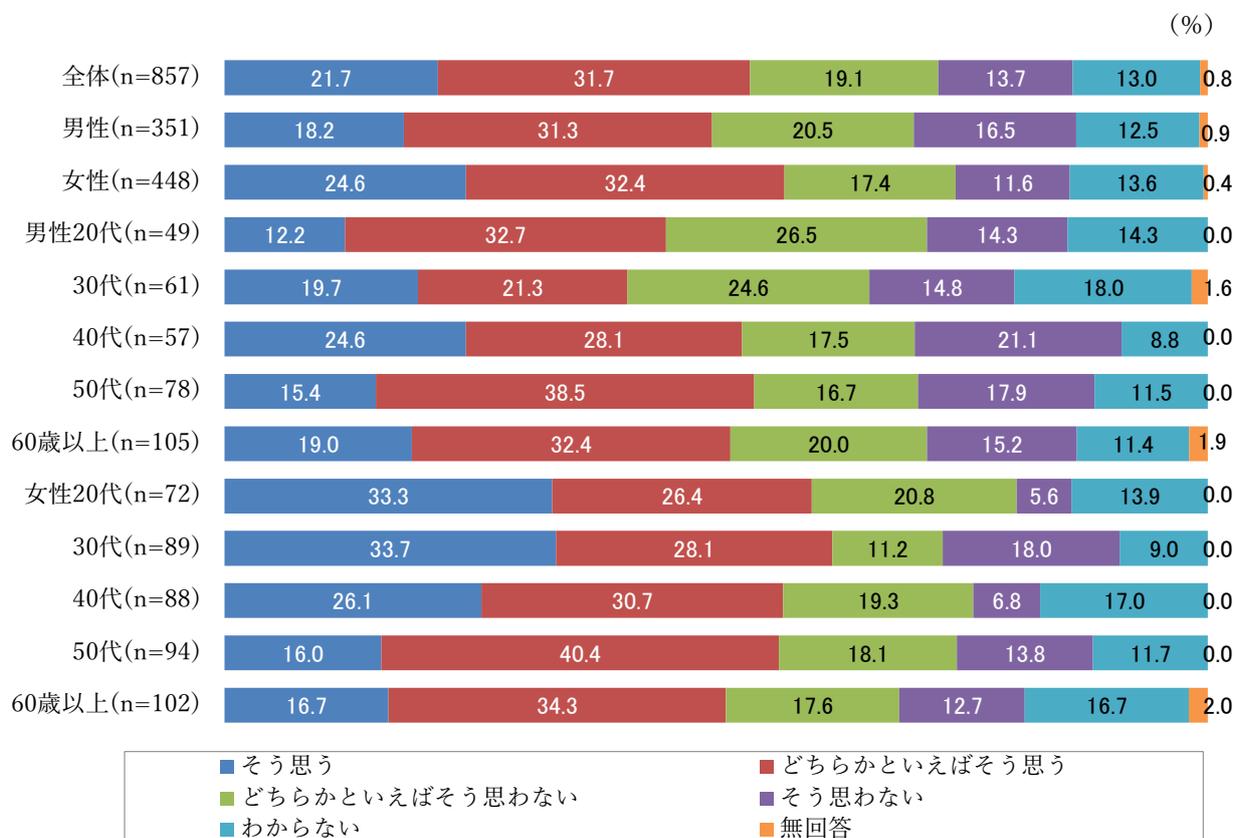
「結婚生活がうまくいかない時は、離婚すればよい」という考え方について聞いたところ、『そう思う（計）』は53.4%で前回調査に比べ6.7ポイント増加しているが、『そう思わない（計）』は32.8%で前回調査に比べると5.8ポイント減少している。



### 【性・年代別】

男女別で見ると、『そう思う（計）』は女性が57.0%で男性の49.5%より7.5ポイント高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は男性が37.0%で女性の29.0%より8.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『そう思う（計）』は女性の30代で61.8%、20代で59.7%、40代で56.8%、男性では50代が53.9%、40代が52.7%で高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は男性の20代で40.8%、30代で39.4%、女性では50代が31.9%、60歳以上で30.3%と高くなっている。

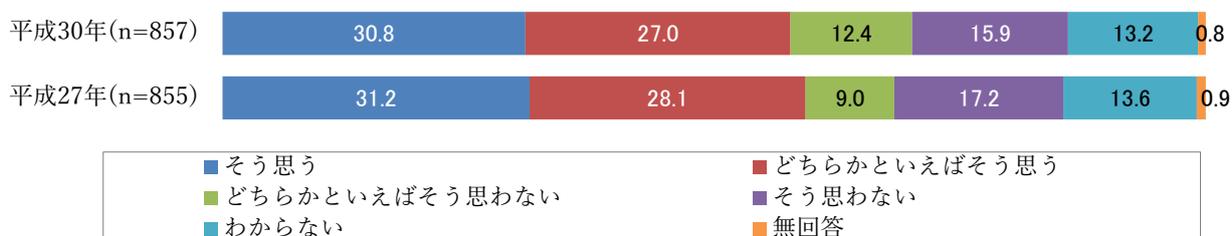


⑦ 一般に、今の社会では離婚すると男性より女性の方が不利である

【全体】

「一般に、今の社会では離婚すると男性より女性の方が不利である」という考え方について聞いたところ、『そう思う（計）』は57.8%で前回調査に比べ1.5ポイント減少しているが、『そう思わない（計）』は28.3%で前回調査に比べると2.1ポイント増加している。

(%)

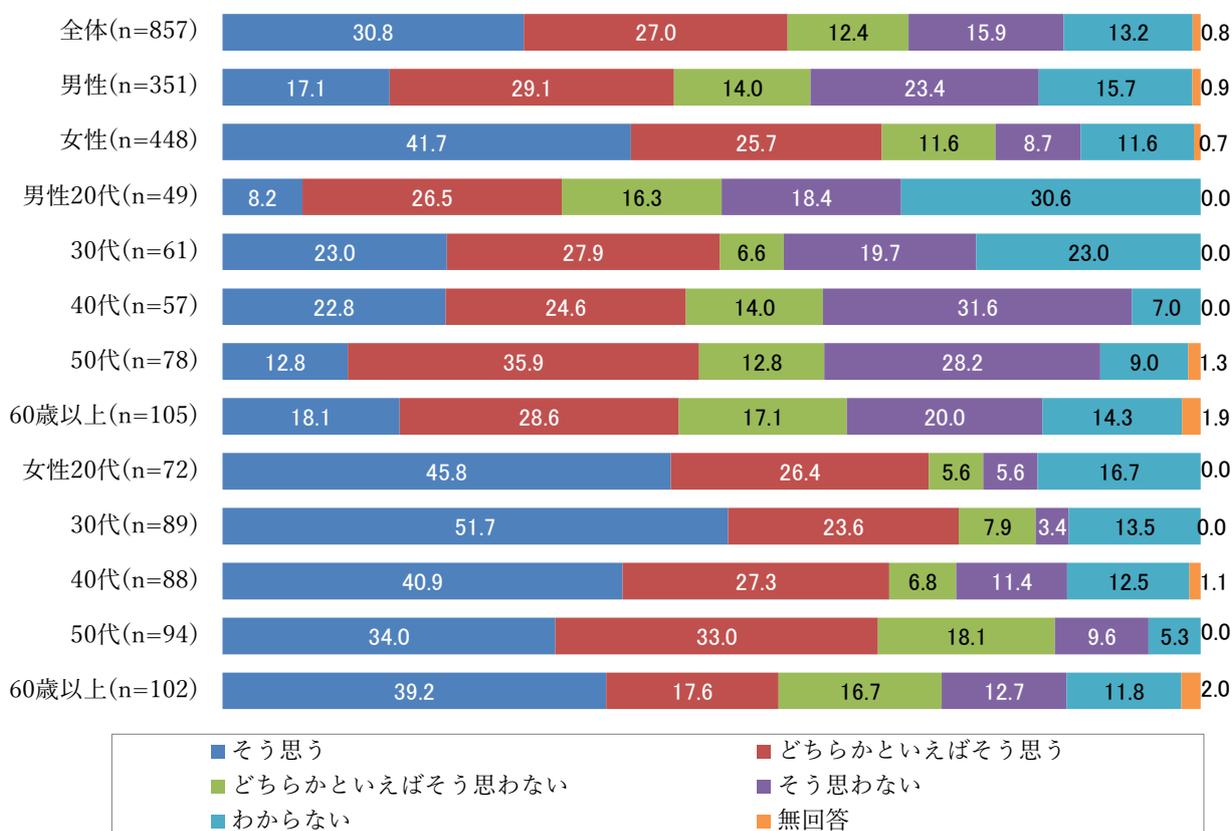


【性・年代別】

男女別で見ると、『そう思う（計）』は女性が67.4%で男性の46.2%より21.2ポイント高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は男性が37.4%で女性の20.3%より17.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『そう思う（計）』は女性の30代で75.3%、20代で72.2%、男性では30代が50.9%、50代が48.7%で高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は男性の40代で45.6%、50代で41.0%、女性では60歳以上が29.4%で高くなっている。

(%)



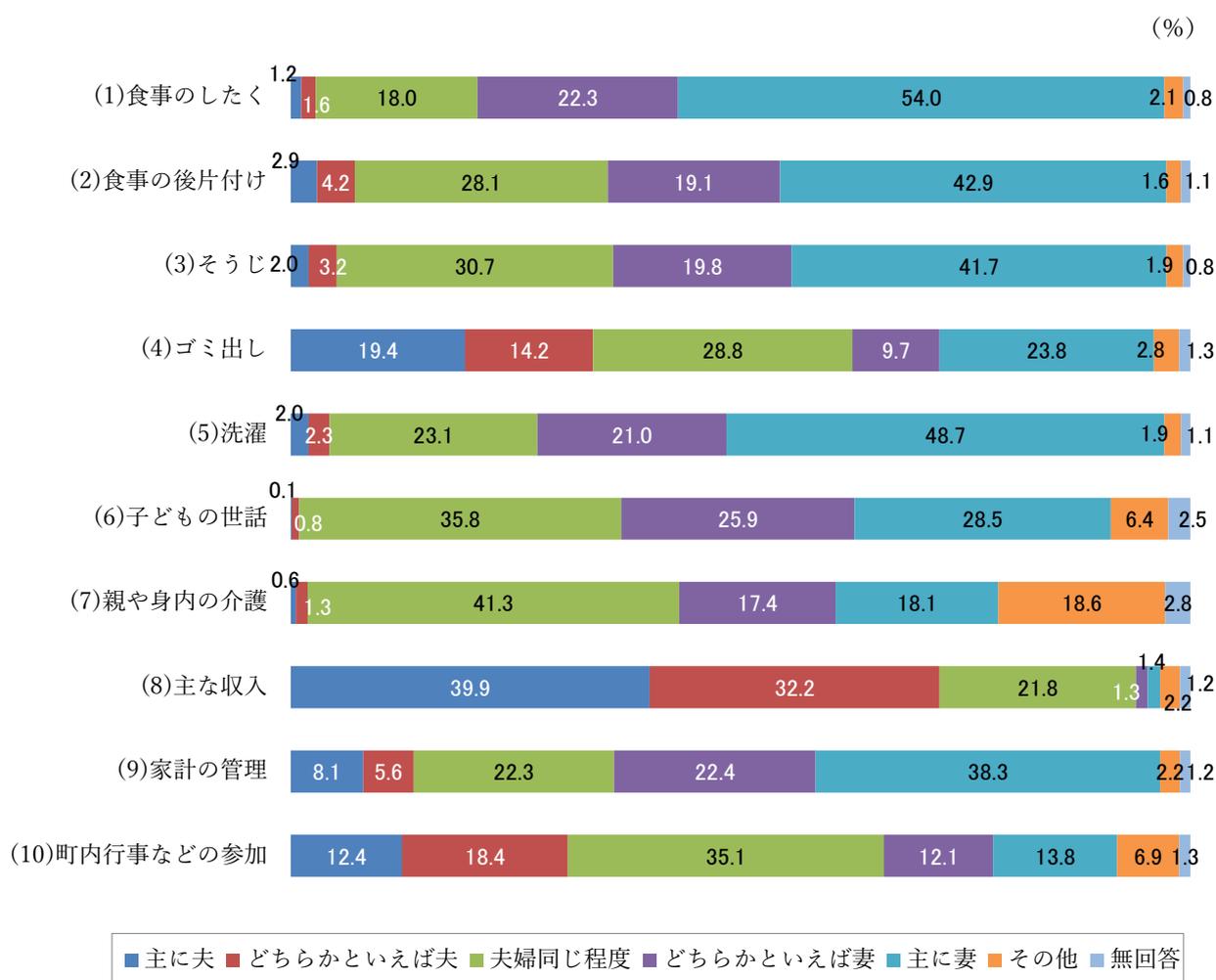
## (2) 夫婦の役割分担

【問5】 あなたは、次の(1)～(10)について、夫婦間でどのように分担していますか。配偶者がいない場合は、配偶者がいるとしたらどのようにしたいと思いますか。

【全体】

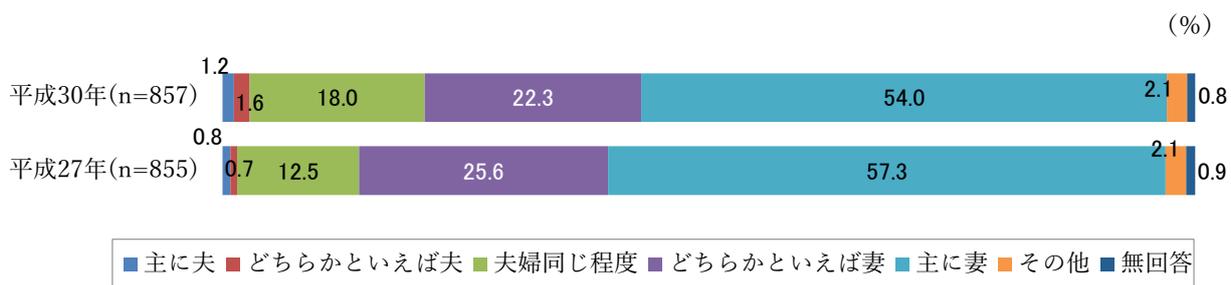
夫婦の役割分担については、「主に夫」と「どちらかと言えば夫」を合わせた『夫(計)』は、「主な収入」が72.1%と最も高く、次いで、「ゴミ出し」が33.6%、「町内行事などの参加」が30.8%などの順になっている。また、「夫婦同じ程度」は「親や身内の介護」が41.3%と最も高く、次いで、「子どもの世話」が35.8%、「町内行事などの参加」が35.1%などの順になっている。

一方、「どちらかといえば妻」と「主に妻」を合わせた『妻(計)』は、「食事のしたく」が76.3%で最も高く、次いで、「洗濯」が69.7%、「食事の後片付け」が62.0%などの順になっている。『夫(計)』と『妻(計)』を比較すると、「主な収入」、「ゴミ出し」、「町内行事などの参加」以外は妻の役割との割合が高くなっていて、多くの役割分担が女性に偏っている。



## ① 食事のしたく

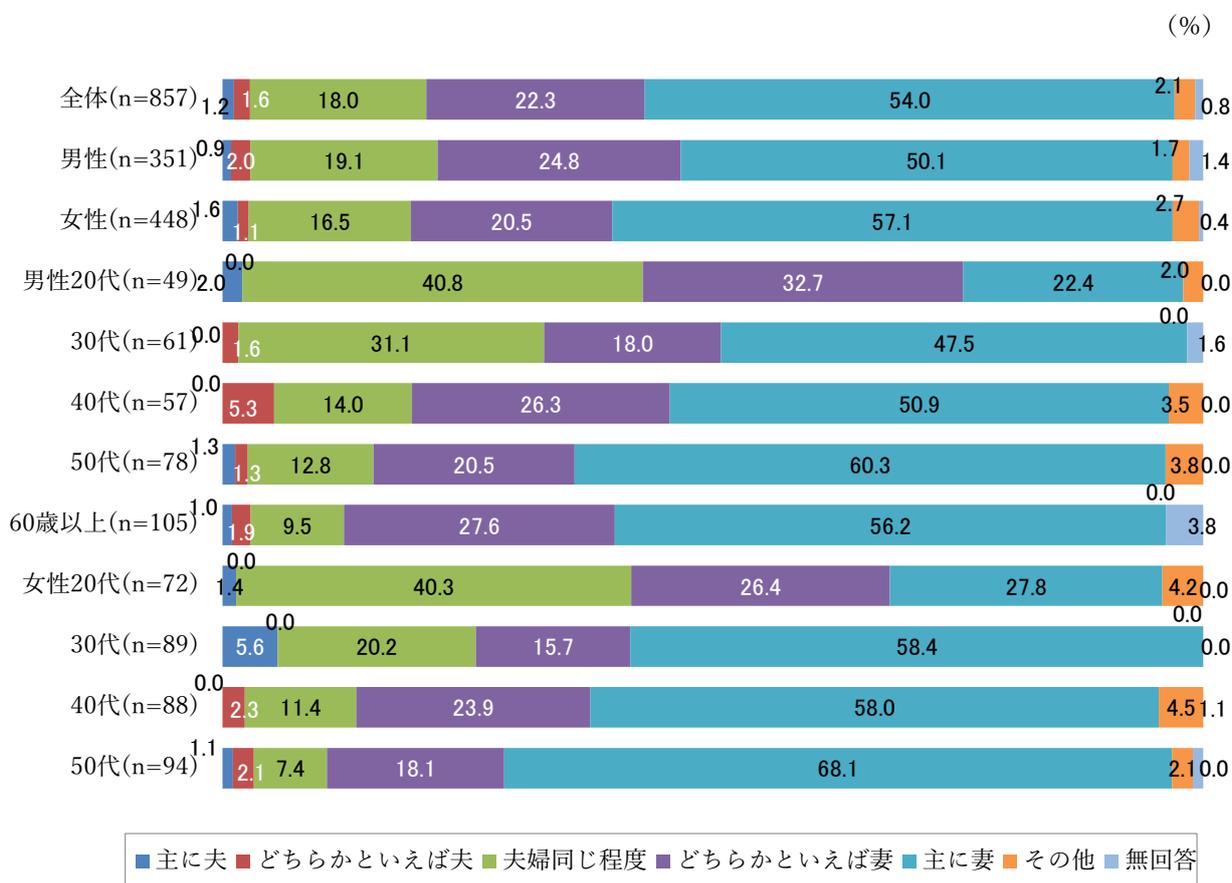
「食事のしたく」について、「夫婦同じ程度」は18.0%で前回調査に比べ5.5ポイント増加している。



### 【性・年代別】

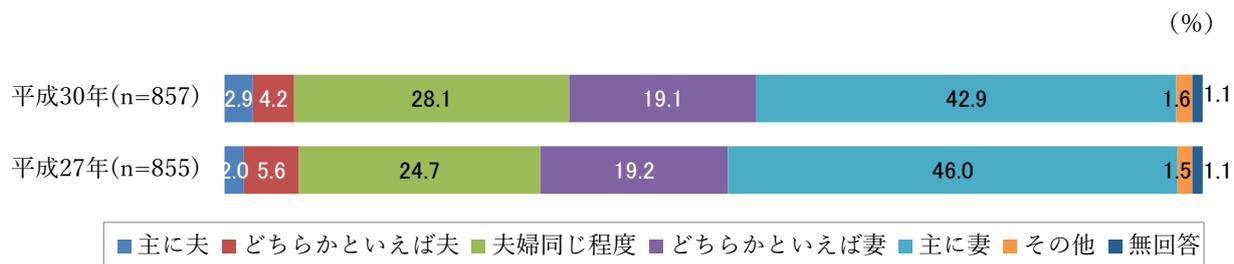
男女別でみると、「夫婦同じ程度」は男性が19.1%で女性の16.5%より2.6ポイント高くなっている。

年代別でみると、「夫婦同じ程度」は男女ともに20代が40.0%を超えている。



## ② 食事の後かたづけ

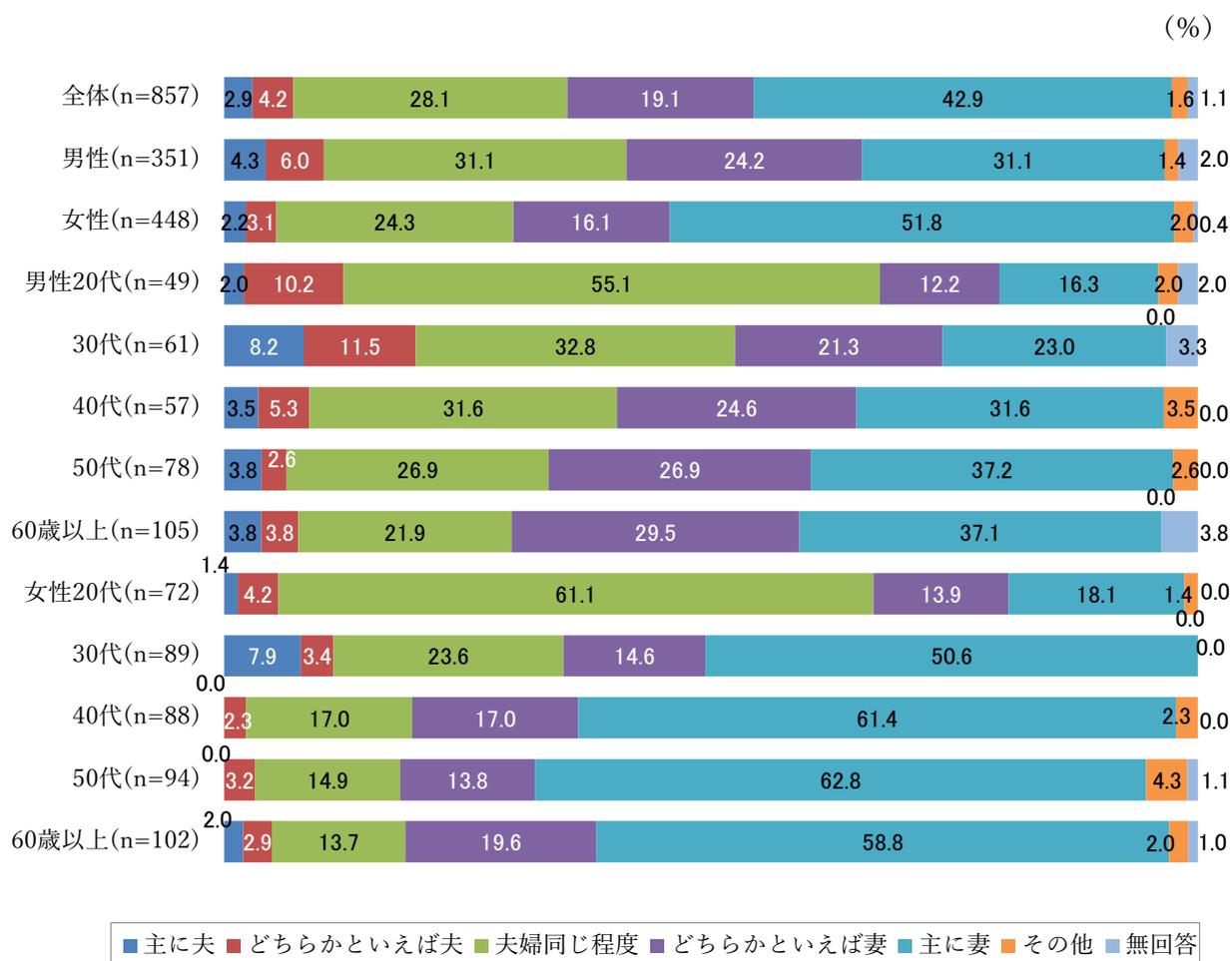
「食事の後かたづけ」について、「夫婦同じ程度」は28.1%で前回調査に比べ3.4ポイント増加している。



### 【性・年代別】

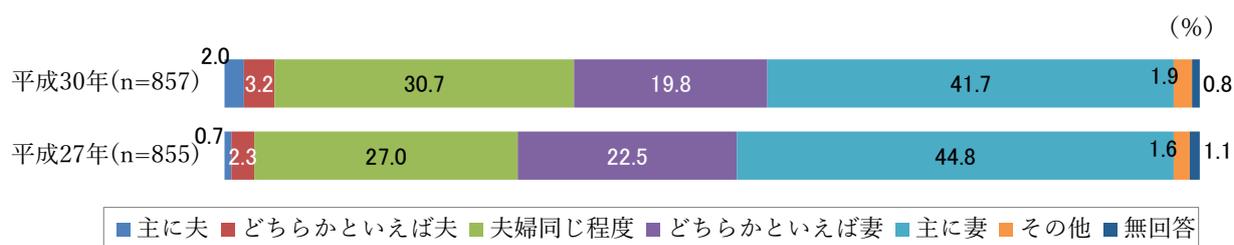
男女別でみると、『妻（計）』は女性が67.9%で男性の55.3%より12.6ポイント高くなっている。一方、「夫婦同じ程度」は男性が31.1%で女性の24.3%より6.8ポイント高くなっている。

年代別でみると、「夫婦同じ程度」は男女ともに20代が50.0%を超えている。



### ③ そうじ

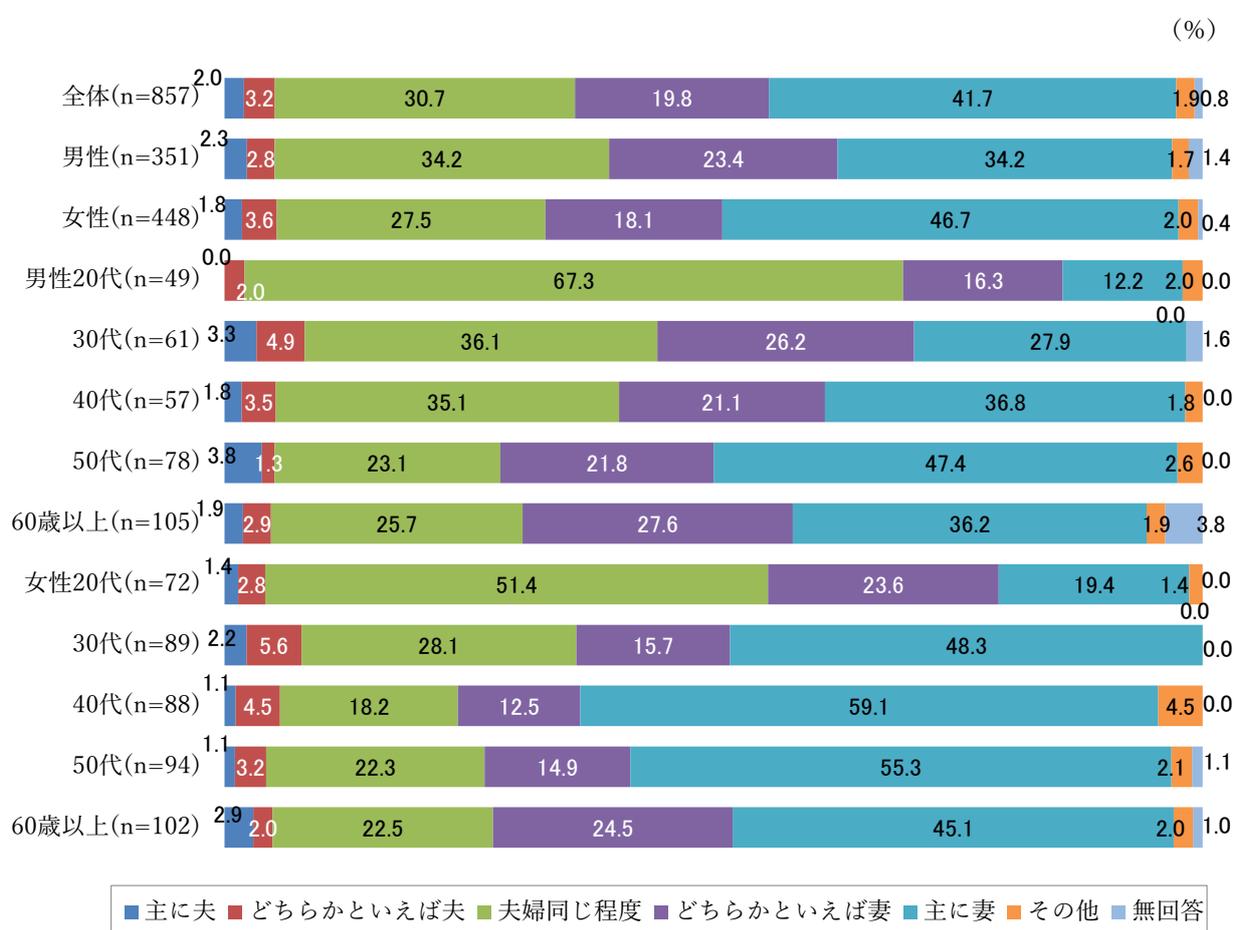
「そうじ」について、「夫婦同じ程度」は30.7%で前回調査に比べ3.7ポイント増加している。



#### 【性・年代別】

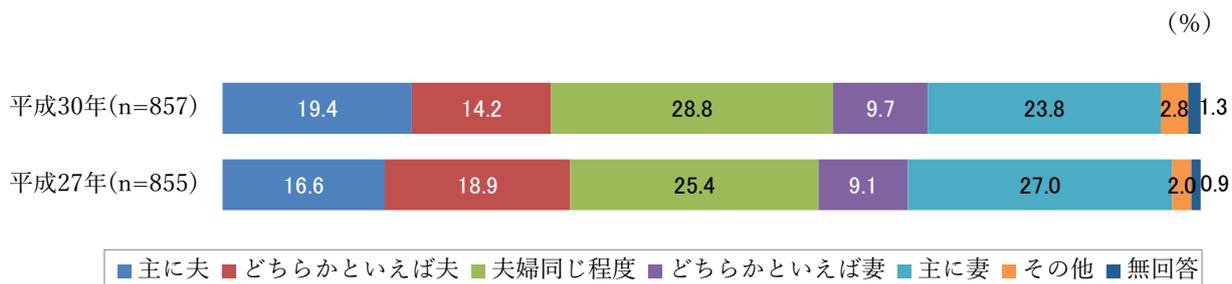
男女別でみると、『妻（計）』は女性が64.8%で男性の57.6%より7.2ポイント高くなっている。一方、「夫婦同じ程度」は男性が34.2%で女性の27.5%より6.7ポイント高くなっている。

年代別でみると、「夫婦同じ程度」は男女ともに20代が50.0%を超えている。



#### ④ ゴミ出し

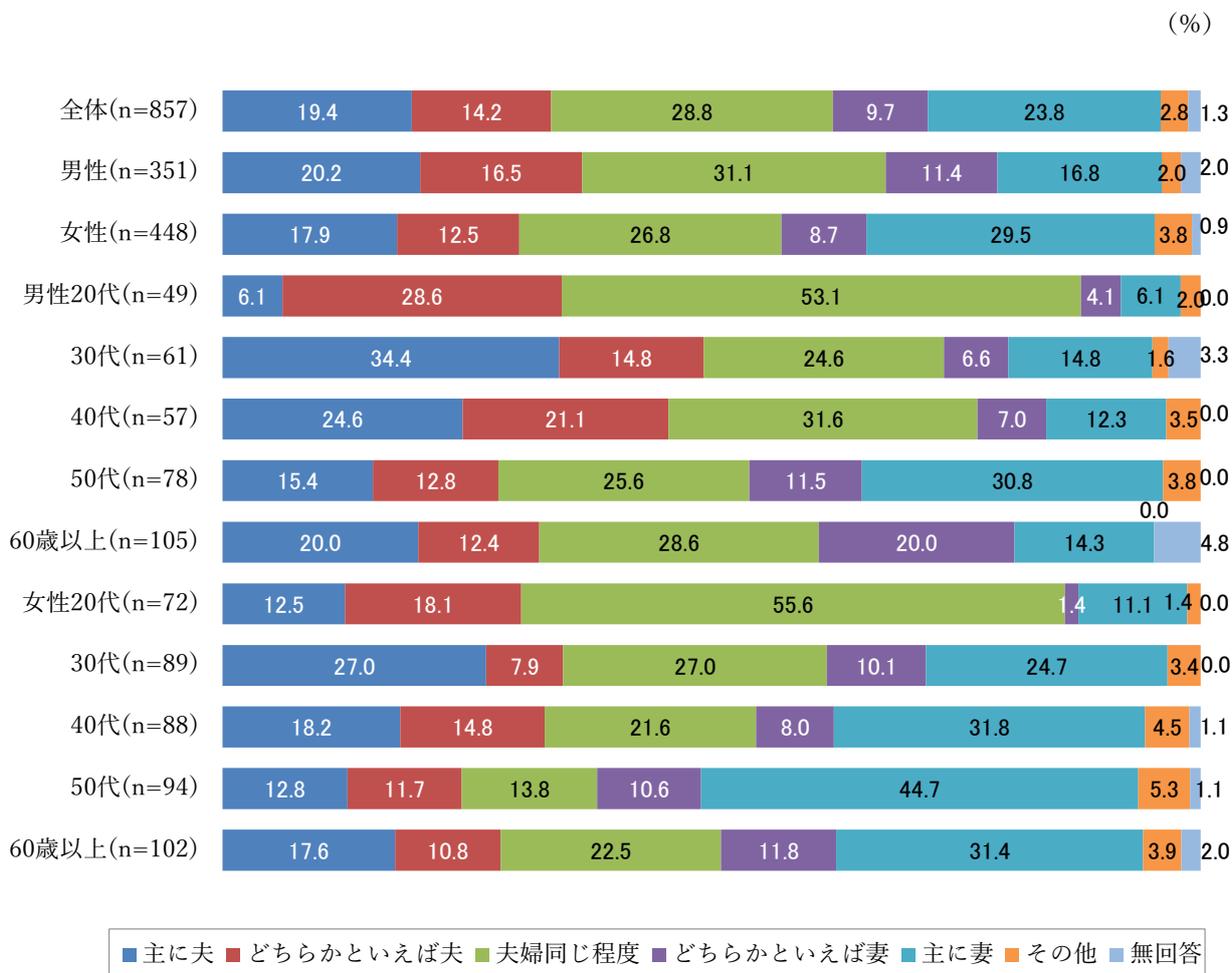
「ゴミ出し」について、「夫婦同じ程度」は28.8%で前回調査に比べ3.4ポイント増加している。



#### 【性・年代別】

男女別で見ると、『妻（計）』は女性が38.2%で男性の28.2%より10.0ポイント高くなっている。一方、「夫婦同じ程度」は男性が31.1%で女性の26.8%より4.3ポイント高くなっている。

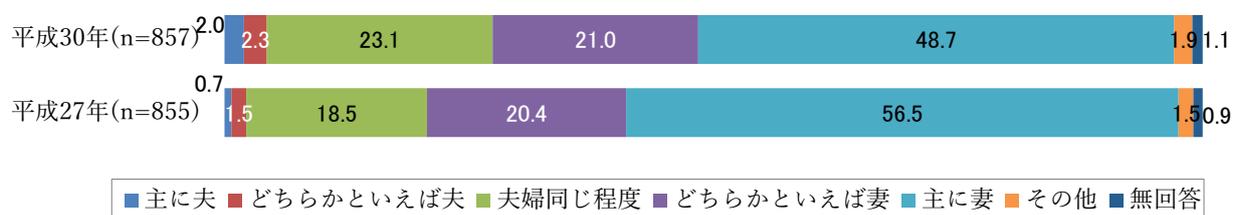
年代別で見ると、「夫婦同じ程度」は男女ともに20代が50.0%を超えている。



## ⑤ 洗濯

「洗濯」について、「夫婦同じ程度」は23.1%で前回調査に比べ4.6ポイント増加している。

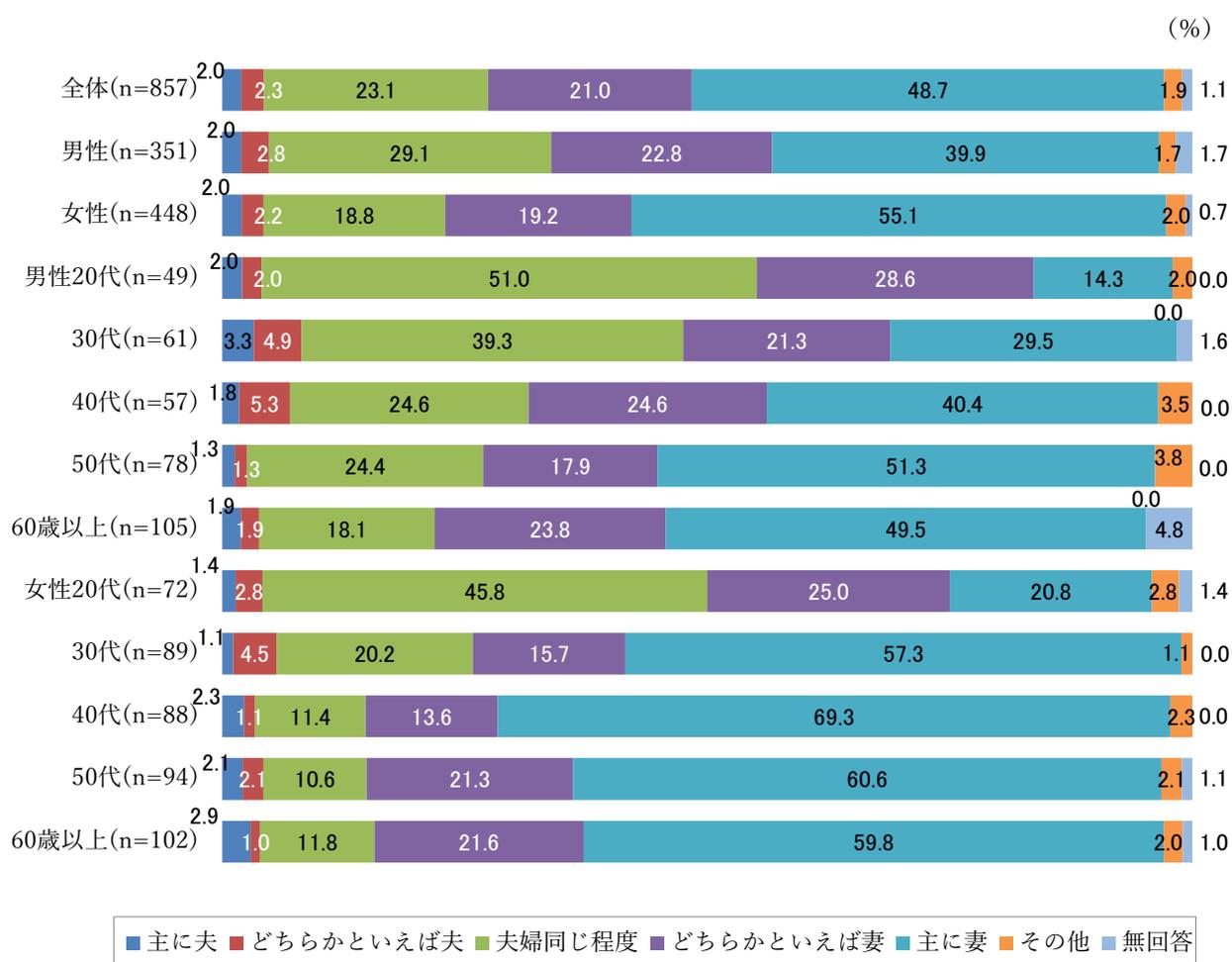
(%)



### 【性・年代別】

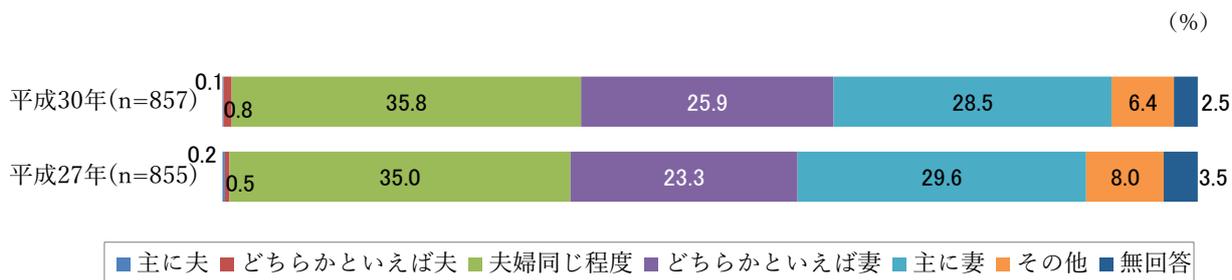
男女別で見ると、『妻（計）』は女性が74.3%で男性の62.7%より11.6ポイント高くなっている。一方、「夫婦同じ程度」は男性が29.1%で女性の18.8%より10.3ポイント高くなっている。

年代別で見ると、「夫婦同じ程度」は男女ともに20代が一番高く、40.0%を超えている。



## ⑥ 子どもの世話

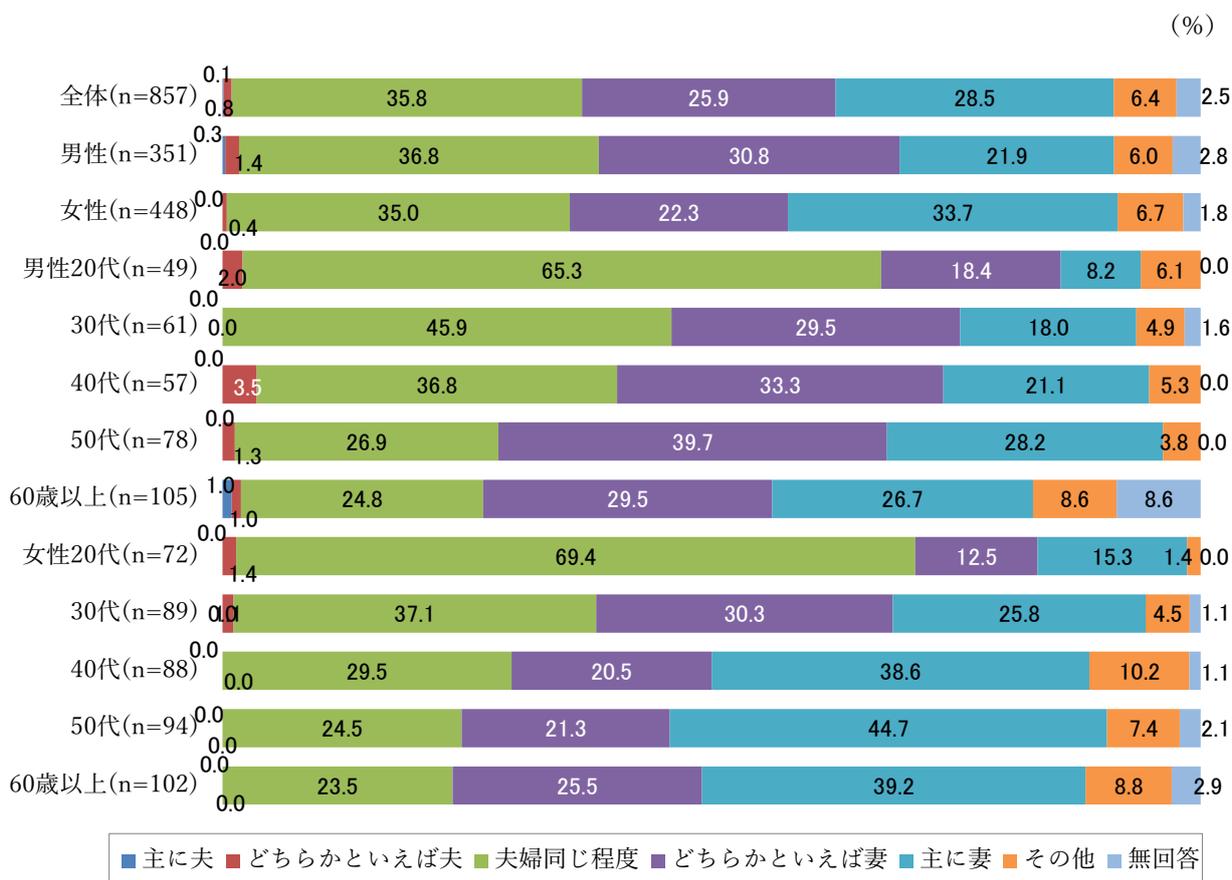
「子どもの世話」について、「夫婦同じ程度」は35.8%で前回調査に比べ0.8ポイント増加している。



### 【性・年代別】

男女別でみると、『妻（計）』は女性が56.0%で男性の52.7%より3.3ポイント高くなっている。一方、「夫婦同じ程度」は男性が36.8%で女性の35.0%より1.8ポイント高くなっている。

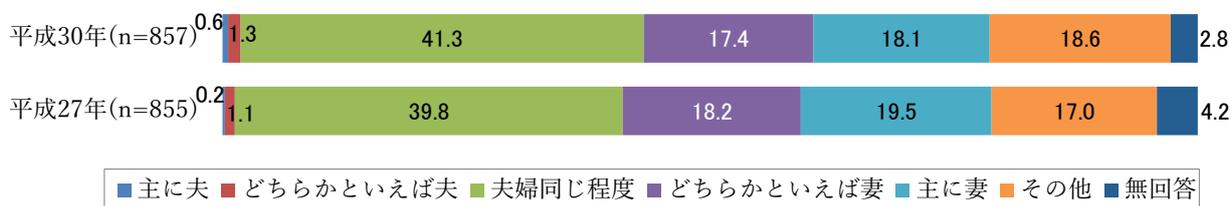
年代別でみると、「夫婦同じ程度」は男女ともに20代が60.0%を超えている。



### ⑦ 親や身内の介護

「親や身内の介護」について、「夫婦同じ程度」は41.3%で前回調査に比べ1.5ポイント増加している。

(%)

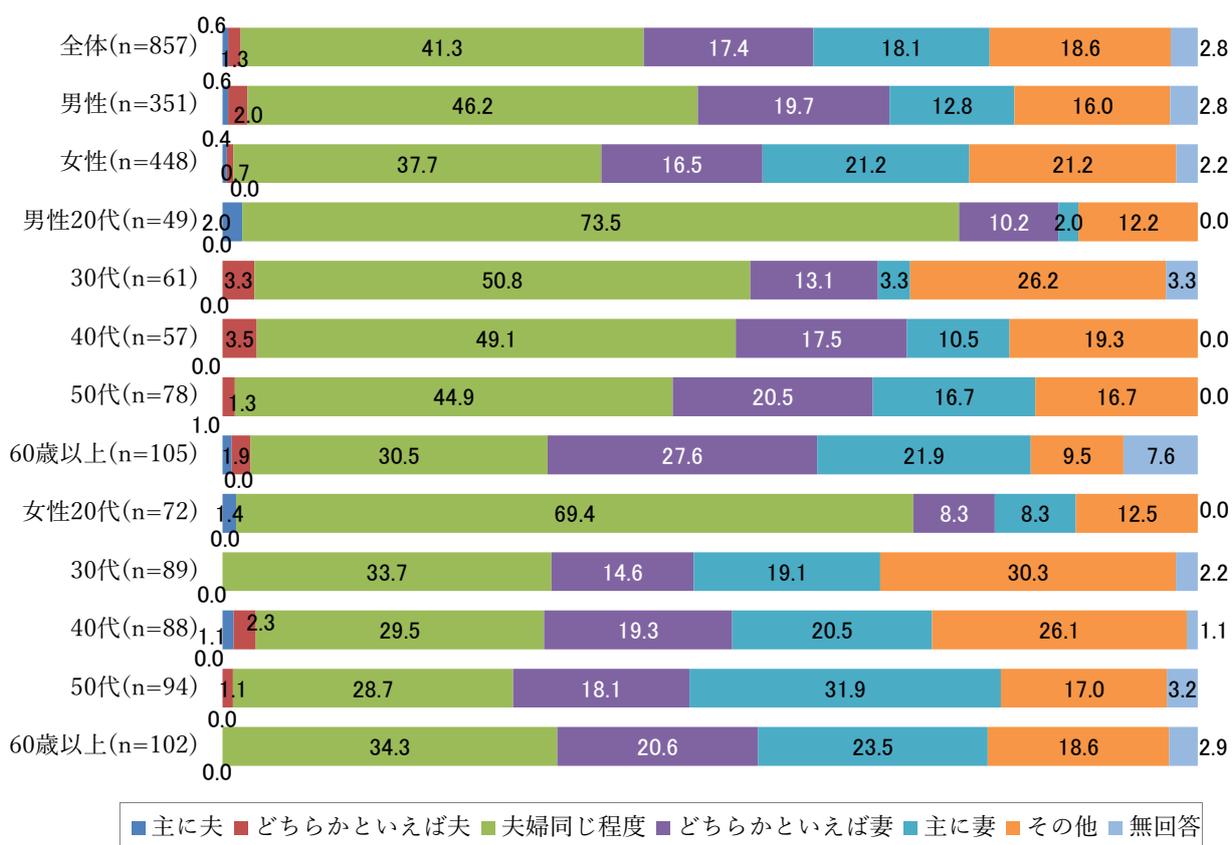


#### 【性・年代別】

男女別で見ると、『妻（計）』は女性が37.7%で男性の32.5%より5.2ポイント高くなっている。一方、「夫婦同じ程度」は男性が46.2%で女性の37.7%より8.5ポイント高くなっている。

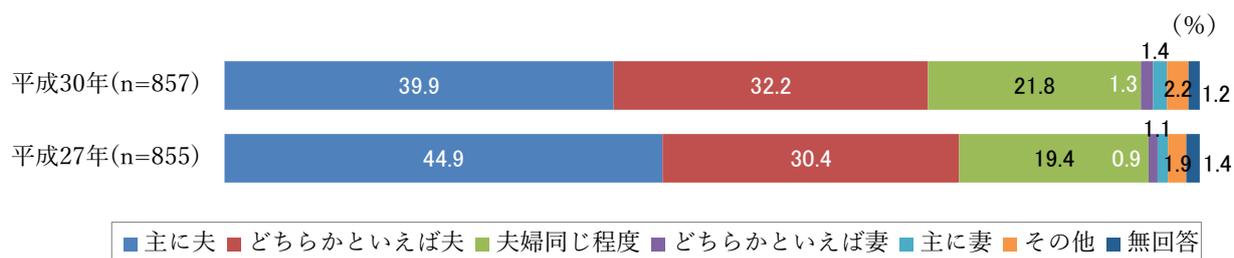
年代別で見ると、「夫婦同じ程度」で50.0%を超えているのは男性が20代と30代、女性は20代のみとなっている。

(%)



## ⑧ 主な収入

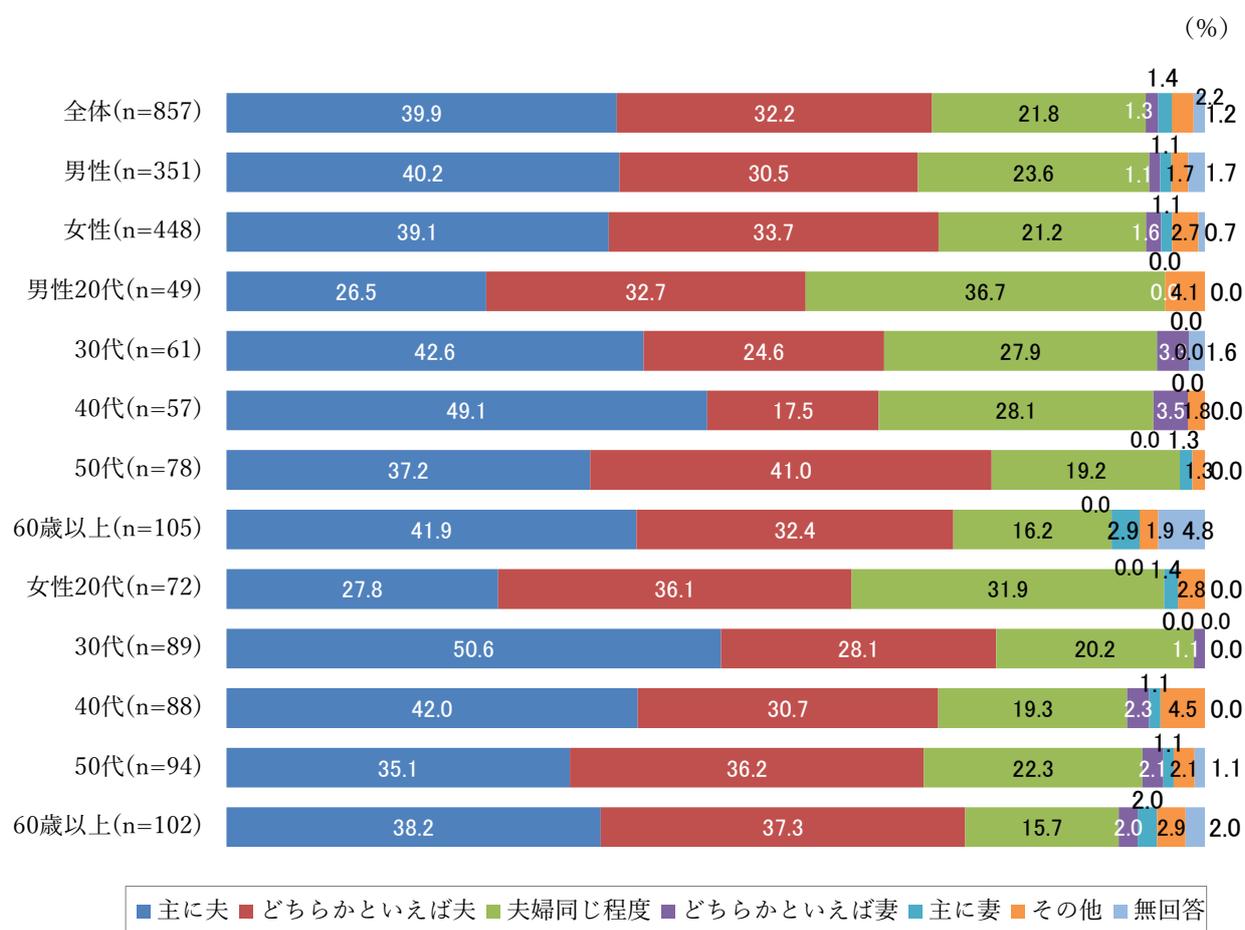
「主な収入」について、「夫婦同じ程度」は21.8%で前回調査に比べ2.4ポイント増加している。



### 【性・年代別】

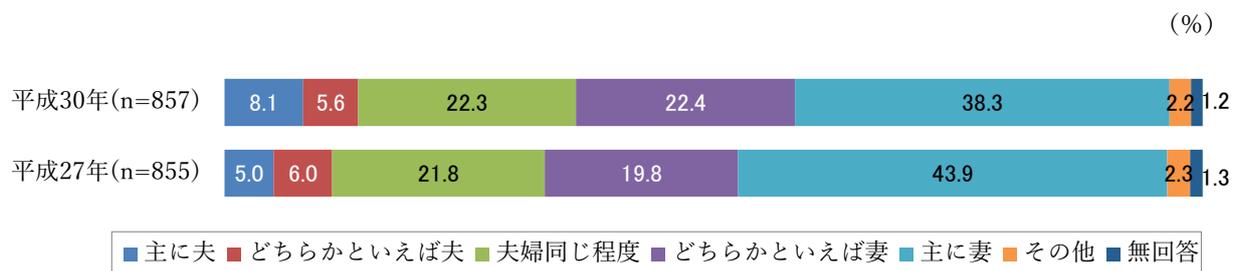
男女別で見ると、おおきな違いはみられない。

年代別で見ると、「夫婦同じ程度」は男女ともに20代が一番高くなっている。



## ⑨ 家計の管理

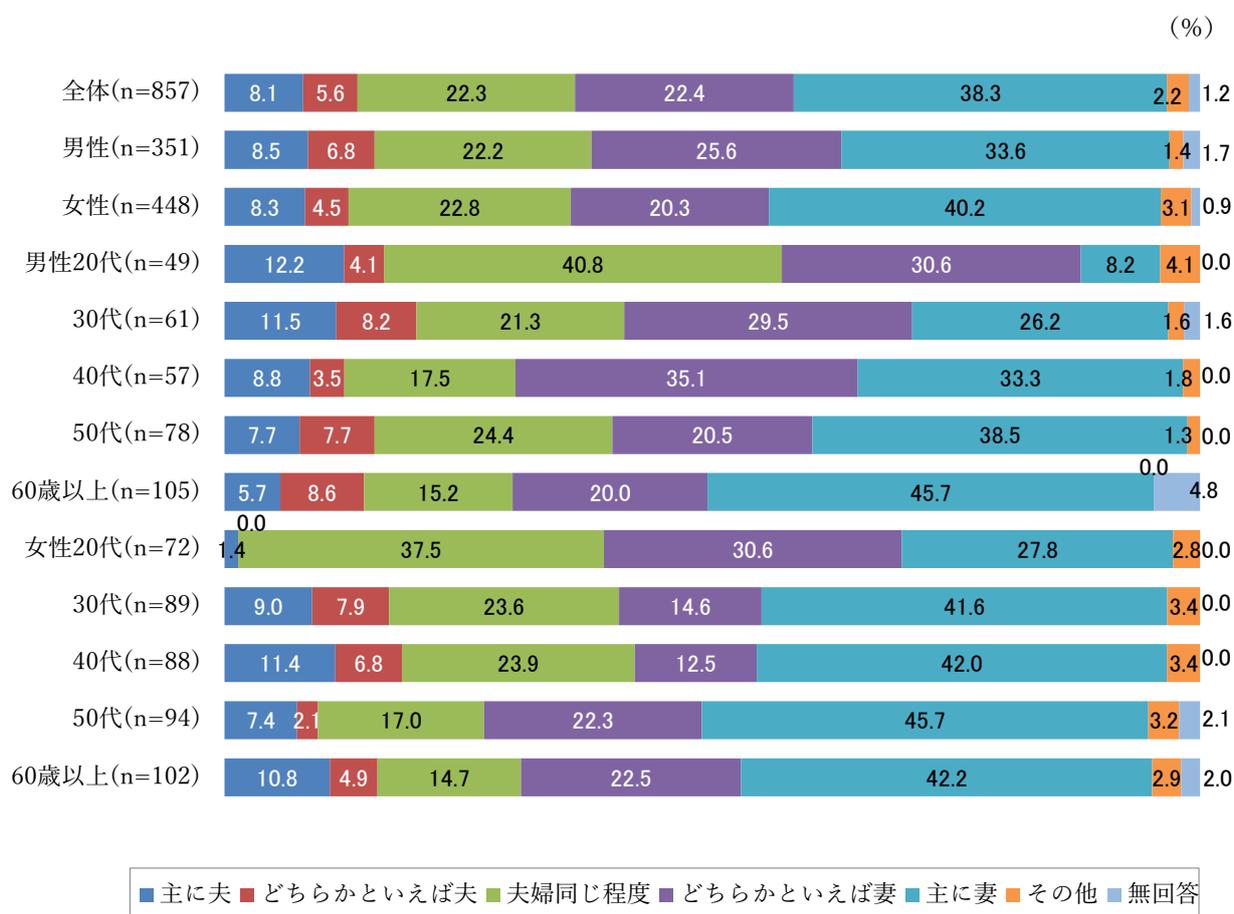
「家計の管理」について、「夫婦同じ程度」は22.3%で前回調査に比べ0.5ポイント増加している。



### 【性・年代別】

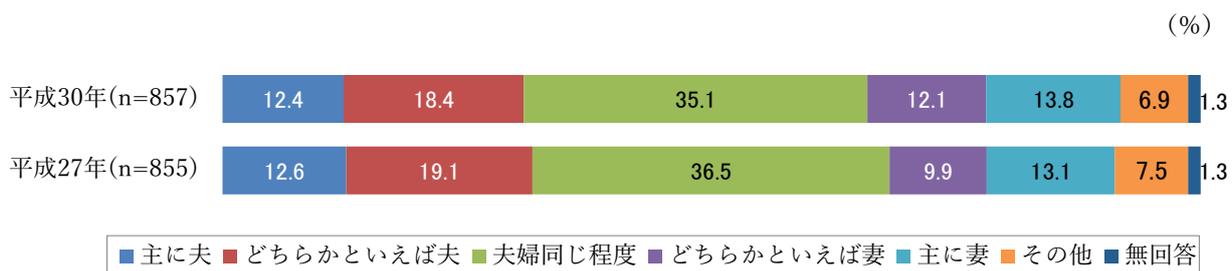
男女別で見ると、『妻（計）』は女性が60.5%で男性の59.2%より1.3ポイント高くなっている。一方、「夫婦同じ程度」は男性が22.2%で女性の22.8%より0.6ポイント低くなっている。

年代別で見ると、「夫婦同じ程度」は男女ともに20代が一番高くなっている。



### ⑩ 町内行事などの参加

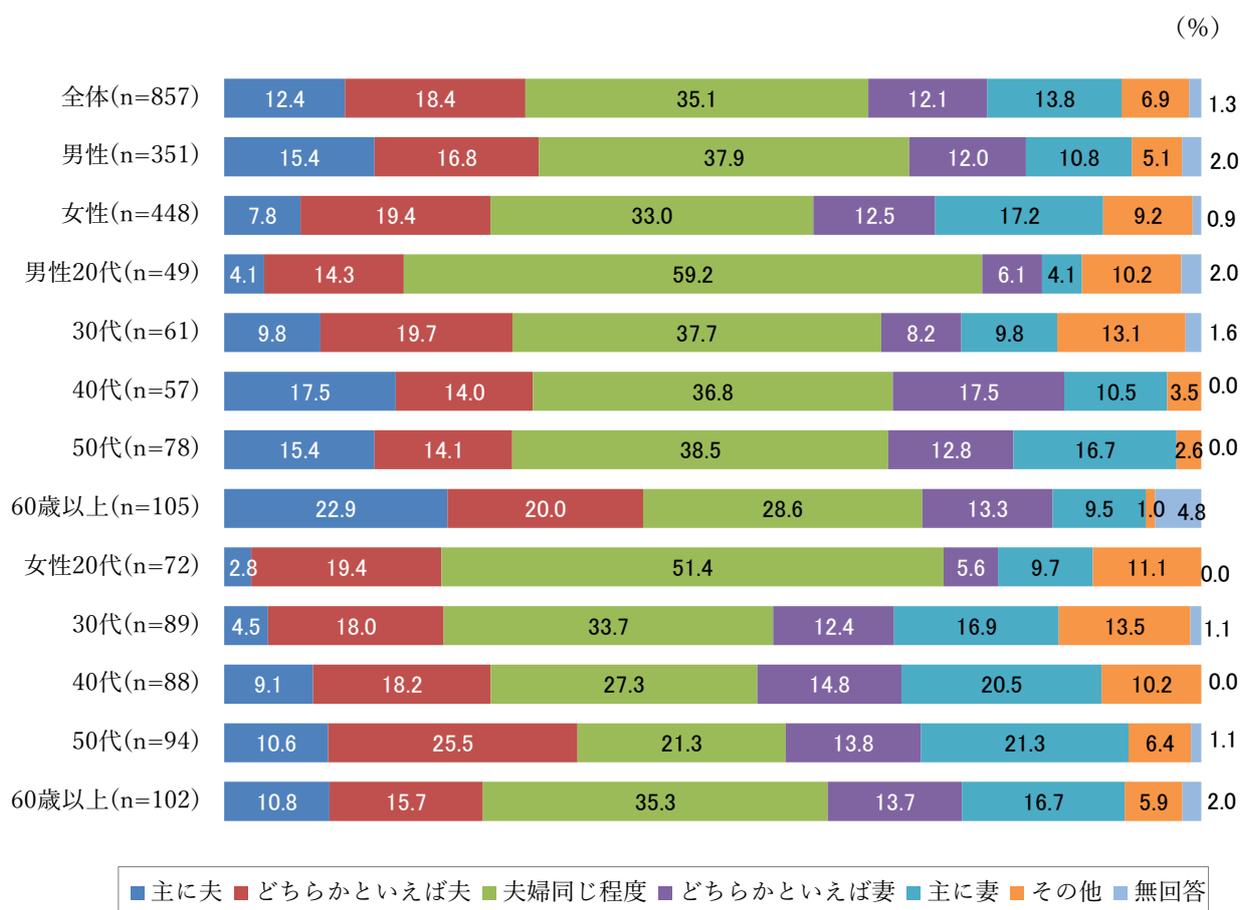
「町内行事などの参加」について、「夫婦同じ程度」は35.1%で前回調査に比べ1.4ポイント減少している。



#### 【性・年代別】

男女別で見ると、『妻（計）』は女性が29.7%で男性の22.8%より6.9ポイント高くなっている。一方、「夫婦同じ程度」は男性が37.9%で女性の33.0%より4.9ポイント高くなっている。

年代別で見ると、「夫婦同じ程度」は男女ともに20代が50.0%を超えている。

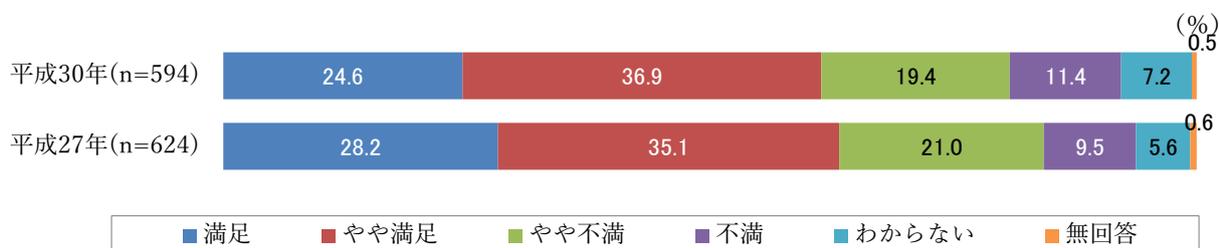


### (3) 夫婦の役割分担の満足度

【問6】 あなたは、夫婦間の役割分担の現状について、どのように思っていますか。

【全体】

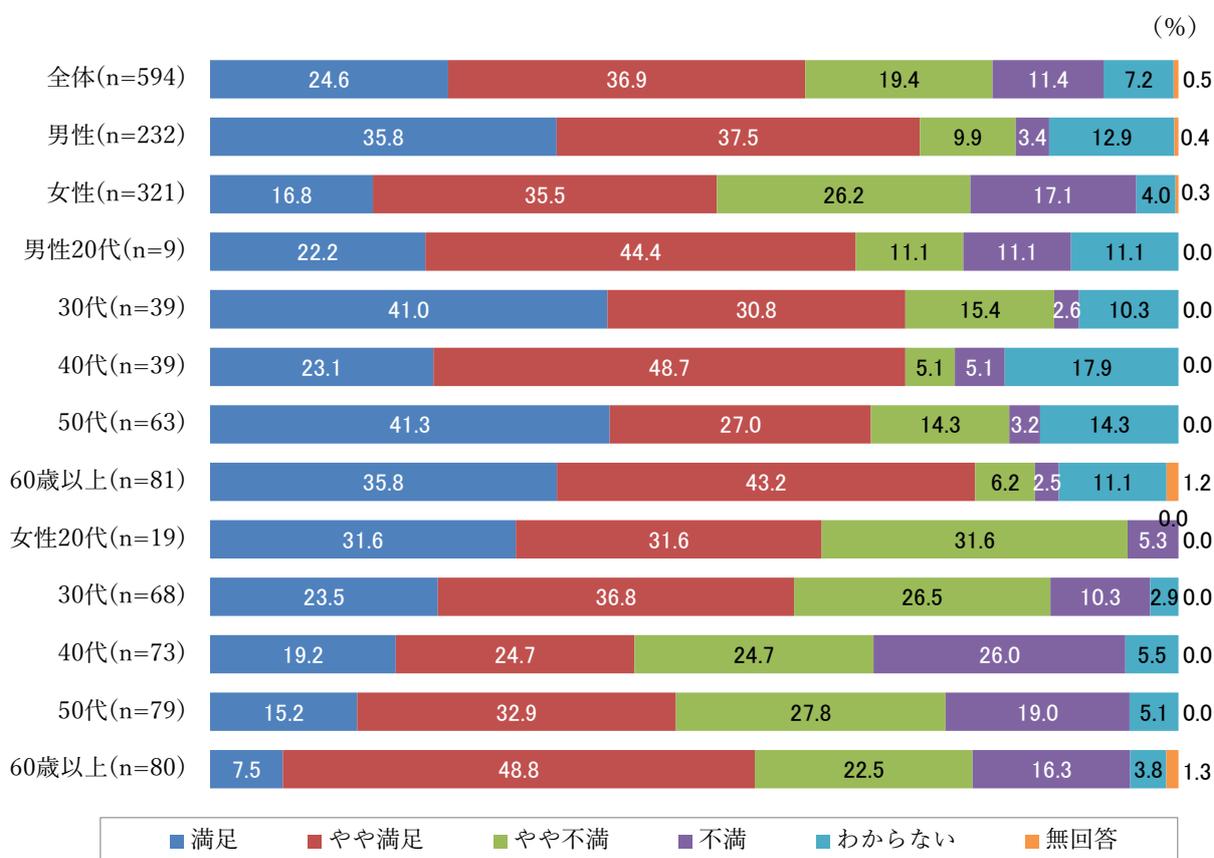
夫婦の役割分担の現状については、「満足」「やや満足」を合わせた『満足（計）』は61.5%で前回調査と比べて1.8ポイント減少している。



【性別・年代別】

男女別で見ると、『満足（計）』は男性が73.3%で女性の52.3%より21.0ポイント高くなっている。一方、「不満」「やや不満」を合わせた『不満（計）』は女性が43.3%で男性の13.3%より30.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、『満足（計）』は男性では60歳以上の79.0%が最も高く、各年代でもすべて65.0%以上となっている。一方、『不満（計）』は女性の40代が50.7%で最も高く、次いで50代が46.8%の順で高くなっている。

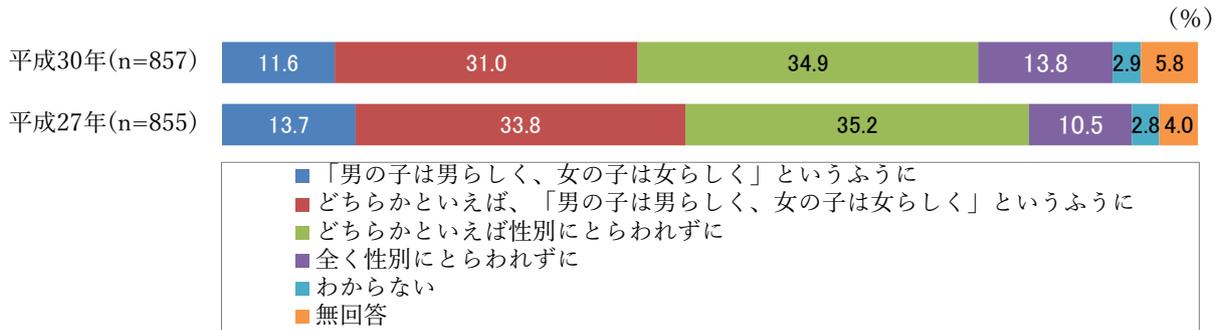


#### (4) 自分の子どもの育て方

【問7】 あなたは、自分の子どもをどう育てたいと思いますか。子どもがいない場合は、いと仮定して選んでください。

【全体】

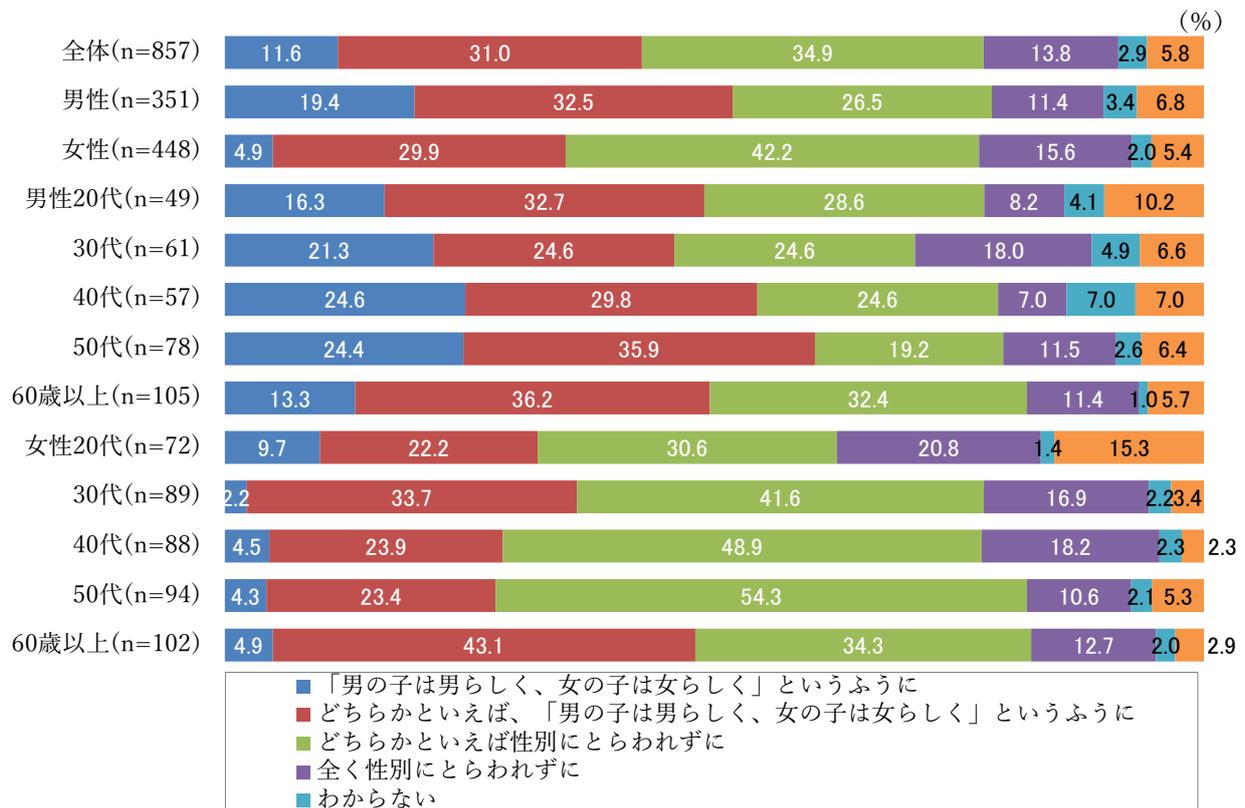
自分の子どもの育て方については、「どちらかといえば性別にとらわれずに」「全く性別にとらわれずに」を合わせた『性別にとらわれず（計）』は48.7%で前回調査に比べて3.0ポイント増加している。



【性別・年代別】

男女別でみると、『男らしく、女らしく（計）』は男性が51.9%で女性の34.8%より17.1ポイント高くなっている。一方、『性別にとらわれずに（計）』は女性が57.8%で男性の37.9%より19.9ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、『男らしく、女らしく（計）』は男性では全ての世代で45.0%を超えている。一方、『性別にとらわれずに（計）』は女性の40代が67.1%で最も高く、次いで50代が64.9%で高くなっている。

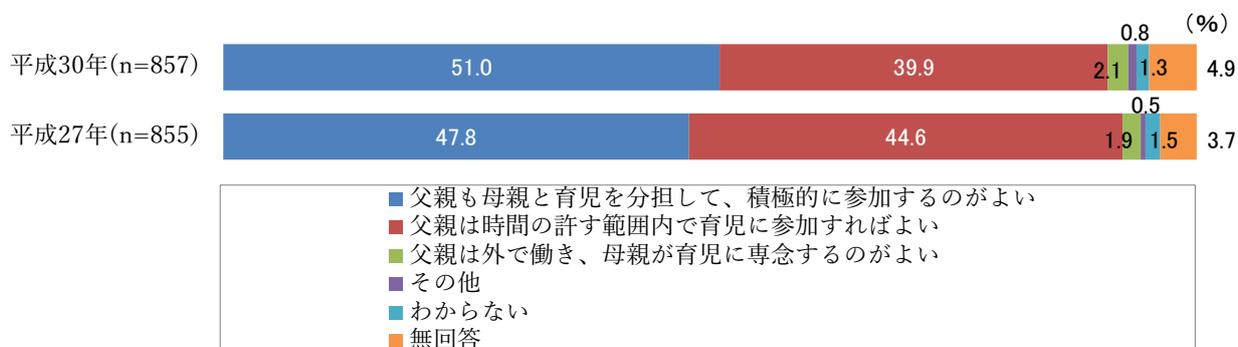


## (5) 父親の育児参加に対する考え

### 【問8】 父親が育児に参加することについて、どう思いますか。

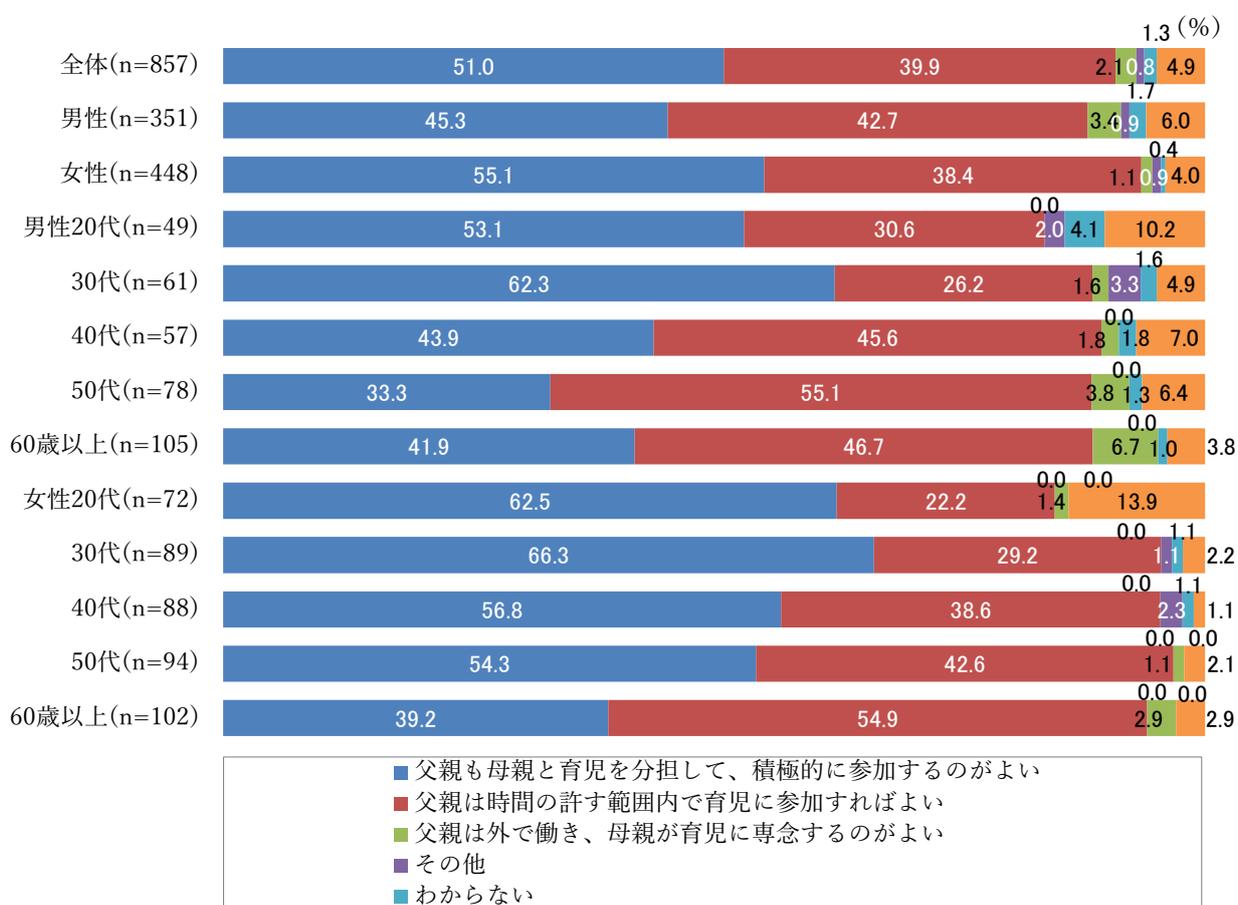
#### 【全体】

父親の育児参加については、「父親も母親と育児を分担して、積極的に参加するのがよい」が51.0%と前回調査に比べ3.2ポイント増加している。



#### 【性別・年代別】

男女別で見ると、「父親も母親と育児を分担して、積極的に参加するのがよい」は男女ともにおおむね年代が低くなるほど割合が高く、女性30代が66.3%、男性30代が62.3%、となっている。一方、「父親は時間の許す範囲内で育児に参加すればよい」は男女ともおおむね年代が高くなるほど割合が高くなっている。



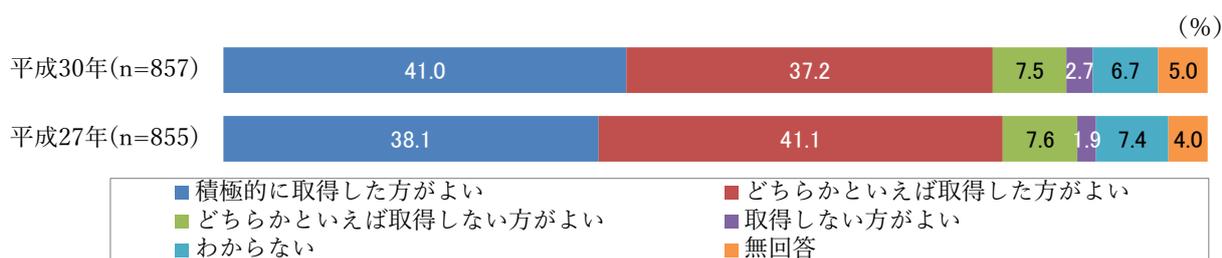
(6) 男性が育児休業や介護休業を取得することについての考え

【問9】 育児や家族介護を行うために、法律に基づく育児休業や介護休業の制度を活用して、男性が育児休業や介護休業を取得することについてどのように思いますか。

① 育児休業

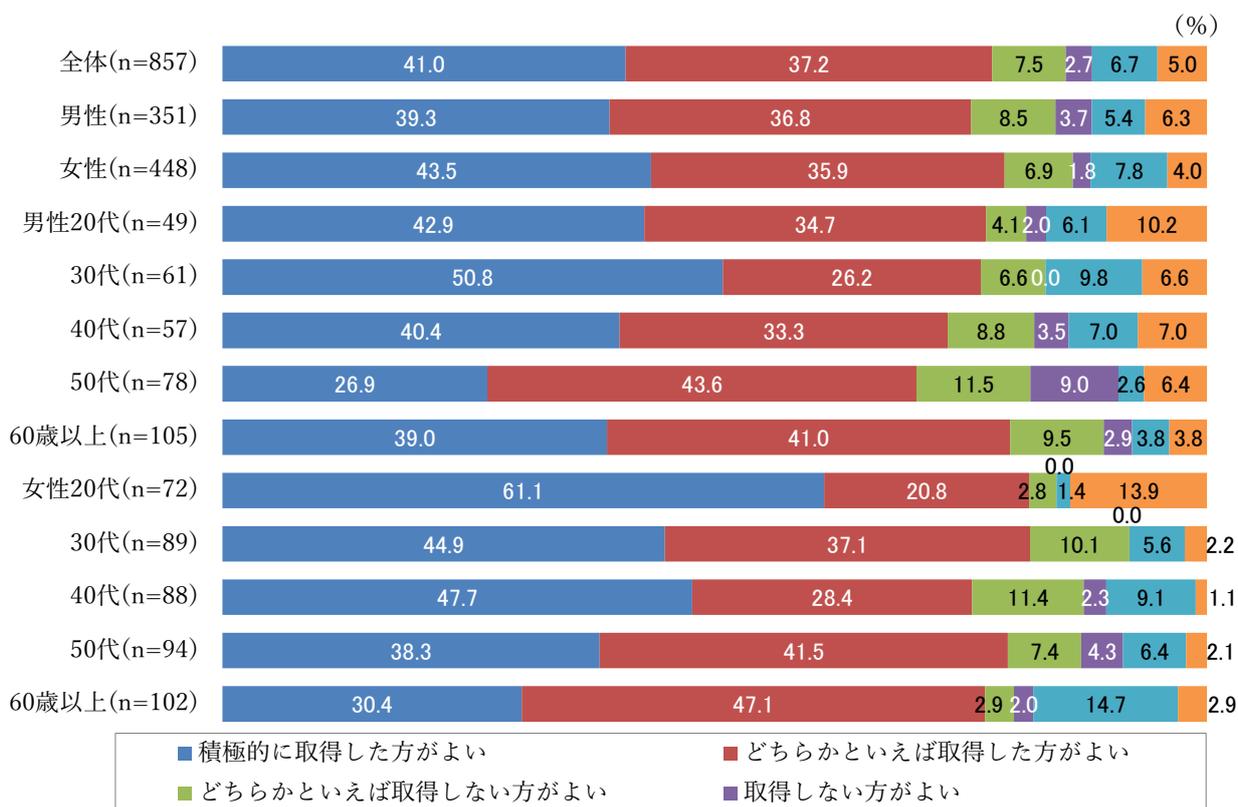
【全体】

男性が育児休業を取得することについては、「積極的に取得した方がよい」と「どちらかといえば取得した方がよい」を合わせた『取得した方がよい(計)』は78.2%で前回調査に比べ1.0ポイント減少している。一方、「どちらかといえば取得しないほうがよい」と「取得しない方がよい」を合わせた『取得しない方がよい(計)』は10.2%で前回調査より0.7ポイント増加している。



【性別・年代別】

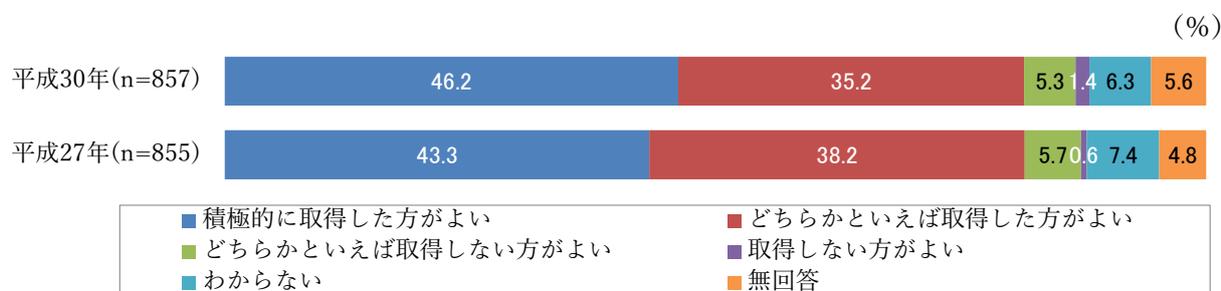
男女別でみると、『取得した方がよい(計)』は女性が79.4%で男性の76.1%より3.3ポイント高い。年代別でみると、『取得した方がよい(計)』は男性が60歳以上の80.0%が最高で各年代とも70.0%を超えている。女性は30代の82.0%が最高で20代が81.9%、それ以外の年代も70.0%を超えている。一方、『取得しない方がよい(計)』は男性の50代が20.5%、女性の40代が13.7%で高くなっている。



## ② 介護休業

### 【全体】

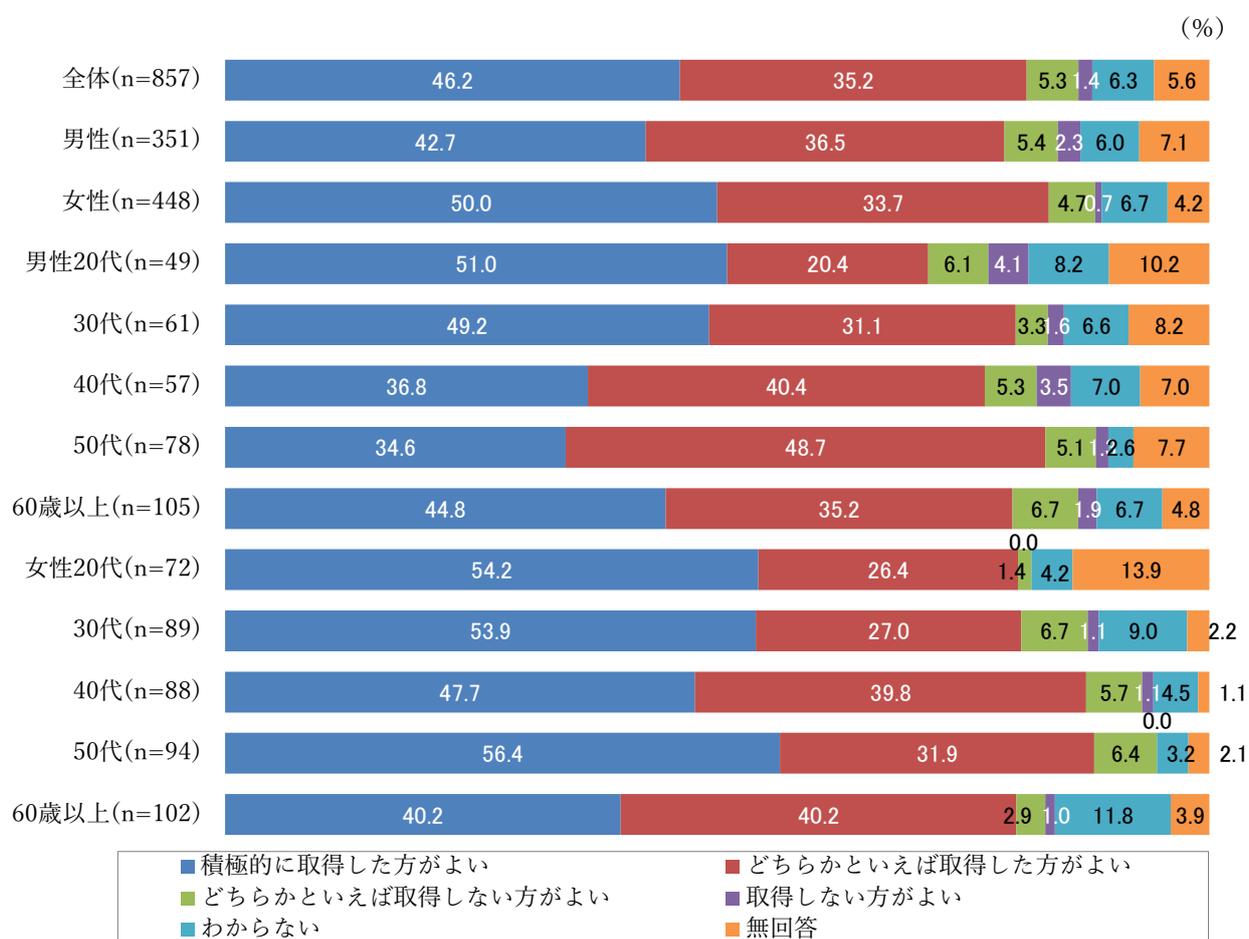
男性が介護休業を取得することについては、「積極的に取得した方がよい」と「どちらかといえば取得した方がよい」を合わせた『取得した方がよい（計）』は81.4%で前回調査と比べ0.1ポイント減少している。一方、「どちらかといえば取得しないほうがよい」と「取得しないほうがよい」を合わせた『取得しない方がよい（計）』は6.7%で前回調査より0.4ポイント減少している。



### 【性別・年代別】

男女別でみると、『取得した方がよい（計）』は女性が83.7%で男性の79.2%より4.5ポイント高くなっている。性・年代別でみると、『取得した方がよい（計）』は女性の50代で88.3%が一番高く全ての年代で80.0%を超えている。男性は50代で83.8%、30代で80.3%、60歳以上で80.%と高くなっている。

一方、『取得しない方がよい（計）』は男性の20代が10.2%が一番高くなっている。



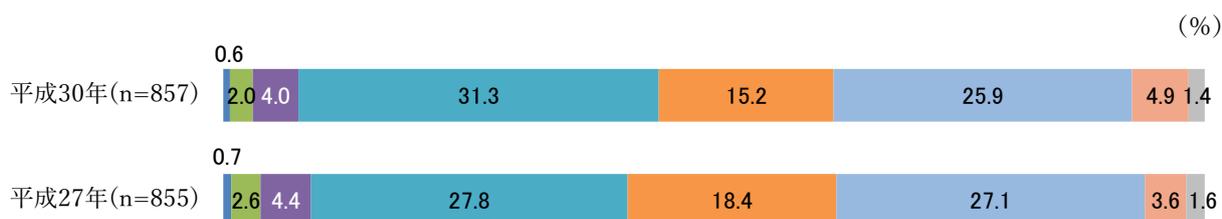
#### 4. 女性と仕事について

##### (1) 女性が仕事を持つことについての考え

###### 【問10】 女性が仕事を持つことについてどうお考えですか。

###### 【全体】

女性が仕事を持つことについては、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が31.3%で前回調査に比べ3.5ポイント増加し最も高く、次いで、「結婚後や出産後も仕事を続けるが、パートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい」が25.9%で前回調査に比べ1.2ポイント減少し、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が15.2%で前回調査に比べ3.2ポイント減少している。

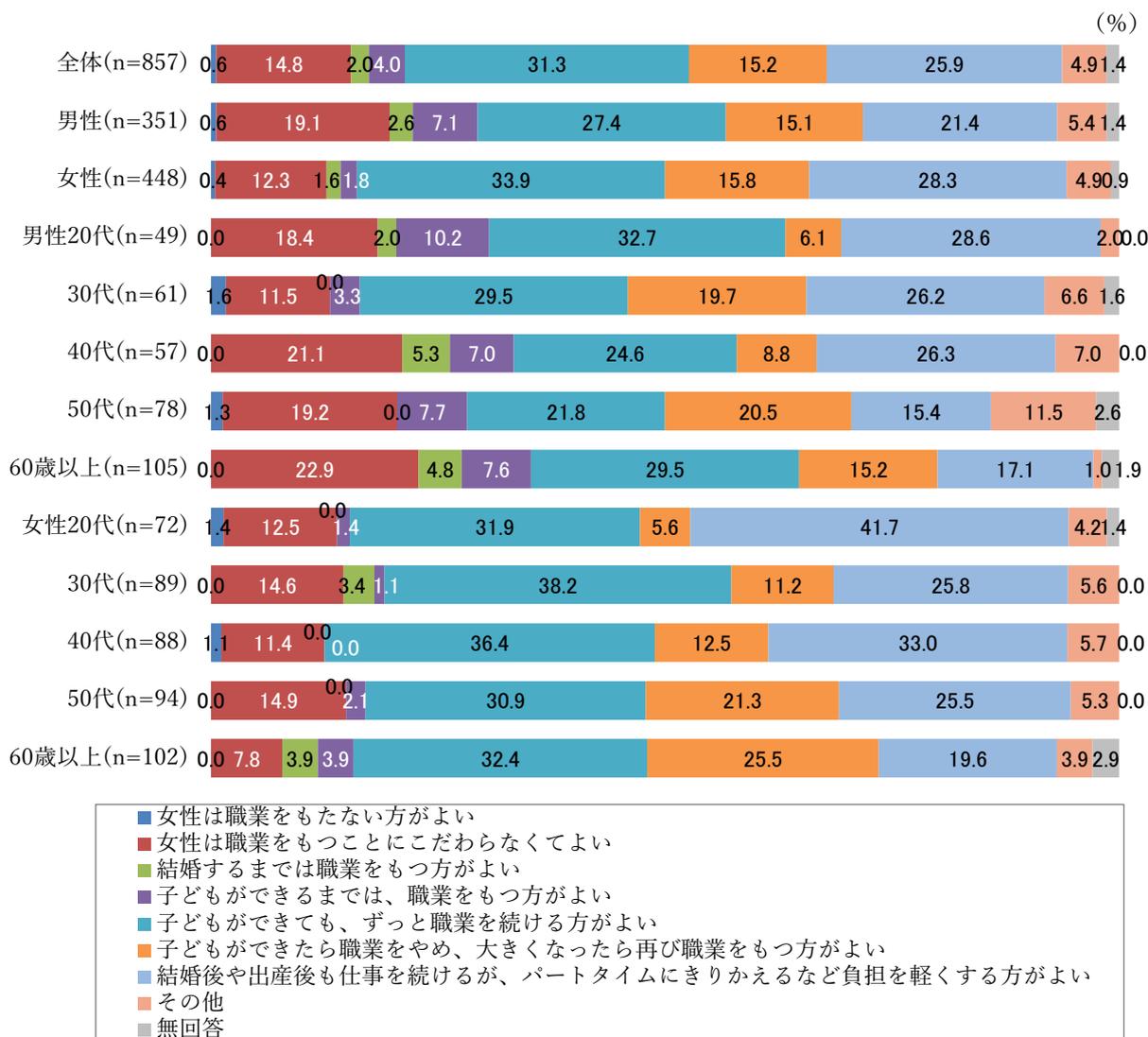


- 女性には職業をもたない方がよい
- 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- 結婚後や出産後も仕事を続けるが、パートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい
- その他
- 無回答

【性・年代別】

男女別でみると、「女性は職業をもつことにこだわらなくてよい」は男性が19.1%で女性の12.3%より6.8ポイント高く、「子どもができるまでは職業をもつ方がよい」は男性が7.1%で女性の1.8%より5.3ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「結婚後や出産後も仕事を続けるが、パートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい」は男性の20代が28.6%、女性の20代が41.7%で高く、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」は男性の20代が32.7%、女性の30代が38.2%と高くなっている。



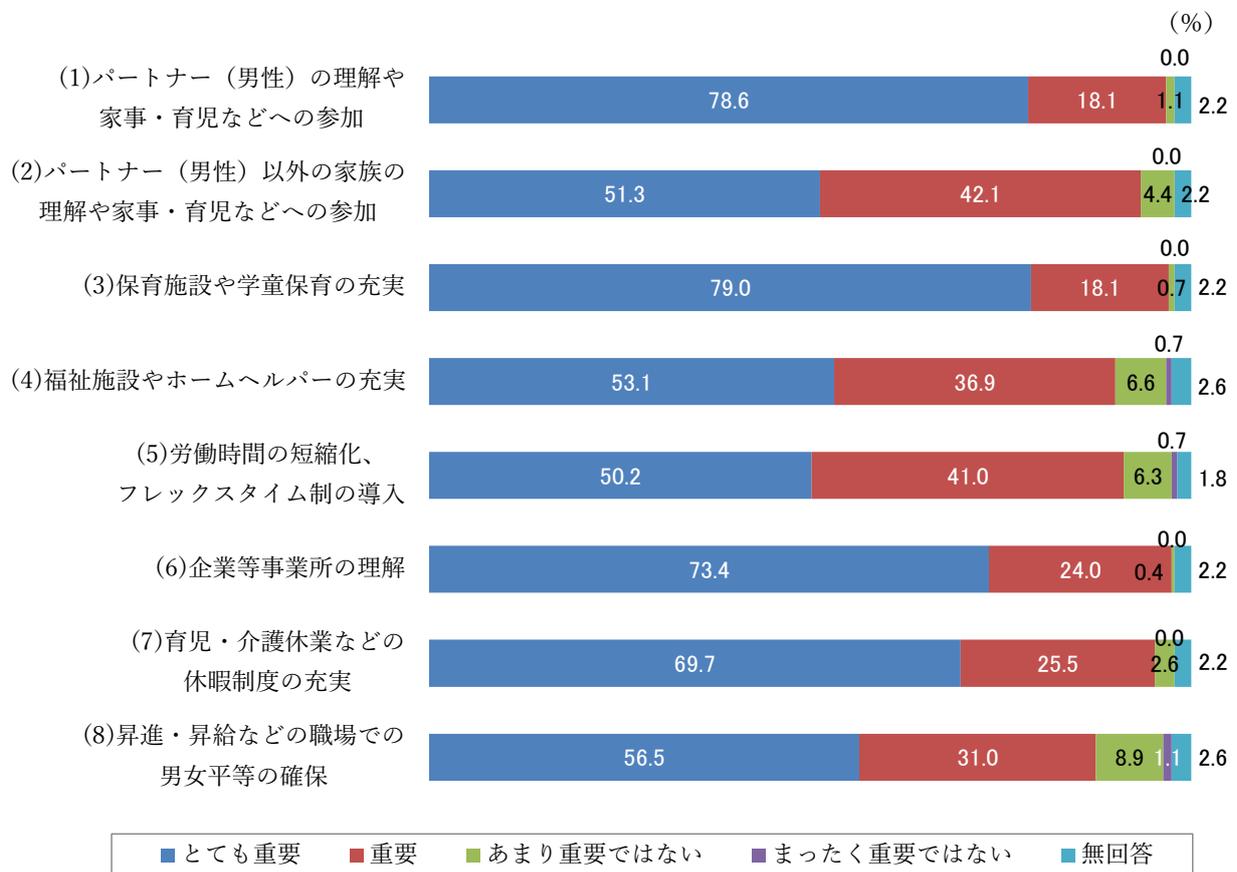
(1 - 1) 女性が結婚後や出産後も退職せずに働き続けるために重要なこと

【問10-1】 女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるためには、どのようなことが重要だと思いますか。

【全体】

女性が仕事を持つことについて、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と回答した268人に働き続けるために重要なことを聞いたところ、「とても重要」は「保育施設や学童保育の充実」で79.0%と最も高く、次いで「パートナー（男性）の理解や家事・育児などへの参加」の78.6%、「企業等事業所の理解」の73.4%などの順となっている。

また、「とても重要」と「重要」を合わせた『重要（計）』は「企業等事業所の理解」で97.4%と最も高く、次いで、「保育施設や学童保育の充実」の97.1%、「パートナー（男性）の理解や家事・育児などへの参加」の96.7%などの順となっている。



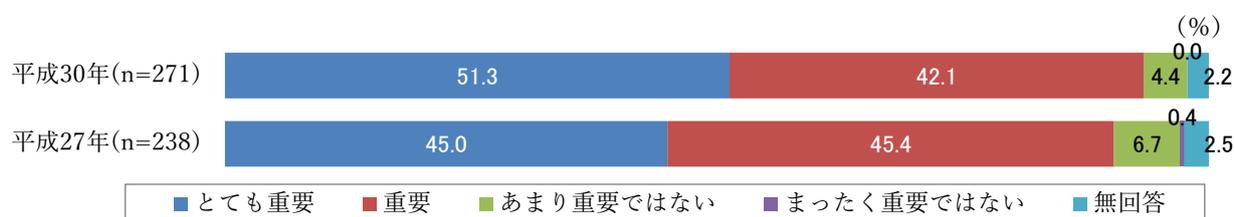
① パートナー（男性）の理解や家事・育児などへの参加

パートナー（男性）の理解や家事・育児などへの参加について、『重要（計）』は96.7%で前回調査より0.7ポイント減少しているが、「とても重要」は5.1ポイント増加している。



② パートナー（男性）以外の家族の理解や家事・育児などへの参加

パートナー（男性）以外の家族の理解や家事・育児などへの参加について、『重要（計）』は93.4%で前回調査より3.0ポイント増加している。



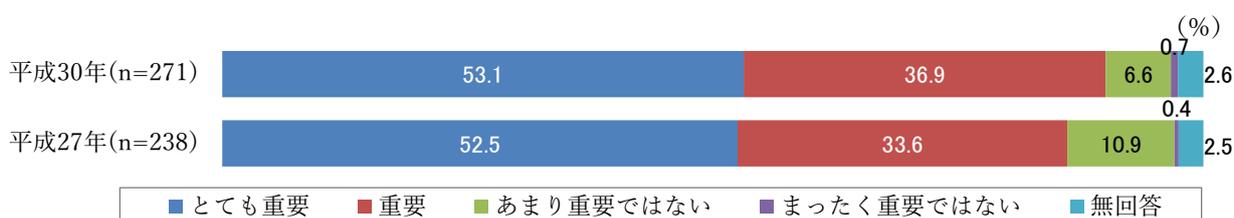
③ 保育施設や学童保育の充実

保育施設や学童保育の充実について、『重要（計）』は97.1%で前回調査より0.5ポイント増加している。



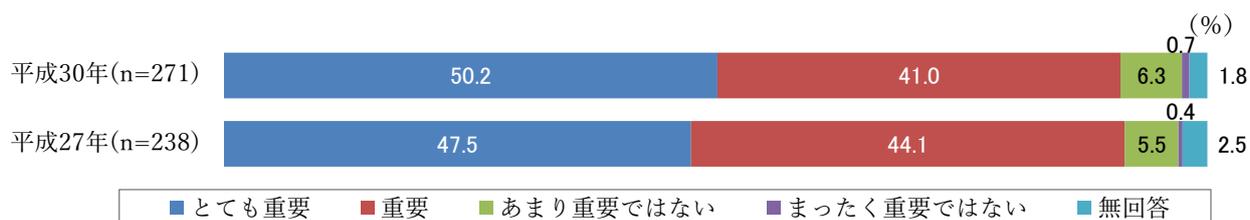
④ 福祉施設やホームヘルパーの充実

福祉施設やホームヘルパーの充実について、『重要（計）』は90.0%で前回調査より3.9ポイント増加している。



### ⑤ 労働時間の短縮化、フレックスタイム制の導入

労働時間の短縮化、フレックスタイム制の導入について、『重要（計）』は91.2%で前回調査より0.4ポイント減少している。



### ⑥ 企業等事業所の理解

企業等事業所の理解について、『重要（計）』は97.4%で前回調査より0.7ポイント増加している。



### ⑦ 育児・介護休業などの休暇制度の充実

育児・介護休業などの休暇制度の充実について、『重要（計）』は95.2%で前回調査より0.2ポイント減少しているが、「とても重要」は5.4ポイント増加している。



### ⑧ 昇進・昇給などの職場での男女平等の確保

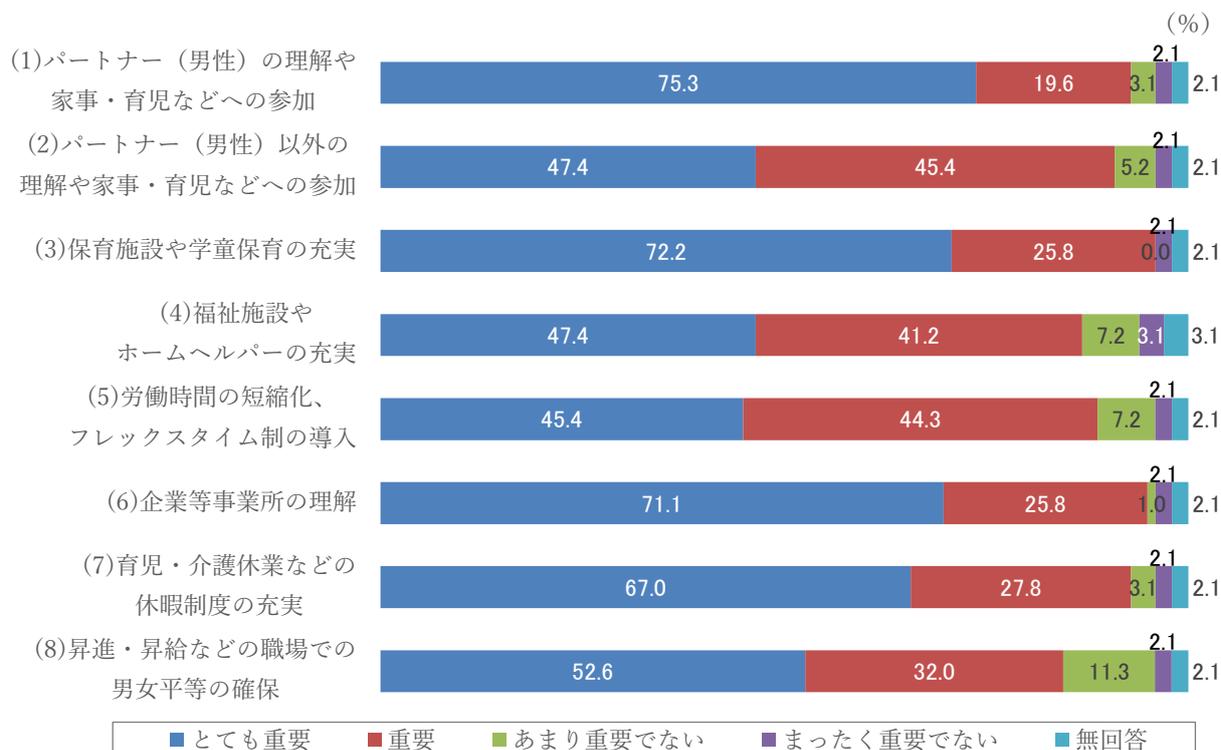
昇進・昇給などの職場での男女平等の確保について、『重要（計）』は87.5%で前回調査より1.4ポイント増加している。



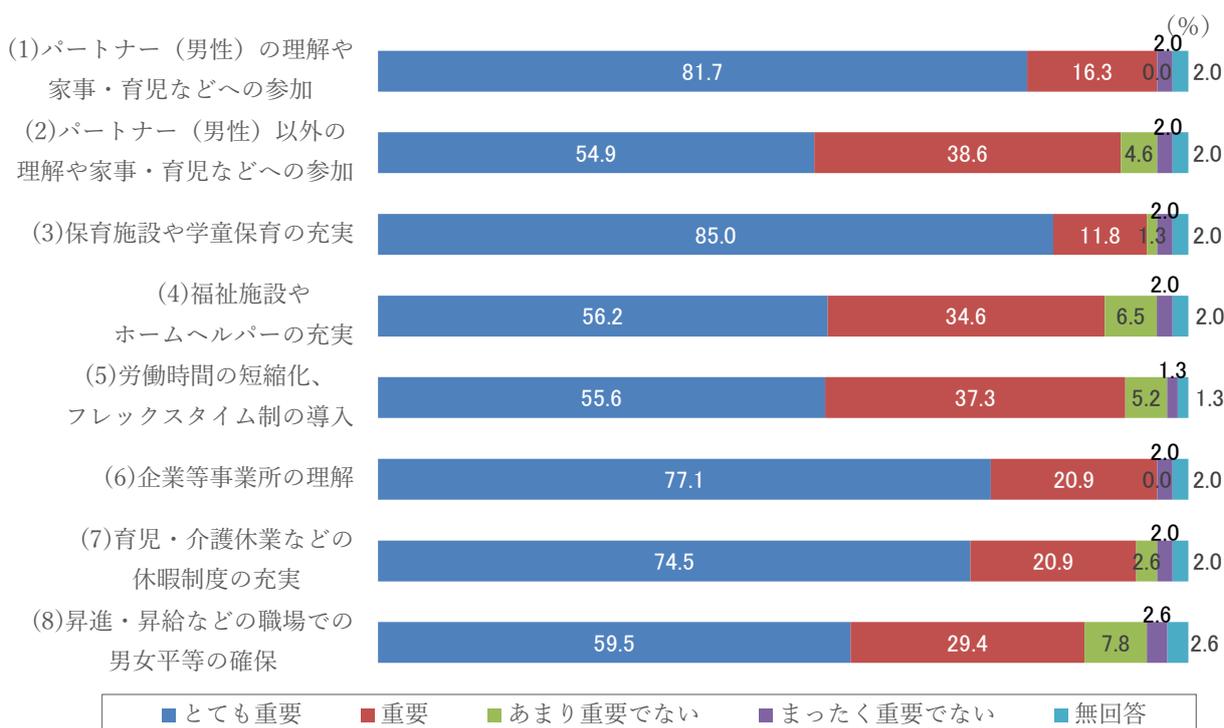
## 【性別】

男女別でみると、『重要（計）』は「昇進・昇給など職場での男女平等の確保」では女性が88.9%で男性の84.6%より4.3ポイント、「労働時間の短縮化、フレックスタイム制の導入」では女性が92.9%で男性の89.7%より3.2ポイント、「パートナー（男性）の理解や家事・育児などへの参加」では女性が98.0%で男性の94.9%より3.1ポイント、それぞれ高くなっている。

### 男性



### 女性

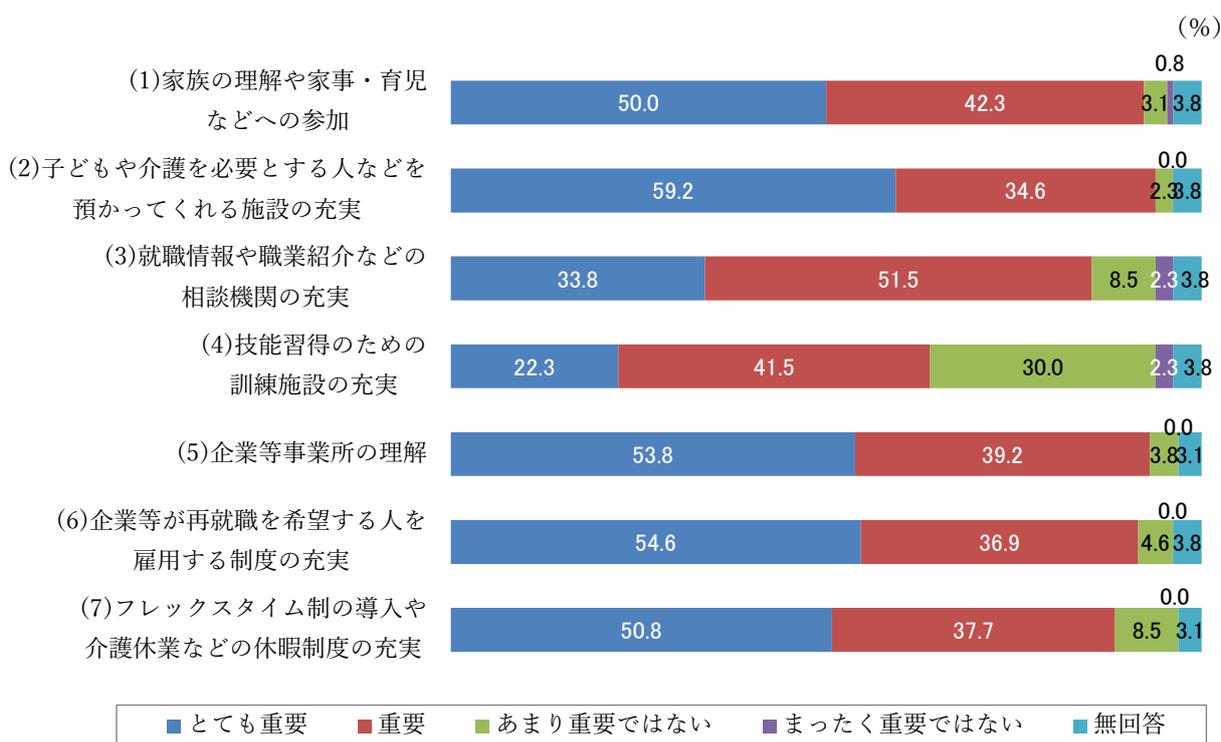


(1 - 2) 結婚や出産のために退職した女性が再就職するために重要なこと

【問10 - 2】 女性が結婚や出産のために退職し、その後再就職するためには、どのようなことが重要だと思いますか。

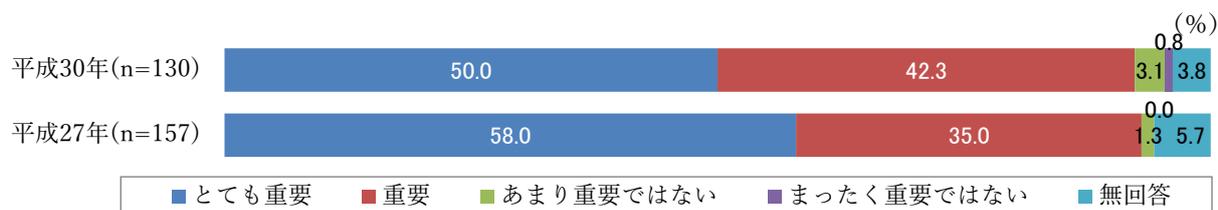
【全体】

女性が仕事を持つことについて、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と回答した130人に再就職するために重要なことを聞いたところ、「とても重要」は「子どもや介護を必要とする人などを預かってくれる施設の充実」で59.2%と最も高く、次いで、「企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実」の54.6%、「企業等事業所の理解」の53.8%などの順となっている。また、「とても重要」と「重要」を合わせた『重要(計)』は「子どもや介護を必要とする人などを預かってくれる施設の充実」で93.8%と最も高く、次いで、「企業等事業所の理解」の93.0%、「家族の理解や家事・育児などへの参加」の92.3%などの順となっている。一方、「あまり重要でない」と「まったく重要でない」を合わせた『重要ではない(計)』は「技能習得のための訓練施設の充実」の32.3%が最も高くなっている。



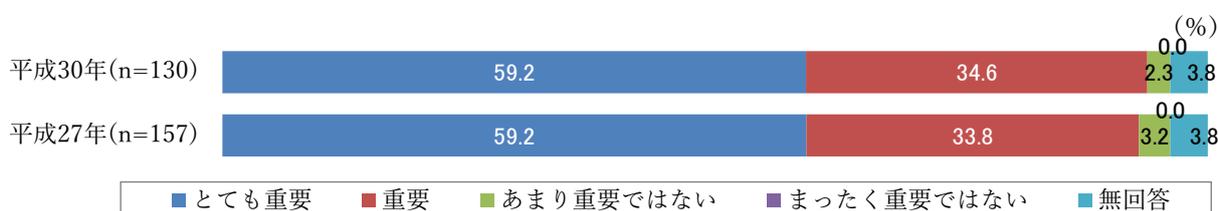
### ① 家族の理解や家事・育児などへの参加

家族の理解や家事・育児などへの参加について、『重要（計）』は92.3%で前回調査より0.7ポイント減少している。



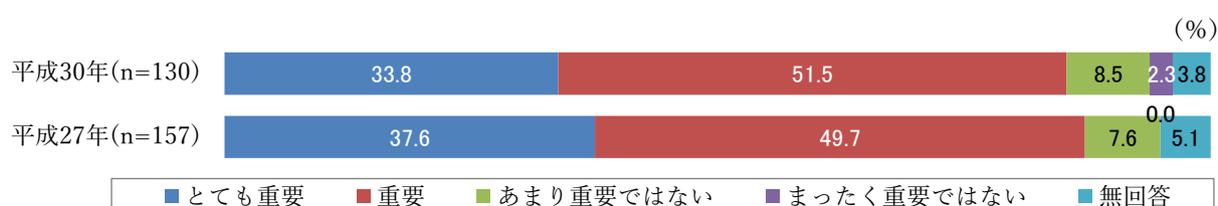
### ② 子どもや介護を必要とする人などを預ってくれる施設の充実

子どもや介護を必要とする人などを預ってくれる施設の充実について、『重要（計）』は93.8%で前回調査より0.8ポイント増加している。



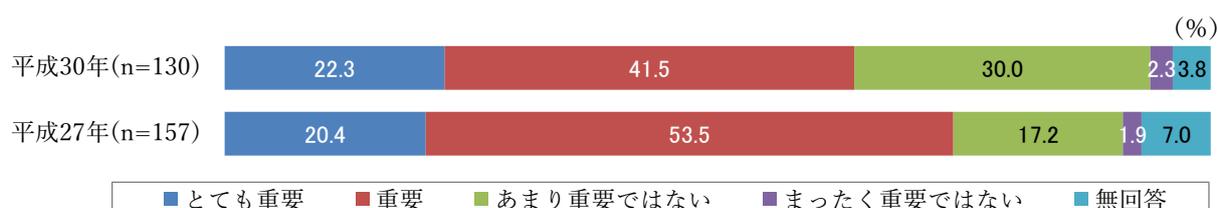
### ③ 就職情報や職業紹介などの相談機関の充実

就職情報や職業紹介などの相談機関の充実について、『重要（計）』は85.3%で前回調査より2.0ポイント減少している。



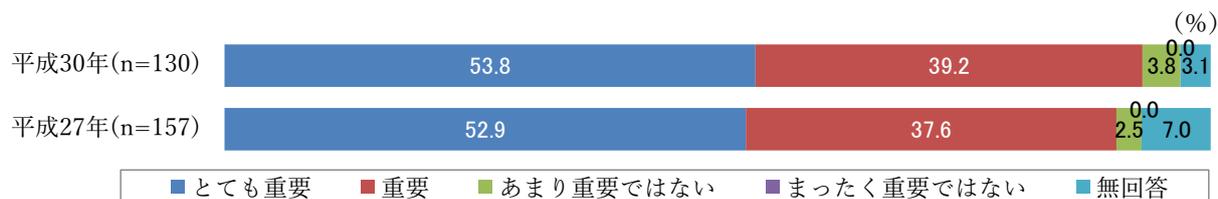
### ④ 技能習得のための訓練施設の充実

技能習得のための訓練施設の充実について、『重要（計）』は63.8%で前回調査より10.1ポイント減少している。



### ⑤ 企業等事業所の理解

企業等事業所の理解について、『重要（計）』は93.0%で前回調査より2.5ポイント増加している。



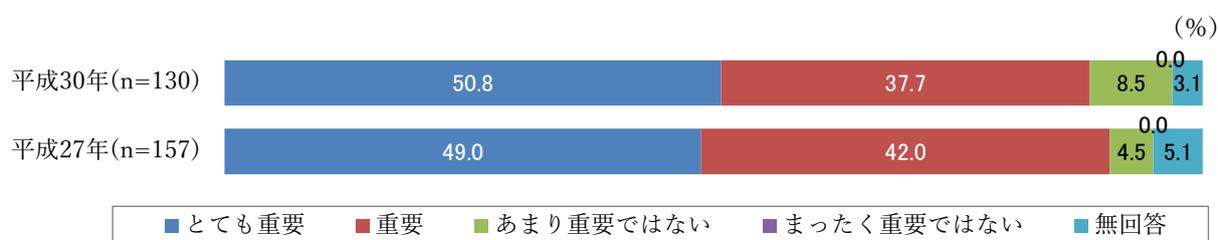
### ⑥ 企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実

企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実について、『重要（計）』は91.5%で前回調査より2.1ポイント減少している。



### ⑦ フレックスタイム制の導入や介護休業などの休暇制度の充実

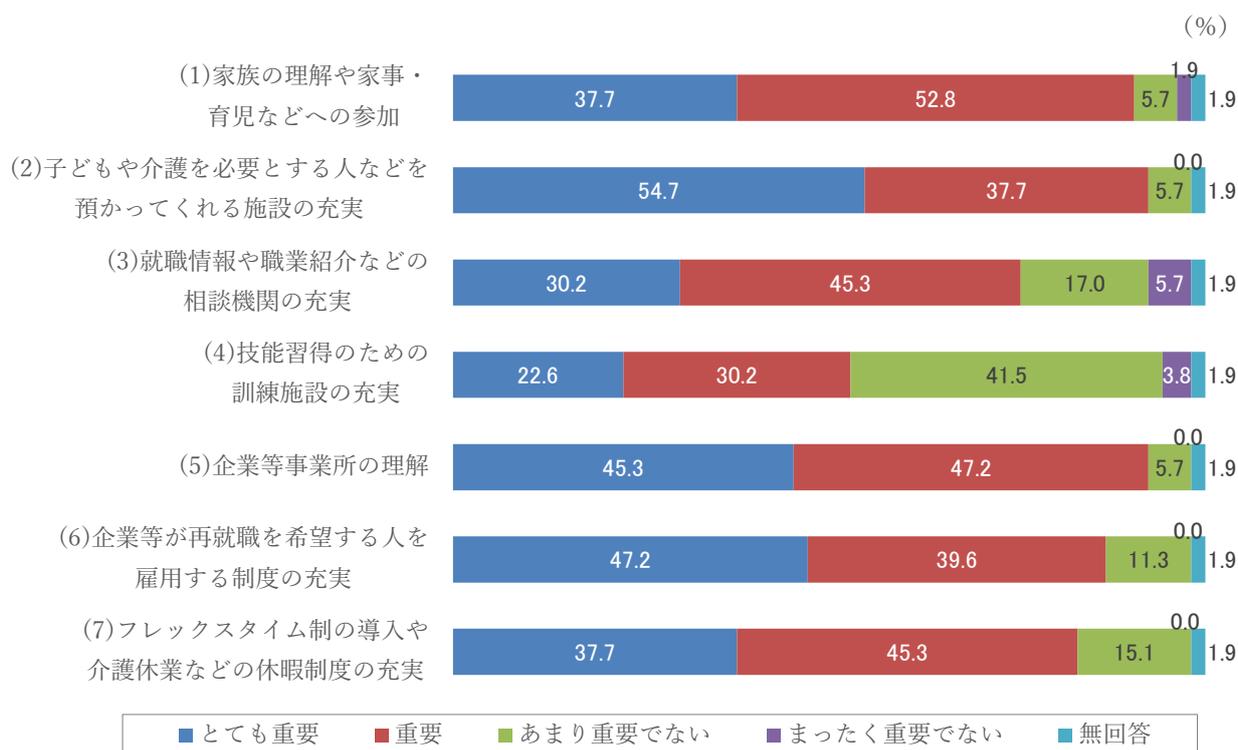
フレックスタイム制の導入や介護休業などの休暇制度の充実について、『重要（計）』は88.5%で前回調査より2.5ポイント減少している。



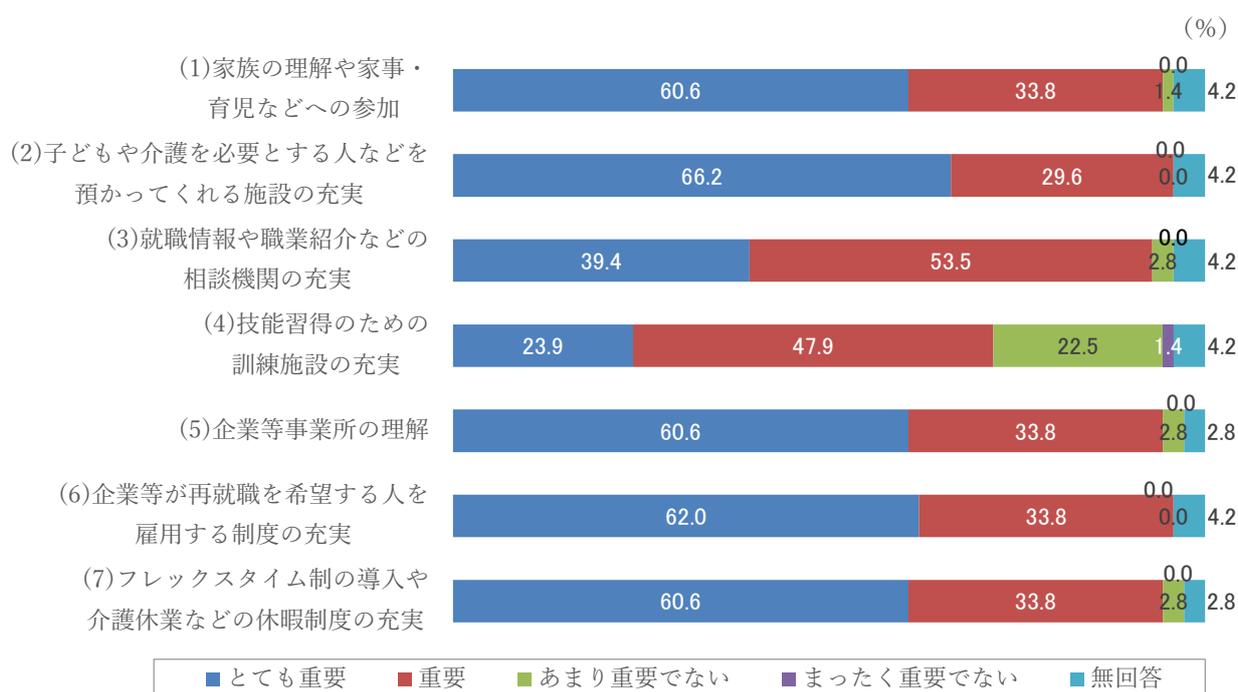
## 【性別】

男女別でみると、『重要（計）』は「技能習得のための訓練施設の充実」では女性が71.8%で男性の52.8%より19.0ポイント、「就職情報や職業紹介などの相談機関の充実」では女性が92.9%で男性の75.5%より17.4ポイント、「フレックスタイム制の導入や介護休業などの休暇制度の充実」では女性が94.4%で男性の83.0%より11.4ポイント、「企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実」では女性が95.8%で男性の86.8%より9.0ポイント、それぞれ高くなっている。

### 男性



### 女性



## 5. 男女の地域・社会参画について

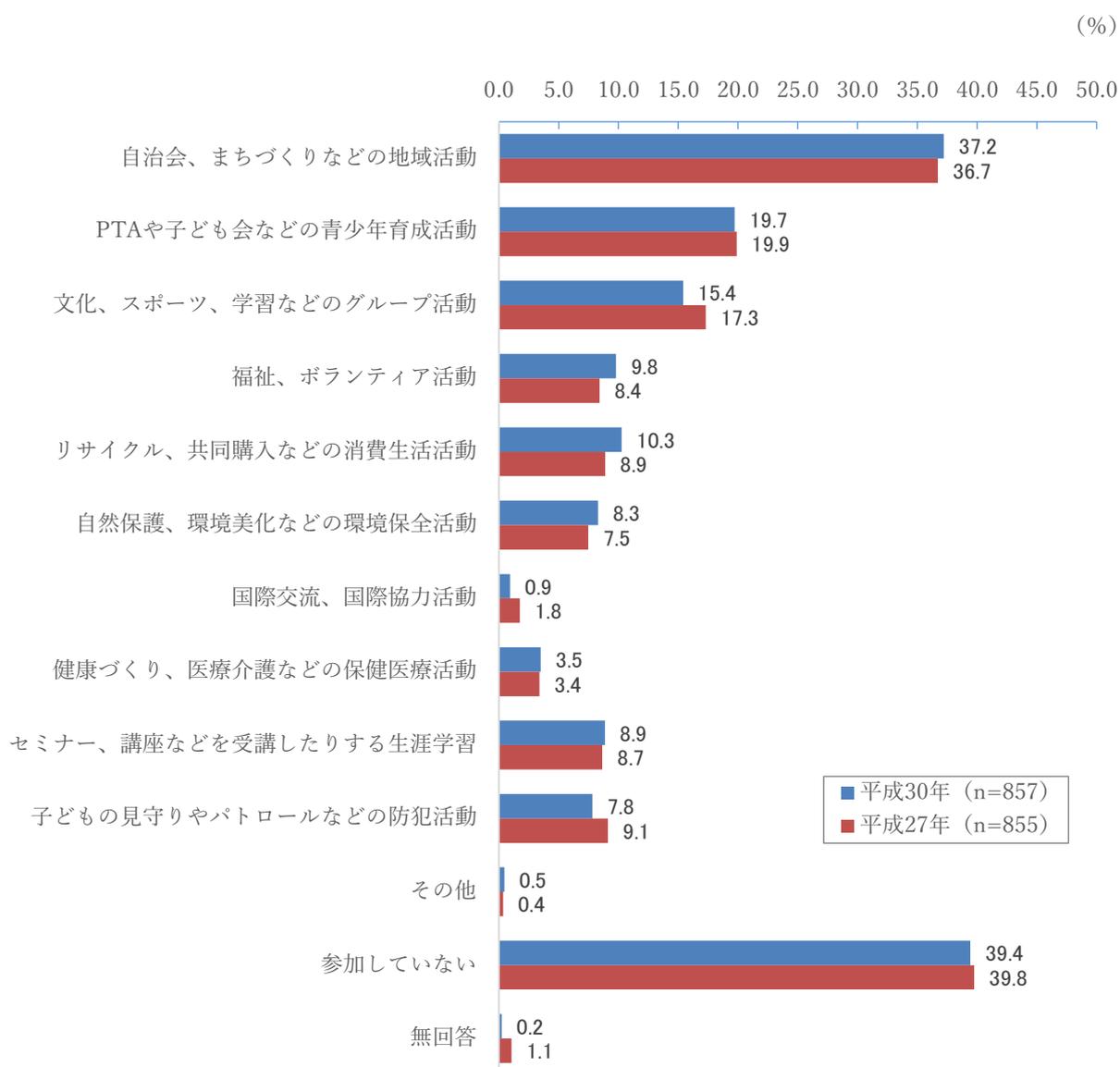
### (1) 地域・社会活動への参加状況

【問11】 次にあげるような活動に参加していますか。

【全体】

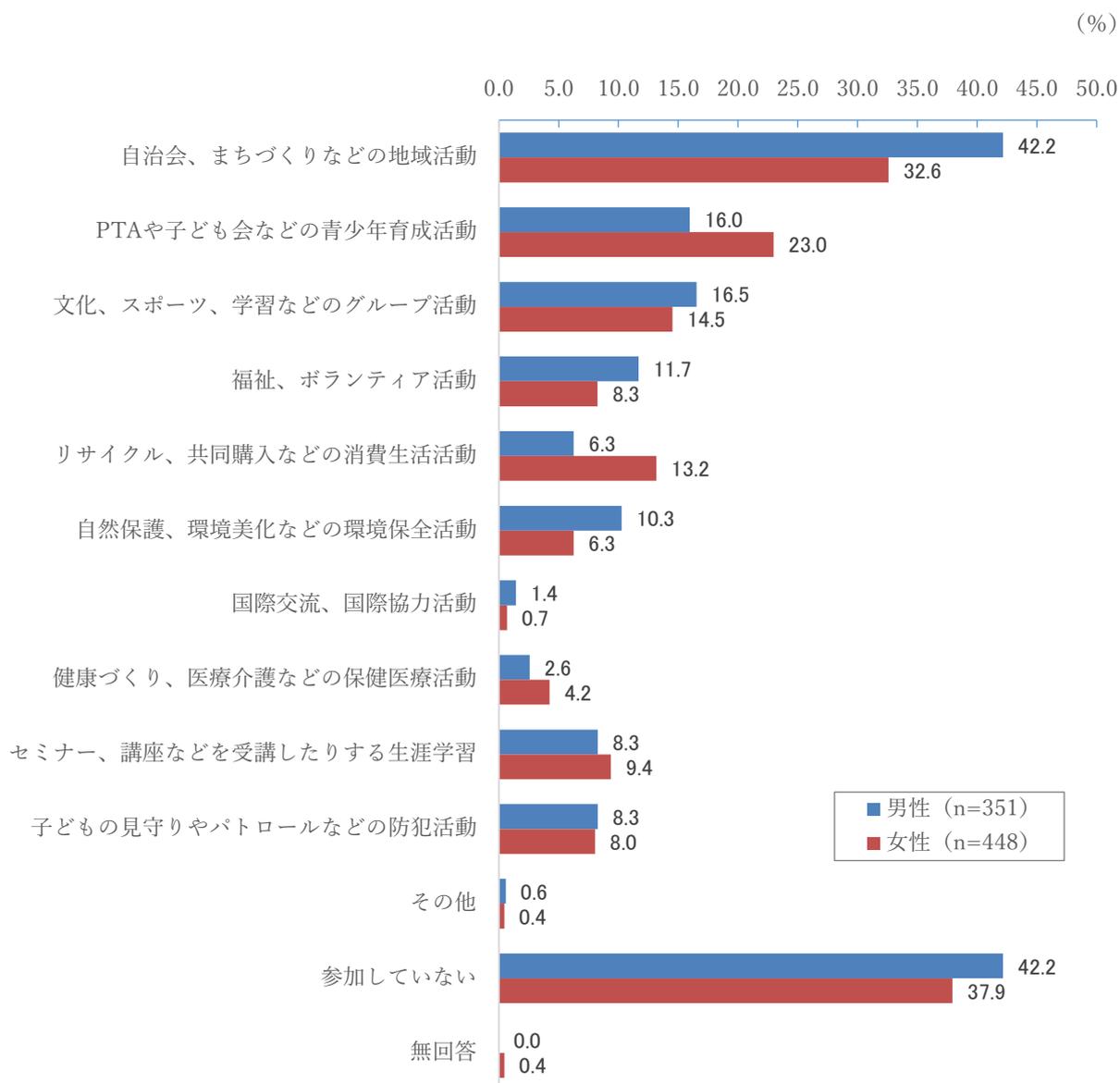
地域活動の参加状況については、「自治会、まちづくりなどの地域活動」が37.2%で最も高く、次いで、「PTAや子ども会などの青少年育成活動」が19.7%、「文化、スポーツ、学習などのグループ活動」の15.4%などの順となっている。一方、「参加していない」は39.4%となっている。

経年比較をみると、大きな変化はないものの「文化、スポーツ、学習などのグループ活動」や「子どもの見守りやパトロールなどの防犯活動」などが減少傾向にある。



【性別】

男女別でみると、「自治会、まちづくりなどの地域活動」は男性が42.2%で女性の32.6%より9.6ポイント、「自然保護、環境美化などの環境保全活動」は男性が10.3%で女性の6.3%より4.0ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「PTAや子ども会などの青少年育成活動」は、女性が23.0%で男性の16.0%より7.0ポイント「リサイクル、共同購入などの消費生活活動」は、女性が13.2%で男性の6.3%より6.9ポイント、それぞれ高くなっている。



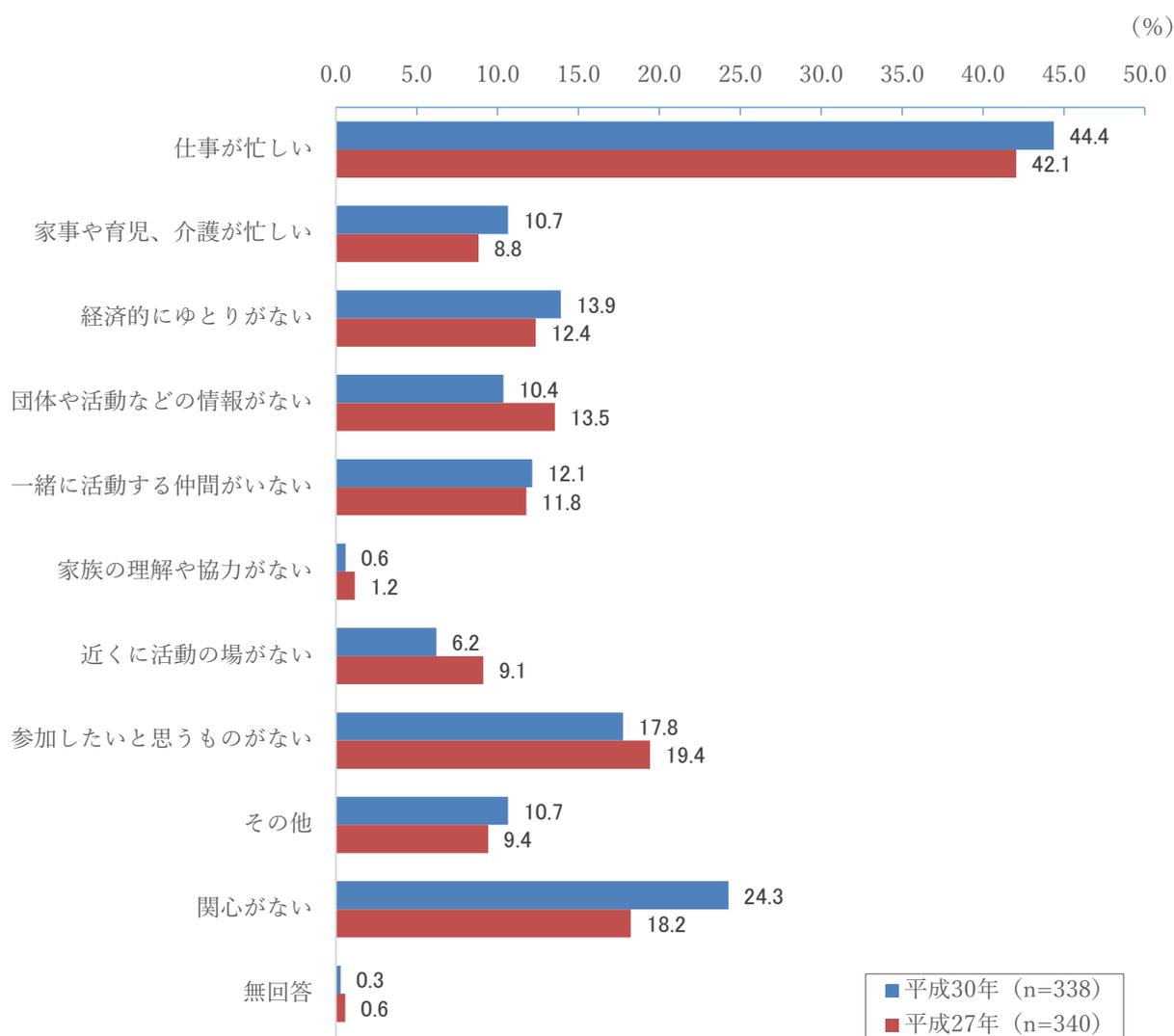
## (1 - 1) 地域・社会活動に参加していない理由

### 【問12】 あなたが地域・社会活動に参加していないのはなぜですか。

#### 【全体】

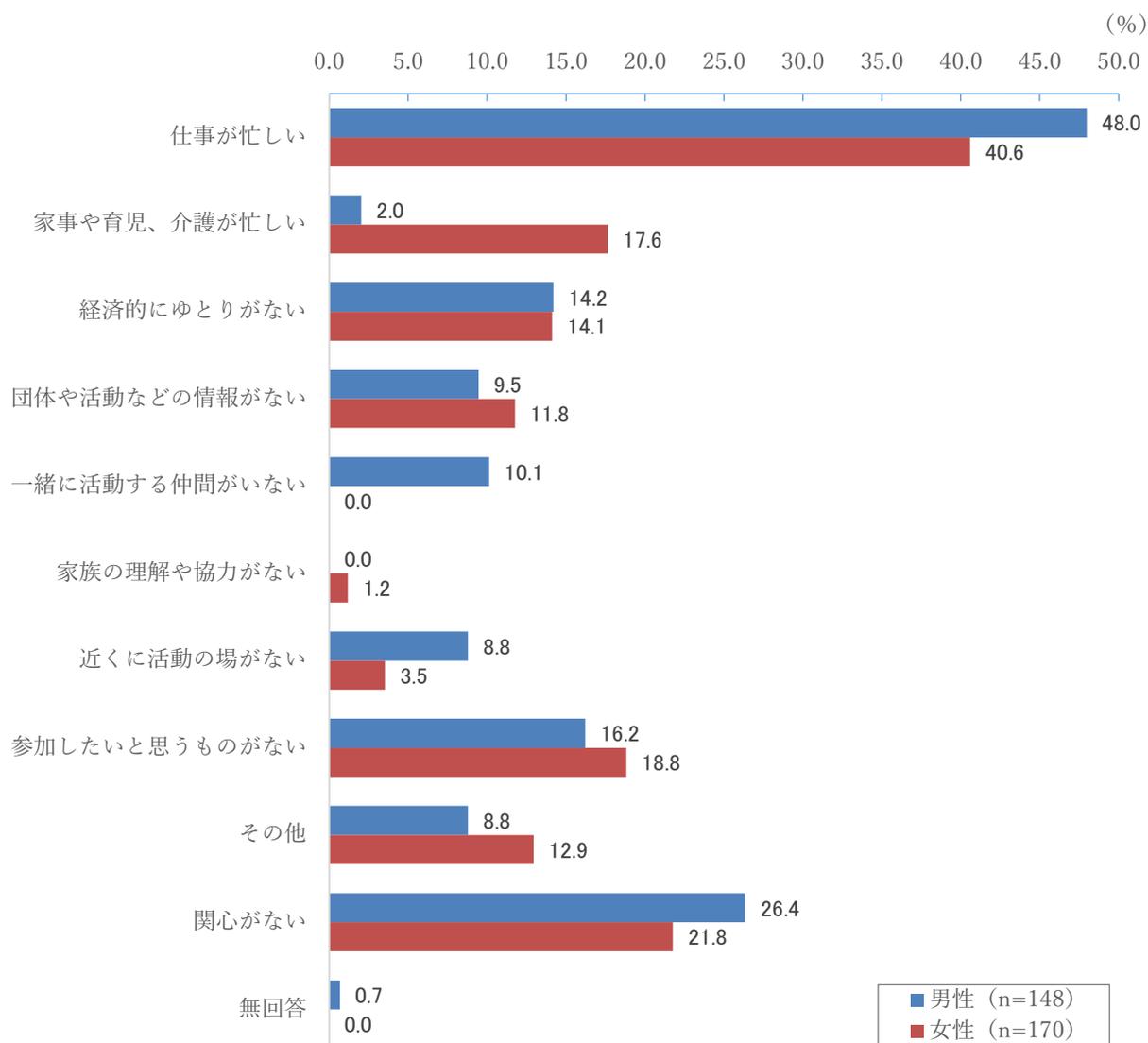
地域活動に「参加していない」と回答した338人に、参加していない理由を聞いたところ、「仕事が忙しい」が44.4%で最も高く、次いで、「関心がない」の24.3%、「参加したいと思うものがない」の17.8%、「経済的にゆとりがない」の13.9%などの順となっている。

経年比較をみると、「仕事が忙しい」、「関心がない」、「経済的にゆとりがない」は前回調査より増加傾向にあり、「関心がない」は前回調査より6.1ポイント増加している。一方、「近くに活動の場がない」、「参加したいと思うものがない」は減少傾向にあり、「団体や活動などの情報がない」については、前回調査より3.1ポイント減少している。



【性別】

男女別で見ると、「一緒に活動する仲間がない」は女性が0.0%であるのに対し、男性は10.1%となっている。また、「仕事が忙しい」は男性が48.0%で女性の40.6%より7.4ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「家事や育児、介護が忙しい」は、女性が17.6%で男性の2.0%より15.6ポイント高くなっている。



## 6. 男女共同参画の視点からの防災について

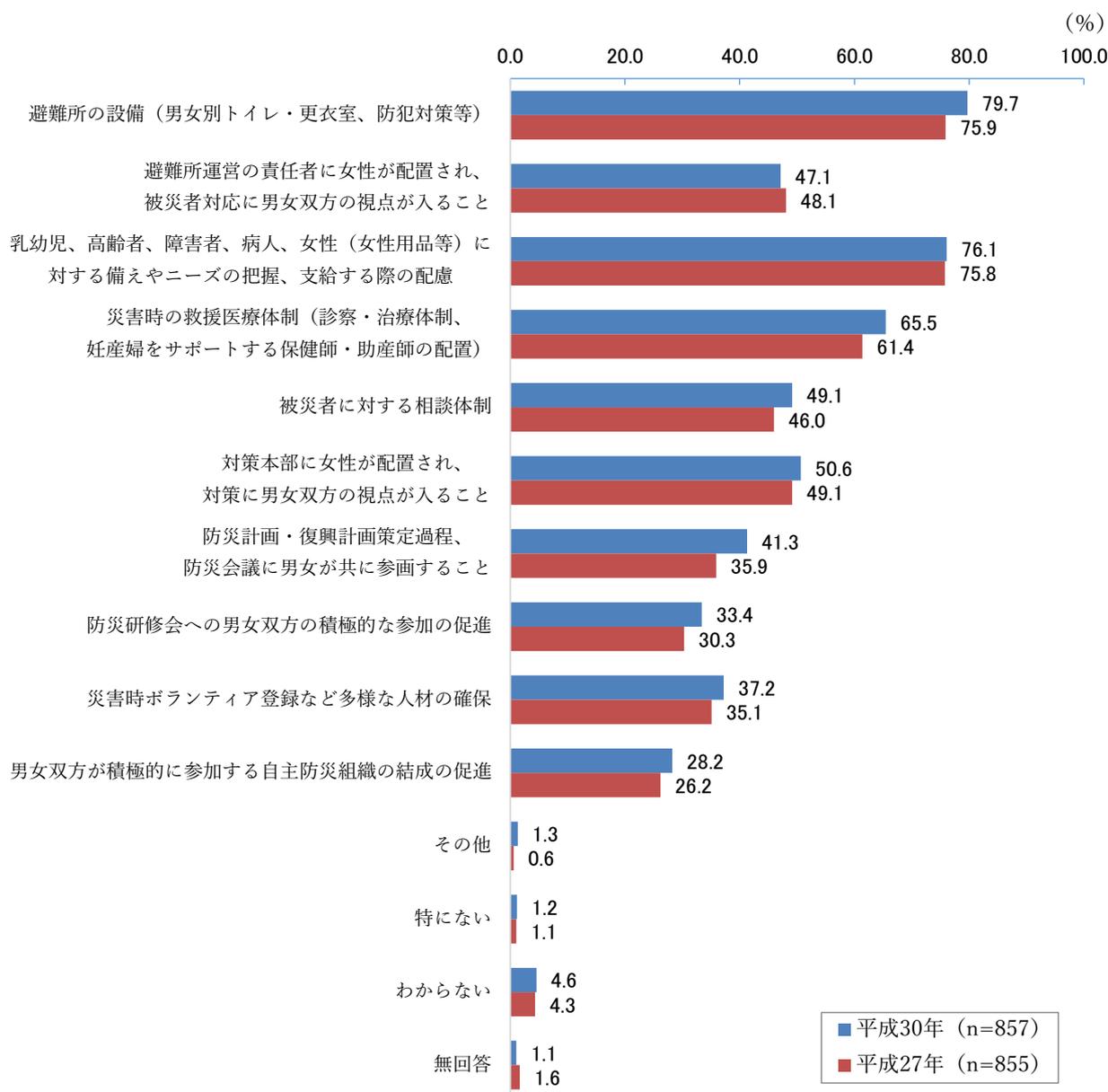
### (1) 防災等の分野における性別に配慮した対応

【問13】 防災活動に関して男女共同参画社会を推進していくためには、特にどのようなことが必要と考えますか。

#### 【全体】

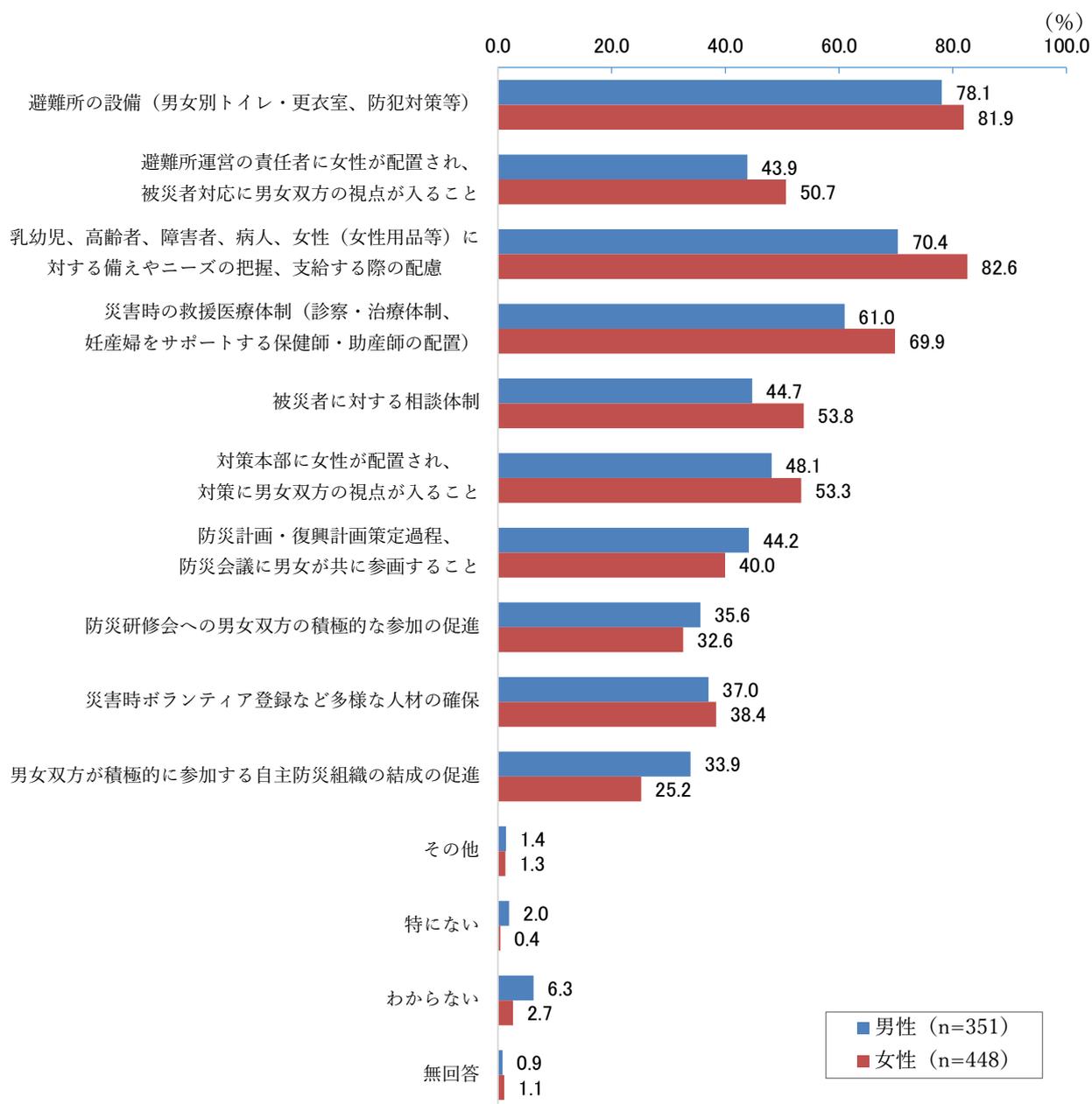
防災活動に関して男女共同参画社会を推進していくためには、特にどのようなことが必要かについて、「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、防犯対策等）」が79.7%で最も高く、次いで、「乳幼児、高齢者、障害者、病人、女性（女性用品等）に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」の76.1%、「災害時の救援医療体制（診察・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置）」の65.5%などの順となっている。

経年比較をみると、大きな変化はみられないが、「防災計画・復興計画策定過程、防災会議に男女が共に参画すること」は5.4ポイント増加している。



## 【性別】

男女別でみると、「男女双方が積極的に参加する自主防災組織の結成の促進」は男性が33.9%で女性の25.2%より8.7ポイント高くなっている。一方、「乳幼児、高齢者、障害者、病人、女性（女性用品等）に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」は、女性が82.6%で男性の70.4%より12.2ポイント、「被災者に対する相談体制」は、女性が53.8%で男性の44.7%より9.1ポイント、「災害時の救援医療体制（診察・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置）」は、女性が69.9%で男性の61.0%より8.9ポイントそれぞれ高くなっている。



7. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

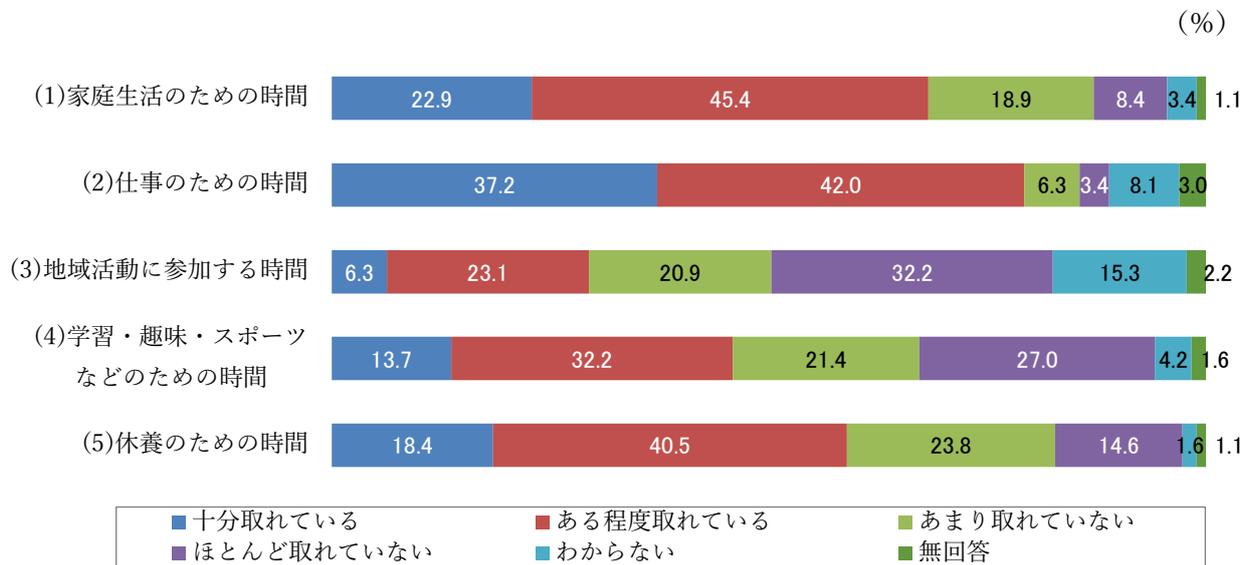
(1) 「家庭生活」、「仕事」、「地域活動」等への時間配分の満足度

【問14-1】 日常生活の中で、次の(1)～(5)について、満足する時間が取れていますか。

【全体】

日常生活の満足度について、「十分取れている」と「ある程度取れている」を合わせた『取れている(計)』は、「仕事のための時間」が79.2%と最も高く、次いで、「家庭生活のための時間」の68.3%、「休養のための時間」の58.9%などの順になっている。

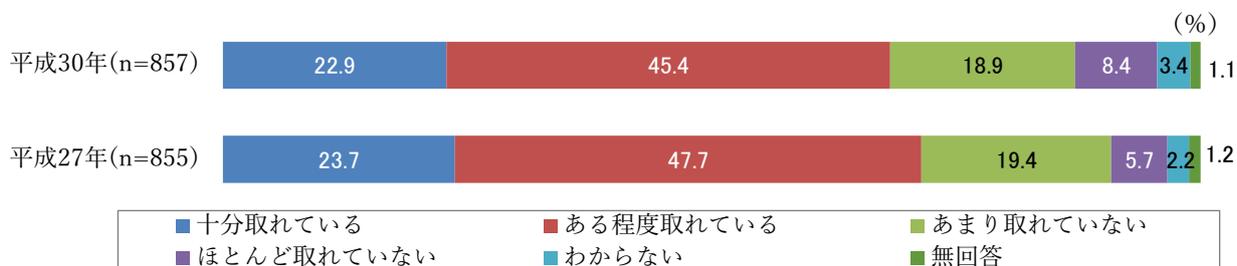
一方、「あまり取れていない」と「ほとんど取れていない」を合わせた『取れていない(計)』は、「地域活動に参加する時間」が53.1%と最も高く、次いで、「学習・趣味・スポーツなどのための時間」の48.4%などの順になっている。



## ① 家庭生活のための時間

### 【全体】

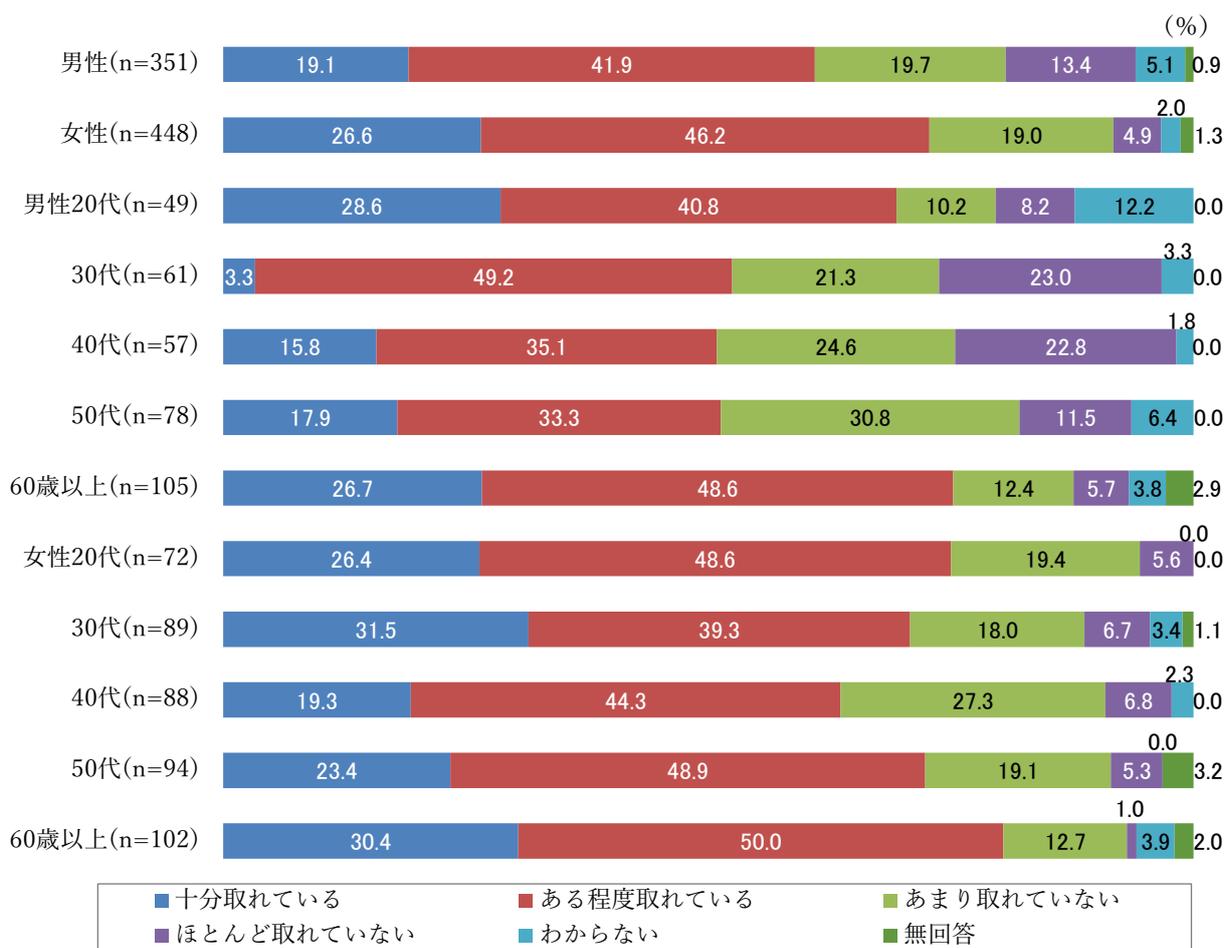
家庭生活のための時間において、『取れている（計）』は、68.3%で前回調査から3.1ポイント減少している。一方で、『取れていない（計）』は、27.3%で前回調査から2.2ポイント増加している。



### 【性・年代別】

男女別で見ると、『取れている（計）』は男性が61.0%で女性の72.8%より11.8ポイント低くなっている。

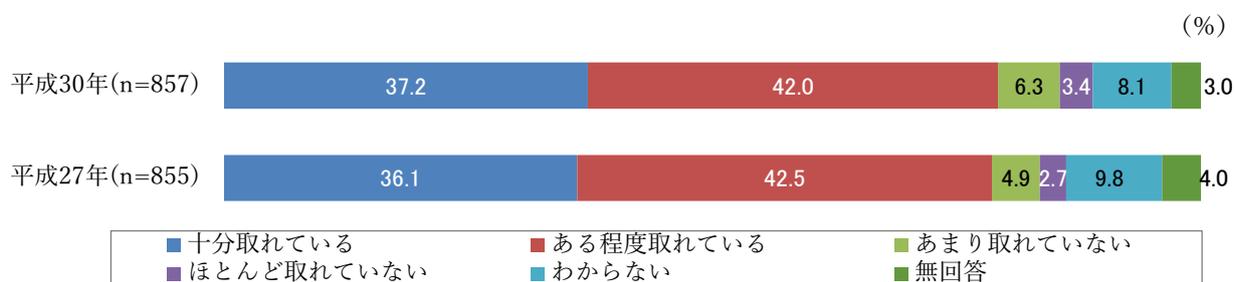
性・年代別で見ると、『取れている（計）』は男女ともに60歳以上の年代が最も割合が高く、一方で、『取れていない（計）』は男性の40代が47.4%、女性の40代が34.1%などで高くなっている。



## ② 仕事のための時間

### 【全体】

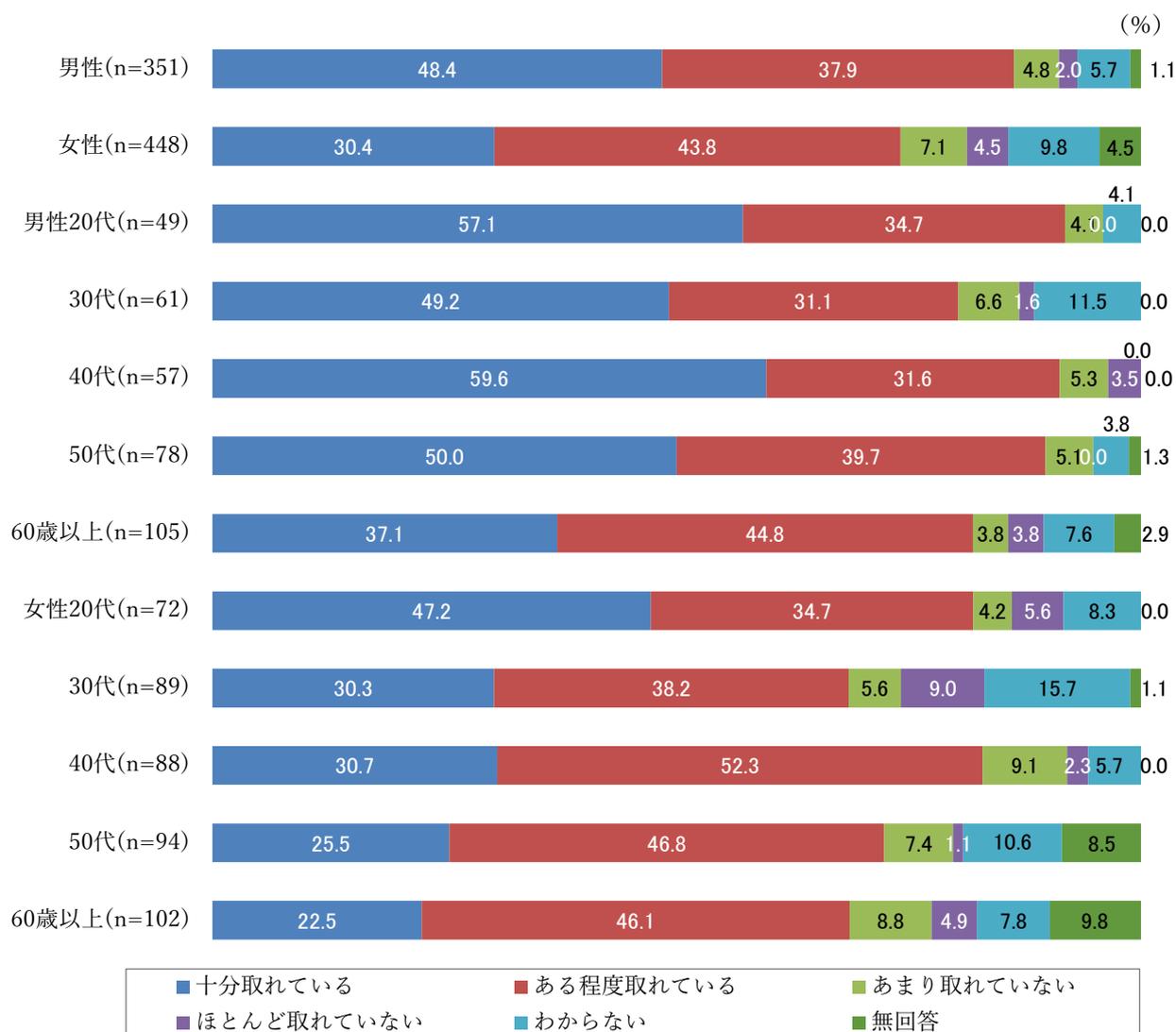
仕事のための時間において、『取れている（計）』と回答した人の割合は79.2%で、前回調査から0.6ポイント増加している。



### 【性・年代別】

男女別で見ると、『取れている（計）』は男性が86.3%で女性の74.2%より12.1ポイント高くなっている。

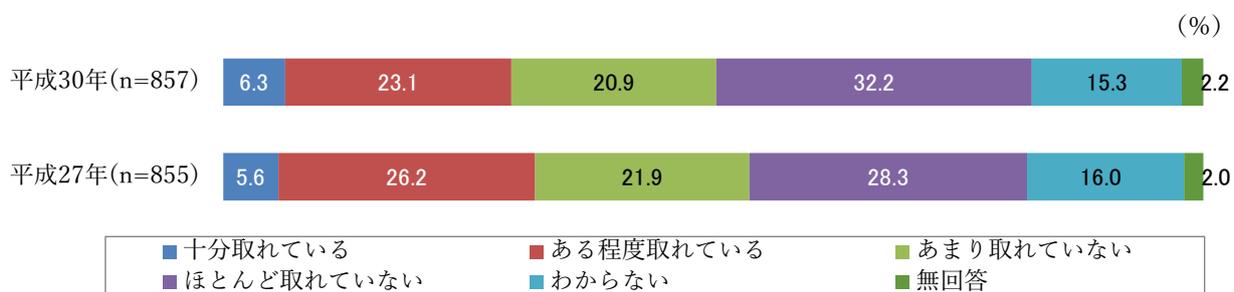
性・年代別で見ると、『取れている（計）』は男性では20歳以上が91.8%で最も割合が高く、女性では40代が83.0%で最も高くなっている。



### ③ 地域活動に参加する時間

#### 【全体】

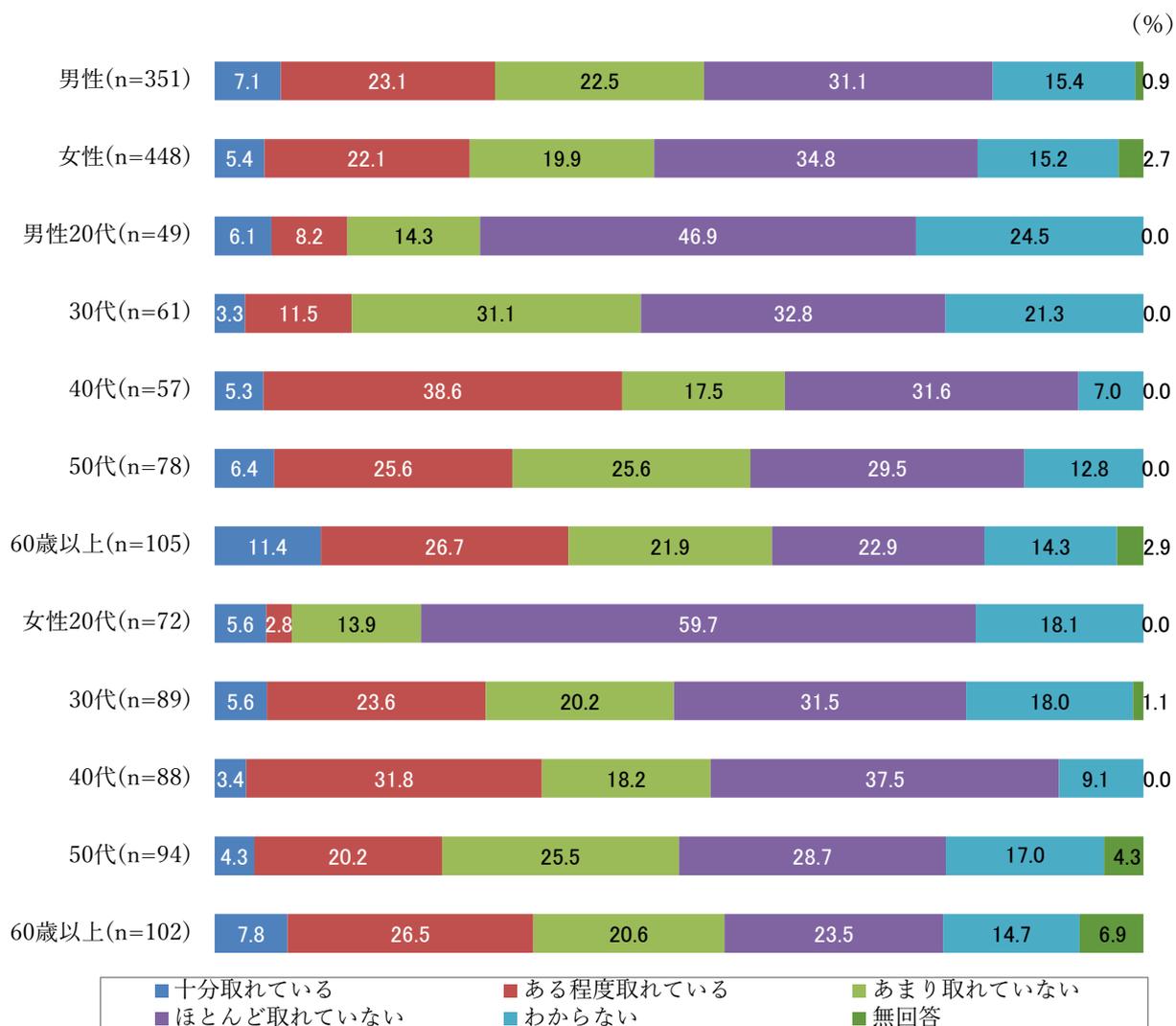
地域活動に参加する時間において、『取れている（計）』と回答した人の割合は29.4%で、前回調査から2.4ポイント減少している。



#### 【性・年代別】

男女別で見ると、『取れている（計）』は男性が30.2%で女性の27.5%より2.7ポイント高くなっている。

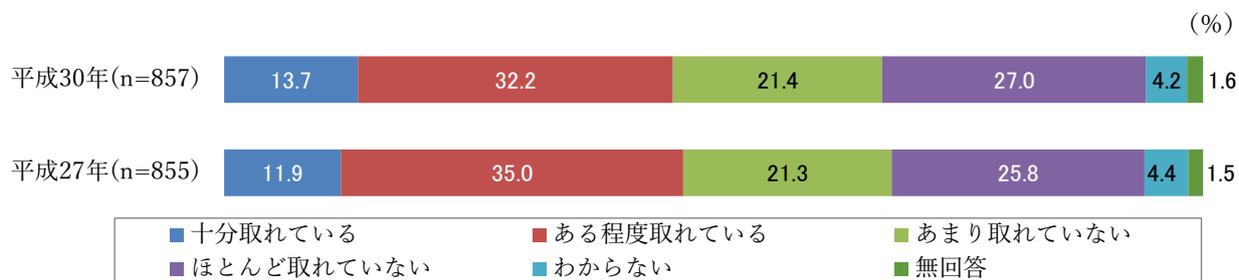
性・年代別で見ると、『取れている（計）』は男女ともに40代が最も割合が高く、一方で『取れていない（計）』は、男女ともに20代が最高で男性が61.2%、女性が73.6%でそれぞれ高くなっている。



#### ④ 学習・趣味・スポーツなどのための時間

##### 【全体】

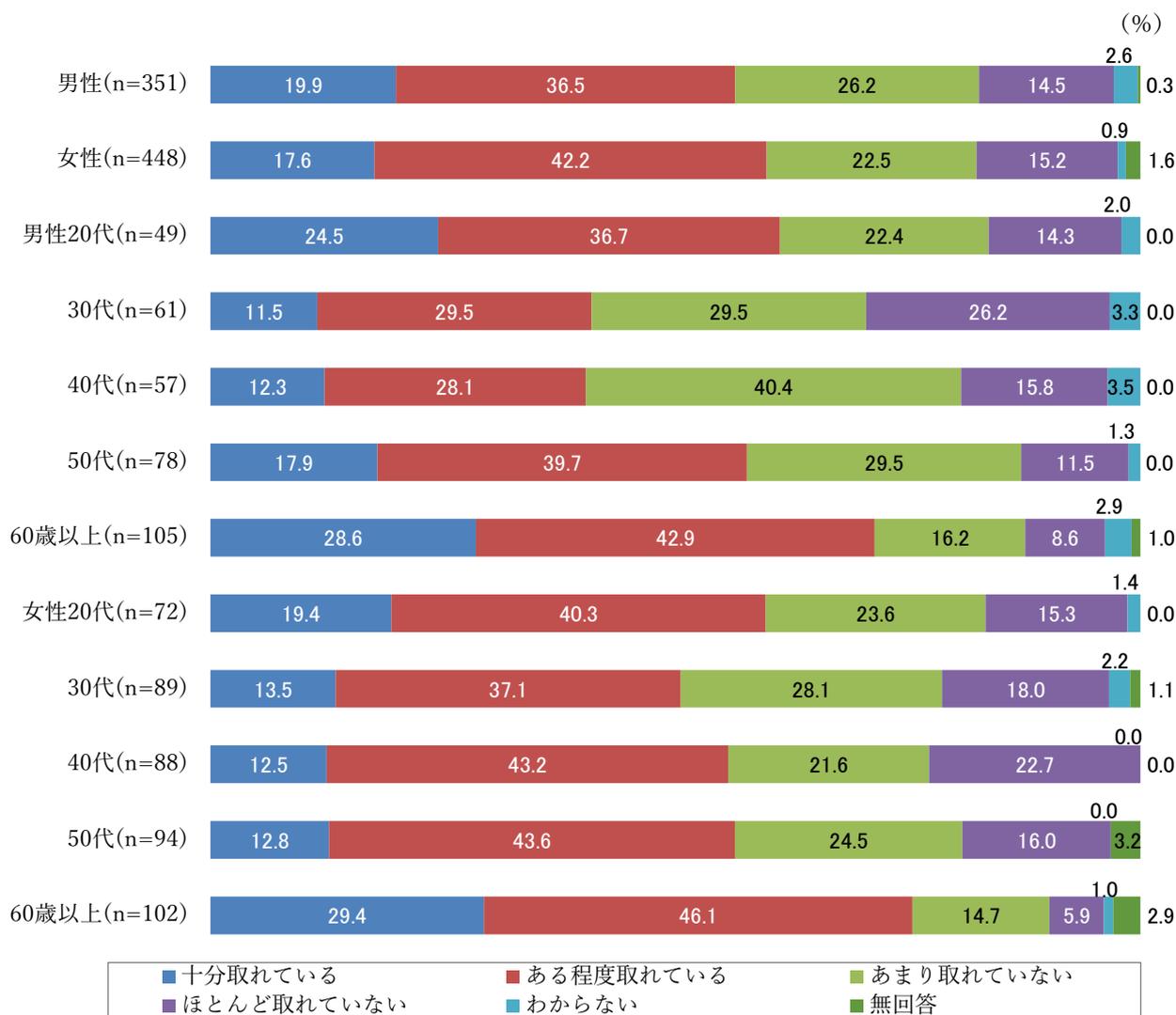
学習・趣味・スポーツなどのための時間において、『取れている（計）』と回答した人の割合は45.9%で、前回調査から1.0ポイント減少している。



##### 【性・年代別】

男女別で見ると、『取れている（計）』は男性が56.4%で女性の59.8%より3.4ポイント低くなっている。

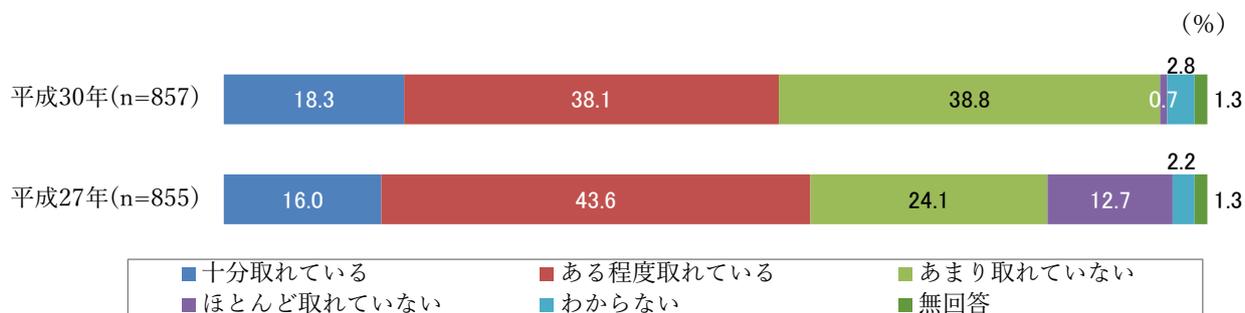
性・年代別で見ると、『取れている（計）』は男女ともに60歳以上が最も割合が高く、一方で『取れていない（計）』は、男性の40代が56.2%、女性の30代が46.1%でそれぞれ高くなっている。



## ⑤ 休養のための時間

### 【全体】

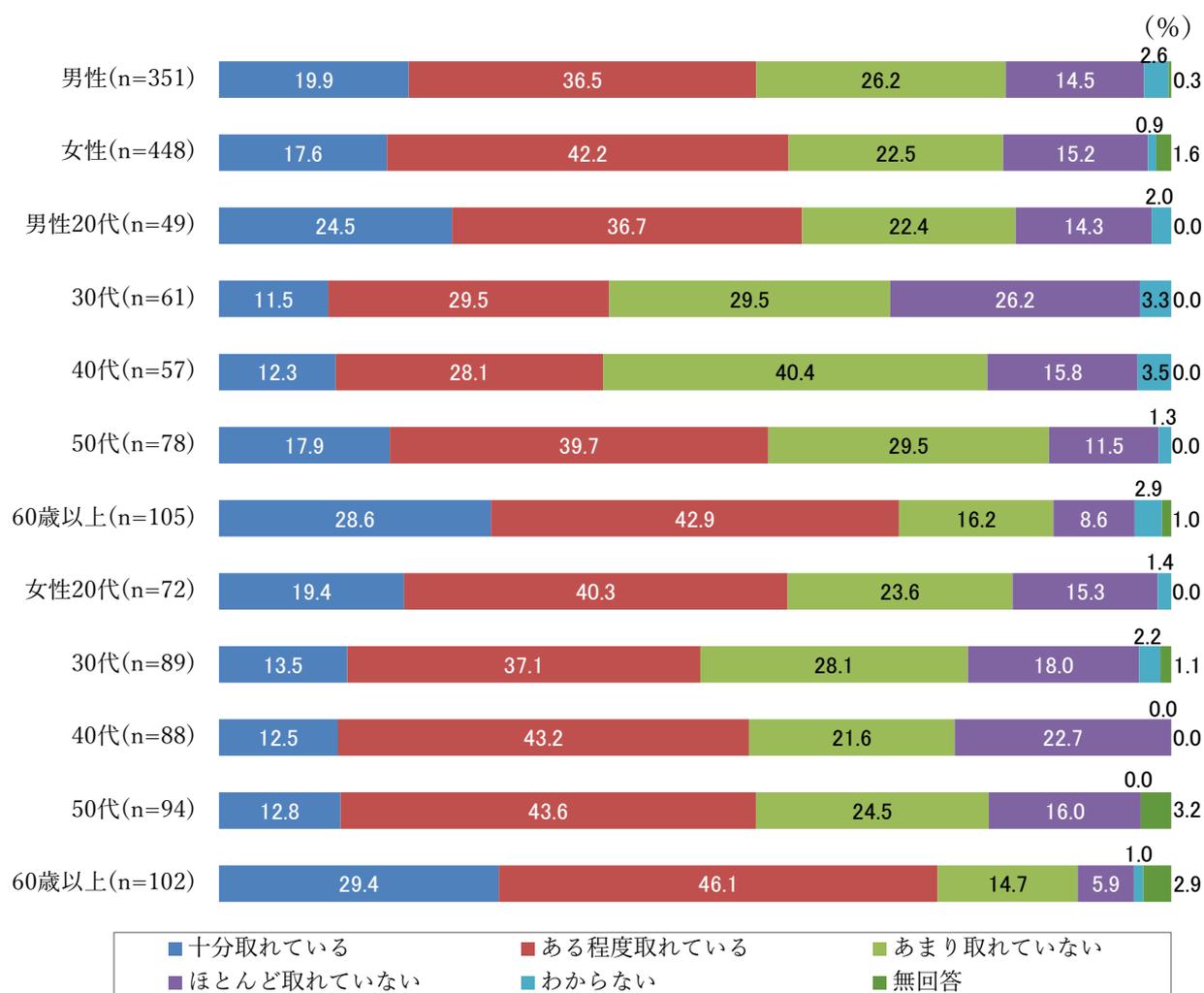
休養のための時間において、『取れている（計）』と回答した人の割合は56.4%で、前回調査から3.2ポイント減少している。



### 【性・年代別】

男女別で見ると、『取れている（計）』は男性が56.4%で女性の59.8%より3.4ポイント低くなっている。

性・年代別で見ると、『取れている（計）』は男女ともに60歳以上が最も割合が高く、一方で『取れていない（計）』は、男性の40代が56.2%、女性の30代が46.1%でそれぞれ高くなっている。



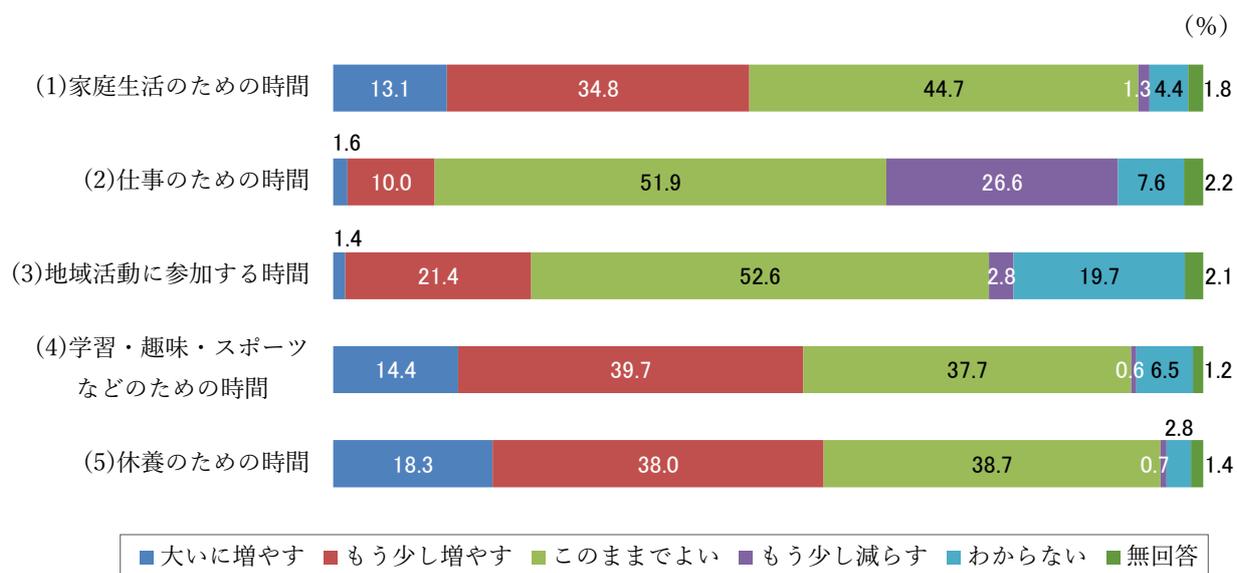
(2) 「家庭生活」、「仕事」、「地域活動」等への時間配分の理想

【問14-2】 日常生活の中で、次の(1)～(5)について、どのような時間の使い方をすれば、いきいきと充実した生活を送ることができると思いますか。

【全体】

日常生活における理想の時間について、「大いに増やす」と「もう少し増やす」を合わせた『増やす(計)』は、「休養のための時間」が56.3%と最も高く、次いで、「学習・趣味・スポーツなどのための時間」の54.1%、「家庭生活のための時間」の47.9%などの順になっている。

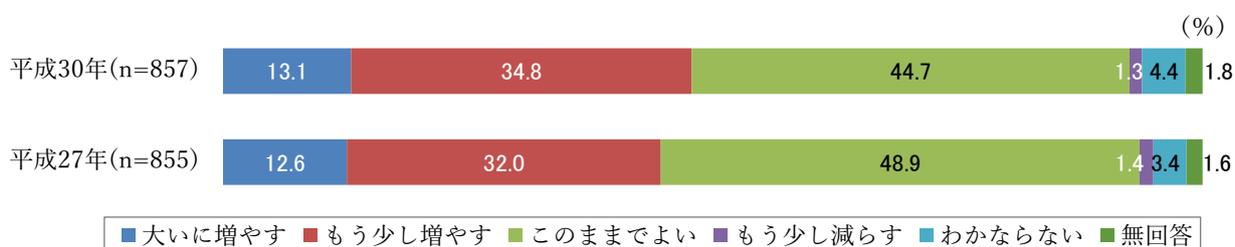
一方、「仕事のための時間」は「もう少し減らす」が26.6%で、全項目の中で最も高い。



## ① 家庭生活のための時間

### 【全体】

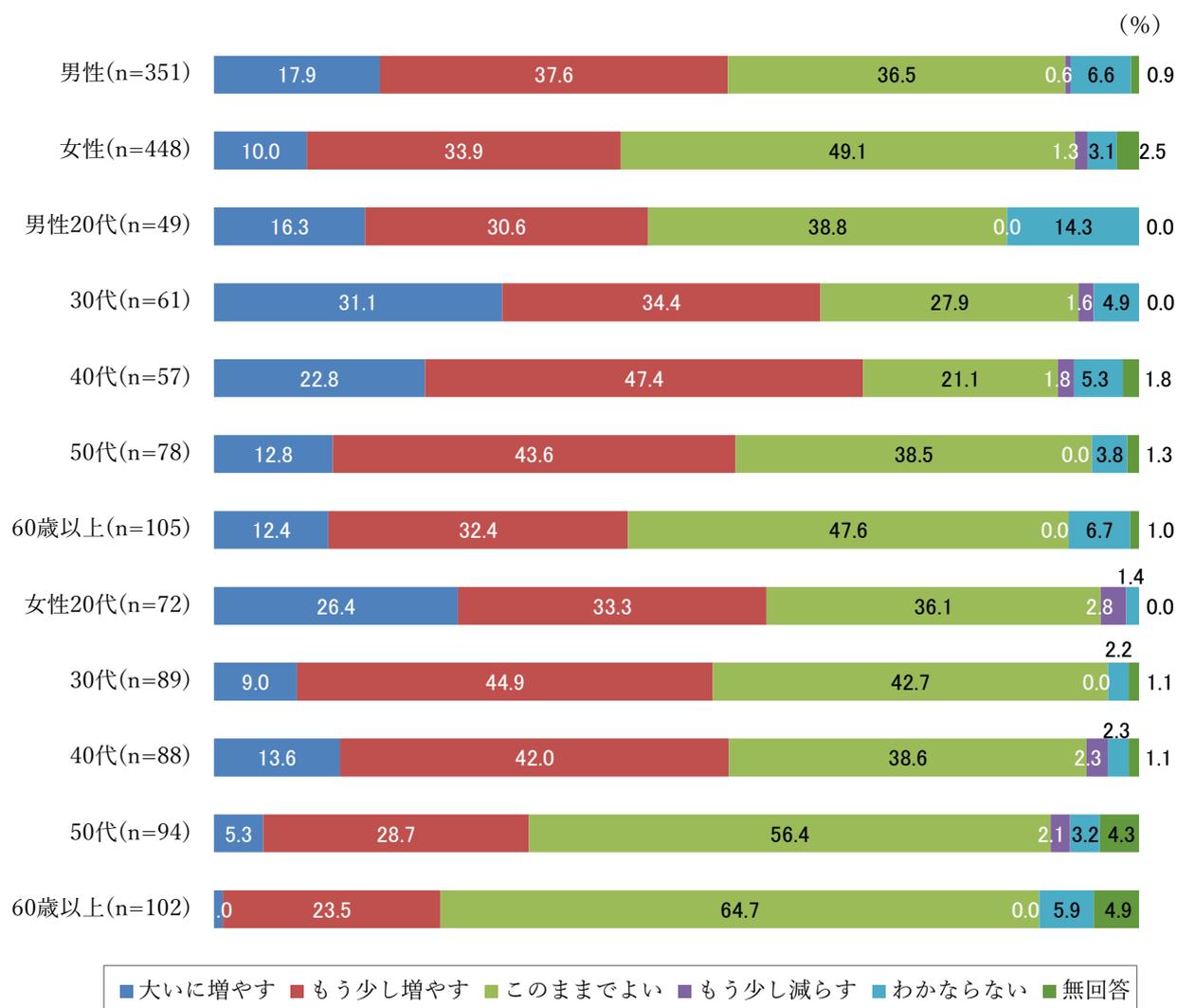
家庭生活のための時間において、『増やす（計）』と考える人の割合は47.9%で、前回調査から3.3ポイント増加している。



### 【性・年代別】

男女別で見ると、『増やす（計）』と考える人の割合は、男性が55.5%で女性の43.9%より11.6ポイント高くなっている。

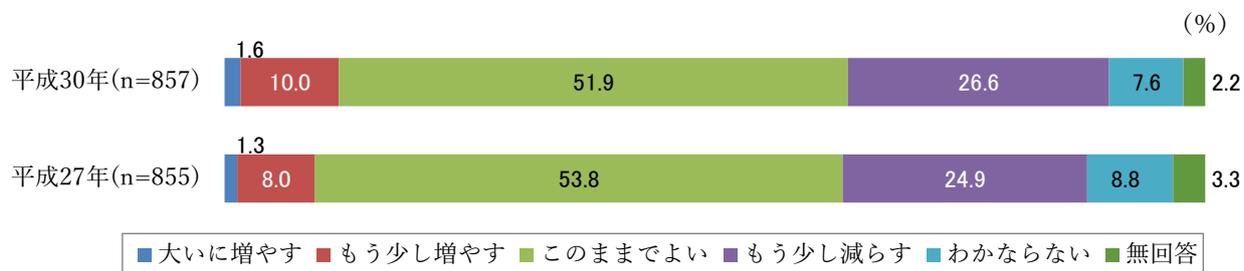
性・年代別で見ると、『増やす（計）』と考える人の割合は、男性は40代が70.2%で最も割合が高く、女性は20代が59.7%となっている。



## ② 仕事のための時間

### 【全体】

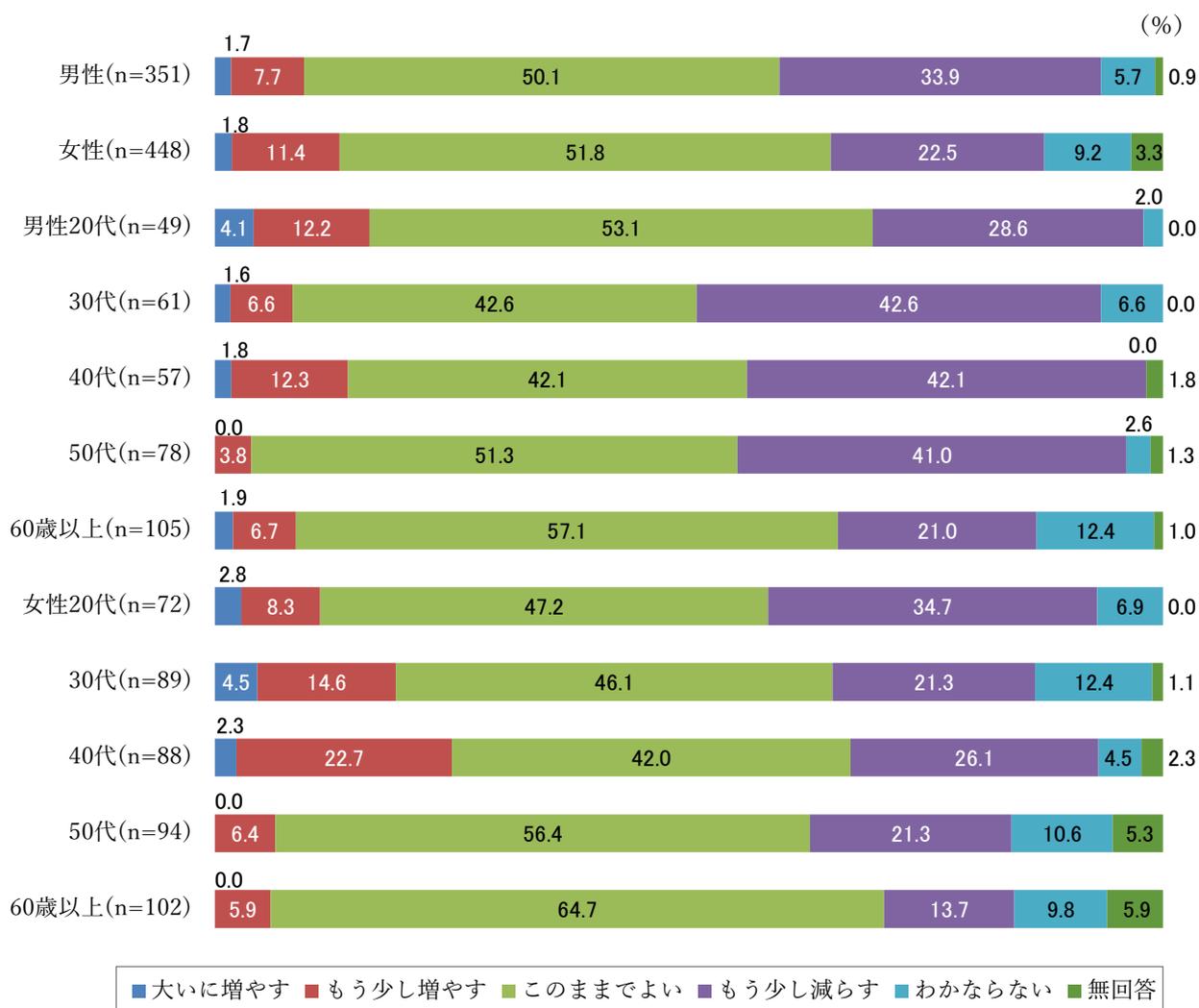
仕事のための時間において、「もう少し減らす」と考える人の割合は26.6%で、前回調査から1.7ポイント増加している。



### 【性・年代別】

男女別で見ると、「もう少し減らす」と考える人の割合は、男性が33.9%で女性の22.5%より11.4ポイント高くなっている。

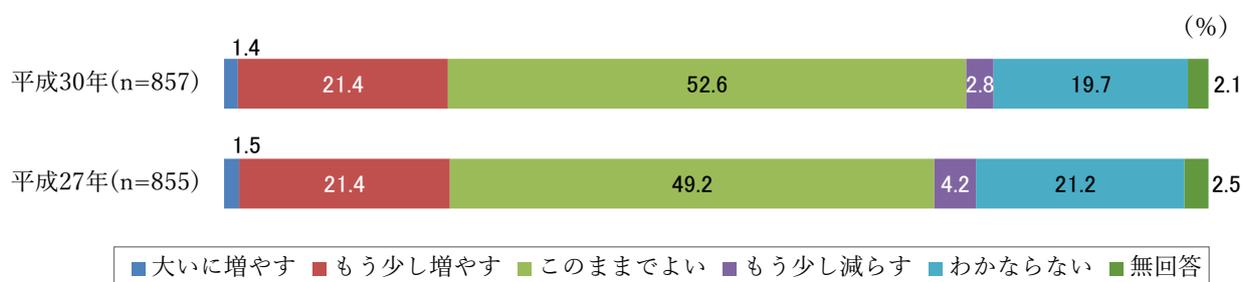
性・年代別で見ると、「もう少し減らす」と考える人の割合は、男性は30代~50代で40%を超え、女性は20代の34.7%が最も高くなっている。



### ③ 地域活動に参加する時間

#### 【全体】

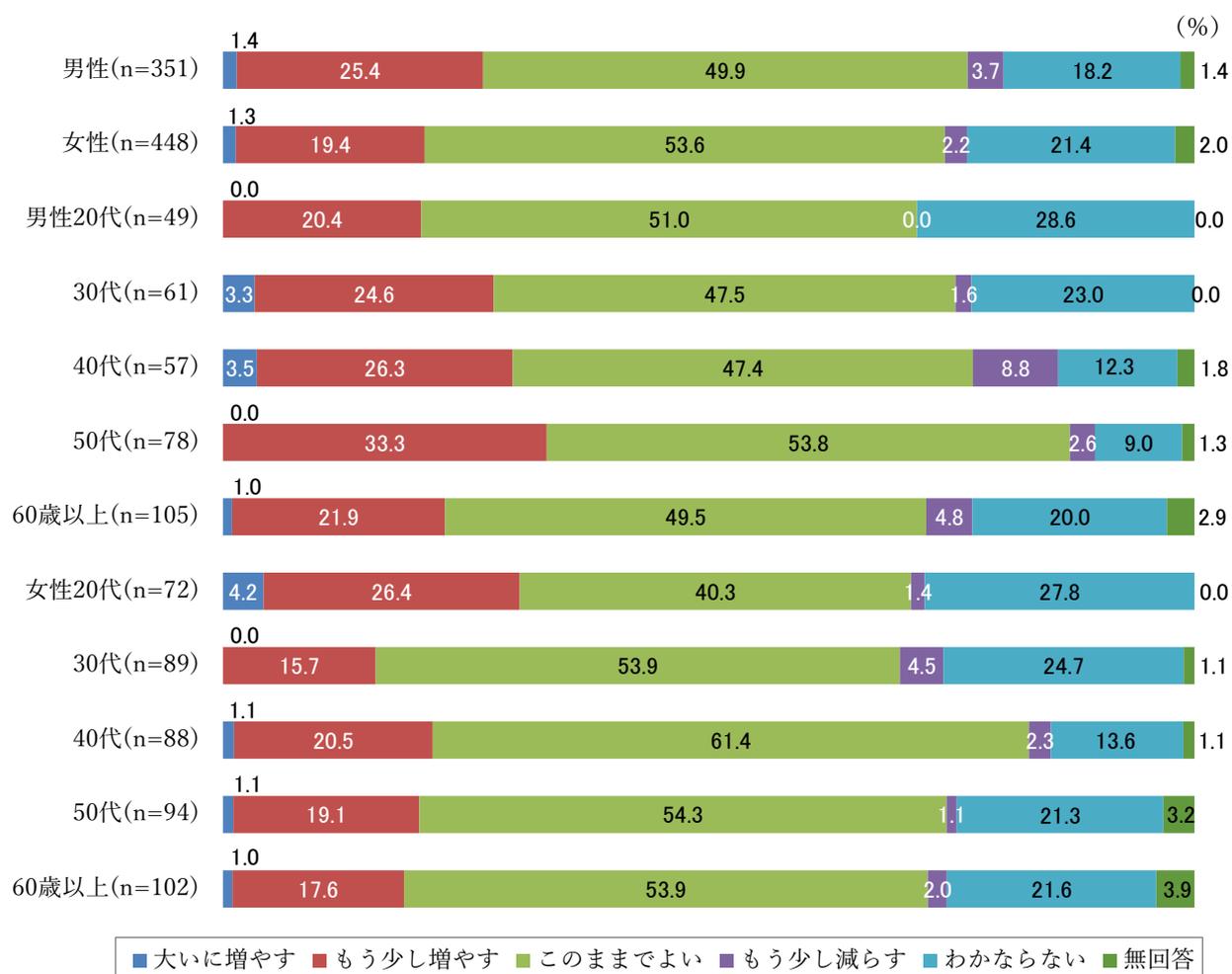
地域活動に参加する時間において、『増やす（計）』と考える人の割合は22.8%で、前回調査から大きな変化はみられない。一方「もう少し減らす」は2.8%で1.4ポイント減少している。



#### 【性・年代別】

男女別でみると、『増やす（計）』と考える人の割合は、男性が26.8%で女性の20.7%より6.1ポイント高くなっている。

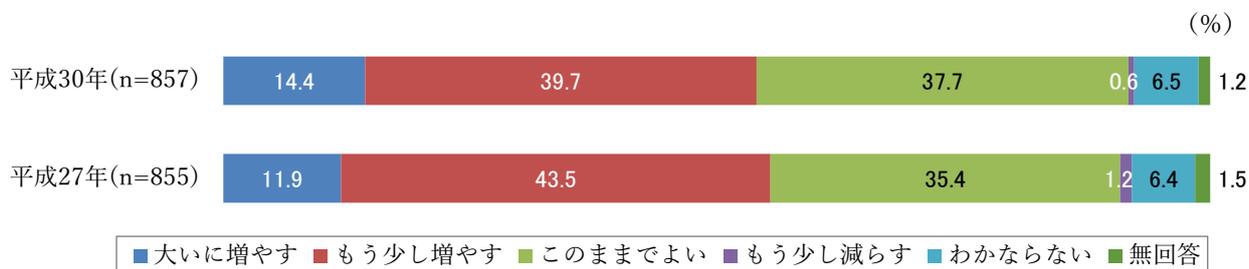
性・年代別でみると、『増やす（計）』と考える人の割合は、男性は50代が33.3%で最も割合が高く、女性は20代が30.6%となっている。



#### ④ 学習・趣味・スポーツなどのための時間

##### 【全体】

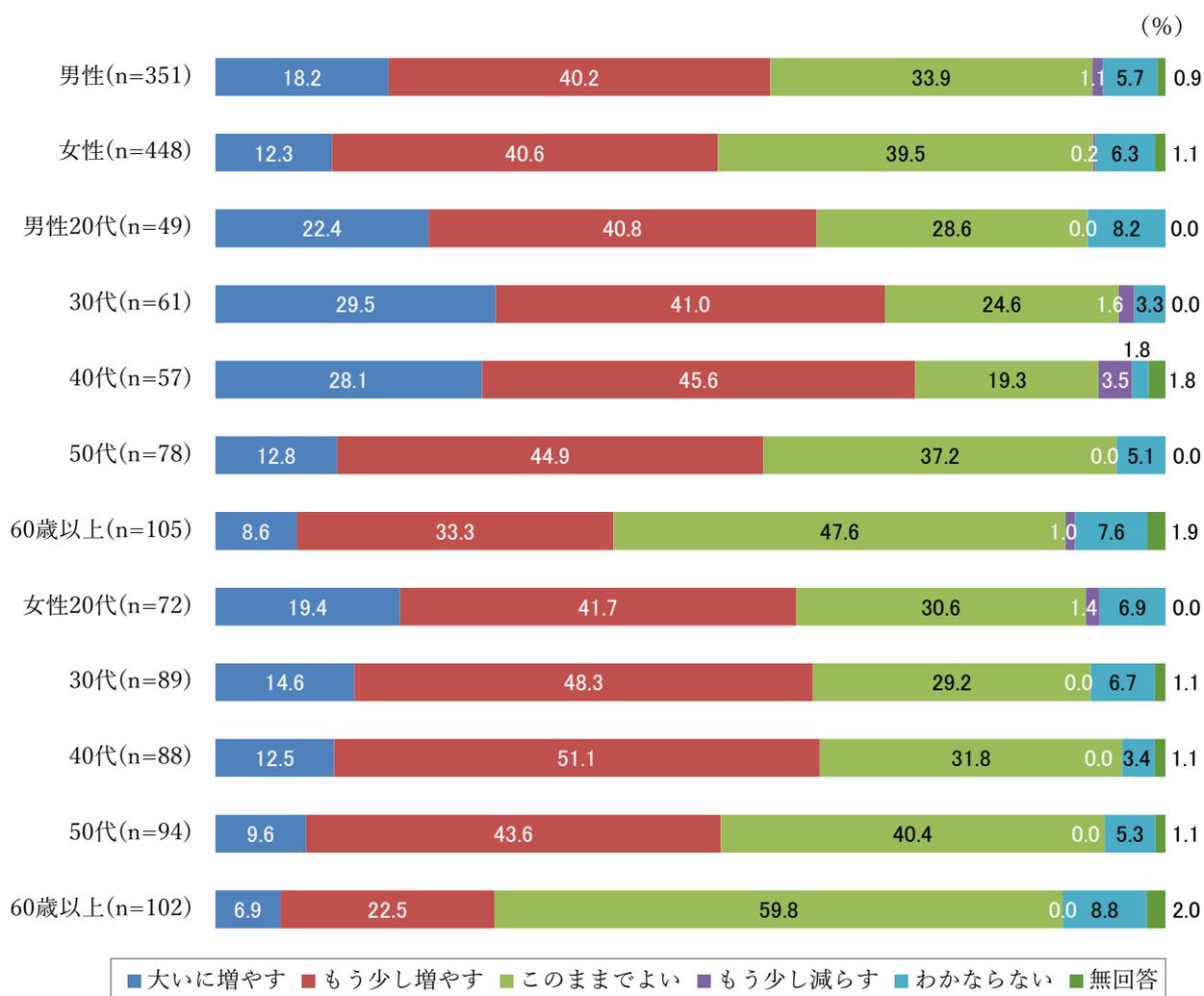
学習・趣味・スポーツなどのための時間において、『増やす（計）』と考える人の割合は54.1%で、前回調査から1.3ポイント減少している。



##### 【性・年代別】

男女別でみると、『増やす（計）』と考える人の割合は、男性が58.4%で女性の52.9%より5.5ポイント高くなっている。

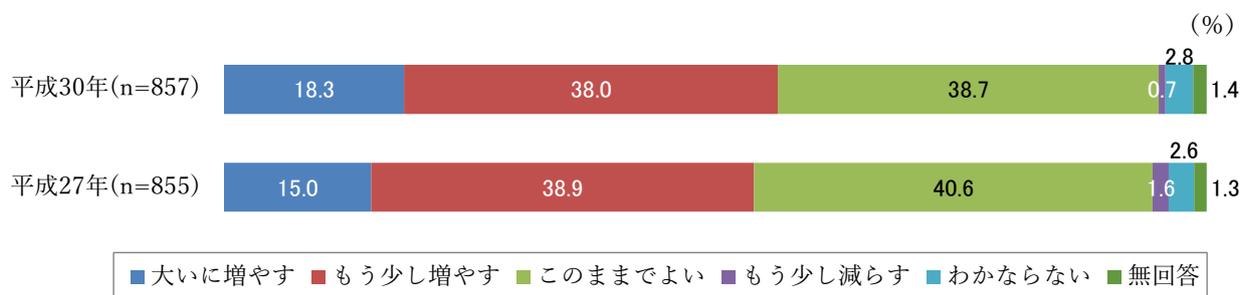
性・年代別でみると、『増やす（計）』と考える人の割合は、男女ともに40代が最も割合が高く、男性の40代が73.7%、女性の40代が63.6%となっている。



## ⑤ 休養のための時間

### 【全体】

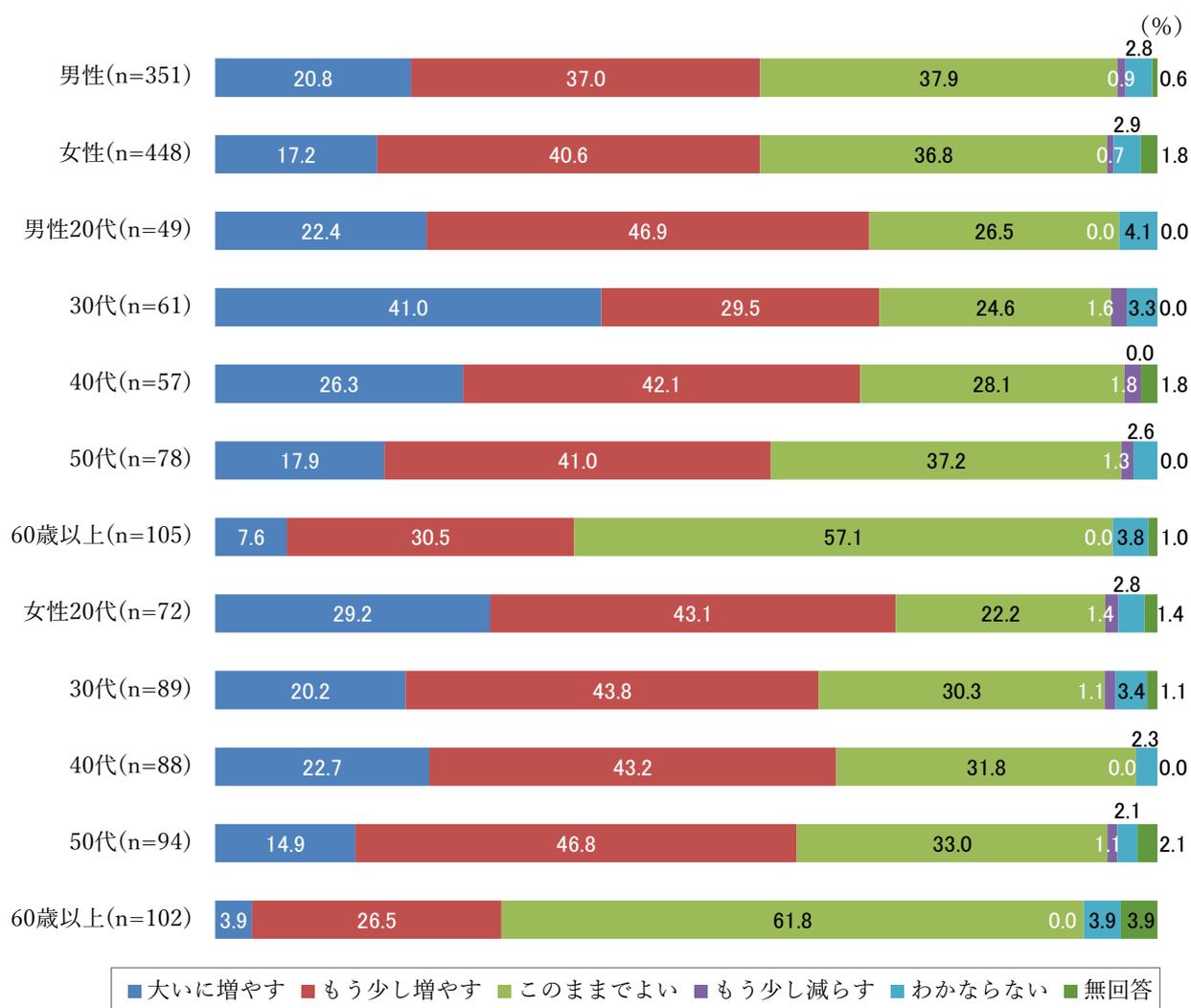
休養のための時間において、『増やす（計）』と考える人の割合は56.3%で、前回調査から2.4ポイント増加している。



### 【性・年代別】

男女別でみると、『増やす（計）』と考える人の割合は、男女ともに57.8%となっている。

性・年代別でみると、『増やす（計）』と考える人の割合は、男性では30代の70.5%が最も高く、女性は20代の72.3%が最も高くなっている。

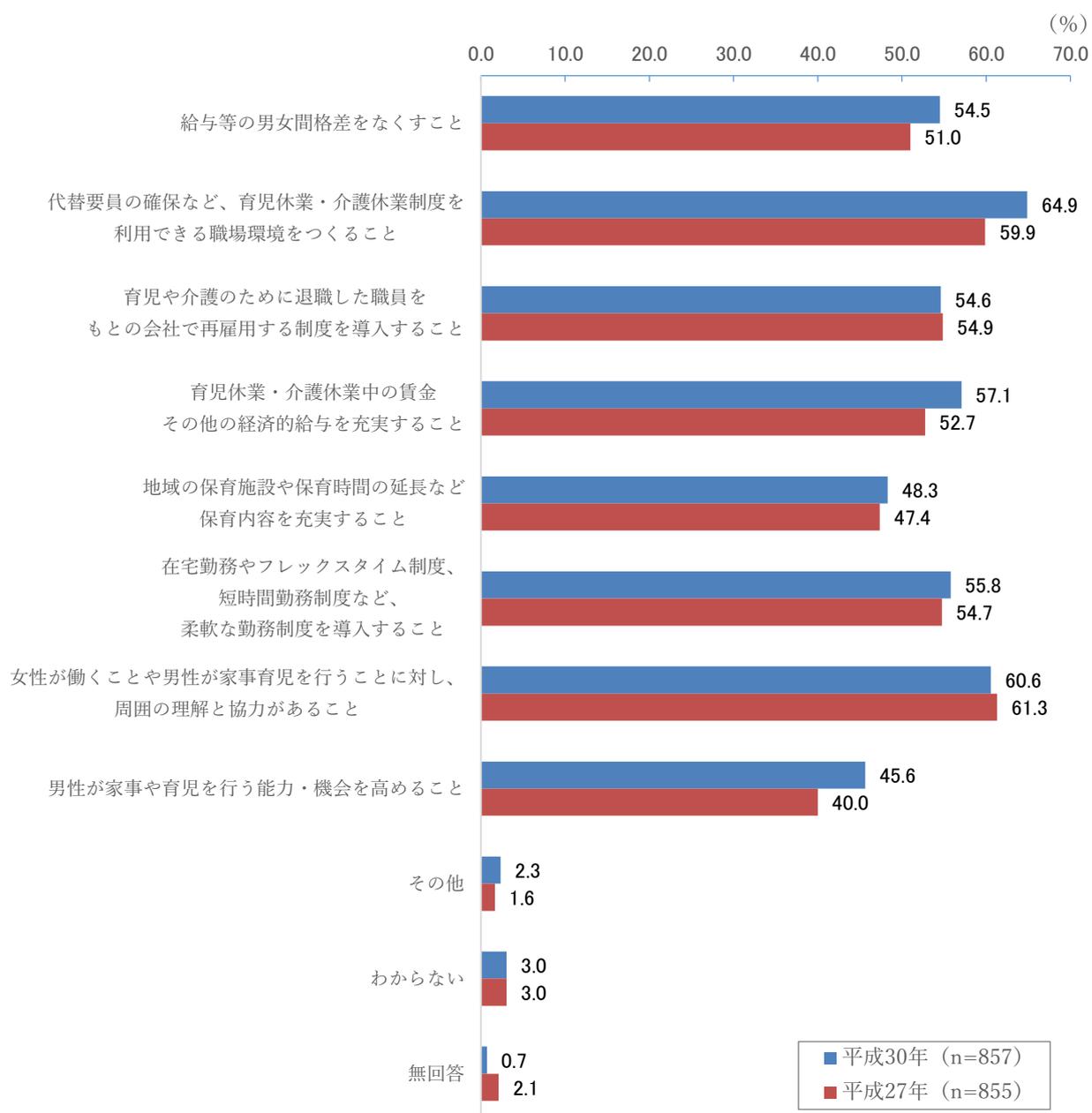


### (3) 男女が仕事と家庭を両立するために必要なこと

【問15】 男女が共に仕事と家庭の両立をしていくために、どのような条件が必要だと思いますか。

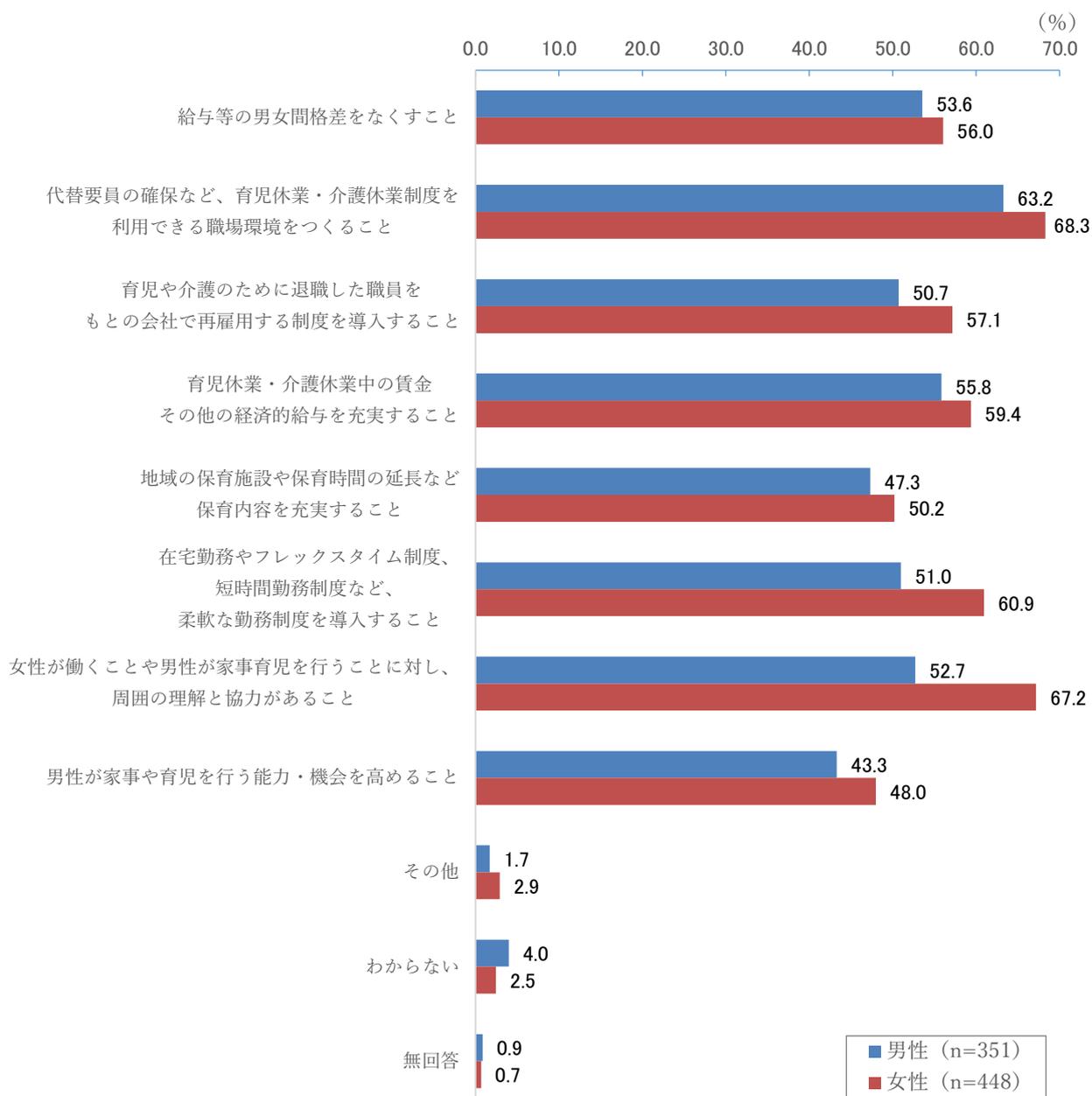
【全体】

男女が共に仕事と家庭の両立をしていくために必要な条件について、前回調査から大きな変化は見られない。「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」が64.9%で最も高く、次いで、「女性が働くことや男性が家事育児を行うことに対し、周囲の理解と協力があること」が60.6%、「育児休業・介護休業中の賃金、その他の経済的給与を充実すること」が57.1%などの順となっている。



## 【性・年代別】

性別で見ると、「女性が働くことや男性が家事育児を行うことに対し、周囲の理解と協力があること」は、女性が67.2%で男性の52.7%より14.5ポイント、「在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」は、女性が60.9%で男性の51.0%より9.9ポイント、「育児や介護のために退職した職員をもとの会社で再雇用する制度を導入すること」は、女性が57.1%で男性の50.7%より6.4ポイント、それぞれ高くなっている。



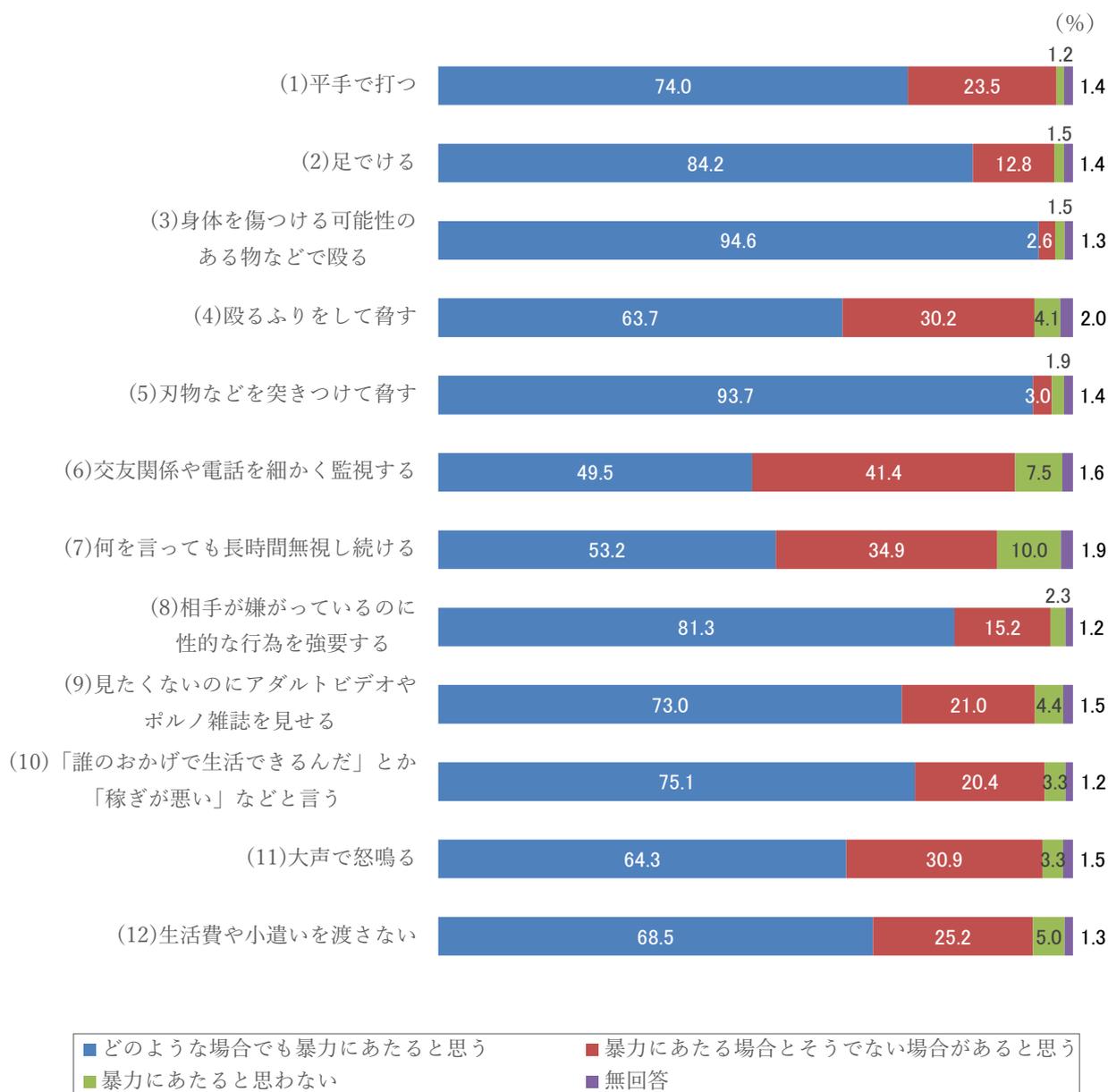
## 8. パートナー間での暴力（DV）やセクハラについて

### (1) 配偶者・パートナー間の暴力

【問16】 次の(1)～(12)のようなことが配偶者・パートナー・恋人の間で行われた場合、それは暴力だと思いますか。

【全体】

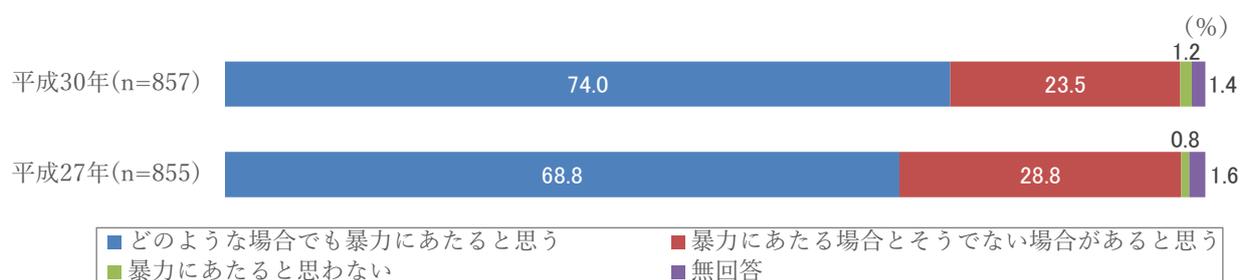
配偶者・パートナー・恋人間での暴力に対する考えについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は「身体を傷つける可能性のある物などで殴る」で94.6%と最も高く、次いで、「刃物などを突きつけて脅す」が93.7%、「足でける」が84.2%などの順になっている。また、「暴力にあたる場合とそうでない場合がある」は、「交友関係や電話を細かく監視する」で41.4%と最も高く、次いで、「何を言っても長時間無視し続ける」が34.9%、「大声で怒鳴る」が30.9%などの順になっている。



### ① 平手で打つ

#### 【経年比較】

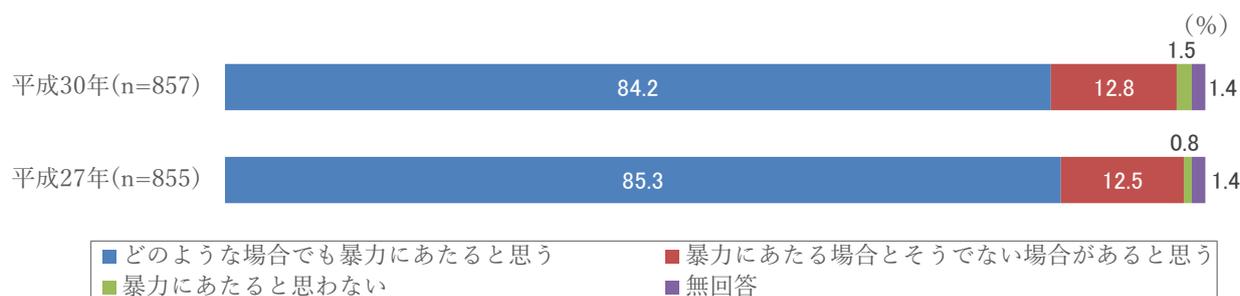
平手で打つについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は74.0%で前回調査から5.2ポイント増加している。



### ② 足でける

#### 【経年比較】

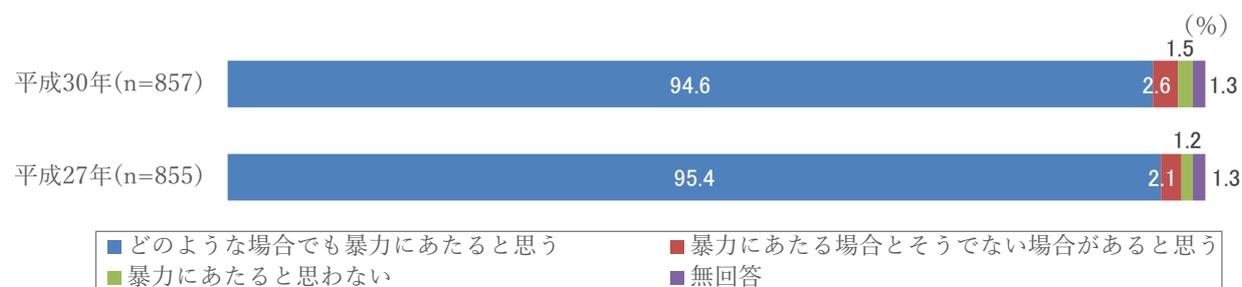
足でけるについて、「暴力にあたる場合とそうでない場合がある」は12.8%で前回調査から0.3ポイント増加している。



### ③ 身体を傷つける可能性のある物などで殴る

#### 【経年比較】

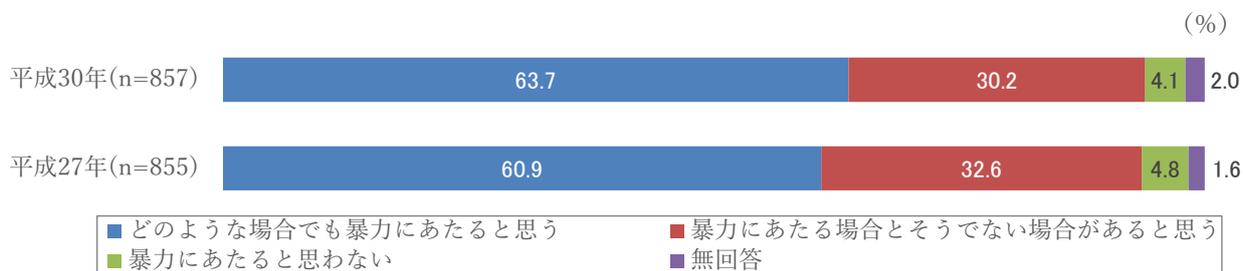
身体を傷つける可能性のある物などで殴るについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は94.6%で前回調査から0.8ポイント減少している。



#### ④ 殴るふりをして脅す

##### 【経年比較】

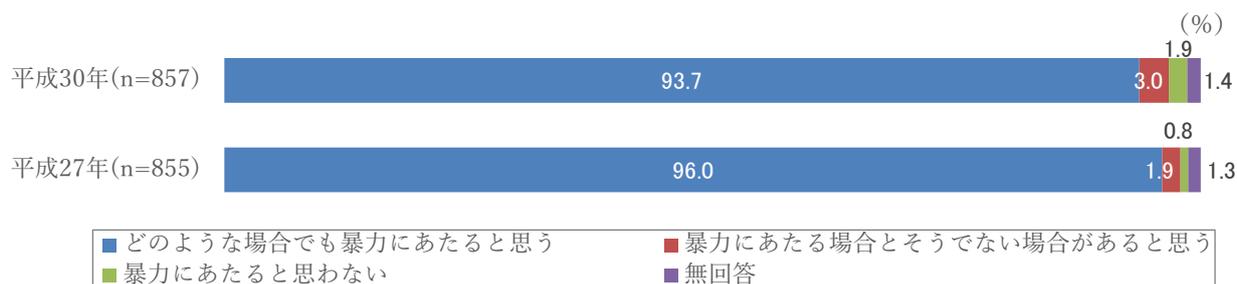
殴るふりをして脅すについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は63.7%で前回調査から2.8ポイント増加し、「暴力にあたる場合とそうでない場合がある」は30.2%で前回調査から2.4ポイント減少している。



#### ⑤ 刃物などを突きつけて脅す

##### 【経年比較】

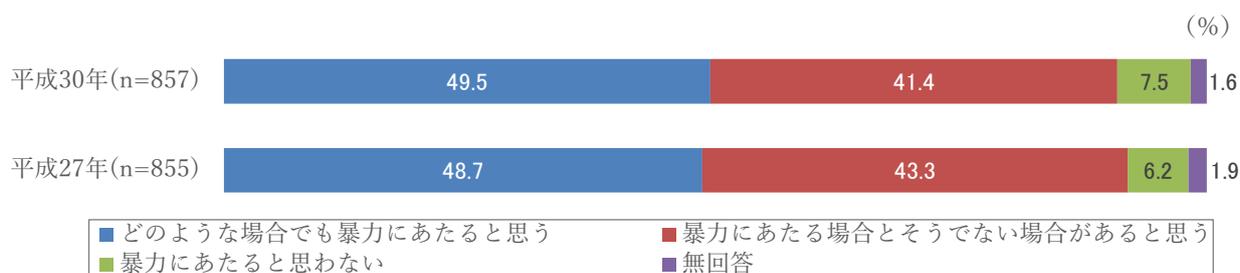
刃物などを突きつけて脅すについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は93.7%で前回調査から2.3ポイント減少し、「暴力にあたる場合とそうでない場合がある」は3.0%で前回調査から1.1ポイント増加している。



#### ⑥ 交友関係や電話を細かく監視する

##### 【経年比較】

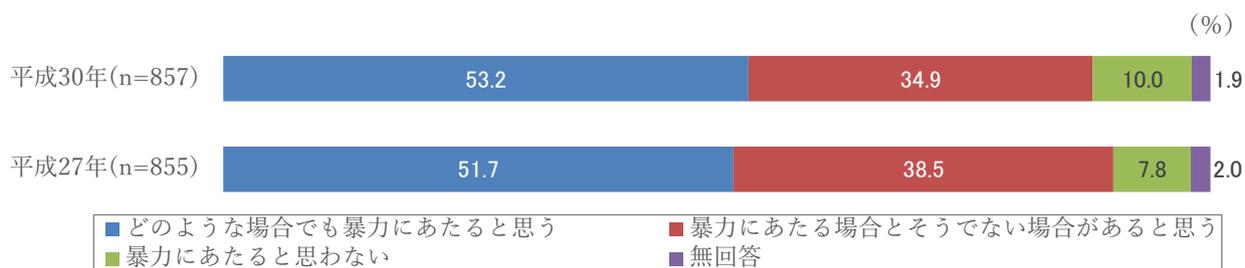
交友関係や電話を細かく監視するについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は49.5%で前回調査から0.8ポイント増加し、一方で「暴力にあたると思わない」も7.5%で前回調査から1.3ポイント増加している。



⑦ 何を言っても長時間無視し続ける

【経年比較】

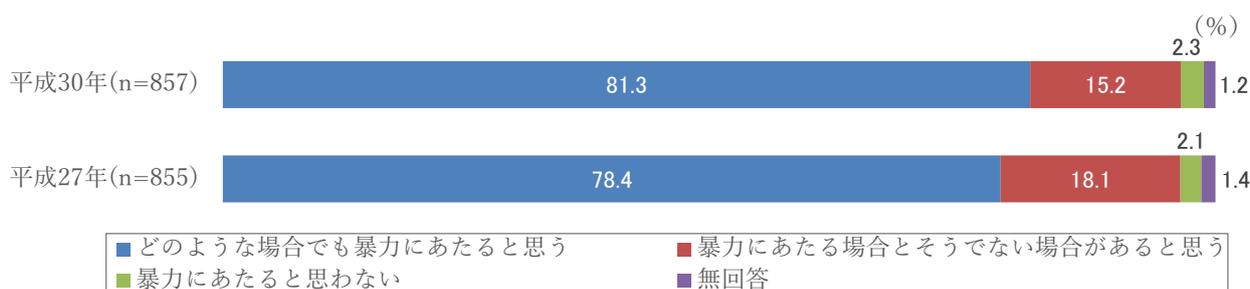
何を言っても長時間無視し続けるについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は53.2%で前回調査から1.5ポイント増加し、一方で「暴力にあたると思わない」も10.0%で前回調査から2.2ポイント増加している。



⑧ 相手が嫌がっているのに性的な行為を強要する

【経年比較】

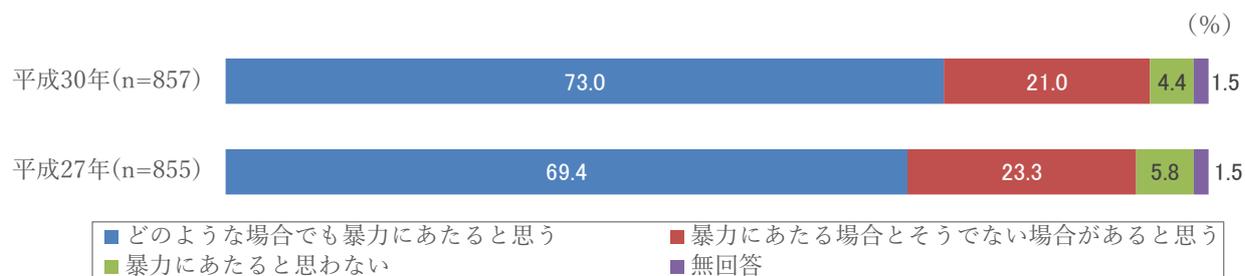
相手が嫌がっているのに性的な行為を強要するについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は81.3%で前回調査から2.9ポイント増加している。



⑨ 見たくないのにアダルトビデオやポルノ雑誌を見せる

【経年比較】

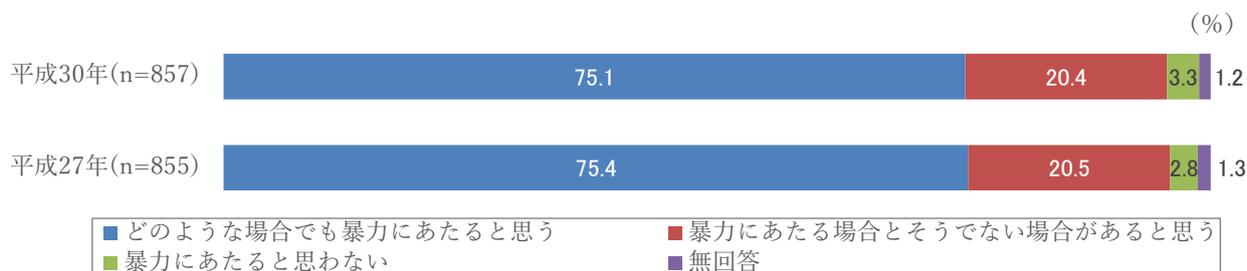
見たくないのにアダルトビデオやポルノ雑誌を見せるについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は73.0%で前回調査から3.6ポイント増加している。



⑩ 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「稼ぎが悪い」などと言う

【経年比較】

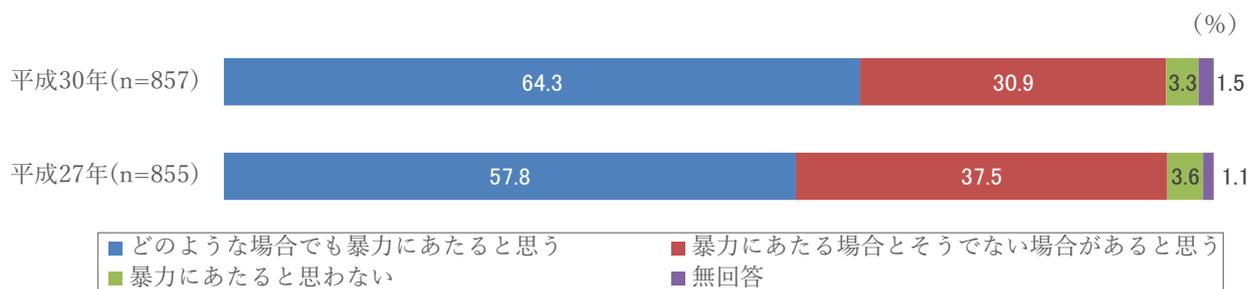
「誰のおかげで生活できるんだ」とか「稼ぎが悪い」などと言うについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は75.1%で前回調査から0.3ポイント減少し、「暴力にあたると思わない」は3.3%で前回調査から0.5ポイント増加している。



⑪ 大声で怒鳴る

【経年比較】

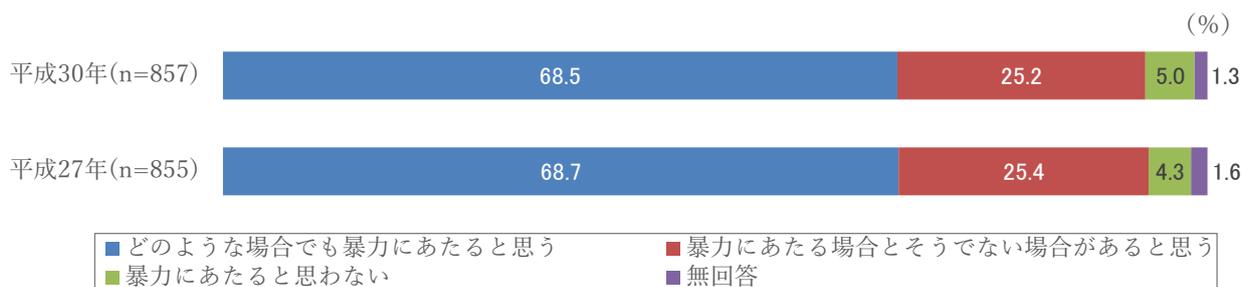
大声で怒鳴るについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は64.3%で前回調査から6.5ポイント増加している。



⑫ 生活費や小遣いを渡さない

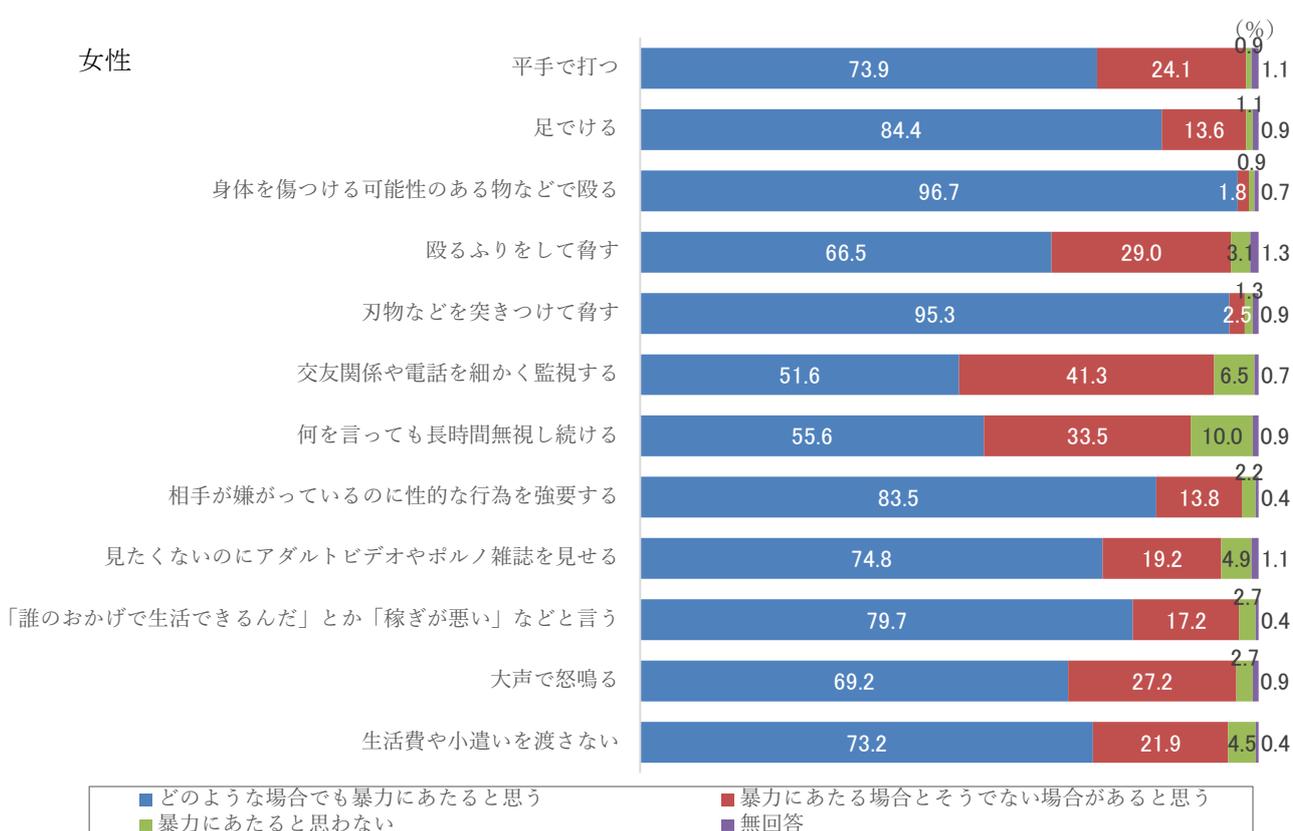
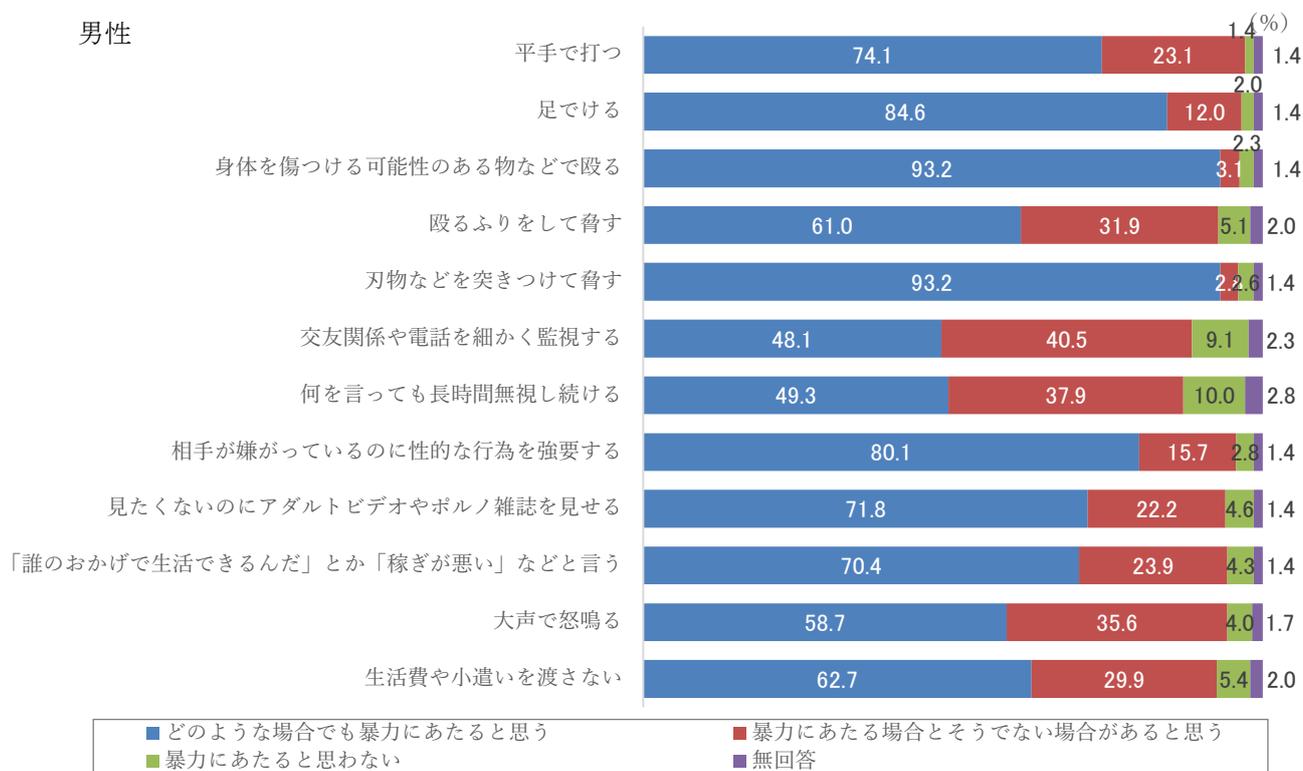
【経年比較】

生活費や小遣いを渡さないについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は68.5%で前回調査から0.2ポイント減少しているが、「暴力にあたらぬ」は5.0%と前回調査から0.7ポイント増加している。



## 【性別】

性別でみると、「どのような場合でも暴力にあたる」は12項目中10項目で女性が男性より高く、「生活費や小遣いを渡さない」では、女性が73.2%で男性の62.7%より10.5ポイント、「大声で怒鳴る」では、女性が69.2%で男性の58.7%より10.5ポイント、それぞれ高くなっている。一方、男性が女性より高くなっている残りの2項目は、「平手で打つ」、「足でける」で、男性が女性より0.2ポイントそれぞれ高くなっている。

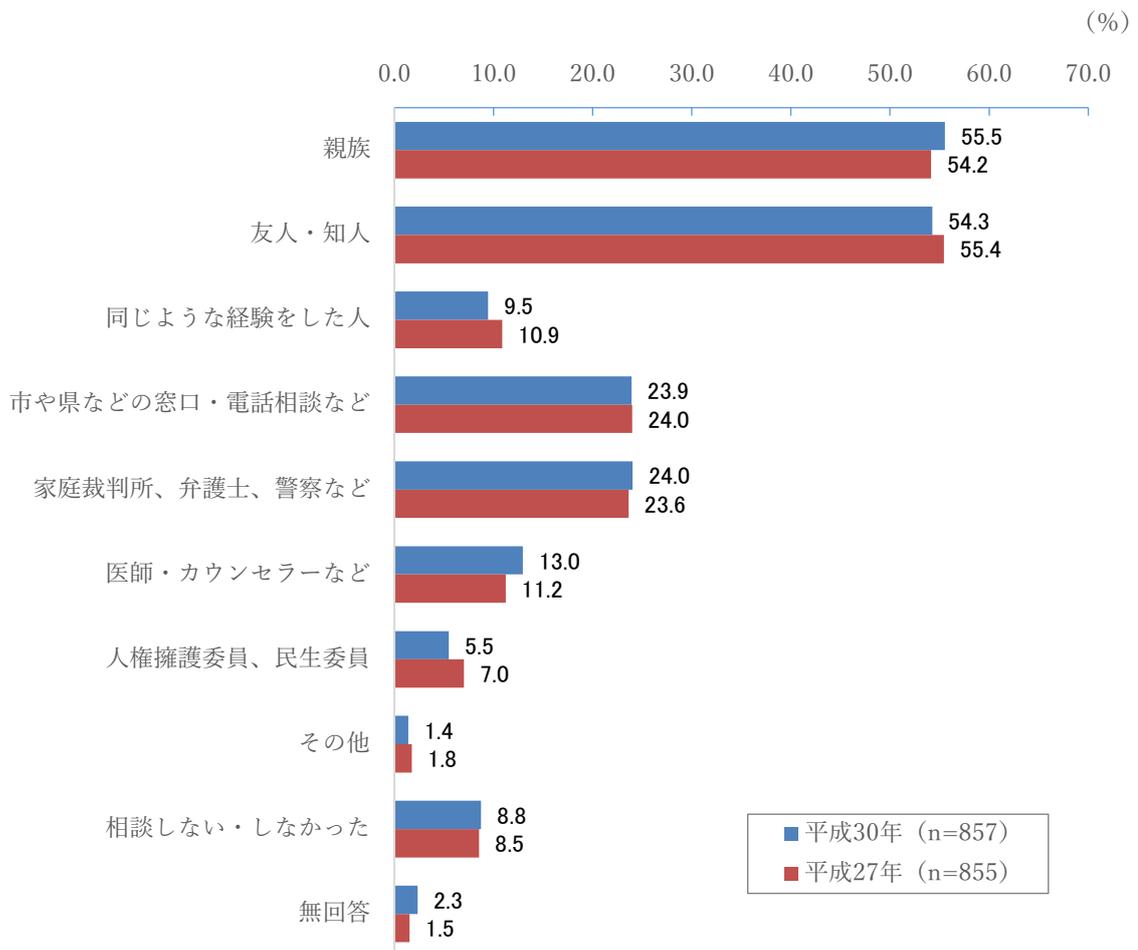


(2) 配偶者・パートナー間の暴力の相談先

【問17-1】 今後もし暴力を「受けたり、見聞きしたら」、あるいは今までに「受けたり、見聞きしたことがある」場合は、だれに打ち明けたり、相談したりしますか、または相談しましたか。

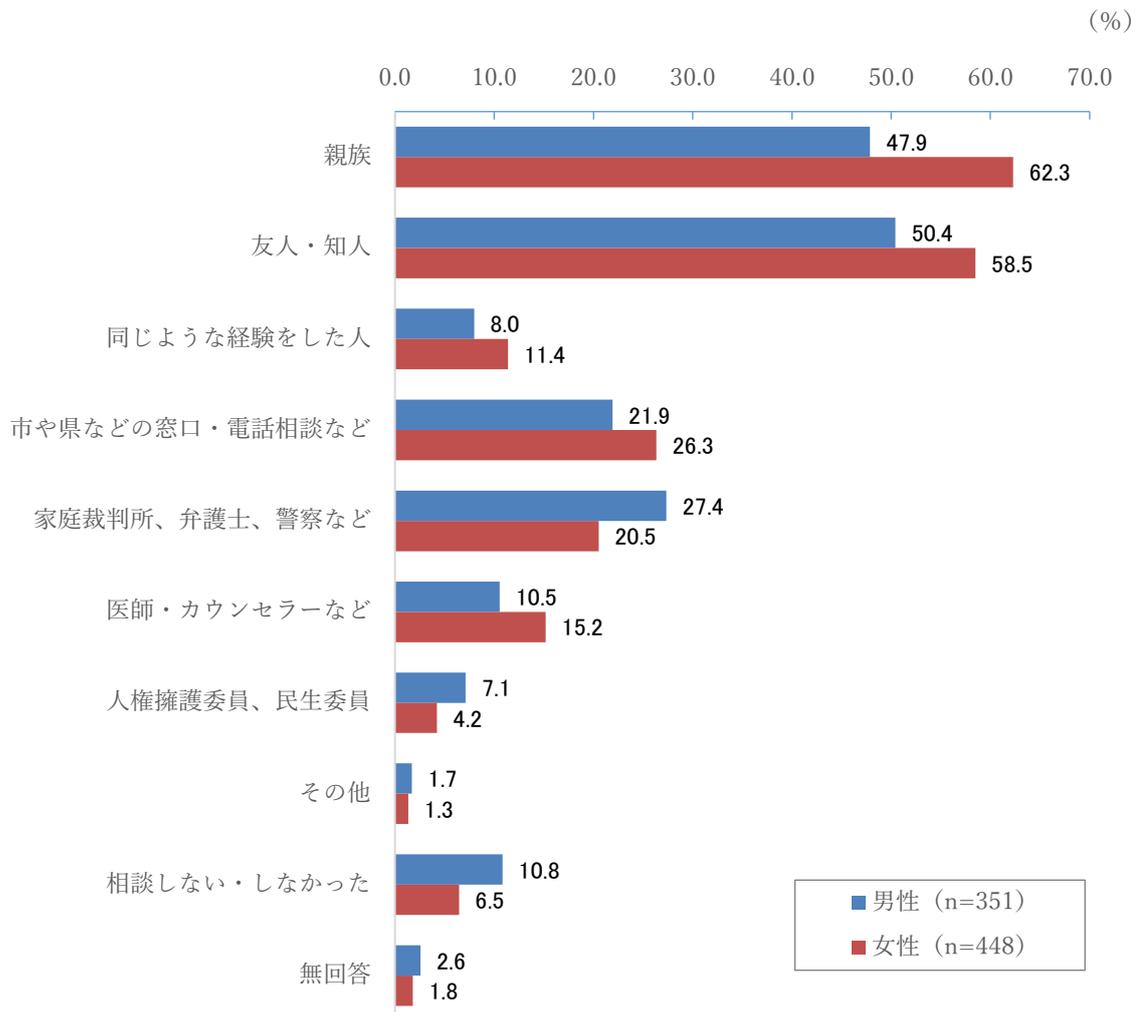
【全体】

DVの相談先について、「親族」が55.5%で最も高く、次いで、「友人・知人」が54.3%となっている。経年比較をみると、「意思・カウンセラーなど」は13.0%で前回調査から1.8ポイント増加している。



### 【性別】

性別で見ると、「親族」は女性が62.3%で男性の47.9%より14.4ポイント、「友人・知人」は女性が58.5%で男性の50.4%より8.1ポイント、それぞれ高くなっている。



(2-1) 暴力について相談しなかった理由

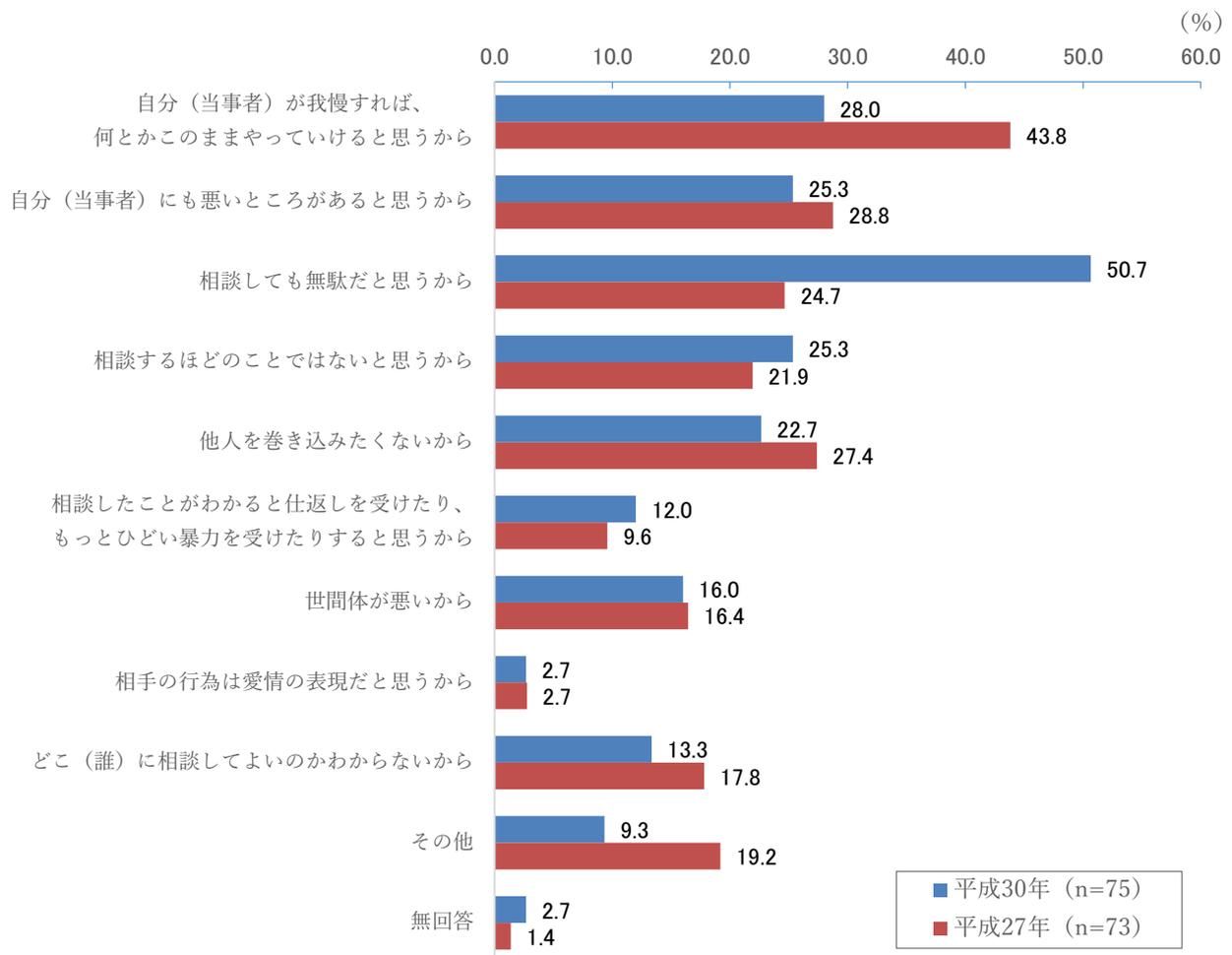
【問17-2】 <問17-1で、「9. 相談しない・しなかった」と回答した方に>  
相談しない・しなかったのはなぜですか。

【全体】

暴力を相談しない理由について、「相談しても無駄だと思うから」が50.7%で最も高く、次いで、「自分が我慢すれば、何とかこのままやっていけると思うから」が28.0%、「自分にも悪いところがあると思うから」と「相談するほどのことではないと思うから」が25.3%などの順になっている。

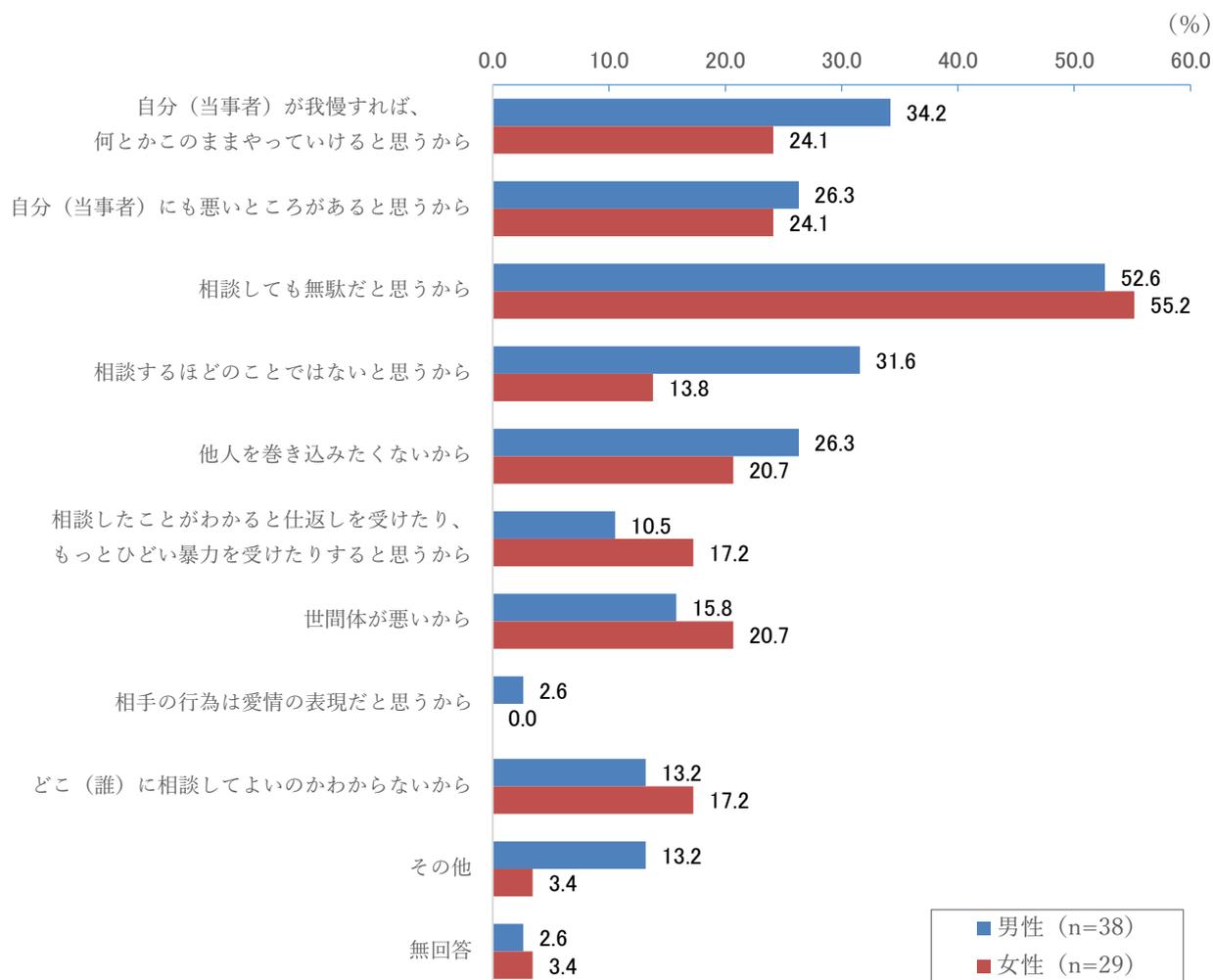
【経年比較】

経年比較をみると、前回調査から「相談しても無駄だと思うから」は26.0ポイント、「相談するほどのことではないと思うから」は3.4ポイント、それぞれ増加している。



## 【性別】

性別でみると、「相談するほどのことではないと思うから」は男性が31.6%で女性の13.8%より17.8ポイント高くなっている。一方、「相談したことがわかると仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたりすると思うから」は女性が17.2%で男性の10.5%より6.7ポイント高くなっている。



### (3) セクシャル・ハラスメントと感ずること

【問18】 次のようなことでセクハラだと感じたことがありますか。またそれはどこで感じましたか。

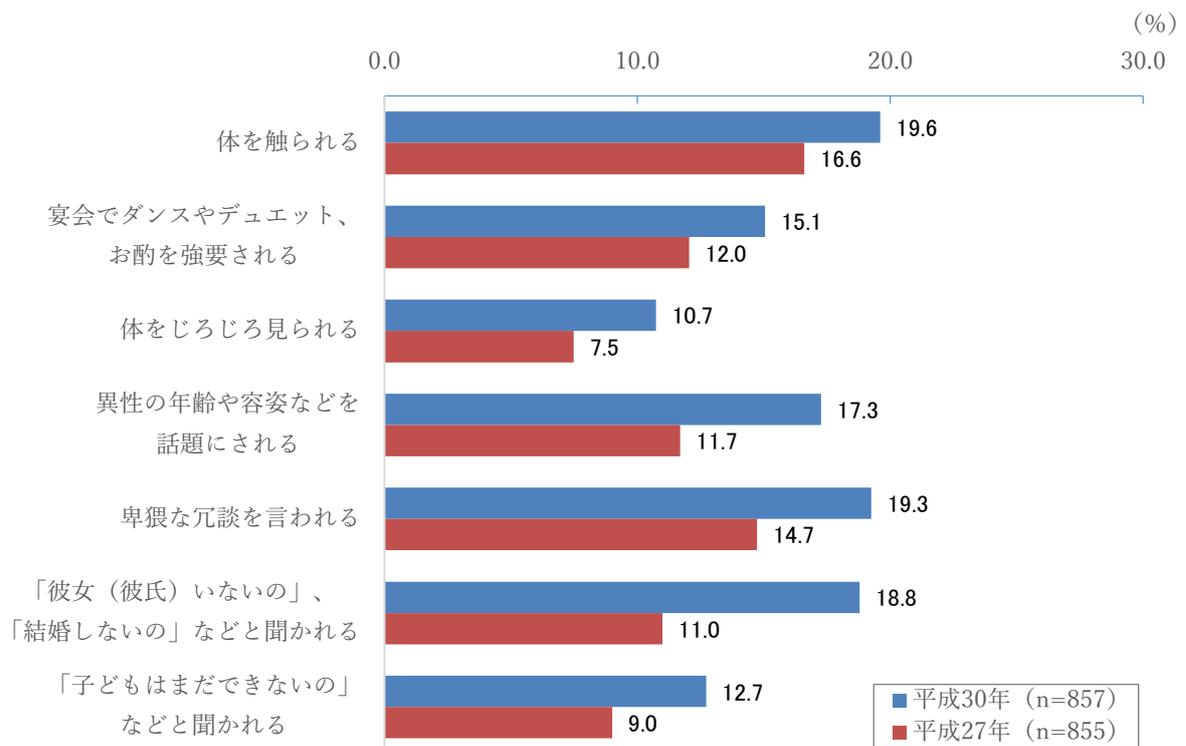
#### ① 職場

##### 【全体】

職場においてセクハラだと感ずることについて、「体を触られる」は19.6%と最も高く、次いで、「卑猥な冗談を言われる」は19.3%、「『彼女（彼氏）いないの』、『結婚しないの』などと聞かれる」は18.8%などの順になっている。

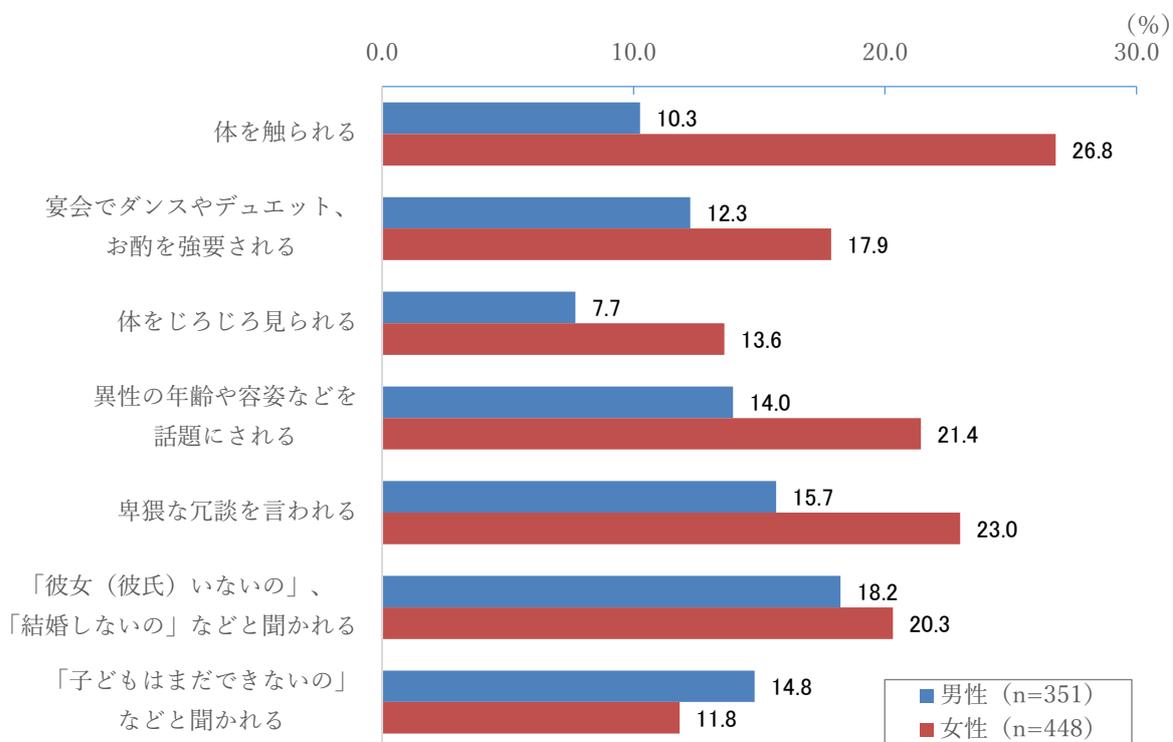
##### 【経年比較】

経年比較をみると、前回調査から「『彼女（彼氏）いないの』、『結婚しないの』などと聞かれる」は7.8ポイント、「異性の年齢や容姿などを話題にされる」は5.6ポイント、それぞれ増加している。



## 【性別】

性別でみると、「体を触られる」は女性が26.8%で男性の10.3%より16.5ポイント、「異性の年齢や容姿などを話題にされる」は女性が21.4%で男性の14.0%より7.4ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「『子どもはまだできないの』などと聞かれる」は男性が14.8%で女性の11.8%より3.0ポイント高くなっている。



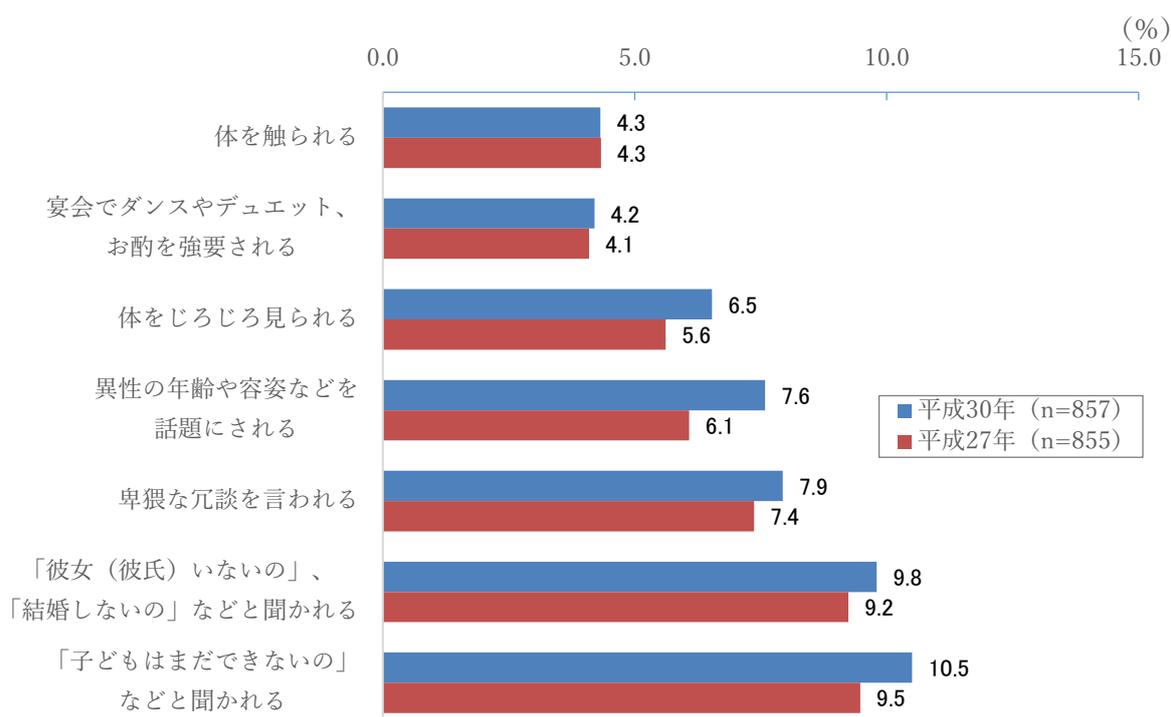
## ② 地域

### 【全体】

地域においてセクハラだと感じることにについて、「『子どもはまだできないの』などと聞かれる」は10.5%と最も高く、次いで、「『彼女（彼氏）いないの』、『結婚しないの』などと聞かれる」は9.8%、「卑猥な冗談を言われる」は7.9%などの順になっている。

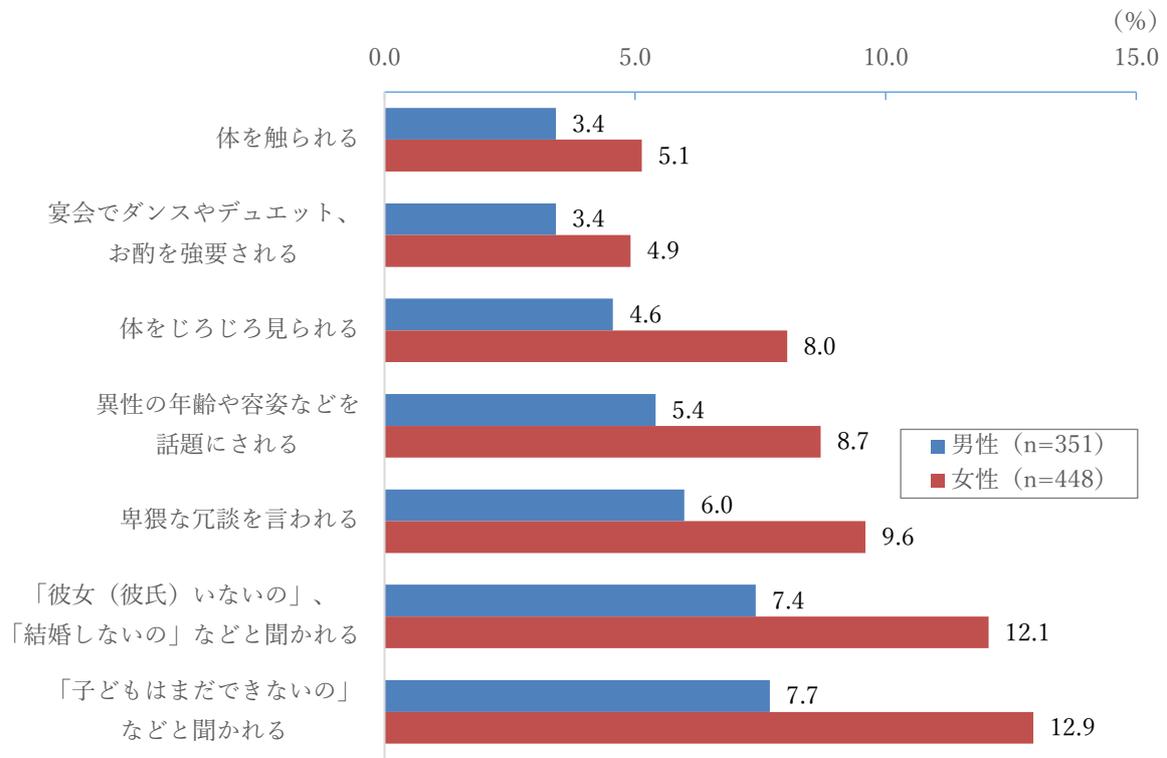
### 【経年比較】

経年比較をみると、「体を触られる」以外は全て前回調査から増加しており、「異性の年齢や容姿などを話題にされる」は1.5ポイント増加している。



## 【性別】

性別でみると、「『子どもはまだできないの』などと聞かれる」は女性が12.9%で男性の7.7%より5.2ポイント、「『彼女（彼氏）いないの』、『結婚しないの』などと聞かれる」は女性が12.1%で男性の7.4%より4.7ポイント、それぞれ高くなっている。



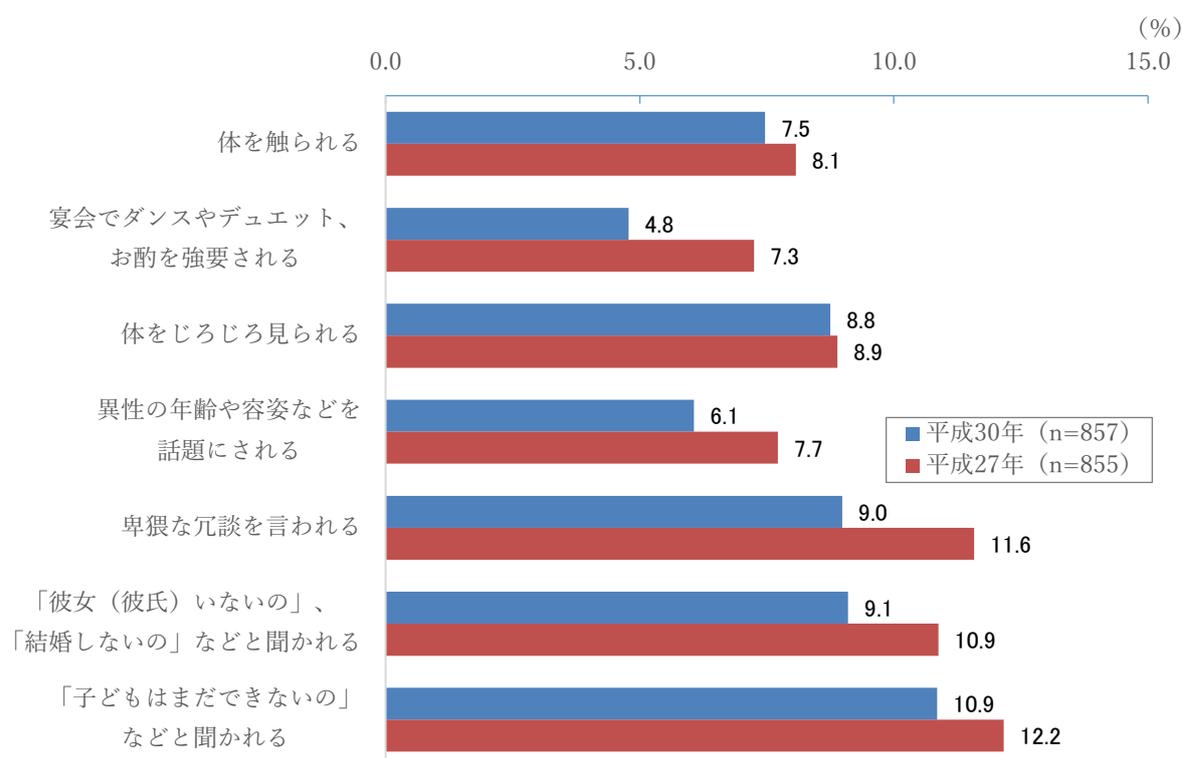
### ③ その他

#### 【全体】

その他においてセクハラだと感じることについて、「『子どもはまだできないの』などと聞かれる」は10.9%と最も高く、次いで、「『彼女（彼氏）いないの』、『結婚しないの』などと聞かれる」は9.1%、「卑猥な冗談を言われる」は9.0%などの順になっている。

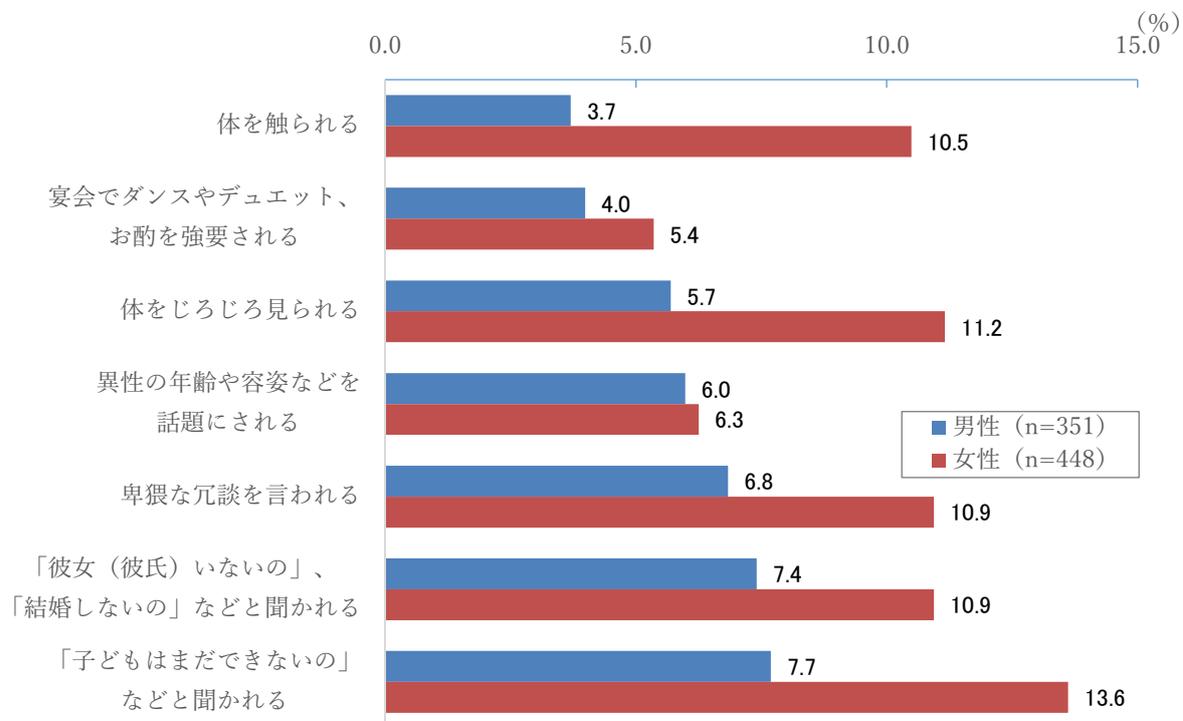
#### 【経年比較】

経年比較をみると、全て前回調査から減少しており、「卑猥な冗談を言われる」は2.6ポイント減少している。



## 【性別】

性別で見ると、「体を触られる」は女性が10.5%で男性の3.7%より6.8ポイント、「『子どもはまだできないの』などと聞かれる」は女性が13.6%で男性の7.7%より5.9ポイント、それぞれ高くなっている。



## 9. 男女共同参画社会づくりのための取組について

### (1) 市が力を入れるべき取組

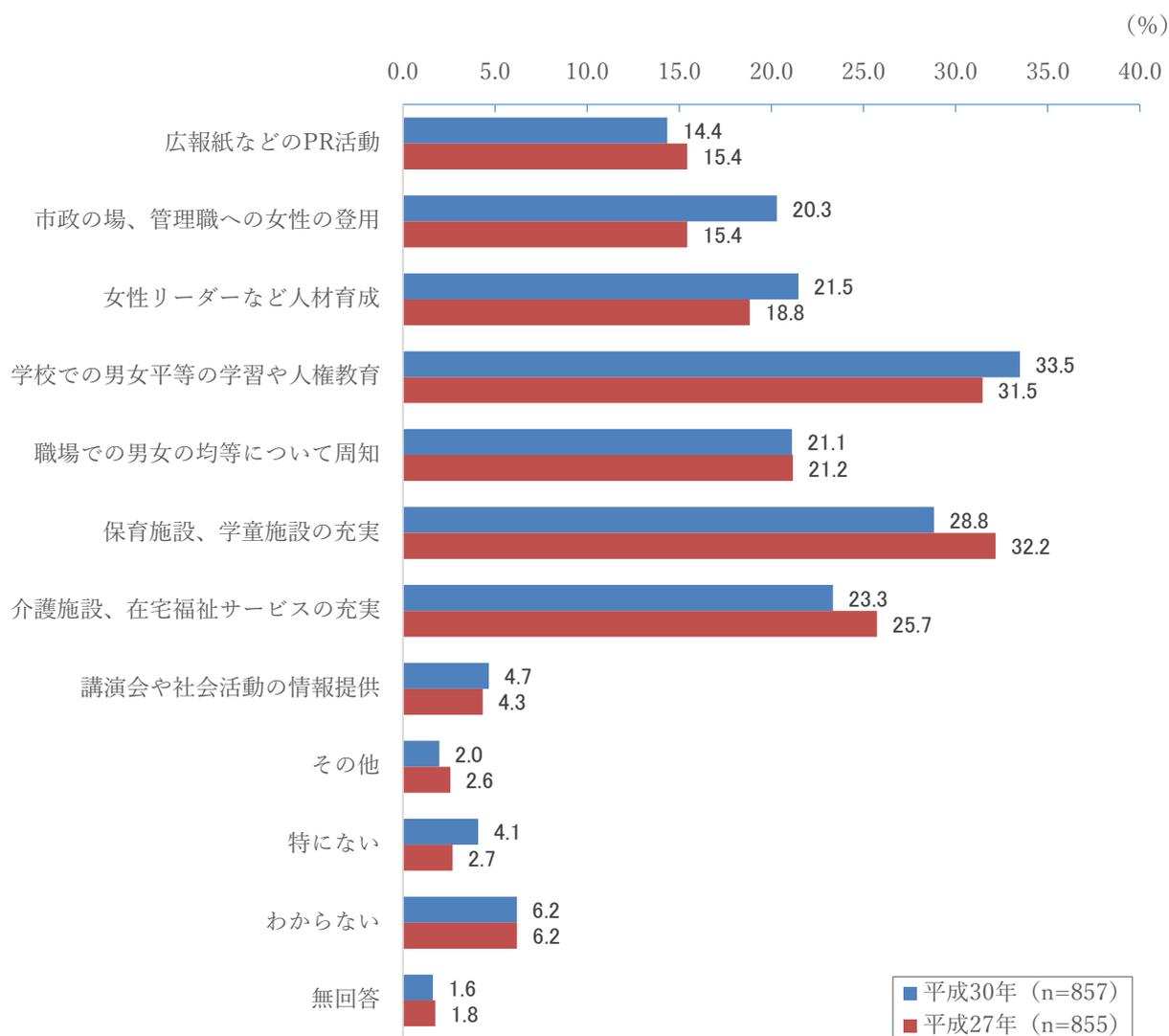
**【問 19】 男女共同参画社会を実現するために、市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。**

**【全体】**

市が今後力を入れていくべきことについて、「学校での男女平等の学習や人権教育」が 33.5%で最も高く、次いで、「保育施設、学童施設の充実」は 28.8%、「介護施設、在宅サービスの充実」は 23.3%などの順になっている。

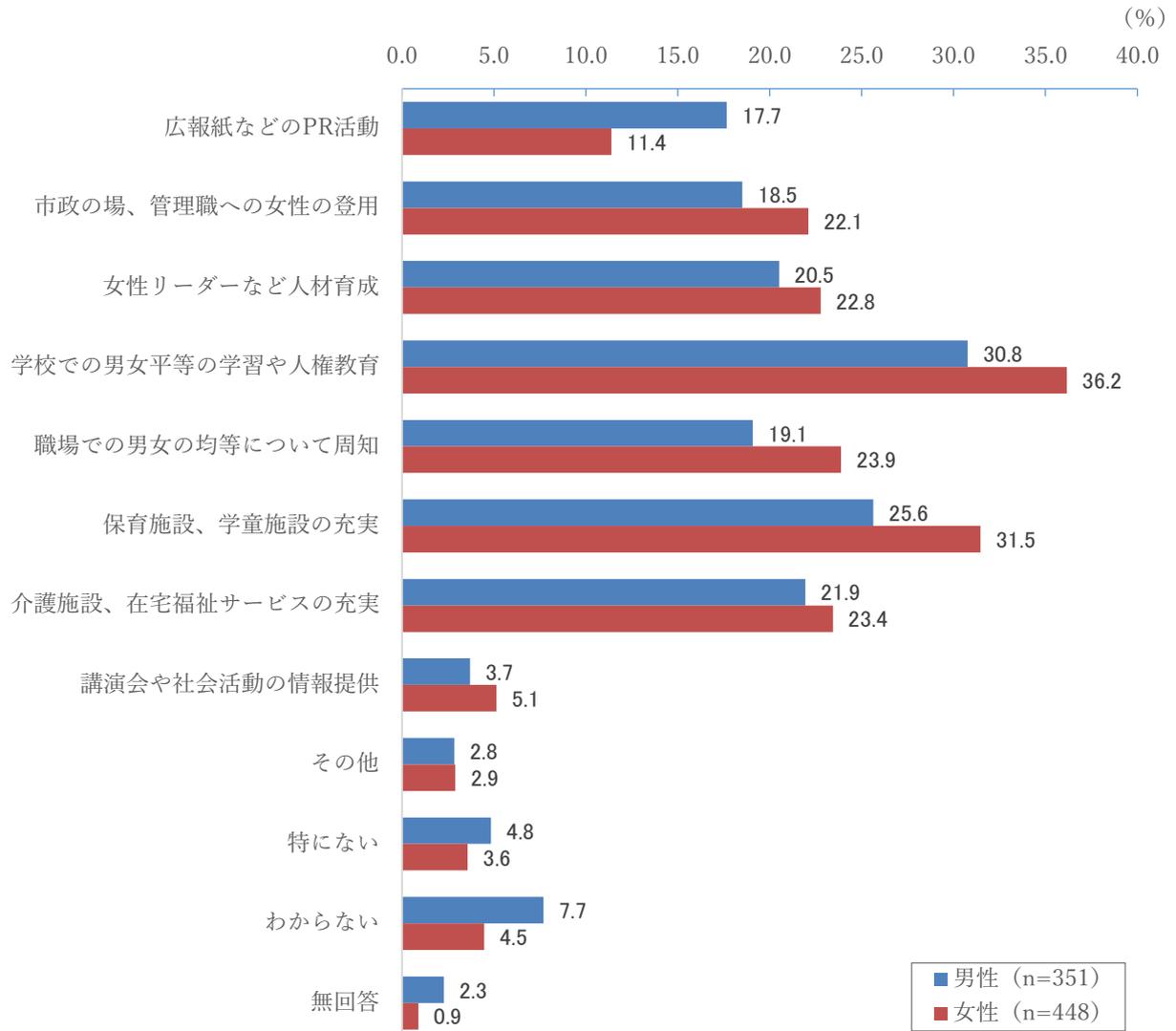
**【経年比較】**

経年比較をみると、「市政の場、管理職への女性の登用」は前回調査から 4.9 ポイント増加している。一方、「保育施設、学童施設の充実」は前回調査から 3.4 ポイント、「介護施設、サービスの充実」は 2.4 ポイント、それぞれ減少している。



## 【性別】

性別で見ると、「保育施設、学童施設の充実」は女性が31.5%で男性の25.6%より5.9ポイント高くなっている。一方、「広報紙などのPR活動」は男性が17.7%で女性の11.4%より6.3ポイント高くなっている。



## (2) 企業や職場での必要な取組

【問 20】 男女共同参画社会を実現するために、企業などの職場ではどのような取り組みが必要だと思いますか。

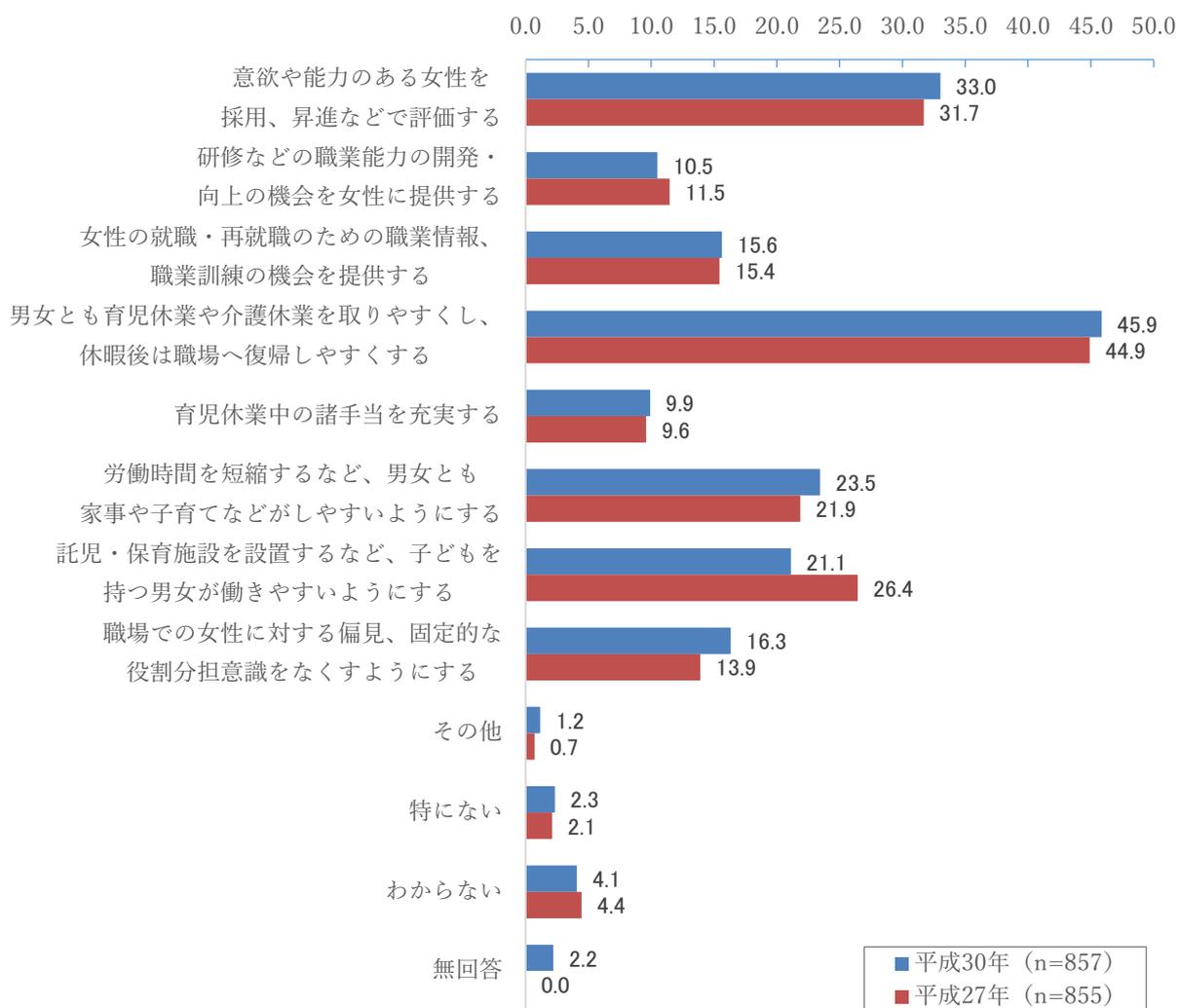
【全体】

男女共同参画社会を実現するために企業などの職場が力を入れるべきことについて、「男女とも育児休業や介護休業を取りやすくし、休暇後は、職場へ復帰しやすくする」は45.9%と最も高く、次いで、「意欲や能力のある女性を採用、昇進などで評価する」は33.0%、「労働時間を短縮するなど、男女とも家事や子育てなどがしやすいようにする」は23.5%などの順になっている。

【経年比較】

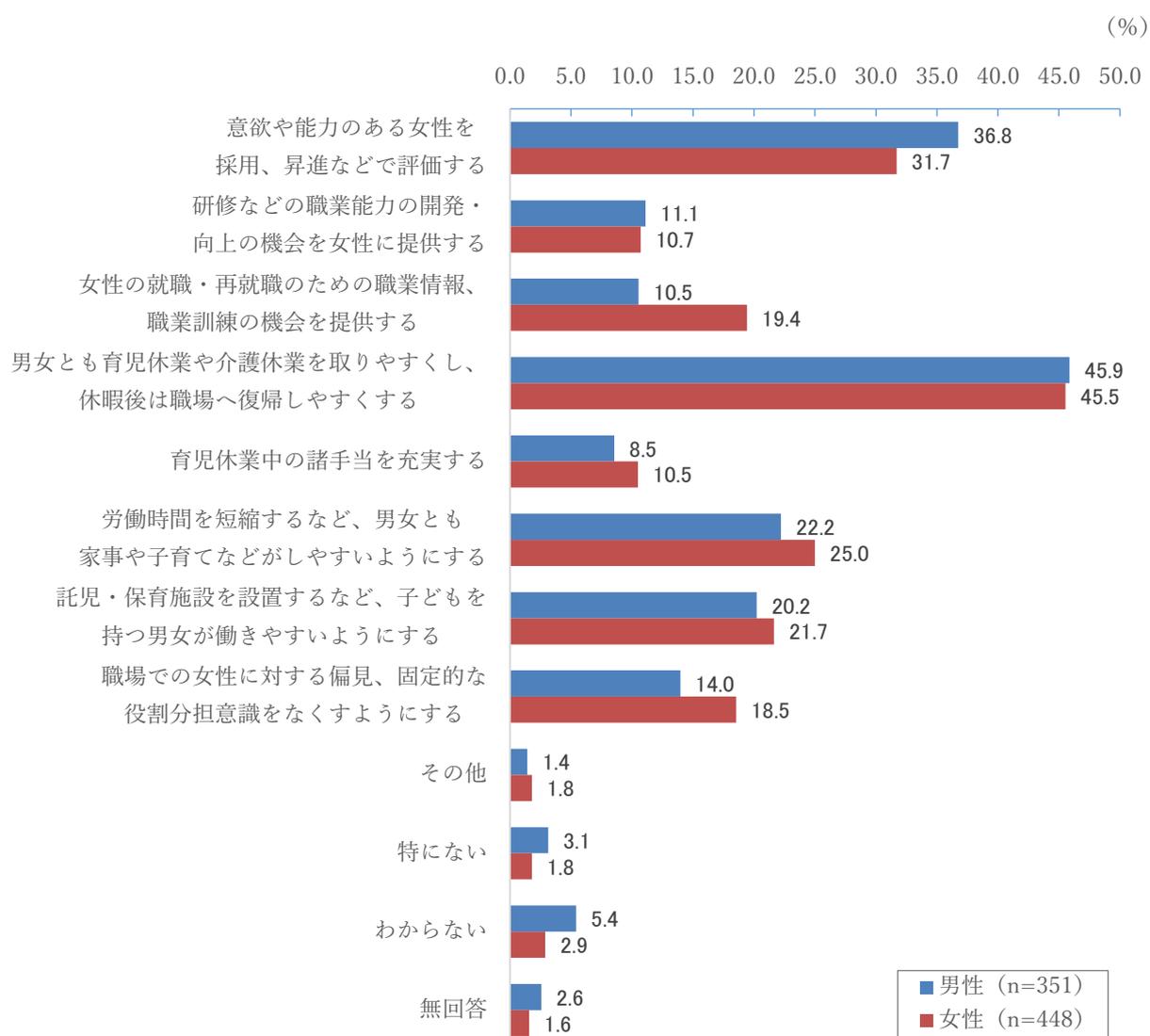
経年比較すると、「職場での女性に対する偏見、固定的な役割分担意識をなくすようにする」は前回調査から2.4ポイント、「労働時間を短縮するなど、男女とも家事や子育てなどがしやすいようにする」は1.6ポイントそれぞれ増加している。

(%)



【性別】

性別でみると、「女性の就職・再就職のための職業情報、職業訓練の機会を提供する」は女性が19.4%で男性の10.5%より8.9ポイント、「職場での女性に対する偏見、固定的な役割分担意識をなくすようにする」は女性が18.5%で男性の14.0%より4.5ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「意欲や能力のある女性を採用、昇進などで評価する」は男性が36.8%で女性の31.7%より5.1ポイント高くなっている。



### (3) 私たち自身が必要な取組

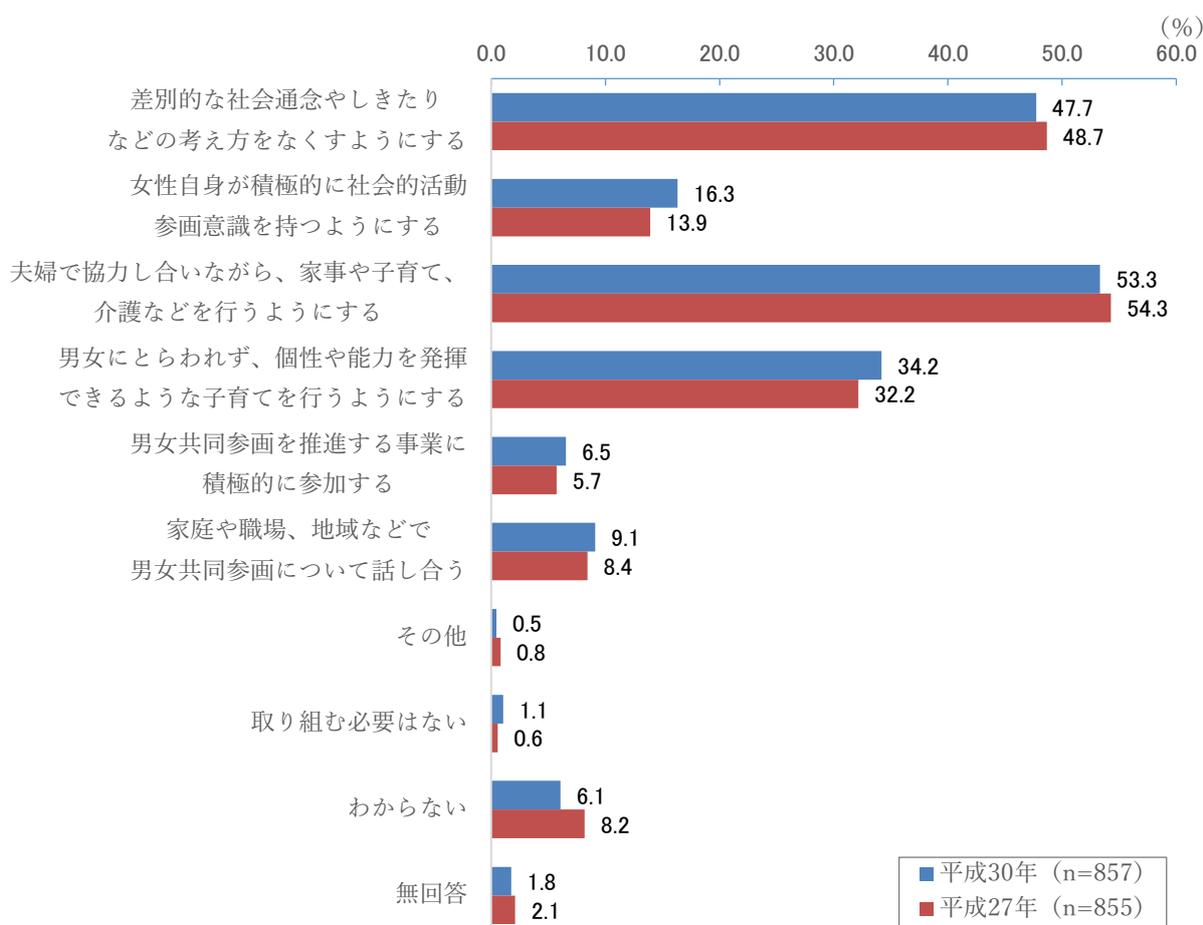
【問 21】 男女共同参画参画社会を実現するために、私たち自身はどのような取り組みが必要だと思いますか。

【全体】

男女共同参画社会を実現するために私たち自身が必要な取組みについて、「夫婦で協力し合いながら、家事や子育て、介護などを行うようにする」は53.3%で最も高く、次いで、「差別的な社会通念やしきたりなどの考え方をなくすようにする」は47.7%、「男女にとらわれず、個性や能力を發揮できるような子育てを行うようにする」は34.2%などの順になっている。

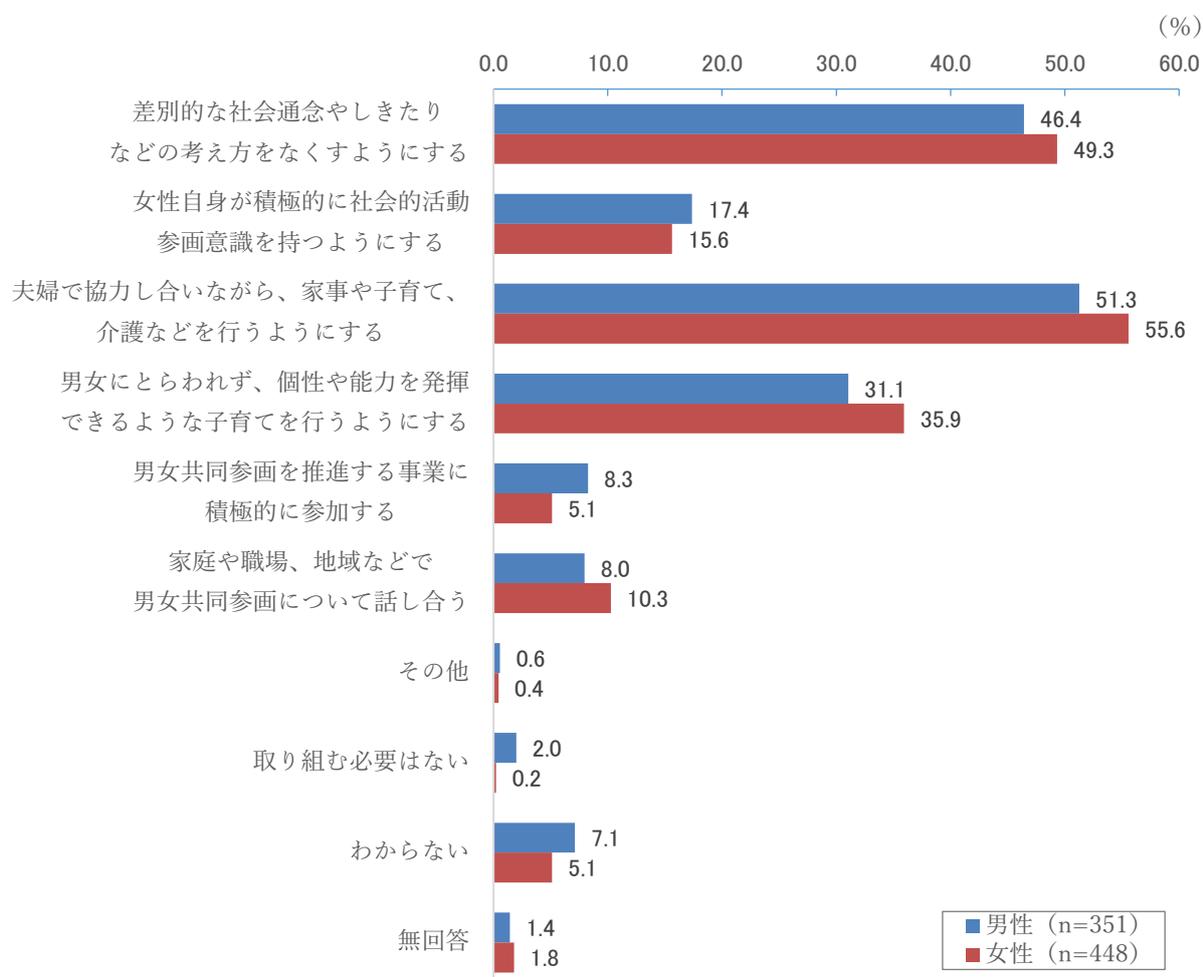
【経年比較】

経年比較すると、「女性自身が積極的に社会的活動参画意識を持つようにする」は2.4ポイント、「男女にとらわれず、個性や能力を發揮できるような子育てを行うようにする」は2.0ポイント、前回調査よりそれぞれ増加している。一方、「差別的な社会通念やしきたりなどの考え方をなくすようにする」と「夫婦で協力し合いながら、家事や子育て、介護などを行うようにする」はそれぞれ前回調査から1.0ポイント減少している。



## 【性別】

性別でみると、「男女にとらわれず、個性や能力を発揮できるような子育てを行うようにする」は女性が35.9%で男性の31.1%より4.8ポイント高く、次いで、「夫婦で協力し合いながら、家事や子育て、介護などを行うようにする」は女性が55.6%で男性の51.3%より4.3ポイント高い。一方で、「男女共同参画を推進する事業に積極的に参加する」は男性が8.3%で女性の5.1%より3.2ポイント高くなっている。



#### (4) 市の施策の認知度

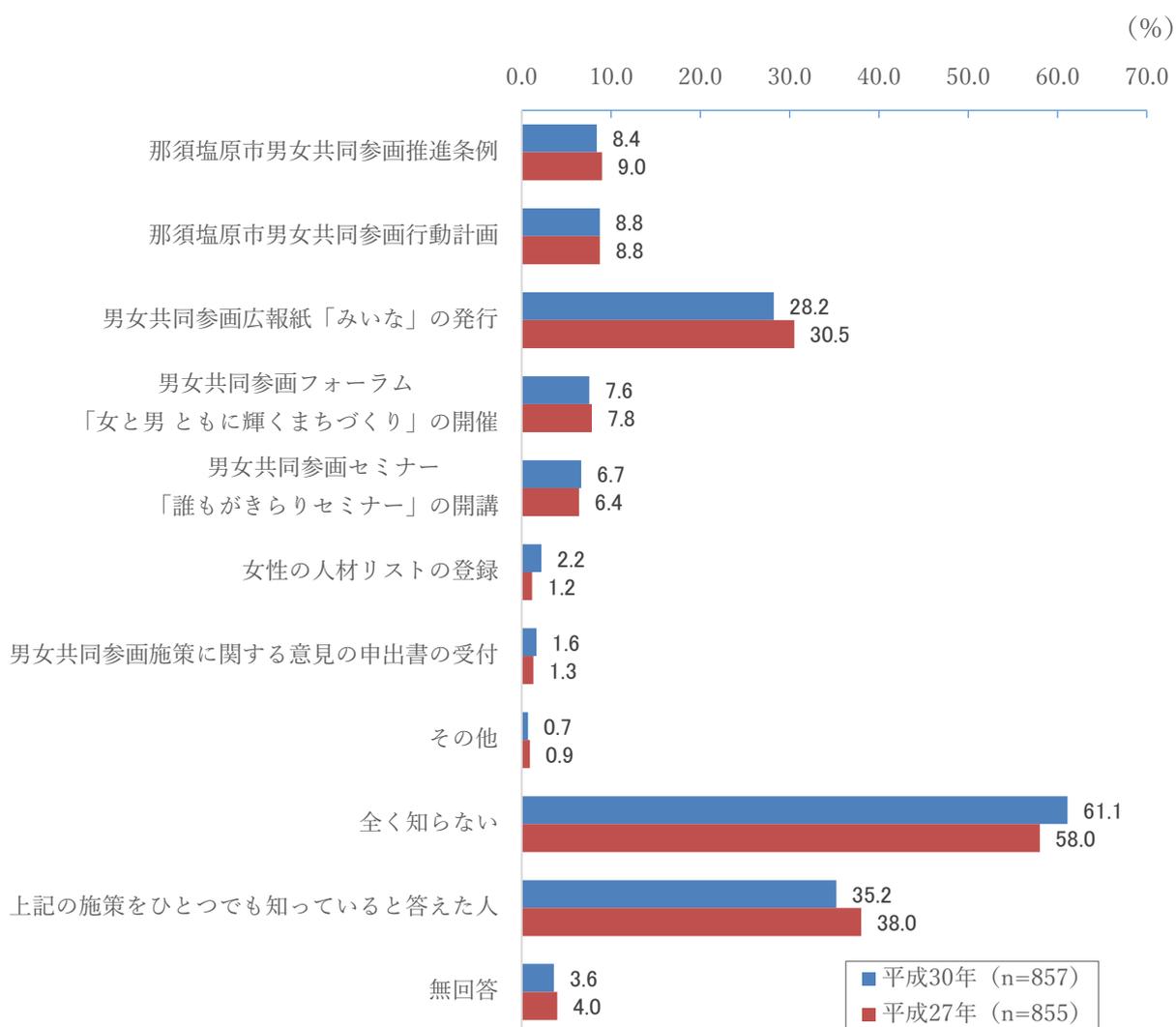
##### 【問 22】 市で取り組んでいる次の男女共同参画施策を知っていますか。

##### 【全体】

市で取り組んでいる男女共同参画施策について、「男女共同参画広報紙『みいな』の発行」は28.2%で最も高く、その他の項目は1割を満たしていない。

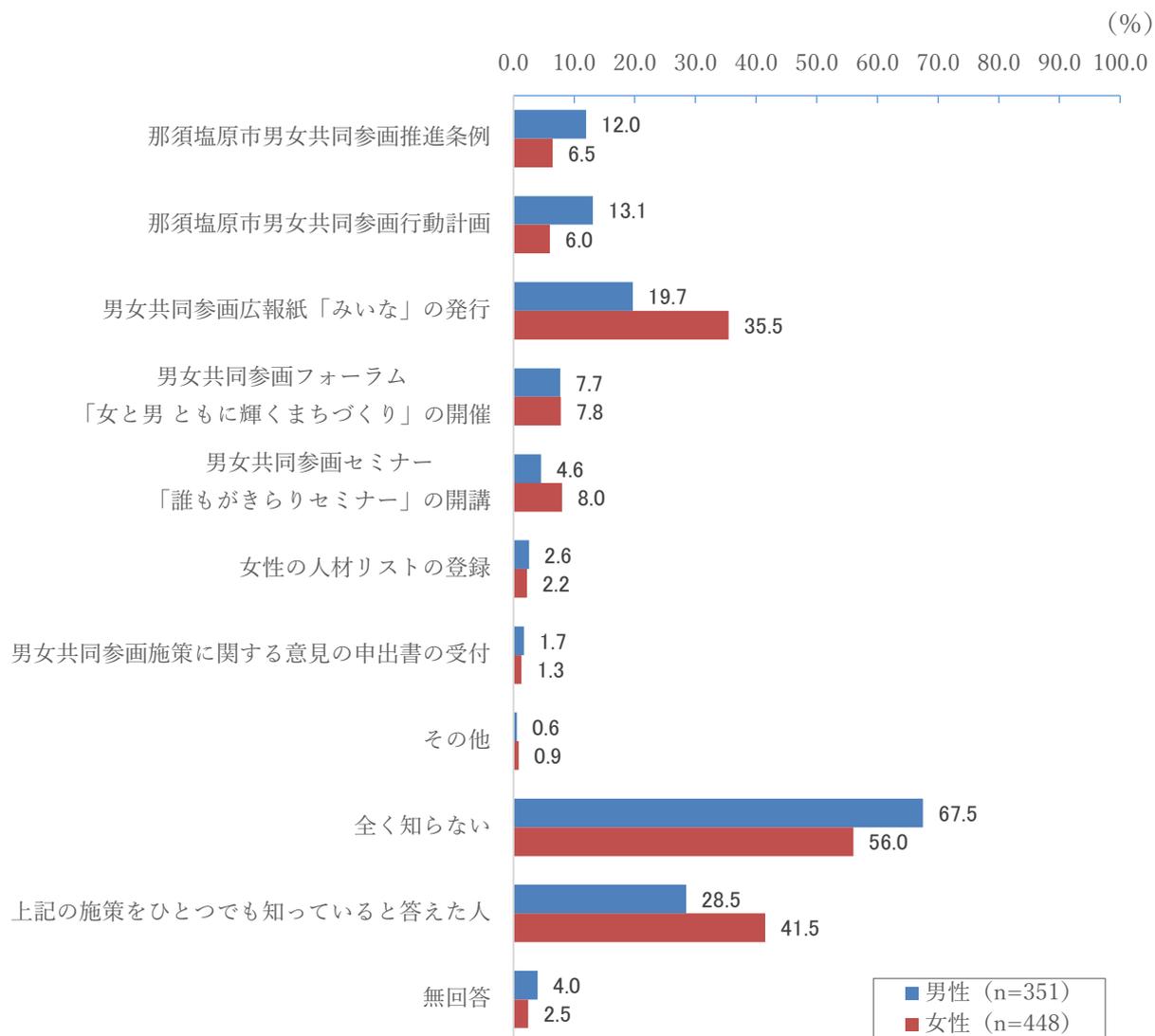
##### 【経年比較】

経年比較すると、「女性の人材リストの登録」は前回調査から1.0ポイント増加しているが、「男女共同参画広報紙『みいな』の発行」は2.3ポイント減少している。



【性別】

性別でみると、7項目中3項目で「知っている」と回答した女性の割合が男性より高く、上記の施策をひとつでも知っているとした人の割合は、女性が41.5%で男性の28.5%より13.0ポイント高くなっている。

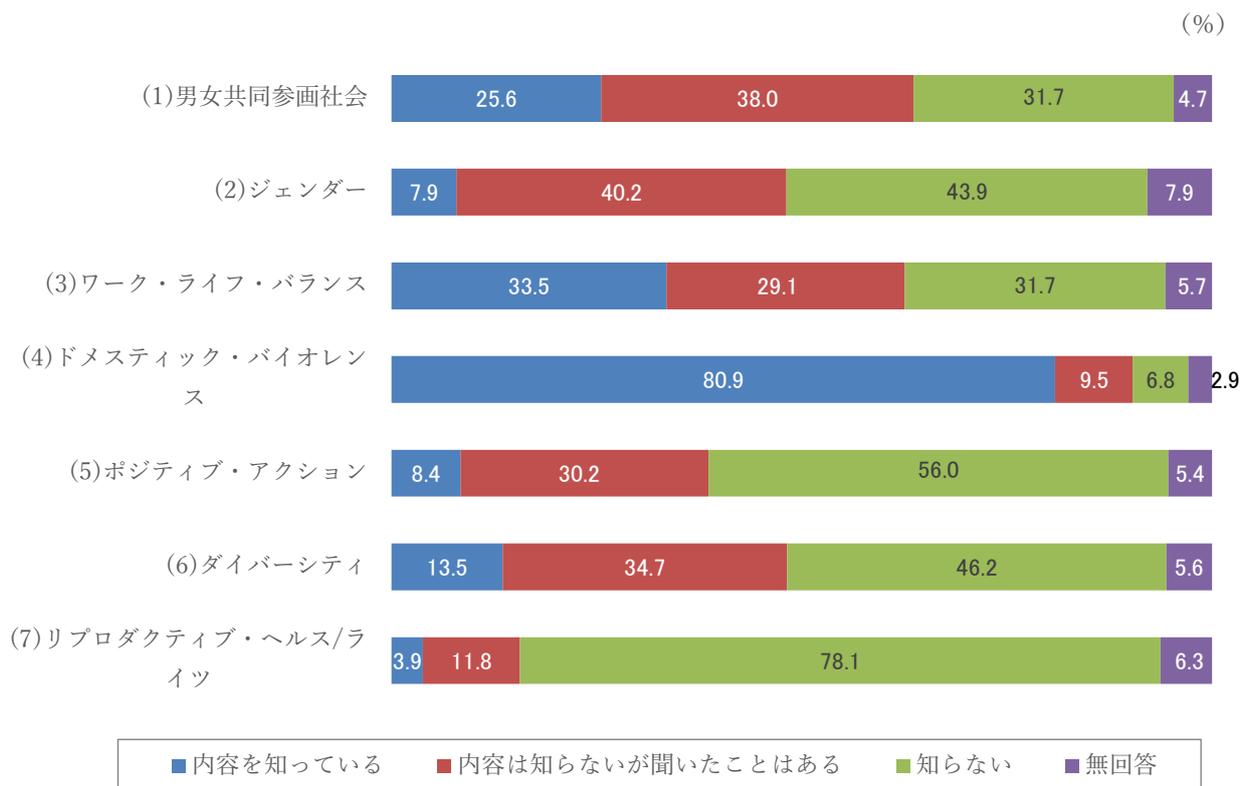


(5) 男女共同参画に関する言葉の認知度

【問 23】 男女共同参画に関する次の言葉について、どの程度知っていますか。

【全体】

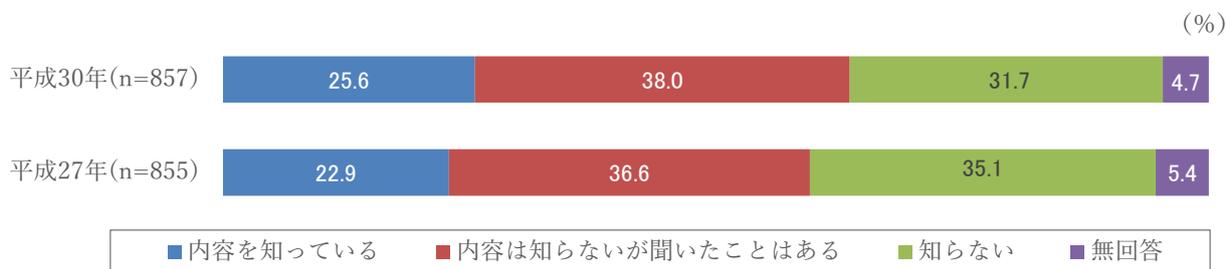
男女共同参画に関する言葉の認知度について、「内容を知っている」は「ドメスティック・バイオレンス」が 80.9%で最も高く、次いで、「ワーク・ライフ・バランス」が 33.5%などの順になっている。一方、「知らない」は「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」が 78.1%で最も高く、次いで、「ポジティブ・アクション」が 56.0%などの順になっている。



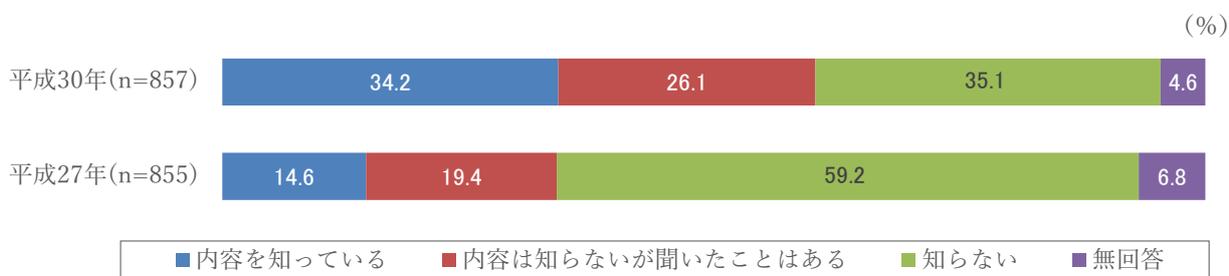
### 【経年比較】

経年比較すると、「内容を知っている」は7項目中6項目で前回調査より高くなっている。特に「ジェンダー」は前回調査より19.6ポイント高くなっている。

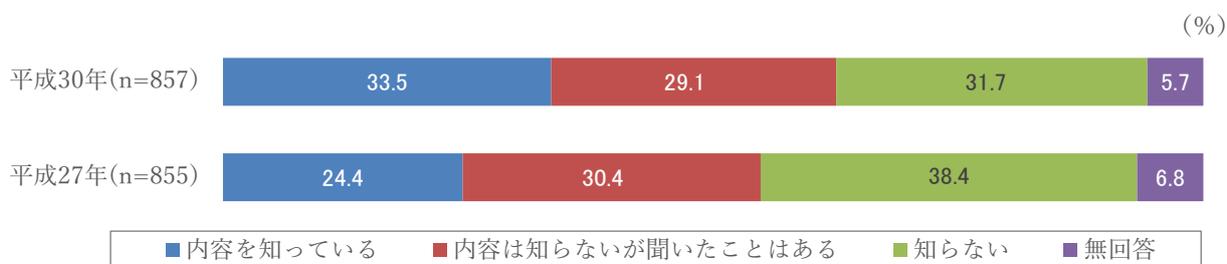
#### ① 男女共同参画社会



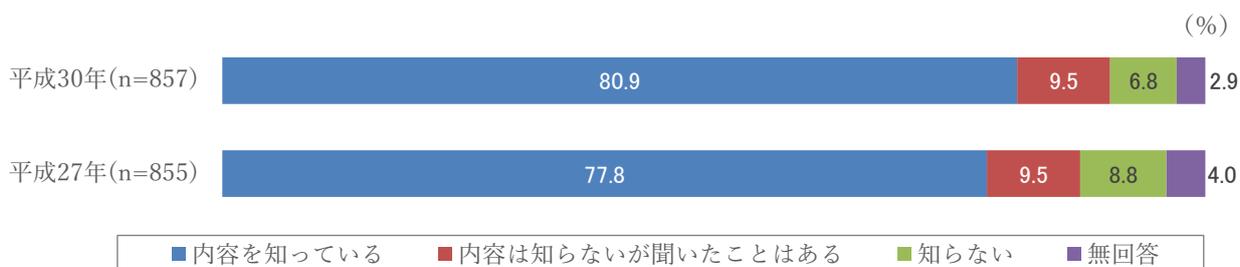
#### ② ジェンダー



#### ③ ワーク・ライフ・バランス

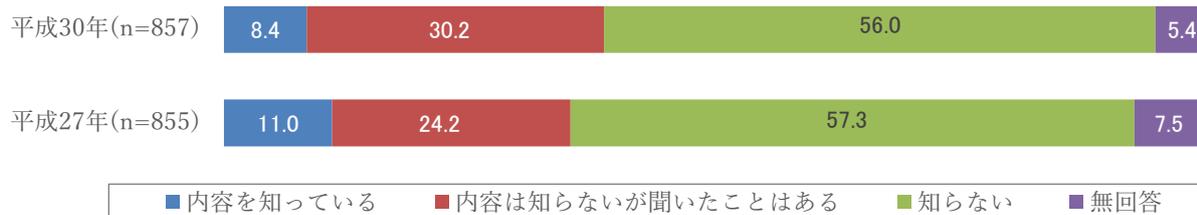


#### ④ ドメスティック・バイオレンス



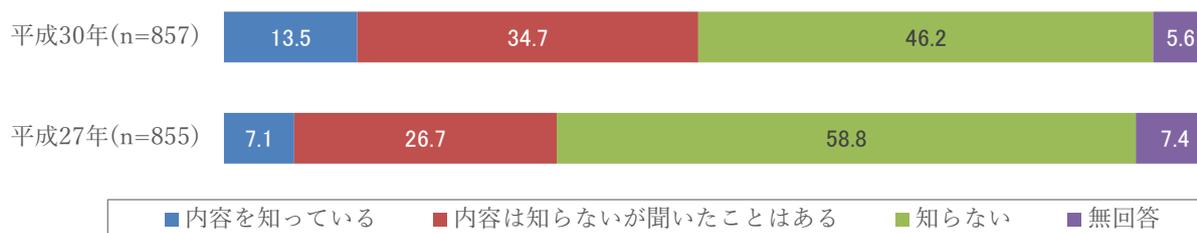
⑤ ポジティブ・アクション

(%)



⑥ ダイバーシティ

(%)



⑦ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

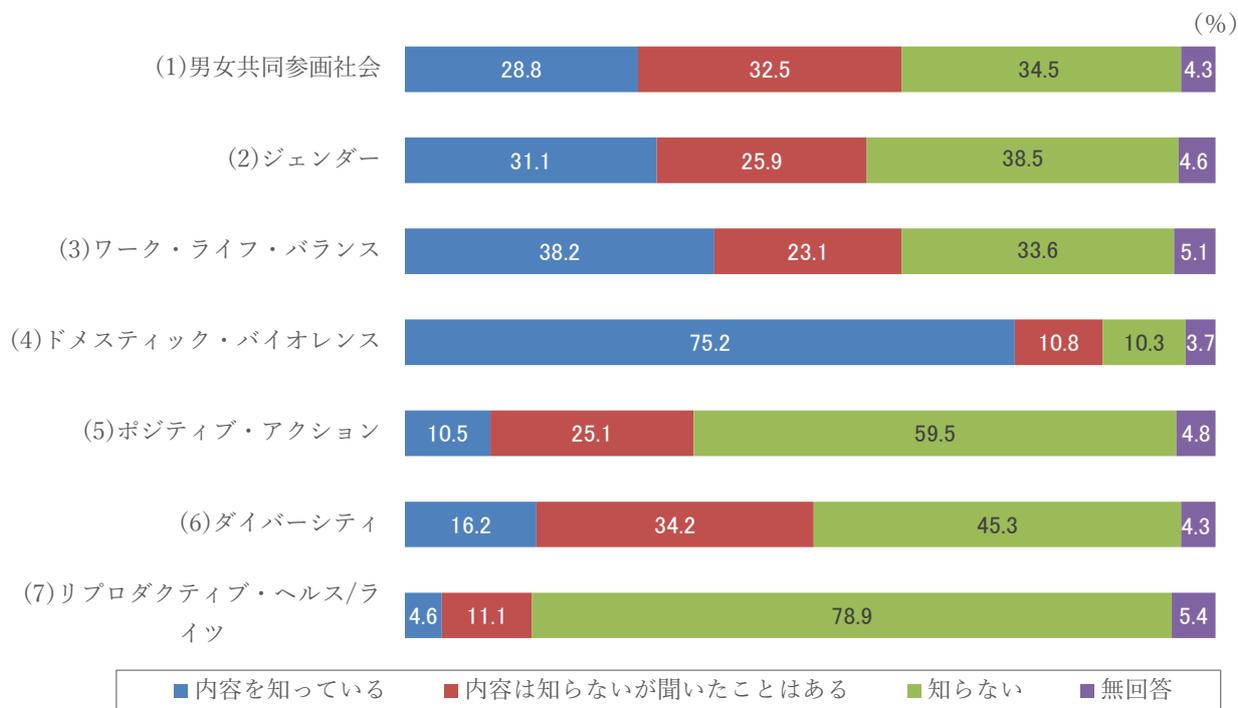
(%)



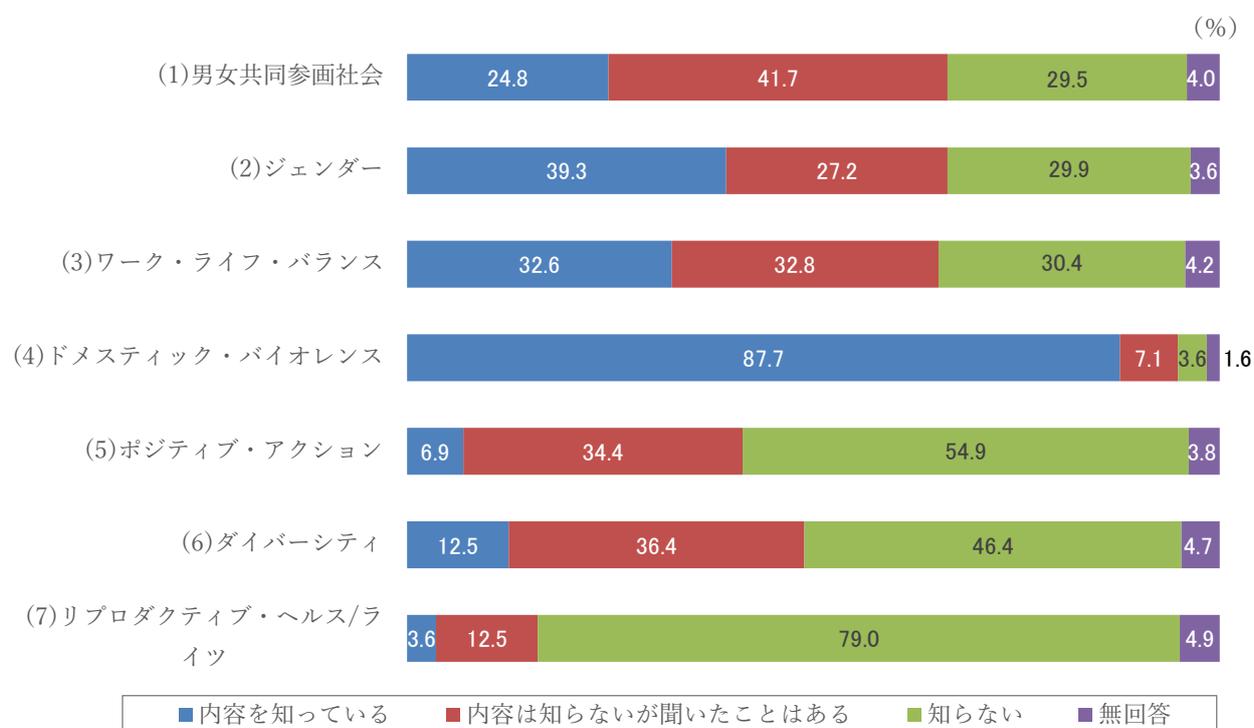
【性別】

性別で見ると、7項目中5項目で女性より男性が「内容を知っている」と回答した人の割合が高くなっている。

男性



女性



## 10. 男女共同参画社会づくりについてのご意見ご要望など

- 男女、子育て中、子育て終了or独身など、平等といくら思っている、仕事をしていると片寄りが出てきてしまいます。子育て中は休みが多くなり、他の人に負担してもらい形が多くなります。平等とはなりません。表面的な平等を求めるのではなく、それぞれが家庭も仕事もベストにできるよう、皆でフォローしあえる社会が求められていると考えます。
- ・地域スポーツ交流会の場、イベント等を行う（月3～4回程度）
  - ・年代の違う人々の意見交流会（料理教室、観光、バスツアー）
  - ・補助制度（仕事）の明格な一覧表を作成し、告知して頂きたい。
  - ・活動PRの結果、HPだけでなく、人の目に止まりやすい形で分かりやすく、そして向上しているんだと思える報告をして欲しい。
  - ・ポイントカードを発行して買い物に役だつ物にして欲しい。
- 世代によって、男女共同参画社会の考え方が違うと思う。高齢の方々にももっと理解して欲しいことが多々あります。老人会などで、学んで欲しいですね。
- かなり時間はかかると思いますが、とても重要なことですし、日本はこの方面でかなり遅れをとっているので、ぜひ頑張ってください。
- 参考を読み勉強になりました。
- 根本的な男だから、女だからとの意識があると難しいと思う。
- これも大事ですが・・・もう少し大田原宇都宮を見ならって下さい！！ゴミブクロ！！高すぎます！！ありえません～町民の毒ですヨ！！
- 「みいな」の発行を今後よく読んで勉強したいと思う。自分自身無関心な部分がありました。
- 今回「第3次」の行動計画のようだが、これまで何を行い、成果がどのように出たか、出なかったかを端的に本アンケートの冒頭で説明すべきでは？無作為抽出とのことだが、最近の転入者と長期在住の住民とに分けないと施策の成果は今後評価できないのでは？
- 子供のうちから習慣的に意識づけをしていくべきだと思う。そうすれば、だんだん男女平等・共同という社会になっていくはず。まだまだ男が上で、女が下という意識が生活でも職場でもある。確かに体力の面など男と女では最初から差があるのだから、それによって上下関係になる事もあるはず。だからと言って「男が上だ！！」という意識では、いつまでも女が下という意識は無くならず、変化はない。
- 世の中男女平等となってきましたが、実際はむずかしいようです。ハラスメントの線引きも受け止める側の問題なので何をもってハラスメントとするのか。今後の課題となってくるでしょう。”餅は餅屋”ということわざがあるように男女平等も、男性、女性、もって生まれたジェンダーで、実力を発揮すれば良いと思う。
- 男女共同参画社会という言葉は何となく聞いた事はあるが、市がそれに対して、施策を行っている事を全く知らなかった。自分自身の為になる内容の何かを発信してくれているのか、これ

から注意して気にとめていきたい。プラスになる様な事には関心をもつようにしていきたい。

- 男女共同とたくさんのアンケートがありました。若い人達は男女差別なくと教育を受けてきましたが50代以上の男性は、まだまだ意識が薄く何様俺様が強いと思います。女性がどう思うかより男性はどう意識を変えていくかではなくては男女共同等私たちの50代は無理だと感じています。女性がDVと感じている事も、男性は普通のこと、何が悪いと思っているようで理想だけだとアンケートを記入しながら悲しい気持ちになりました。
- 65歳で子育てもすっかり終わった私ですので、若い人とは考え方も違うと思いますが、男女共同参画社会は構築されるべきだと思います。東京から移住して来たので地元のことはよくわかりませんが、10年以上こちらに住んで思うことは、地方こそ男女平等の社会が必要だと思います。
- アンケートを無駄にすることなく市でちゃんと取り組んで欲しい。
- 男女が共に働き活躍することはとても良いことで理想ですが、家庭をもつ人が共に活躍し、働くことによって、子供たちがとてもストレスを感じる社会にだけはなってほしくない。確かに、保育園の充実も大切であるが、保育士は・・・親にはなれず所詮・・・他人です。子供が愛情をもって育つには親が必要です。園の預かる体制ばかり充実するのではなく、企業側の工夫も考えていってほしい。
- 市民全員の方が男女共同参画社会にしようと思わないとなかなか実現できないと思います。子供の頃から両親が又は学校にて教育話し合いで子供達にあたりまえのようにならないと難しいと思います。がんばって下さい。
- 未だに男尊女卑の歴史は続いています。女の子を出産すれば「女ばかり産む」と言われた事もあります。男性の多い企業に出向いたり、研修を男性に受けさせ、女性が見下されない社会を作って頂けたらと考えます。
- アンケート送りますが、こんな事しても意味がないと思う。社会、町作り、そんなの何も変わらない。少子化。とは言え、保育園入れない。大田原市は給食費無料。那須塩原市は何に対しても市民からお金取る事しか考えない。もう少し住み良い那須塩原市になってもらいたいです。
- 結婚後もそれぞれの結婚前の姓を名乗ることを認める「選択的夫婦別姓制度」に賛成します。
- 平等といってもできること、できないことの判別はきちんとするべきだと思う。例) 力仕事は男性の役目
- 共同・平等といった言葉が先走り、無理に幹部への女性登用など組織として歪みがでていて感じます。性別を意識しないキャリアプランを描けるようにするのが理想的だと思います。例えば、産休・育休の男女差のない取得、昇給・昇進における性差、産休・育休の取得による待遇差をなくすことなど。\*内容とは無関係ですが、アンケートの量が多すぎます。
- アンケート集めただけでやってるふりなら不要。頭が良いとされている人が役人となっているわけだからしっかり考えて頂きたい。家庭は女で当たり前のような内容はどうかと思う。役人の頭を入れ直す必要がある。

- 継続的なアピール。自治会等を通じての協力。
- 机上の空論にならない現実の声が活かされる事を望みます。
- 特別な事を行なわなくてもあたり前の事となって欲しい。市職員の男女共、職員にふさわしい髪型や服装を整えて欲しい。特に女性で長い髪を結ったり束ねたりしていないだらしのない人を見かけます。
- 那須塩原市内でも障害者が働ける会社をどんどん作ってほしい。特に精神障害者の働ける場を増やしてほしい。軽作業でもよいので、よろしくおねがいします。
- アンケートに参加させて頂きありがとうございました。
- 男性だから、女性だからと言うのではなくそれぞれ個人は得意な事や出来る事をして、生き生きと社会や地域に貢献できるようになると良いと思います。
- 長い間の因習や慣習を変えることは難しい。私自身も理性では分かっているが、感情では「女のくせに」と思うことがある。女性のための女性リーダーよりも、女性を理解する男性のリーダーがより必要ではないだろうか。フォーラムやセミナーで知識としては理解出来ても、自分が当事者となったとき、公平で適切な対応が出来るか、はなはだ自信がない。日本のジェンダーを変えることは難しい。
- 9月末に職場が閉鎖となり現在派遣として働いていますが、以前の会社ではダイバーシティの女性活躍推進委員として会社全体で男女共同参画社会になる為に取り組んでいました。しかし、このような取り組みをしている会社はごく一部に過ぎないと感じています。また、派遣という立場では男女共同参画社会を実現するための情報や取り組みにさえ携わることができないのが現状です。那須塩原市に住む方の中には、私のように以前男女共同参画に従事し学んできたことや自分の考えを伝える機会すらない方が沢山いると思いますので、是非このアンケートを生かしこれの那須塩原市の発展に繋げて頂きたいと思います。また、一般市民からも多くの情報を収集するため男女共同参画推進委員など選出し、地域へしんとうさせる取り組みも必要だと考えます。
- 頑張ってください。頑張りましょう。よろしくお願ひします。
- 最近よくワークライフバランスということばを会社で聞くようになりました。
- 自治体は国の方針にもとづいて進めている感じがする。主体的でない部分がある。
- 自然に女性が社会進出するのは賛成であるがあまりにも女性を急激に登用しすぎて不自然である。日本の社会を理解しつつ男女共同参画するのは良いがあまりにも他国の真似をし過ぎていてじっくりこないとこがある。
- 毎日のように女兒や女性が被害にあったニュースが流れてきて本当に嫌になる。女兒を育てる母としてこれからこの子たちがどうしたら幸せに生きていけるのか考えている。家庭以外でもジェンダーについて学べる、語れる場を設けてほしい。

○多様性を認め合うことが必要不可欠だと思います。それから大人の世界から「いじめ」をなくすこと！そうすれば子供の世界でも「いじめ」はなくなります。互いを認めて肯定することが大切なのだと感じています。「誰かを傷つけてしまった」罪の意識こそが他者への思いやりを育み、客観的視野を広がることにつながり、人にやさしくなれる気がします。私自身反省を込めて・・・。

○男性の古い考え方が、今でも通用しているのが役場の方々だと思う。女はこうだ、男は仕事、上のものだけ好待ぐう、自分達だけ、このようなアンケートをする前に、まず市役所の上司の考えを見直す必要があるのではないのでしょうか。サービス業の方々が働く環境、休みのとりづらさ、土日休みじゃない人達の子供をもつ家庭の事、休みでは子供をあずけられないようは保育園の環境、もっとアンケートするならば、働く女性がどのように思って働いているのか、子供をもつとどう変わるのか、預け先が保育園しかない親はどうやって自分の時間を少しでも作ればいいのかわかりません。

○私は60代ですが、若い人達の考え方などとりいれてほしいです。どの世代も、希望がもてて、人生を楽しくいけるようにしたいですね。お互いが顔が見える地域作りに努力しているところでは。

○男女ともにこれら高齢者が増々多くなるので男女共同参画社会をもっと充実してほしいです

○何かと女性女性と取り立てているが、「今平等じゃないよ。」と言われてる様に聞こえてしまいがち。子供の頃から、教育と言うが知識として分かるような話をして行く事から始めるべきだと思う。ある程度の年齢まで上になると、まだまだ女だからという考えがあるのは消えない事だと思う。あえて、考えが固まった年齢ではなく、小さいうちから、これからの子供達から考えを変えて行かなくてはならないと思う。そうしなければ、いつまでたっても平等は生まれてこないと思う。保育園、小学校の教育からお願いしたい。

○男女共同参画があまりしられていないと思うのでわかりやすくした方が良くと思います。

○昔よりはずいぶんジェンダー教育は進んでいると思います。家庭でも子供と話し合ったりしています。しかし、まだまだ子供達の職場の男女の差は大きいようです。生物としての男女の差は仕方ありませんが気持ちは同等に持ちたいですね。特性をいかしてそれぞれの立場で活躍できる社会、無理に同等である必要もないと思います。お互いに尊重しあえば良いのではないのでしょうか。

○福祉、育児の充実

○今現在、日本的な男女への意識が根強く残っていると感じます。現役で政治に参加している方が多い50～70代の男性の多くは、男尊女卑的考え方の中で成長されたと思います。私の親世代にあたりますが母でさえも男尊女卑的な考え方を当然としています。やはり社会が変化するためには人々の価値観の変化が必要だと思います。中高年世代にそれを求めても根底からは難しいと思います。ですので若年世代への教育にあたり男女差のない価値観作りが重要になると思います。一方で、女性に対する差別への意識が強まりすぎている感じがします。男女とも互いの性の違いによる得意、不得意を生かして協力できる社会が理想と思います。

- 自治会の行事に参加すると男尊女卑がひどい。高齢者から「子供はまだか」と毎回聞かれて心底嫌になる。年寄りに何を言ってもわからないかもしれないが教育が必要かと思う。早く死んでほしいと思う。
- 上の質問（問23）の様に「カタカナ英語」が多くて内容や言葉の意味をわからなくしている気がする。年寄りや知識のない人には関係ありませんとでも言いたいのでしょうか。？地域の人の力が必要なのですから、もっと誰でもわかりやすく表現しなければ周知することは難しいのでは。？
- なかなか企業では難しいと思う。自分の意見を言うと出る釘は打たれるし、何をやっても変化ないと思う。
- 仕事は好きなので働きたいという気持ちはありますが、子供が3さいになるまでは自分で育てたいという気持ちが強いです。前職は個人情報を取扱う職場でしたので在宅ワークという訳にもいかず退職。在宅で働ける所をネットでさがしましたがサギまがいのものでした。多くを求めすぎているのかもしれませんが、子供を自分で見つつ、在宅で仕事ができたら、と思う事があります。
- 国や職場が男女共同参画社会を目指す一方で、学校では、平日の行事参加(なかなか出席できない)・PTA活動参加(なかなか出席できない)・秋休みの導入(子のみ留守番)・部活動の送迎など(時間が間に合わず入部できない。)、親の積極的な取り組みが必要とされている。両親ともフルタイムで働く我が家では、子どもが犠牲になることも多く、とても我慢をさせてしまっている。社会全体が、男女共同を目指すのであれば、学校も、男女共同参画社会づくりに参画し、今の時代、これから先の社会を考慮してもらいたい。  
二学期制の廃止、土曜日の授業再開で平日の負担軽減、部活動の集団下校、など。←これで部活動の時間が繰り上げれば(集団下校)できるはず。
- 男女共同参画社会づくりのPRが那須塩原市は非常に弱いと思います。
- 前ページにも書きましたが、自治会任せの広報活動ではPRになりません。
- 今回の無作為アンケートのように無作為にてパネルディスカッションのようなイベントの招待を出すなどしてはどうでしょう？
- まずは周知しなければ話になりません。
- 女性が働きやすい職場の環境があると働きやすい→(子供のいる人)  
今の職場はないが、子供の急な風邪で休むと職場の雰囲気が悪くなる職場(上司)があった。
- 男女関係なく子供の頃から掃除・洗濯・料理等学校や家庭で教える事が大切だと痛切に感じました。
- 男に優しさを
- 積極的に推進している企業を公表する。

- 政府や自治体、経営者団体などの取り組みに対する本気度は全く感じられない。どのような社会にしたいのか、イメージも伝わってこない。我々市民自体の意識を変えていく必要もまだまだある。印度では法律上カースト制度は無くなりましたが、カーストや女性差別は根強くあります。日本も、人々のメンタリティを変えない限り、根本は同じままです。
- 家庭や子育てに女性のかかわるのが多く男性でも協力できるようになってほしい。平日は帰りが遅いため女性がすべてをやる事になるため。
- 何事においても、男女平等が望ましい。
- これから育つ子供には、小さな頃から男女平等とは何かを考えて知って育ってもらいたいと思います。すでに偉い立場の高齢の方々には現代社会のあり方を正しく理解していただき、古いかたよった考えをすてていただけたらと願います。
- 男女共同参画社会等言葉のみが一人歩きして内容を理解していない、又は曲解している様に考えています。正しい知識と認識、意識改革は男性はもちろん女性にとっても耳の痛い部分もありますが、教育していくべき部分かと思います。誤ったジェンダーを正して行って欲しいです。
- 日々、個々のバイオリズムを整えてメンタルを鍛える。協力を惜しまない。個性や能力を発揮できる環境が必要。大人・子供・基本を考え正しい方を優先。事の理解力を育てる。
- 自分なりに○をつけましたが、どこまで理解しているかは、自分でもよくわかりません。
- 「男女が、互いにその人権を～」と言いつつ、問4や問10など、女性について決めつけるような質問があり、女性としてとても不快に思いました。  
男性は結婚や職を持つことをしなくてもいいのですか？  
このアンケート用紙が女性向けなのでしょうか？  
そこからまず平等ではないと、このアンケートで気づかされました。
- 1人の方がスーパーマンになる事は出来ない。  
よって、自分なりの、行動によって、努力するしかない。教養を身に付けること。（心志）
- 男女で育児を充実させる為に、子育て支援券等の使いやすさを広げる。特定の物しか買えないのは、市として柔軟性が無いと思われる。何の為にやってるかを考えてほしい。
- ただ保育園や学童保育を増やし、女性を社会に引っ張り出すだけではなく、ワーク・ライフ・バランス（仕事・生活）そこに育児のバランスがきちんと組み込まれるように柔軟な仕組みを築いてほしい。
- 女性だけがいつもせかせか朝起きた時から眠りにつく瞬間までせかせか、頭の中も動かしている。そんな生活では少子化は進む一方で、次を産もうとは思えない。
- 子どもと母親を引きさくばかりの対策で本当の意味での男女共同参画社会がつかれるとは思えない。
- この世の中、男女の協力によって出来るもの、女性のくせにとか、男のくせにとか、偏見的な

考えを捨て男女の協力によりこの世を作らなければなりません。

- 回答が遅くなって申し訳ございませんでした。
- 女性が自身で生活能力を付け、自立が出来る環境が大切だと思う。「男性が働き女性(主婦)がパートやアルバイトで生活を助ける」と言うのがあたり前な空気感がどこにでもある。それって違う気がする。大都市では共働き(両方とも正社員)が普通なのに、なぜ「田舎だから」や「ここではこうだから」と言う形で職を離すのか。その空気感を無くし「普通に働いてあたり前」と言う考えを一人一人に植え付けないとならないと思う。将来、外国人労働者に仕事が渡り、男女とも働けなくなる事だってありえる話だと思う。
- 代表的な職業の中に男は外(力仕事など)女は接客などとあると思います。そこを無くしていく事が必要だと思います。女の人が外仕事をやりたくても会社側から見ると雇いづらいなどあると思います。逆に男が中仕事に行く事に抵抗があったり、偏見があったりとそういうレッテルがあると思います。まずこの事がなくなると、この社会に近づくのではないのでしょうか!!
- 自他を認め、尊重できる人を育成する家庭、地域が理想です。しかし、年代や地域など理解しづらいのかもしれない。学生なら、学校で知ることができるが、大人になってしまうと、情報を得ることも難しいと思います。他人の意見を聞き入れることができない年配の方々も多くいると思います。多くの人に知って理解してもらうには、信用されている人や団体が発信して、(スーパーなど人が多く集まる場所でのポスター掲示や、地区の班長会議とかで紹介したり・・・例えばです) 関心を持ってもらう必要があると思います。
- 仕事の内容で、それぞれに向いているものがあると思う。(例 保育士・工事現場etc) まず、地域での共同参画又は家庭での参画から発展させてみる。
- 形骸化している自治会をもっと若い世代が参加できるように、市からも働きかけをしてもらいたい。大学を卒業し、地元に戻り、家族を持った友人たちも口々に嫌な経験をしたと聞く。どんなに行政側がいろいろな取り組みをしても、我々の年代に響きもしないし、親の年代(50代)の人間たちも閉口している。形だけのイベントや発行物なら、見直すことも必要ではないだろうか。
- 国会議員のジェンダーなどに対して差別的な発言がありますので議員などにも教育が必要ではないかと思います。
- 質問書を送る場合は今社会で働いている人に送るべきで、私みたいな年齢ではなく若い人たちの意見を多く取り上げてみてはいかがでしょうか。(20才~60才までの)
- 政治的経済面から直して行かないと社会的?には浸透がむずかしいと思います。
- 意欲や能力のある女性を昇進させることには同意である。能力を有する女性が上長となること、役員になること、責任ある立場につくことも良いことであると思う。しかし、数合わせや定数を決めることには反対する。能力を有し、意欲のある人物が上の者になるべきである。能力を満たさない、本人にその意思がない場合も考慮し、基準制度と意思確認の上で男女問わずそれぞれの人数を制約せず、有能な人材が活躍できる社会となしてほしい。それが平等な社会だと思う。

- アメリカでは「レインボー・プライド」など多くの人々が「自分らしく生きていける」社会の実現のためにパレードを行ったりしています。東京で行われたパレードでも多くの人々が参加していました。ここ那須塩原においては土地柄人間性により直に行動を起こすということは非常に難しいと思われます。男女共同参画社会についても同様と思われます。大人になってからの意識改革は厳しいので幼少期からの教育実践で身近なものだと認識させるのが重要だと考えます。
- 男女共同参画とても大切なことだと思うが私の一番の悩ましいことは男女以前。嫁、姑だと思う。仕事に出ようと思うと夫の協力や理解があっても姑の不理解、非協力でどれだけ苦しい思いをしているか。この町は農林地帯が多いので農家をする人が一番家の中でエライ！！という姑にいしゅくしている嫁（男女ではありませんが）が仲々社会に出られずにいるという現実もあるのだ。
- 言葉では男女・・・というお題をもっともらしく語っているが本当の所は、いまだに女は・・・男をたてるとかやっていることに文句言うなという。パワハラがあり、女同士のきたないイジメがはびこっているのが現実だと思う。
- いろいろ考えた方が良く。余裕がない人が多すぎる。人間関係もあまり良くない。
- 個人の意識も大切ですが制度的な保障が確立されないと実現は難しいと思います。また、どのような職業や役割であっても男女差をなくすというのは現実的ではないと思います。男性に適したもの、女性に適したものはあると思います。
- この手の活動では情報提供や周知に重点が置かれている印象があるが、結局情報は興味のある受け手にしか届かない気がします。  
それよりは多くの市民にとって経済性や利便性をともなう男女共同参画制度（問19その他参照）を設けることで、男女共同参画への興味とは無関係にでもまずは人を巻き込んでしまい、それから男女共同参画の重要性を啓蒙していくべきだと思います。"
- 意識調査は具体的に、どう活かされ、どのような効果があるのでしょうか。福祉の充実に税金を費やして。
- 実現に向け推進活動ご苦労様です。これからの子供達の未来が明るくなるよう頑張ってください。
- アンケートの質問が多いため、回答の一時保存ができるとうい。（回答に時間がかかり、確認までの集中力が続かない。）
- 問4の（1）と（3）は、女性は と質問しているが、女性男性関係ない質問だとも思います。
- 男女といった性別で分けるのではなく、今の時代LGBTに代表される生まれ持った性別に違和感を持っている人もいますので、男女だけではなくそういった人々の事も考えていかないとこれからの時代、世界に取り残されていくと思います。

## 各設問における「その他」の意見

問3 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。

- 収入の多い方がはたらく。
- 仕事の内容や収入、家族構成によって変わってくるが、基本、家庭とは皆のものなので男女とも責任を持つべき。
- 幼児教育中は休職してその後仕事に復職して分担生活する。
- 夫婦の考え方でいい
- まちがっている。
- 男が仕事でもよいが、生活が成り立たない為女が仕事をせざる得ないが女が子供を持つと仕事をしづらすぎる理解がなさすぎる職場が多い
- 母子家庭で自分が生計をたてなければならない。
- 基本的に①だが、②でもしょうがないと思う
- 好きにすればいいと思う。
- 2の考えに近いのですが女性は妊娠・出産・育児があり必ずしも仕事を強要するような考えは良いとは思いません。

問8 父親が育児に参加することについて、どう思いますか。

- 普通の事、あたりまえ
- 人それぞれ
- 問題自体がおかしい。参加で何だ？誰の子だ？
- 家で子供と居る時はできる限り育児に参加するのが良い。自分も育児をする立場の親である自覚を持ってほしい。
- 分担とか参加とかではなく、自分の子なのだから育児するべき。
- 家庭により異なるので、一概には言えない。決まりはなく家庭で話しあってよりよい方向に！とにかく2人で協力しあう。

問10 女性が職業をもつことについて、どうお考えですか。

- 個人の自由に考えてやればいい。
- その時の状況によって変えていいと思う。
- それぞれの考えでよい。
- 女性自身の意思を尊重するのがよい。
- 自由で良い。
- 可能であれば好きな職業を持てば良い。
- 個人の自由。働きたければ働くのが良い。
- 年齢や生活環境によりできる仕事をすれば良いと思う。
- 人それぞれ
- 役所がこれでは、ダメなわけだ。
- 男女平等を唱えるなら、持つ持たないではなく、無理のない範囲でするのが良い。
- わからない
- 家庭それぞれの事情で考えれば良い。
- その人自身が身の上や家庭を考えて決めればよいのでケースバイケース。
- その人の意見を尊重する

- 職業にもよるが、子供ができたら子供の事を一番に考えて、子供の様子を見ながら考える。職業をやめると戻れないのでは・・・という不安もあると思う。
- 職業を持つことは良いと思う。結婚・子供ができた後は本人の自由でよいと考える。
- 好きにしたらいい
- 人それぞれのペースにあわせていくのがベスト。
- どうして女性のみこんな質問があるのかわかりません。仕事がしたくて子供を産む予定のない女も居ます。
- 個人の自由
- 女性はとか子どもができたらか決めつけないでその時の状態で選べばいいと思います
- 決めつけない方が良い。できることしなさい。
- 職に就くのは良いと思うが、家庭の事情を考慮し考えれば良いと思う。
- かたちはどうであれ職業を持った方が良い。
- その時どきで考えれば良い
- 収入が充分あれば（6）
- 夫婦間で話合って決めるのが良いと思う
- 家族で話し合いで決めればよいと思う
- 子育てが最優先です。その上で社会と勤務先が子育て制度を活用しやすい環境をつくりあげることにかかっています。女性が豊かな老後をむかえるには経済的自立することにあるかとおもいます。
- その家庭の形で話し合えばよい
- 状況によると思う
- 男女問わず働きたければ働ければよいし、家事など家のことを担当したければ担当すればよい。出産・育児と仕事との両立にを可能とする社会制度を備えることは必須だが、実際に両立するのかどちらかに専念するかは個々人・各家庭の自由である。
- 自由にすればよい。
- あまり固定的に考えずその場になったときに、お互いに話し合い、その時の最適なやり方をすればよい。
- その家庭での話し合いでしょう
- 各家庭に必要な形態で対応すれば良いと思う

**問 1 1** どのような地域活動に参加していますか。

- 去年子供が中学生くらいまでは、2・3・10の活動に参加していたが…。
- 町内会のお祭り
- 自治会に入っていないから市の活動が何やってるかまったく不明。近所では未加入者が多いです。
- 自治会に入らないと広報も来ないから。
- NPO少々協力

**問 1 2** 地域活動に参加していないのはなぜですか。

- ホルモン系の病気があるので何かしたくても出来ない。
- かんきょうが、そうでない。
- 平日は学校、土日はバイトだから。
- 休日は、体がかかっているのでゆっくり休みたい。
- 子供が成人していて、機会がない。

- 母の介護が優先。
- 活動に参加したい気持ちはいつもあるが、次に進めない。
- 一世代・アパート暮らしで自治体参加不要の状態
- 自営の為都合上
- 情報が入ってこない。
- 参加方法がわからない。
- 引越、出産したばかり
- 1～8全て
- 仕事と趣味で時間がない
- 気にしたことがない
- 自分の健康維持が大変
- 主に両親が参加
- 何があるかも良く分からない。
- 人とあまりかかわりたくない
- 夫の赴任先で生活しているため
- まだ親がいるから
- 活動の場で生じる新しい人間関係を作りたくないの
- 身体的事情による。（病気の後遺症）
- 考え中
- 父母が参加している為
- 好きじゃない
- 学校がある
- 病気のため
- 自分にそういう能力があると思えない。
- 体調が思わしくないため
- 年齢的に体力がなく、能力なし
- 家族（親）がやってくれているから
- 近所の人の名前も顔も知らないから地域活動ができない。
- 持病があるため身体が丈夫でない曜日、時間が合わない為

**問13 防災活動に関して男女共同参画社会を推進していくためには、どのようなことが必要と  
考えますか。**

- 自身が直接災害にあった事がないので想像でしか考えられない。
- 精神面のケアの充実。
- 避難所運営や対策本部の責任者に女性を配置することは理想だが、家庭人としての役割も大きいので女性の負担が大きくなりすぎるのでは？
- 女性用のトイレの増設、もしくは男女共有できる完全個室のトイレの設置 スマホの充電用電源供給
- 比較的安全な地域のせいか、ピンとこない部分がある
- 生きるも一人り、死するも一人り
- 全部が必要と思うがそうもいかないでしょう
- 上記の事が実行できる社会基礎作り
- まず、個々人が災害に対しての準備をすることが必要であることを徹底できると良い。母親が言っていたが、自治会の役員が高齢男性で女性を排除したり、役員だけで決定し、地域住民の声が反映されないという。防災こそ、男女共同参画社会推進に理解と協力しあうものと考えます。

○施設入所高齢者のサポート・支援体制を男女双方の視点・男女問わずに公平無私な人々を配置してほしい。

**問15 男女が共に仕事と家庭の両立をしていくために、どのような条件が必要だと思いますか。**

- 貯蓄に対する意識を高めたり、ローンに関する知識を高める。
- 思いやりの気持ちと税金の負担を少なくする。
- 意識を変える。
- 「地域の」と書いてあるが、企業も施設を用意すれば、雇用も増えるし、その企業で働きたいと思う人が増えるのでは・・・。
- 男と女の役割がちがうという社会。
- 企業と国、政治が、再雇用に対する認識を一致させること。
- 仕事を優先しすぎると子供に負担がくるので、保育園の延長などは良くないと思う。子供は保育園に通う事が大人でいう仕事だと感じています。
- 女性が自分のため、子供のために働いていると自覚すること。
- 役所の人にはわからないのかな？
- 学校でのジェンダー教育をもっとしっかり行うこと
- 脳科学を取り入れた男女間の理解促進教育。互いを理解するため客観的視点を養う教育を子どものうちから行うべきである。メタ認知。
- 企業等の今上司になっている人の理解を進めること
- ベビーシッターなどの職業の方も増えて欲しい
- 子供の用事（病気もふくめ）欠勤しやすい職場望ましい。
- 大手会社、公務員に比べて、中小企業などの多くはすべてにおいて優遇はされていない。
- 男性に育児教室、学習の場を与えること→ママばかりが参加している為理解を得られない事が多い
- 賃金ベースを上げ経済的余裕を増やし、働かなくて良い時間を増やす事。
- 機械化などによって業務の効率化をはかり、国全体での絶対的な労働量を減らすこと。
- 父子家庭の制度も充実させること。
- 転勤族の妻の転勤先での仕事探しが難しい。転勤族は基本、頼れる身内が近くにいないため、子供が学童など入れなければ仕事ができない。平日はパートが出来たとしても、夏冬春休みは学童が入れない(スポットができない)ため、フルタイムで働く事ができない。

**問17 今後もし暴力を「受けたり、見聞きしたら」、あるいは今までに「受けたり、見聞きしたことがある」場合は、だれに打ち明けたり、相談したりしますか、または相談しましたか。**

- 経験がない。
- 見聞いたことがない
- された事も、した事もない 相談にはのり、たすけて上げる。
- ネット相談
- 子供に話す
- 他人？であると思うので書かない、いや書けない
- ありません
- 会社
- なし
- ご近所でひどく怒鳴っていることがあり、市の窓口へ相談したり警察に通報したり致しました。

その時には見に来てくださったり、対処してくださいましたが、その時だけだったように思えます。通報したのはもう5年以上前のことだと思いますが、その後変わらず今現在もよく耳にいたします。

私が気をもんだところで何も変わらないこともわかりましたし、警察の方に私のことや我が家のことなど通報した私の方が自分のことをいろいろと聞かれ、我が家にパトカーが停まっていたので、ご近所の方にもいろいろと聞かれ、挙句の果てには、「あの家はあれがコミュニケーションのようなものだから通報する方がおかしい」などとおっしゃるご近所さんもいらっしゃり、気にすることをやめました。

初めのうちは事件にでもなってしまったら・・・取り返しのつかないことになってしまったら・・・などと心配いたしておりましたが、やれることはやってこの状態なのだからとあきらめました。"

#### 問17-2 相談しない・しなかったのはなぜですか。

- 経験がない。
- 自分が解決できると思ったから。
- 暴力を受けた経験ない
- がまんするしかないと思うから。
- 仕返しをする
- やり返した

#### 問19 男女共同参画社会を実現するために、市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

- 家庭での子供への接し方など（男女格差をしない）
- 上記のようなことはこれまでやってきたのだろうから、なぜうまくいかなかったのかをまずは分析すべき。
- 女性を優遇しすぎない。
- 子供からの教育が必要（備わった人格は変えられない）
- 男女は平等でも役割はちがうとおもう。
- 家庭教育や親教育。
- 無理な女性ポストを設けず各人の能力・キャリアプランに沿った人事
- 市の男が家庭でどこまでできるかやってみれば？
- 憲法の価値（13条）の普及、他者を思いやる客観点、視点を大人がしっかり持つこと！そのための活動を！
- 個々の意識の問題によるところが大きい
- 女性に積極的にと言った文もある意味平等ではない気がする。平等にしたいのなら、特に女性と言うキーワードを出さなくても良いと思うので。言うならばどなたでも参加可能とか？
- 教養を個人がつけること。心志を持つこと。（強く）
- PRしても、講演会をしても大人の意識改革は難しい。小さいころからの教育が必要。
- 自分がそれほど高い意識を持っていないのに申し訳ないですが、市のこの種の取組みは対象年齢が高すぎませんか？
- 情報提供や周知等の効果が見えづらいものではなく、「男女共同参画に即した組織・企業・家庭に対する形のある援助（助成金の交付・医療保育サービスの優先）」「男女共同参画に反した組織・企業に対する制裁・指導」等の効果のはっきりしたものを導入すべき。
- まずは市役所がお手本となって、実践する。検討ではなく、まずはやってみる。

**問 2 0 男女共同参画社会を実現するために、企業などの職場ではどのような取り組みが必要だと思いますか。**

- 企業の経営者・役員研修。研修後の感想文。（本当に理解したか確かめるため）
- 男女わけへだてなく。
- 転勤者に対してしっかりフォローする（妻は社員として働くことは難しいので）
- 無理な女性ポストを設けず各人の能力・キャリアプランに沿った人事
- まじめにコツコツ頑張っている人ほど評価されるべき
- 病児保育を保育所に1つ位にしないと母親は休んでばかりになってしまうので、会社にいづらくなってしまうと思う。
- 男性の教育指導
- 子どもを中心に考える社会
- 女性の意識改革
- 回答が女性にばかりフォーカスしている。女性の昇進の必要性などが注目されているが、就職する女性の中で何割の人が本当に定年まで働く意思があるのか気になる。男性は嫌でも定年まで仕事をする必要がある中で女性は結婚、妊娠などを機に退職して家庭に入ることが可能である。悪く言えば今の女性には逃げ道があるのに対して男性にはないため、女性ばかりに注目しないで男性の選択肢も増やすべき。男性の選択肢を増やすためには女性の社会進出も必要となるが。

**問 2 1 男女共同参画社会を実現するために、私たち自身ではどのような取り組みが必要だと思いますか。**

- 生活の様式にあわせて在宅勤務でもできる仕事を増やす。（賃金も一般的にして欲しい）
- 学校教育のなかでの指導
- 意識することそのものが偏見であると考え
- 給与金額の引き上げ

**問 2 2 市で取り組んでいる男女共同参画施策を知っていますか。**

- 男女共同参画の文字はよく目にするが、具体的な事までは知らない。
- アンケートを見るまで知らなかった。
- 今回のアンケートで知った
- 聞いた事はあるが内容まではよく理解していません。
- 出来ていると思っていない。言葉があるのみ

# 平成30年度 男女共同参画社会に関する市民意識調査

## 【調査ご協力のお願い】

日頃から、市政にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

那須塩原市では、男女共同参画社会の実現に向けて、平成29年に「第3次那須塩原市男女共同参画行動計画」を策定し、さまざまな取り組みを行っているところです。

この調査は、男女共同参画社会に関する市民の皆さまのご意見をお聞かせいただき、現在の状況を把握するとともに、今後の取り組みに反映させるために実施するものです。

那須塩原市にお住まいの20歳以上の方から、2,000人を無作為に選ばせていただきましたところ、あなた様に調査をお願いすることになりました。

お答えは、すべて無記名で統計的に処理しますので、回答者の方が特定されることは決してありません。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力のほどお願い申し上げます。

平成30年10月

那須塩原市長 君島 寛

### 調査票ご記入にあたってのお願い

1. 宛名の**ご本人**がお答えください。
2. この調査は、市ホームページを利用して回答することもできます。その場合は、この調査票の返送は不要です。
3. お答えは、1つだけ回答していただくものと、複数（あてはまるものすべて）回答していただくものがありますので、説明に従って回答してください。  
調査票にご記入の際は、○印は、番号を囲むようにつけてください。
4. お答えが「その他」にあてはまる場合は、（ ）内に具体的に記入してください。

ご記入後は、同封の返信用封筒（切手は不要）にいれ、

**10月31日（水）までに郵便ポストに投函してください。**

※市ホームページによりご回答いただく場合は郵送不要です。

市ホームページによりご回答される場合は、**QRコード**    
又は**URL**からアクセスしてください。

【<http://www.city.nasushiobara.lg.jp/04/5533.html>】

お問い合わせ先

那須塩原市企画部 市民協働推進課男女共同参画係

電話：0287-62-7019 FAX：0287-62-7220



## 男女平等についてお伺いします

【問1】 あなたは、現在、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。次の（１）～（８）のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものをお選びください。

（それぞれ1つずつに○）

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない
（１）家庭生活	1	2	3	4	5	6
（２）職場	1	2	3	4	5	6
（３）学校教育	1	2	3	4	5	6
（４）自治会などの地域社会	1	2	3	4	5	6
（５）社会通念・慣習・しきたり	1	2	3	4	5	6
（６）政治の場	1	2	3	4	5	6
（７）法律や制度の上	1	2	3	4	5	6
（８）社会全体	1	2	3	4	5	6

【問2】 勤め人の方におたずねします。（1ページの職業欄が4. 及び5. の方）

あなたの職場では、次の（１）～（７）のことがらについて、男女平等になっていると思いますか。それぞれについて、あなたの考えに最も近いものをお選びください。

（それぞれ1つずつに○）

	平等	ほぼ平等	あまり平等とはいえない	男女の差が相当ある	わからない
（１）募集や採用の条件	1	2	3	4	5
（２）人事配置や昇進	1	2	3	4	5
（３）教育や研修制度	1	2	3	4	5
（４）福利厚生	1	2	3	4	5
（５）定年、退職、解雇	1	2	3	4	5
（６）賃金	1	2	3	4	5
（７）仕事の内容	1	2	3	4	5

【問3】 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。次の中から、あなたの考えに最も近いものをお選びください。(○は1つだけ)

1. 男は仕事、女は家庭にいるのがよい
2. 男女とも仕事をもち、家庭のことも責任を分担するのがよい
3. 男女とも仕事をもち、家庭のことは女性が責任をもつのがよい
4. 男女の役割は固定せずに、男女どちらかが仕事をして家庭にいてもよい
5. その他 ( )
6. わからない

結婚・家庭生活・子育て・介護についてお伺いします

【問4】 結婚や家庭、離婚についての考え方について、次の(1)～(7)のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものをお選びください。(それぞれ1つずつに○)

		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない
結婚について	(1) 女性の幸福は結婚にあるのだから、女性は結婚した方がよい	1	2	3	4	5
	(2) 結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもよい	1	2	3	4	5
家庭について	(3) 女性は結婚したら、自分自身のことより夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい	1	2	3	4	5
	(4) 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	1	2	3	4	5
	(5) 三世同居で暮らすのが理想的だ	1	2	3	4	5
離婚について	(6) 結婚生活がうまくいかない時は、離婚すればよい	1	2	3	4	5
	(7) 一般に、今の社会では離婚すると男性より女性の方が不利である	1	2	3	4	5

【問5】 あなたは、次の（１）～（１０）について、夫婦の間でどのように分担していますか。配偶者のいない場合は、配偶者がいるとしたらどのようにしたいと思いますか。

（それぞれ1つずつに○）

	主に夫	どちらかといえば夫	夫婦同じ程度	どちらかといえば妻	主に妻	その他
（１）食事のしたく	1	2	3	4	5	6
（２）食事の後片付け	1	2	3	4	5	6
（３）そうじ	1	2	3	4	5	6
（４）ゴミ出し	1	2	3	4	5	6
（５）洗濯	1	2	3	4	5	6
（６）子どもの世話	1	2	3	4	5	6
（７）親や身内の介護	1	2	3	4	5	6
（８）主な収入	1	2	3	4	5	6
（９）家計の管理	1	2	3	4	5	6
（１０）町内行事などの参加	1	2	3	4	5	6

<配偶者がいる方に>

【問6】 あなたは、夫婦の間の役割分担の現状について、どのように思っていますか。

（○は1つだけ）

1. 満足している	2. やや満足している	3. やや不満
4. 不満	5. わからない	

【問7】 あなたは、自分の子どもをどのように育てたいと思いますか。子どもがいない場合は、いると仮定して、あなたの考えに最も近いものをお選びください。（○は1つだけ）

1. 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに
2. どちらかといえば、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに
3. どちらかといえば、性別にとらわれずに
4. 全く性別にとらわれずに
5. わからない

【問8】 父親が育児に参加することについて、どう思いますか。次の中から、あなたの考えに最も近いものをお選びください。(○は1つだけ)

1. 父親も母親と育児を分担して、積極的に参加するのがよい
2. 父親は時間の許す範囲内で育児に参加すればよい
3. 父親は外で働き、母親が育児に専念するのがよい
4. その他 ( )
5. わからない

【問9】 育児や家族介護を行うために、法律に基づき育児休業や介護休業を取得できる制度があります。あなたは、この制度を活用して、男性が育児休業や介護休業を取得することについてどのように思いますか。あなたの考えに最も近いものをお選びください。

(それぞれ1つずつに○)

【育児休業について】	【介護休業について】
1. 積極的に取得した方がよい	1. 積極的に取得した方がよい
2. どちらかといえば取得した方がよい	2. どちらかといえば取得した方がよい
3. どちらかといえば取得しない方がよい	3. どちらかといえば取得しない方がよい
4. 取得しない方がよい	4. 取得しない方がよい
5. わからない	5. わからない

## 女性と仕事についてお伺いします

【問10】 あなたは、女性が職業をもつことについて、どうお考えですか。あなたの考えに最も近いものをお選びください。(○は1つだけ)

1. 女性は職業をもたない方がよい
2. 女性は職業をもつことにこだわらなくてよい
3. 結婚するまでは職業をもつ方がよい
4. 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
5. 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい →問10-1へ
6. 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい  
→問10-2へ
7. 結婚後や出産後も仕事を続けるが、パートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい
8. その他 ( )

<問10で、「5. 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と回答した方に>

【問10-1】 あなたは、女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の(1)～(8)のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものをお選びください。(それぞれ1つずつに○)

	とても重要	重要	あまり重要でない	まったく重要でない
(1) パートナー(男性)の理解や家事・育児などへの参加	1	2	3	4
(2) パートナー(男性)以外の家族の理解や家事・育児などへの参加	1	2	3	4
(3) 保育施設や学童保育の充実	1	2	3	4
(4) 福祉施設やホームヘルパーの充実	1	2	3	4
(5) 労働時間の短縮化、フレックスタイム制の導入	1	2	3	4
(6) 企業等事業所の理解	1	2	3	4
(7) 育児・介護休業などの休暇制度の充実	1	2	3	4
(8) 昇進・昇給などの職場での男女平等の確保	1	2	3	4

<問10で、「6. 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と回答した方に>

【問10-2】 あなたは、女性が結婚や出産のために退職し、その後再就職するためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の(1)～(7)のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものをお選びください。(それぞれ1つずつに○)

	とても重要	重要	あまり重要でない	まったく重要でない
(1) 家族の理解や家事・育児などへの参加	1	2	3	4
(2) 子どもや介護を必要とする人などを預かってくれる施設の充実	1	2	3	4
(3) 就職情報や職業紹介などの相談機関の充実	1	2	3	4
(4) 技能習得のための訓練施設の充実	1	2	3	4
(5) 企業等事業所の理解	1	2	3	4
(6) 企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実	1	2	3	4
(7) フレックスタイム制の導入や介護休業などの休暇制度の充実	1	2	3	4

## 男女の地域・社会参画についてお伺いします

【問11】 あなたは、次にあげるような活動に参加していますか。あてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

1. 自治会、まちづくりなどの地域活動
2. PTAや子ども会などの青少年育成活動
3. 文化、スポーツ、学習などのグループ活動
4. 福祉、ボランティア活動
5. リサイクル、共同購入などの消費生活活動
6. 自然保護、環境美化などの環境保全活動
7. 国際交流、国際協力活動
8. 健康づくり、医療介護などの保健医療活動
9. セミナー、講座などを受講したりする生涯学習
10. 子どもの見守りやパトロールなどの防犯活動
11. その他 ( )
12. 参加していない →問12へ

<問11で、「12. 参加していない」と回答した方に>

【問12】 あなたが上記のような活動に参加していないのはなぜですか。次の中から、あてはまるものを2つまでお選びください。(○は2つまで)

1. 仕事が忙しい
2. 家事や育児、介護が忙しい
3. 経済的にゆとりがない
4. 団体や活動などの情報がない
5. 一緒に活動する仲間がない
6. 家族の理解や協力がいない
7. 近くに活動の場がない
8. 参加したいと思うものがない
9. その他 ( )
10. 関心がない

## 防災についてお伺いします

【問13】 防災（災害復興も含む）には男女のニーズの違いに配慮した取組みが必要だと考えられるようになってきました。防災活動に関して男女共同参画社会を推進していくためには、特にどのようなことが必要と考えますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、防犯対策等）
2. 避難所運営の責任者に女性が配置され、被災者対応に男女双方の視点が入ること
3. 乳幼児、高齢者、障害者、病人、女性（女性用品等）に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮
4. 災害時の救援医療体制（診察・治療体制、妊産婦をサポートする保健師・助産師の配置）
5. 被災者に対する相談体制
6. 対策本部に女性が配置され、対策に男女双方の視点が入ること
7. 防災計画・復興計画策定過程、防災会議に男女が共に参画すること
8. 防災研修会への男女双方の積極的な参加の促進
9. 災害時ボランティア登録など多様な人材の確保
10. 男女双方が積極的に参加する自主防災組織の結成の促進
11. その他（）
12. 特にない
13. わからない

## ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）についてお伺いします

【問14-1】 あなたは、日常生活の中で、次の（1）～（5）について、満足する時間が取れていますか。（それぞれ1つずつに○）

	十分取れている	ある程度取れている	あまり取れていない	ほとんど取れていない	わからない
（1）家庭生活のための時間	1	2	3	4	5
（2）仕事のための時間	1	2	3	4	5
（3）地域活動に参加する時間	1	2	3	4	5
（4）学習・趣味・スポーツなどのための時間	1	2	3	4	5
（5）休養のための時間	1	2	3	4	5

【問14-2】 あなたは、日常生活の中で、次の（1）～（5）について、どのような時間の使い方をすれば、いきいきと充実した生活を送ることができると思いますか。

（それぞれ1つずつに○）

	大いに増やす	もう少し増やす	このままでよい	もう少し減らす	わからない
（1）家庭生活のための時間	1	2	3	4	5
（2）仕事のための時間	1	2	3	4	5
（3）地域活動に参加する時間	1	2	3	4	5
（4）学習・趣味・スポーツなどのための時間	1	2	3	4	5
（5）休養のための時間	1	2	3	4	5

【問15】 あなたは、男女が共に仕事と家庭の両立をしていくために、どのような条件が必要だと思いますか。あてはまるものをすべてお選びください。（○はいくつでも）

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 給与等の男女間格差をなくすこと</li> <li>2. 代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること</li> <li>3. 育児や介護のために退職した職員をもとの会社で再雇用する制度を導入すること</li> <li>4. 育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的給与を充実すること</li> <li>5. 地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること</li> <li>6. 在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度など、柔軟な勤務制度を導入すること</li> <li>7. 女性が働くことや男性が家事育児を行うことに対し、周囲の理解と協力があること</li> <li>8. 男性が家事や育児を行う能力・機会を高めること</li> <li>9. その他（<span style="float: right;">）</span></li> <li>10. わからない</li> </ol> |
|--|





## 男女共同参画社会づくりのための取組みについてお伺いします

「男女共同参画社会」とは、「男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会」のことです。

【問19】 あなたは、このような社会を築いていくために、市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中から2つまでお選びください。(○は2つまで)

1. 広報紙やパンフレットなどで、男女共同参画社会についてPRする
2. 審議会委員など市の政策・方針決定の場や管理職に女性を積極的に登用する
3. 女性リーダーなど人材を育成する
4. 学校教育の場で男女の平等についての学習や人権教育を進める
5. 職場における男女の均等な扱いについて周知を行う
6. 保育施設や学童保育などの子どもを預かってくれる施設を充実する
7. 高齢者や障害者に対する介護施設の整備や在宅福祉サービスを充実する
8. 各種講座・講演会の開催や社会活動の情報提供を充実する
9. その他 ( )
10. 特にない
11. わからない

【問20】 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、企業などの職場ではどのような取り組みが必要だと思いますか。次の中から2つまでお選びください。(○は2つまで)

1. 意欲や能力のある女性を、採用、昇進などで評価する
2. 研修など職業能力の開発・向上の機会を女性に提供する
3. 女性の就職・再就職のための職業情報、職業訓練の機会を提供する
4. 男女とも育児休業や介護休業を取りやすくし、休業後は、職場へ復帰しやすくする
5. 育児休業中の諸手当を充実する
6. 労働時間を短縮するなど、男女とも家事や子育てなどがしやすいようにする
7. 託児・保育施設を設置するなど、子どもを持つ男女が働きやすいようにする
8. 職場での女性に対する偏見、固定的な役割分担意識をなくすようにする
9. その他 ( )
10. 特にない
11. わからない

【問21】 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、私たち自身はどのような取り組みが必要だと思いますか。次の中から2つまでお選びください。(○は2つまで)

1. 差別的な社会通念やしきたりなどの考え方をなくすようにする
2. 女性自身が、積極的に社会的活動への参画意識を持つようにする
3. 夫婦で協力し合いながら、家事や子育て、介護などを行うようにする
4. 男女にとらわれず、個性や能力を發揮できるような子育てを行うようにする
5. 男女共同参画を推進する事業に積極的に参加する
6. 家庭や職場、地域などで男女共同参画について話し合う
7. その他 ( )
8. 取り組む必要はない
9. わからない

【問22】 あなたは、市で取り組んでいる下記の男女共同参画施策を知っていますか。次の中から知っているものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

1. 那須塩原市男女共同参画推進条例
2. 那須塩原市男女共同参画行動計画
3. 男女共同参画広報紙「みいな」の発行
4. 男女共同参画フォーラム『女と男<sup>ひと</sup> ともに輝くまちづくり』の開催
5. 男女共同参画セミナー『誰もがきらりセミナー』の開講
6. 女性の人材リストの登録
7. 男女共同参画施策に関する意見の申出書の受付
8. その他 ( )
9. 全く知らない

【問23】 あなたは、男女共同参画に関する次の言葉について、どの程度知っていますか。  
それぞれあてはまるものを1つお選びください。(それぞれ1つずつに○)

	内容を知っている	内容は知らないが聞いたことはある	知らない
(1) 男女共同参画社会	1	2	3
(2) ジェンダー	1	2	3
(3) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	1	2	3
(4) ドメスティック・バイオレンス（DV）	1	2	3
(5) ポジティブ・アクション	1	2	3
(6) ダイバーシティ	1	2	3
(7) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	1	2	3

男女共同参画社会づくりについて、ご意見ご要望などがありましたらご記入ください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

記入もれがないか、もう一度ご確認のうえ、同封の返信用封筒に入れ、  
**切手を貼らずに10月31日（水）**までに郵便ポストにご投函ください。

※市ホームページによりご回答いただく場合は郵送不要です。

# 参 考

## ～問23の男女共同参画に関する各用語解説～

用 語	解 説
男女共同参画社会	男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会のこと。
ジェンダー	「社会的・文化的に形成された性別」のこと。人間には、生まれつきの生物学的性別（セックス/sex）がある。一方、社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」があり、このような男性、女性の別を「社会的・文化的に形成された性別」（ジェンダー/gender）という。
ワーク・ライフ・バランス （仕事と生活の調和）	仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発・趣味など様々な活動について、誰もが自ら希望するバランスで展開でき、多様な生き方が選択・実現できるようになること。
ドメスティック・ バイオレンス（DV）	配偶者や恋人など親しい男女の間でふるわれる暴力をいう。「なぐる」「ける」といったような身体的暴力だけではなく、「外出をさせない」「無視する」「暴言をはく」「望まない性行為を強要する」など様々な暴力がある。
ポジティブ・アクション （積極的改善措置）	働く事や仕事に対する意欲の高い女性を積極的に登用し、能力を発揮してもらおうという企業の自主的な取り組み、それら制度のことをいう。
ダイバーシティ（多様性）	性別、人種、年齢、性格、学歴、価値観などの多様性を受け入れ、広く人材を活用することで生産性を高めようとするマネジメントについていう。
リプロダクティブ・ヘルス/ ライツ （性と生殖に関する健康 と権利）	リプロダクティブ・ヘルスは、人々が安全で満ち足りた性生活を営むことができ、生殖能力を持ち、子どもを持つか持たないか、いつ持つか、何人持つかを決める自由をもつことを意味する。 リプロダクティブ・ライツとは、すべてのカップルと個人が、自分たちの子どもの数、出産間隔、出産する時期を自由にかつ責任をもって決定でき、そのための情報と手段を得ることができるという基本的権利のことをいう。

# 男女共同参画社会に関する市民意識調査報告書

平成 31 年 2 月

編集・発行 那須塩原市 企画部 市民協働推進課

〒325-8501 栃木県那須塩原市共墾社108番地2

TEL 0287-62-7019

FAX 0287-62-7220